

広 資 料 第 3 9 号
令 和 5 年 6 月 1 日
健 康 福 祉 部 障 害 福 祉 課
市 民 情 報 提 供 資 料

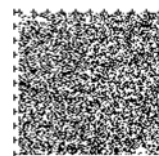
武蔵村山市第六次障害者計画・第七期障害福祉計画・第三期障害児
福祉計画策定のための市民意識調査報告書について

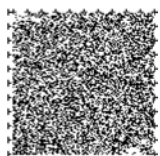
このことについて、武蔵村山市第六次障害者計画・第七期障害福祉計画・第三期障害児福祉計画策定のための市民意識調査報告書を作成しましたので、別添のとおりお知らせします。

武蔵村山市第六次障害者計画・
第七期障害福祉計画・
第三期障害児福祉計画
策定のための市民意識調査報告書

令和5年3月

武蔵村山市





目次

I 市民意識調査の実施内容

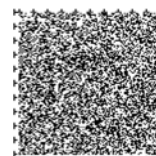
1 調査の目的	1
2 調査の概要	1
3 報告書の見方	1
4 調査結果の概要について.....	2
障害者（18歳以上）の調査結果.....	2
障害児（18歳未満）の調査結果.....	8

II 障害者（18歳以上）の調査結果

1 回答者の属性	15
2 生活について	20
3 健康・医療・リハビリテーションについて.....	28
4 介助（支援）の状況について.....	32
5 日中の過ごし方について.....	39
6 将来の過ごし方について.....	46
7 外出や活動などについて.....	54
8 コミュニティ（地域）について.....	60
9 防災対策について.....	66
10 障害のある方の権利擁護について.....	70
11 情報提供や普段の相談について.....	82
12 障害者施策全般について.....	90
13 自由意見	96

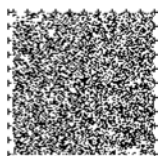
III 障害児（18歳未満）の調査結果

1 回答者の属性	105
2 生活について	108
3 健康・医療・リハビリテーションについて.....	114
4 介助（支援）の状況について.....	118
5 日中の過ごし方について.....	125
6 将来の過ごし方について.....	127
7 外出や活動などについて.....	132
8 防災対策について.....	134
9 障害のある方の権利擁護について.....	136
10 障害者施策全般について.....	141
11 自由意見	143

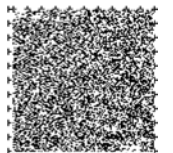


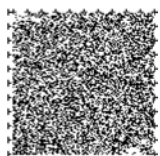
IV 資料編

1	設問ごとの年代別クロス集計結果（18歳以上）	151
2	設問ごとの年代別クロス集計結果（18歳未満）	178
3	市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳以上の方）	192
4	市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳未満の方）	199



I 市民意識調査の実施内容





1 調査の目的

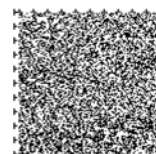
武蔵村山市第六次障害者計画・第七期障害者福祉計画・第三期障害児福祉計画の策定に当たり、障害者施策に関する市民の意向等を把握し、計画づくりに反映させることを目的とします。

2 調査の概要

調査名	①市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳以上の方）	②市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳未満の方）
調査地域	武蔵村山市全域	
調査対象	18歳以上の身体障害者、知的障害者、精神障害者、自立支援医療受給者、難病患者 (令和4年10月1日現在)	18歳未満の身体障害児、知的障害児、精神障害者、自立支援医療受給者、難病患者 (令和4年10月1日現在)
調査方法	郵送配布・郵送回収	
調査対象数 (配布数)	750名	250名
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出 (性別、地区、年代及び障害の内容により区分し、人口割合等で按分して抽出)	
回収数	330名	89名
回収率	44.0%	35.6%
記名の有無	無記名式	
実施期間	令和4年12月7日(水)～12月26日(月)	

3 報告書の見方

- (1) 回答者数について
 - ・ 図中の「回答者数(n)」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率(%)の母数を表わしています。
 - ・ なお、異なる障害者手帳を所持するなど障害種別が重複するため、障害種別ごとの回答者数(n)は全体の回答者数(n)を超えることがあります。
- (2) 百分率について
 - ・ 百分率(%)は、全て小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合があります。
 - ・ 回答者が2つ以上回答することができる設問(複数回答)の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- (3) 図表の単位について
 - ・ 本文中に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り、「%」で表わしています。
- (4) 表記について
 - ・ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。



4 調査結果の概要について

障害者（18歳以上）の調査結果

(1) 調査について

対象者数750人、有効回収数330件、有効回収率44.0%（前回調査（令和元年度）42.5%）となりました。

※以下、令和元年12月から令和2年1月までに実施した前回調査については、「前回調査」と表記します。

(2) 回答者の属性

ア 医療費などの助成を受けるまでの問題

- 「制度を知らなかった」が30.6%と最も多く、前回調査の33.9%より3.3ポイント減少しています。
- 「特に問題はなかった」が34.5%で、前回調査の32.9%より1.6ポイント増加しています。

(3) 生活について

ア 現在の生活で困っていることについて

- 「経済的なこと」が33.0%と最も多く、前回調査の30.1%より2.9ポイント増加しています。
- 「将来の援助（介助・支援）のこと」が30.3%で、前回調査の24.1%より6.2ポイント増加しています。
- 新たに設けた選択肢の「特に困ったことはない」は24.5%となっています。

イ 困っていることを相談する相手について

- 「家族や親族」が72.1%と最も多く、前回調査の72.4%とほぼ同じ割合となっています。
- 「医療機関」が25.5%で、前回調査の26.3%とほぼ同じ割合となっています。

(4) 健康・医療・リハビリテーションについて

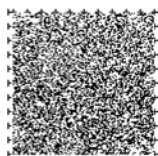
ア 健康管理や医療について困ったり不便に感じることについて

- 「医療費の負担が大きい」が21.2%と最も多く、前回調査の17.2%より4.0ポイント増加しています。
- 「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が17.3%で、前回調査の11.3%より6.0ポイント増加しています。

(5) 介助（支援）の状況について

ア 主な介助者（支援者）について

- 「同居している家族・親族」が38.8%と最も多く、前回調査の44.8%より6.0ポイント減少しています。



イ 主な介助者（支援者）の年齢について

○新たに設けた設問で、「70代以上」が30.2%と最も多く、50代以上では74.3%となっています。

○障害者の年齢別で「30代」及び「60代以上」では、介助者（支援者）の年齢が「60代以上」の割合が50%を超えています。

ウ 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときの対応について

○「同居している他の家族・親族に頼む」が24.8%と最も多く、前回調査の15.4%より9.4ポイント増加しています。

エ 回答者を介助（支援）する上で介助者（支援者）が困っていることについて

○新たに設けた選択肢の「将来の見通しに不安がある」が38.6%と最も多くなっています。

○「体力的に心配がある」が30.1%で、前回調査の23.8%より6.3ポイント増加しています。

○新たに設けた選択肢では、「介助（支援）する人の健康に不安がある」が26.5%、「精神的な負担が大きい」が22.3%となっています。

(6) 日中の過ごし方について

ア 日中の過ごし方について

○「主に自宅にいる（働いていない）」が47.6%と最も多く、前回調査の49.5%より1.9ポイント減少しています。

○「働いている（福祉的就労の場も含む）」が33.9%で、前回調査の32.0%より1.9ポイント増加しています。

イ 仕事をする上で困ったり、つらいことについて

○「収入が少ない」が41.1%と最も多く、前回調査の45.1%より4.0ポイント減少しています。

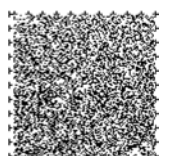
○「体調管理が難しい」が25.9%で、前回調査の28.4%より2.5ポイント減少しています。

ウ 「施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている」及び「日中一時支援・地域活動センターを利用している」を選択した人が、支援を受ける上で困ったり、つらいことについて

○「通うのが大変」が26.3%と最も多く、前回調査の18.2%より8.1ポイント増加しています。

○「収入が少ない」が15.8%で、前回調査の22.7%より6.9ポイント減少しています。

○「体調管理が難しい」が10.5%で、前回調査の22.7%より12.2ポイント減少しています。



(7) 将来の過ごし方について

ア 将来の暮らし方について

- 「家族と一緒に暮らしたい」が62.4%と最も多く、前回調査の57.7%より4.7ポイント増加しています。
- 「一人で暮らしたい」が13.3%で、前回調査の12.5%とほぼ同じ割合となっています。

イ 「家族と一緒に暮らしたい」、「一人で暮らしたい」及び「友人や仲間と一緒に暮らしたい」を選択した人について

- 新たに設けた設問で、「地域で生活したい」が72.2%と最も多くなっています。

ウ 地域で生活する上での課題について

- 「面倒を見てくれる人の衰え」が31.0%と最も多く、前回調査の26.6%より4.4ポイント増加しています。
- 「体調管理が難しい」が21.7%で、前回調査の22.6%とほぼ同じ割合となっています。

エ 今後（将来）働くことについて

- 新たに設けた設問で、「働きたい」が43.3%と最も多くなっています。
- 「働きたくない、または働きたいが働けない」が33.9%となっています。

オ 働き方について

- 新たに設けた設問で、希望する主な雇用形態については、以下のとおりです。
 - ・「企業などで臨時、アルバイト、パート」が29.8%
 - ・「企業などで正社員・正職員」が27.7%
 - ・「就労継続支援や就労移行支援を利用」が13.5%

カ 障害のある方の就業を促進するために必要なことについて

- 「経営者の理解」が44.8%と最も多く、前回調査の45.8%とほぼ同じ割合となっています。
- 「従業員の理解」は44.5%で、前回調査の42.6%より1.9ポイント増加しています。

(8) 外出について

ア 外出する回数について

- 週1回以上外出している人は86.4%で、前回調査の81.5%より4.9ポイント増加しています。

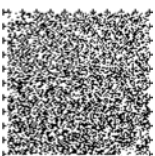
イ 外出する時に、不便に感じることや困っていることについて

- あるを選択した人（※）は46.8%で、前回調査の52.3%より5.5ポイント減少しています。

（※）「特に困ることはない」、「ほとんど外出しないのでわからない」、「無回答」を除く人の割合。

- 不便に感じることや困っていることの主な要因は以下のとおりです。

- ・「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が17.0%と最も多く、前回調査の19.7%より2.7ポイント減少



・「外出に費用がかかりすぎる」が11.2%で、前回調査の10.7%とほぼ同じ割合
ウ 趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由について

○「特になし」が34.2%と最も多く、前回調査の23.2%より11.0ポイント増加しています。

○「経済的余裕がない」が24.2%で、前回調査の18.8%より5.4ポイント増加しています。

(9) コミュニティ（地域）について

ア 障害のある方とない方が共に生きる社会をつくっていくために必要なことについて

○「障害のある方が自分から進んで行動できる環境を整える」が33.9%と最も多く、前回調査の36.7%より2.8ポイント減少しています。

○「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」が32.4%で、前回調査の26.3%より6.1ポイント増加しています。

○「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が31.8%で、前回調査の33.9%より2.1ポイント減少しています。

(10) 防災対策について

ア 地震などの災害時に困ることについて

○「避難所の設備について不安」が40.6%と最も多く、前回調査の43.9%より3.3ポイント減少しています。

○「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が35.2%で、前回調査の29.2%より6.0ポイント増加しています。

イ 避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供について

○「同意している」及び「同意していないが、今後、同意したい」を合わせて30.6%で、前回調査の34.2%より3.6ポイント減少しています。

(11) 障害のある方の権利擁護について

ア 成年後見制度について

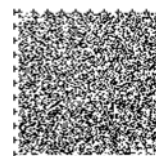
○認知度（「利用している（いた）ので、内容も知っている」及び「利用したことがないが、制度の内容は知っている」の合計）は18.8%で、前回調査の24.7%より5.9ポイント減少しています。

イ 障害が原因で差別を受けたこと又はいやな思いをしたことの主な要因は以下のとおりです。

○「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が10.6%と最も多く、前回調査の7.5%より3.1ポイント増加しています。

○「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が7.6%で、前回調査の2.8%より4.8ポイント増加しています。

○「障害を理由とした不採用や解雇があった」が7.3%で、前回調査の6.0%より1.3ポイント増加しています。



ウ 障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人について

○障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人は、43.1%で、前回調査(※)の44.4%より1.3ポイント減少しています。

(※) 虐待や不適切な行為をされた経験がある人

○相談をしなかった人は50.5%で、前回調査の48.9%より1.6ポイント増加しています。

○相談しなかった主な理由は以下のとおりです。

- ・「相談しても無駄だと思ったから」が61.8%と最も多く、前回調査の68.2%より6.4ポイント減少
- ・「どこに相談してよいのかわからなかったから」が32.7%で、前回調査の45.5%より12.8ポイント減少
- ・「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」が32.7%で前回調査の40.9%より8.2ポイント減少

(12) 情報提供や普段の相談について

ア 福祉に関する情報を取得する手段について

○「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が49.4%と最も多く、前回調査の48.3%より1.1ポイント増加しています。

○「病院など医療機関」が24.5%で、前回調査の27.6%より3.1ポイント減少しています。

○「インターネット」が23.6%で、前回調査の16.3%より7.3%増加しています。

○「市役所・保健所・児童相談所」は18.5%で、前回調査の24.1%より5.6ポイント減少しています。

イ 福祉サービスを利用するときに困ること(困ったこと)について

○「どんなサービスがあるのか知らない」が33.0%と最も多く、前回調査の29.5%より3.5ポイント増加しています。

○「どの事業者が良いのかわからない」が9.1%で、前回調査の7.2%より1.9ポイント増加しています。

ウ 相談事業を充実するために必要なことについて

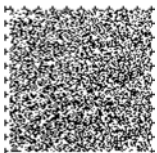
○「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が46.1%と最も多く、前回調査の36.4%より9.7%増加しています。

○「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が36.1%で、前回調査の43.9%より7.8ポイント減少しています。

(13) 障害者施策全般について

ア 武蔵村山市の福祉サービス全般の満足度について

○「満足している」(「満足している」及び「少し満足している」の合計)が30.0%で、前回調査の34.4%より4.4ポイント減少しています。



○「満足していない」（「あまり満足していない」及び「満足していない」の合計）が17.9%で、前回調査の11.6%より6.3ポイント増加しています。

イ 今後の施策として必要なことについて

○「経済的な援助の充実」が38.8%と最も多く、前回調査の45.5%より6.7ポイント減少しています。

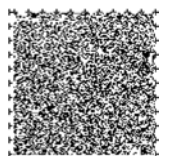
○「相談体制の充実」が27.3%で、前回調査の25.7%より1.6ポイント増加しています。

○「在宅福祉サービスの充実」が19.1%で、前回調査の35.7%より16.6ポイント減少しています。

(14) 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたって重要と思うことについて

○「地域の人々の理解」が58.5%と最も多く、前回調査の56.4%より2.1ポイント増加しています。

○「学校の先生や職員の理解」が49.7%で、前回調査の42.9%より6.8ポイント増加しています。



障害児（18歳未満）の調査結果

(1) 調査について

対象者数250人、有効回収数89件、有効回収率35.6%（前回調査（令和元年度）36.0%）となりました。

(2) 生活について

ア 現在の生活で困っていることについて

- 「進路や就職のこと」が34.8%と最も多く、前回調査の53.3%より18.5ポイント減少しています。
- 「親が亡くなった後の過ごし方」が30.3%で、前回調査の36.7%より6.4ポイント減少しています。
- 「経済的なこと」は21.3%で、前回調査の13.3%より8.0ポイント増加しています。

イ 困っていることを相談する相手について

- 「家族や親族」が75.3%と最も多く、前回調査の71.1%より4.2ポイント増加しています。
- 「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」が50.6%で、前回調査の56.7%より6.1ポイント減少しています。

ウ 趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由について

- 「障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない」が32.6%と最も多く、前回調査の18.9%より13.7ポイント増加しています。
- 「障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける」が25.8%で、前回調査の24.4%より1.4ポイント増加しています。
- 「一緒に参加する友人、仲間がいない」が20.2%で、前回調査の28.9%より8.7ポイント減少しています。
- 「興味がないので参加しない」が15.7%で、前回調査の3.3%より12.4ポイント増加しています。

(3) 健康・医療・リハビリテーションについて

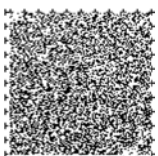
ア 病院にかかるときに困ったり不便に感じることにについて

- 「専門的な治療を行っている病院が近くにない」が14.6%と最も多く、前回調査の15.6%とほぼ同じ割合となっています。
- 「障害があることで医師に症状が正確に伝えられない」も同じく14.6%で、前回調査の13.3%より1.3ポイント増加しています。

(4) 介助（支援）の状況について

ア 主な介助者（支援者）について

- 「親」が93.2%と最も多く、前回調査の78.4%より14.8ポイント増加しています。
- 「ボランティア」が2.3%となっています。



イ 主な介助者（支援者）の年齢について

○新たに設けた設問で、「40代」が53.7%と最も多くなっています。

ウ 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときの対応について

○「一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む」が39.0%と最も多く、前回調査の25.0%より14.0ポイント増加しています。

エ 回答者を介助（支援）する上で介助者（支援者）が困っていることについて

○新たに設けた選択肢の「将来の見通しに不安がある」が51.1%と最も多くなっています。

○「体力的に心配がある」が36.2%で、前回調査の18.9%より17.3ポイント増加しています。

(5) 日中の過ごし方について

ア 平日の昼間の過ごし方について

○「学校に通っている」が86.5%と最も多く、前回調査の88.9%より2.4ポイント減少しています。

イ 通園や通学で困っていることについて

○「通うのが大変」が11.7%と最も多く、前回調査の13.8%より2.1ポイント減少しています。

○「人間関係がうまくいかない」が6.5%で、前回調査の15.0%より8.5%減少しています。

(6) 将来の過ごし方について

ア おとなになったらどのように暮らしたいかについて

○「家族と一緒に暮らしたい」が48.3%と最も多く、前回調査の37.8%より10.5ポイント増加しています。

○「一人で暮らしたい」が13.5%で、前回調査の14.4%とほぼ同じ割合となっています。

○「わからない」は14.6%で、前回調査の26.7%より12.1ポイント減少しています。

イ 将来地域で生活したいと思うかについて

○新たに設けた設問で、「地域で生活したい」が77.4%となっています。

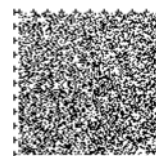
ウ 地域で生活する上での課題について

○「面倒を見てくれる人の衰え」が45.8%と最も多く、前回調査の30.0%より15.8ポイント増加しています。

○新たに設けた選択肢の「障害のある方に適した住居がない」が29.2%となっています。

※前回調査の選択肢「住む場所が無い」は13.3%でした。

○「働ける場所がない」が27.1%で、前回調査の20.0%より7.1ポイント増加しています。



(7) 外出や活動について

ア 外出するときに、不便に感じることや困っていることについて

- 「特に困ることはない」が最も多く、31.5%で、前回調査の31.1%とほぼ同じ割合となっています。
- 「自分の意見を伝えたりコミュニケーションをとることがむずかしい」が23.6%で、前回調査の28.9%より5.3ポイント減少しています。

(8) 防災対策について

ア 地震などの災害時に困ることについて

- 新たに設けた選択肢の「通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が34.8%と最も多くなっています。
- 「他人と一緒に避難所にいられない」が24.7%で、前回調査の28.9%より4.2ポイント減少しています。
- 新たに設けた選択肢の「避難訓練を受けにくい」が5.6%となっています。
- 「特に困ることはない」が20.2%で、前回調査の36.7%より16.5ポイント減少しています。

(9) 障害のある方の権利擁護について

ア 障害が原因で差別を受けたこと又はいやな思いをしたことの原因は以下のとおりです。

- 「学校での対応」が19.1%と最も多く、前回調査の17.8%より1.3ポイント増加
- 「バス、電車、タクシーでの対応」が14.6%で、前回調査の6.7%より7.9ポイント増加
- 「ホテル、公衆浴場、飲食店での対応」が12.4%で、前回調査の8.9%より3.5ポイント増加
- 「相談機関・相談窓口での対応」が3.4%で、前回調査の10.0%より6.6ポイント減少

イ 障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人について

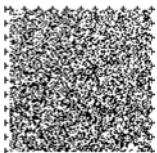
- 障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談した人は、61.0%で、前回調査(※)の42.9%より18.1ポイント増加しています。

(※) 虐待や不適切な行為をされた経験がある人

- 相談をしなかった人は39.0%で、前回調査の42.9%より3.9ポイント減少しています。

○相談しなかった主な理由は以下のとおりです。

- ・「相談しても無駄だと思ったから」が87.5%と最も多く、前回調査の66.7%より20.8ポイント増加
- ・「どこに相談してよいのかわからなかったから」が31.3%で、前回調査より皆増

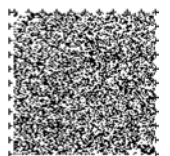


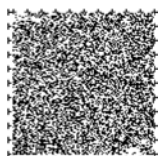
- ・「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」が31.3%で、前回調査の40.9%より8.2ポイント減少

(10) 障害者施策全般について

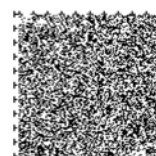
ア 障害のある子どもが武蔵村山市で成長するために重要なことについて

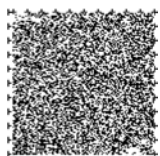
- 「学校の先生や職員の理解」は62.9%と最も多く、前回調査の67.8%より4.9ポイント減少しています。
- 「進学や就職に向けた情報提供」が60.7%で、前回調査の66.7%より6.0ポイント減少しています。
- 「地域の人々の理解」が50.6%で、前回調査の71.1%より20.5ポイント減少しています。
- 「市役所や公共施設の職員の理解」が51.7%で、前回調査の56.7%より5.0ポイント減少しています。





Ⅱ 障害者（18歳以上）の調査結果





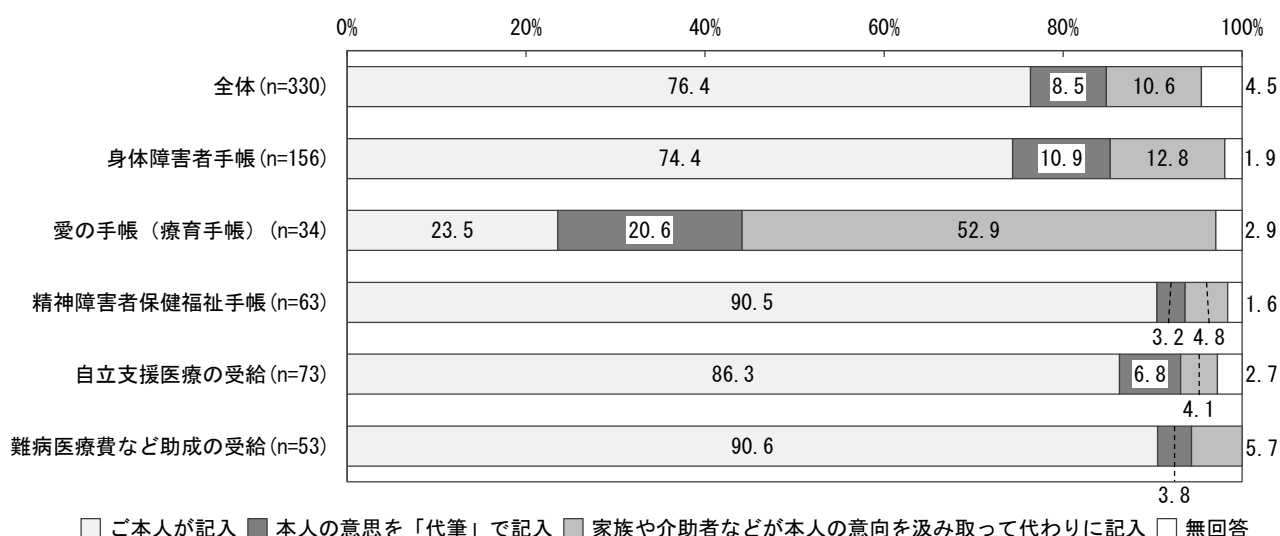
1 回答者の属性

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

アンケートの記入者は、全体では「ご本人が記入」が76.4%、「本人の意思を「代筆」で記入」が8.5%、「家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入」が10.6%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者以外で「ご本人が記入」が70%以上となっています。

なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では「家族や介護者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入」が52.9%と最も多くなっています。

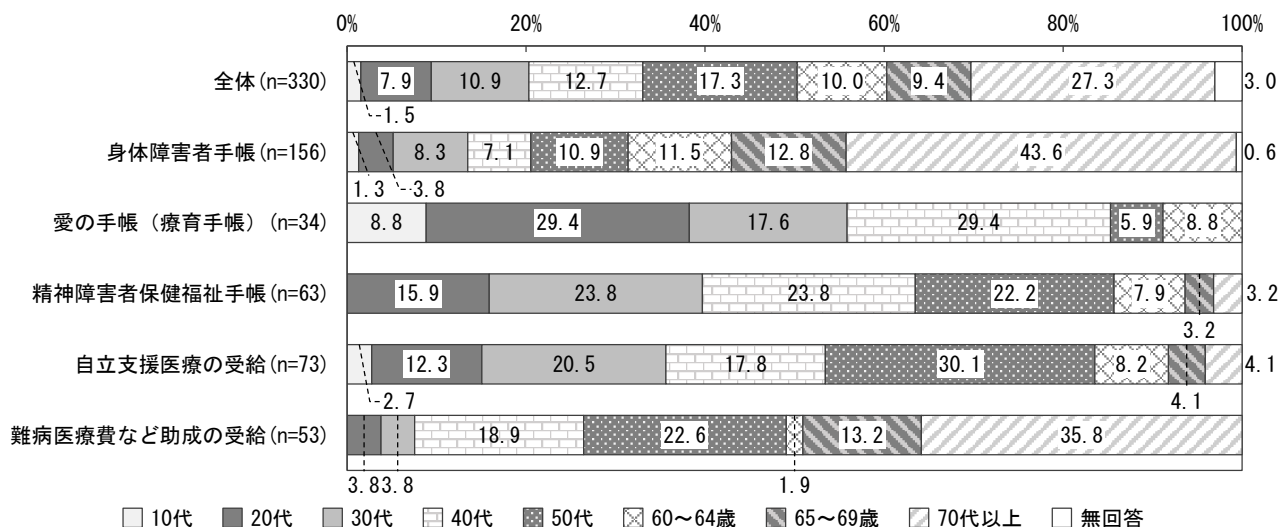


□ ご本人が記入 ■ 本人の意思を「代筆」で記入 ▨ 家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入 □ 無回答

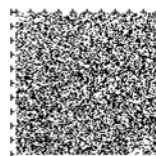
問2 あなたは、何歳ですか。(1つに○)【令和4年11月1日現在】

回答者の年齢は、全体では「70代以上」が27.3%と最も多く、次いで、「50代」が17.3%、「40代」が12.7%となっています。

障害種別ごとでは、70代以上が占める割合が身体障害者手帳所持者では43.6%、難病医療費など助成の受給者で35.8%、他の障害種別では10%未満となっています。

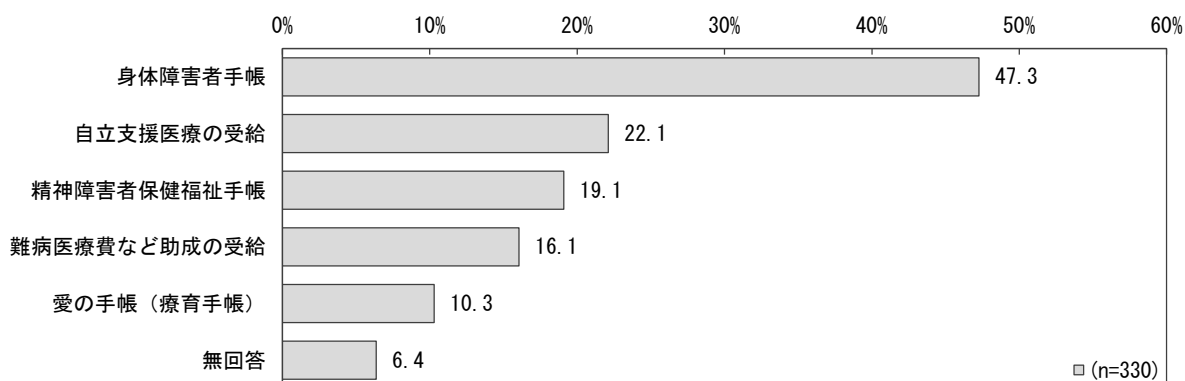


□ 10代 ■ 20代 ▨ 30代 ▩ 40代 ▪ 50代 ▫ 60~64歳 ▬ 65~69歳 ▮ 70代以上 □ 無回答



問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費などの助成を受けていたりしますか。
(あてはまるものすべてに○)

回答者の障害種別は、「身体障害者手帳」が47.3%と最も多く、次いで、「自立支援医療の受給」が22.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が19.1%、「難病医療費など助成の受給」が16.1%、「愛の手帳（療育手帳）」が10.3%となっています。

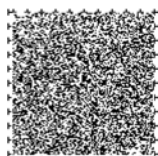


他の手帳の所持や受給の有無については、身体障害者手帳所持者では、「愛の手帳（療育手帳）」が7.7%、「難病医療費など助成の受給」が5.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「身体障害者手帳」が35.3%、「精神障害者保健福祉手帳」及び「自立支援医療の受給」がそれぞれ11.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「自立支援医療の受給」が52.4%、「愛の手帳（療育手帳）」及び「難病医療費など助成の受給」がそれぞれ6.3%となっています。

また、自立支援医療の受給者では、「精神障害者保健福祉手帳」が45.2%、「身体障害者手帳」が6.8%、難病医療費など助成の受給者では、「身体障害者手帳」が15.1%、「精神障害者保健福祉手帳」及び「自立支援医療の受給」がそれぞれ7.5%となっています。

(単位:%)

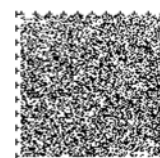
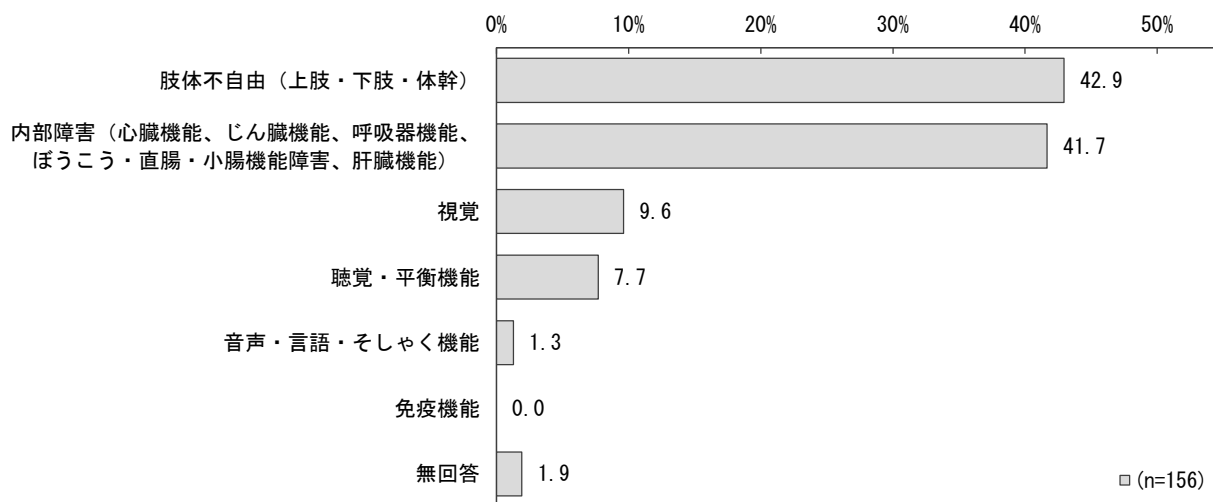
	身体障害者手帳	自立支援医療の受給	精神障害者保健福祉手帳	難病医療費など助成の受給	愛の手帳 (療育手帳)	無回答
全体 (n=330)	47.3	22.1	19.1	16.1	10.3	6.4
身体障害者手帳 (n=156)	100.0	3.2	1.9	5.1	7.7	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=34)	35.3	11.8	11.8	0.0	100.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	4.8	52.4	100.0	6.3	6.3	0.0
自立支援医療の受給 (n=73)	6.8	100.0	45.2	5.5	5.5	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=53)	15.1	7.5	7.5	100.0	0.0	0.0



問4は身体障害者手帳を所持している方におうかがいします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。
(あてはまるものすべてに○)

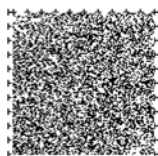
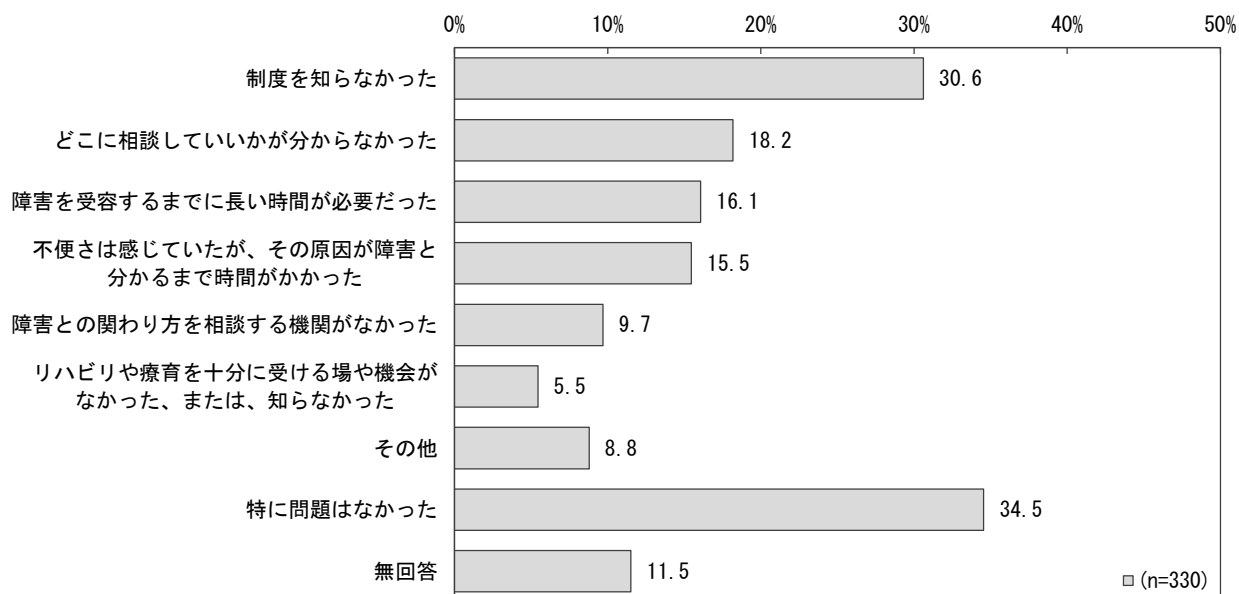
回答者が手帳を取るきっかけとなった障害は、「肢体不自由（上肢・下肢・体幹）」が42.9%と最も多く、次いで、「内部障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）」が41.7%、「視覚」が9.6%、「聴覚・平衡機能」が7.7%、「音声・言語・そしゃく機能」が1.3%となっています。



問5 障害者手帳や医療費などの助成を受けるまでにどのような問題がありましたか。

(あてはまるものすべてに○)

医療費などの助成を受けるまでの問題については、全体では「制度を知らなかった」が30.6%と最も多く、次いで、「どこに相談していいかが分からなかった」が18.2%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では、「特に問題はなかった」がそれぞれ52.6%、44.1%と最も多く、次いで、「制度を知らなかった」が、それぞれ23.1%、17.6%となっています。

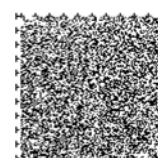
なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「制度を知らなかった」及び「どこに相談していいかが分からなかった」が同じく17.6%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では「制度を知らなかった」、「不便さは感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった」がともに39.7%と最も多く、次いで、「どこに相談していいかが分からなかった」が34.9%となっています。

自立支援医療受給者及び難病医療費など助成の受給者では、「制度を知らなかった」がそれぞれ49.3%、39.6%で最も多く、次いで、自立支援医療受給者では「障害を受容するまでに長い時間が必要だった」が27.4%、難病医療費など助成の受給者では「どこに相談していいかが分からなかった」が28.3%となっています。

(単位:%)

	制度を知らなかった	どこに相談していいかが分からなかった	障害を受容するまでに長い時間が必要だった	不便さは感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった	障害との関わり方を相談する機関がなかった	リハビリや療育を十分に受ける場や機会がなかった、または、知らなかった	その他	特に問題はなかった	無回答
全体 (n=330)	30.6	18.2	16.1	15.5	9.7	5.5	8.8	34.5	11.5
身体障害者手帳 (n=156)	23.1	12.2	12.8	10.3	6.4	4.5	7.1	52.6	5.8
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	17.6	17.6	8.8	14.7	8.8	2.9	5.9	44.1	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	39.7	34.9	30.2	39.7	20.6	6.3	14.3	9.5	6.3
自立支援医療の受給 (n=73)	49.3	24.7	27.4	23.3	16.4	6.8	15.1	13.7	8.2
難病医療費など助成の受給 (n=53)	39.6	28.3	18.9	9.4	7.5	9.4	9.4	26.4	3.8



2 生活について

問6 あなたの現在のお住まい（生活の場）はどこですか。（1つに○）

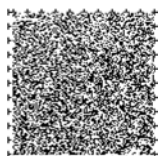
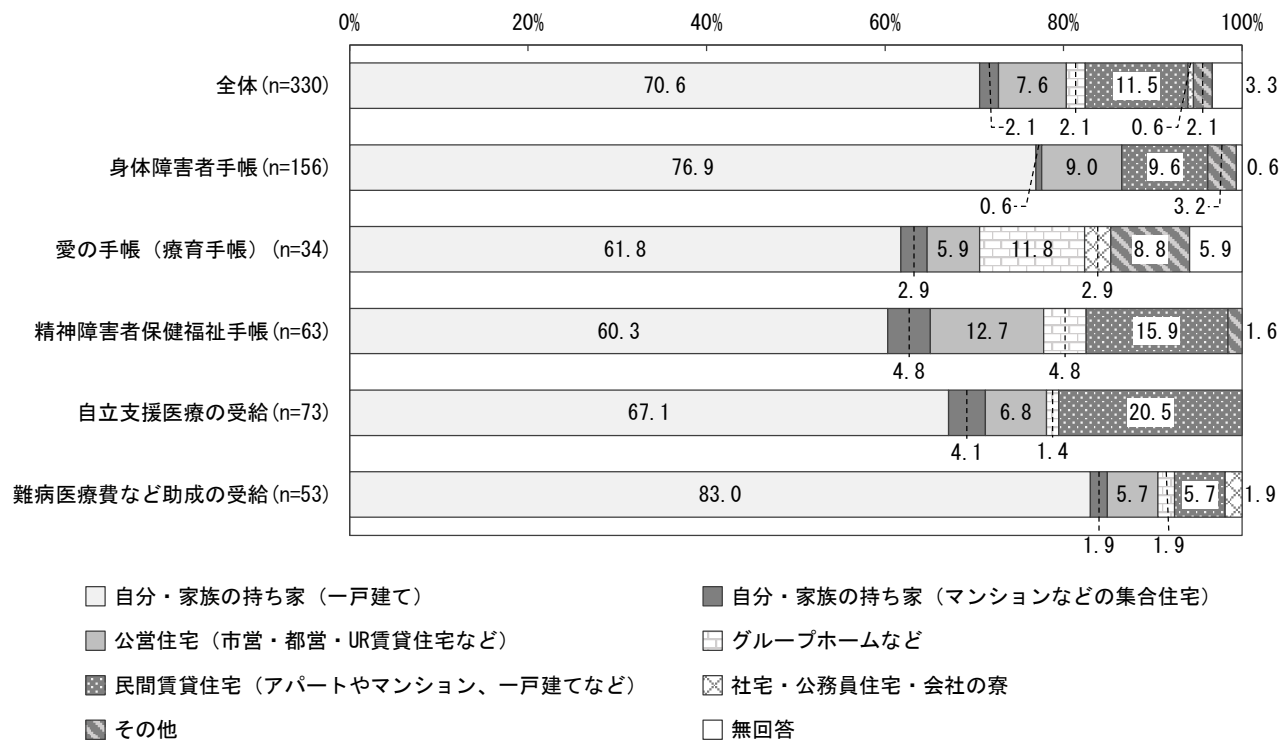
病院に入院中の方は、入院する前のお住まいについてお答えください。

回答者の住まい（生活の場）については、障害種別に関係なく「自分・家族の持ち家（一戸建て）」が最も多く、難病医療費など助成の受給者では83.0%、身体障害者手帳所持者では76.9%で、他の障害種別でも60%以上となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「民間賃貸住宅（アパートやマンション、一戸建てなど）」で、それぞれ9.6%、20.5%、15.9%、5.7%となっています。

なお、難病医療費など助成の受給者では、「公営住宅（市営・都営・UR賃貸住宅など）」が同じく5.7%となっています。

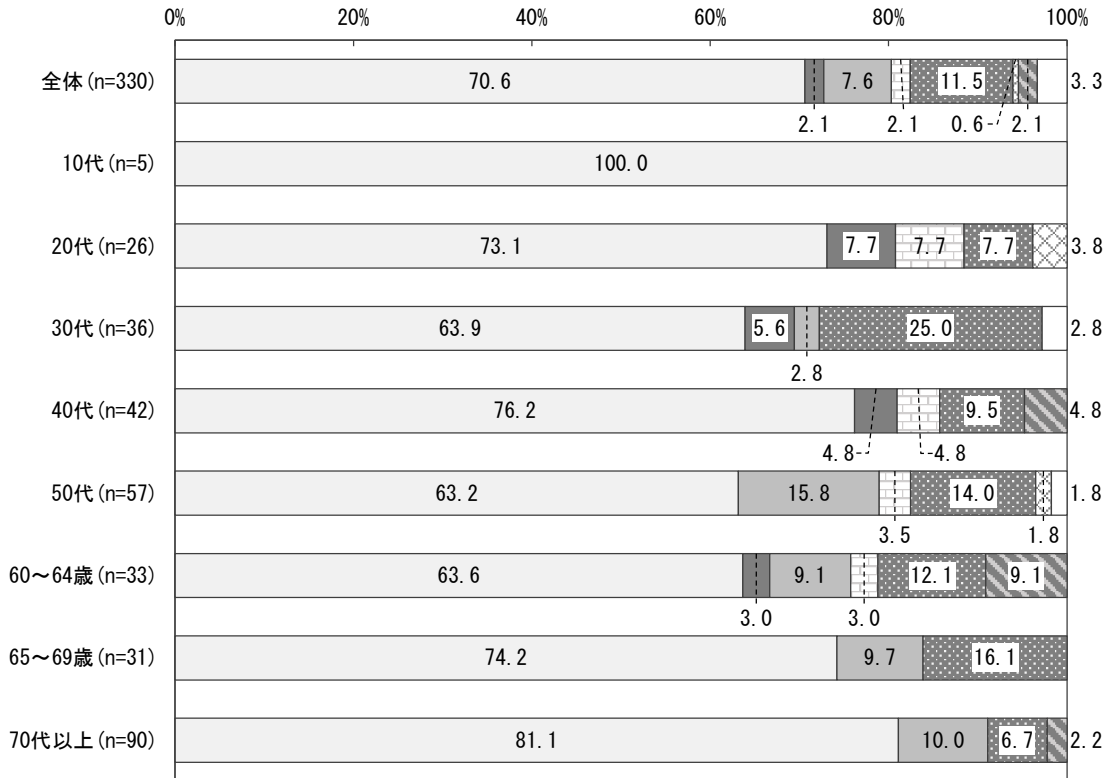
また、愛の手帳（療育手帳）所持者では「グループホームなど」が11.8%となっています。



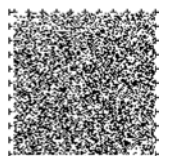
年代別では、全ての年代で「自分・家族の持ち家（一戸建て）」が最も多く、10代では100.0%、70代以上では81.1%、他の年代でも60%以上となっています。

次いで、50代及び70代以上では「公営住宅（市営・都営・UR賃貸住宅など）」となっていますが、他の年代では「民間賃貸住宅（アパートやマンション、一戸建てなど）」となっています。

なお、20代では、「自分・家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）」及び「グループホームなど」が「民間賃貸住宅（アパートやマンション、一戸建てなど）」と同じ割合となっています。



- 自分・家族の持ち家（一戸建て）
- 公営住宅（市営・都営・UR賃貸住宅など）
- 民間賃貸住宅（アパートやマンション、一戸建てなど）
- その他
- 自分・家族の持ち家（マンションなどの集合住宅）
- グループホームなど
- 社宅・公務員住宅・会社の寮
- 無回答



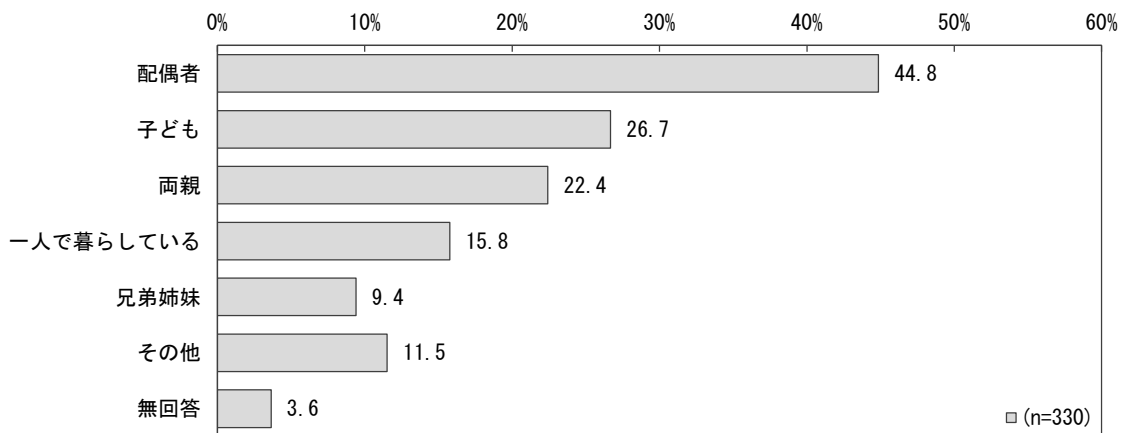
問7 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の同居人について、全体では「配偶者」が44.8%と最も多く、次いで、「子ども」が26.7%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「配偶者」が最も多く、それぞれ53.2%、56.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「両親」が最も多く、それぞれ58.8%、39.7%、39.7%となっています。

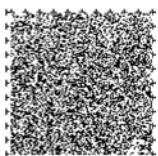
次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「配偶者」がそれぞれ27.0%、35.6%、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「子ども」がそれぞれ32.7%、32.1%となっています。

なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「両親」に次いで、「その他」が32.4%となっています。



(単位: %)

	配偶者	子ども	両親	一人で暮らしている	兄弟姉妹	その他	無回答
全体 (n=330)	44.8	26.7	22.4	15.8	9.4	11.5	3.6
身体障害者手帳 (n=156)	53.2	32.7	16.0	18.6	2.6	10.9	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	0.0	0.0	58.8	11.8	26.5	32.4	2.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	27.0	11.1	39.7	23.8	20.6	11.1	0.0
自立支援医療の受給 (n=73)	35.6	24.7	39.7	12.3	20.5	12.3	1.4
難病医療費など助成の受給 (n=53)	56.6	32.1	15.1	11.3	7.5	0.0	3.8



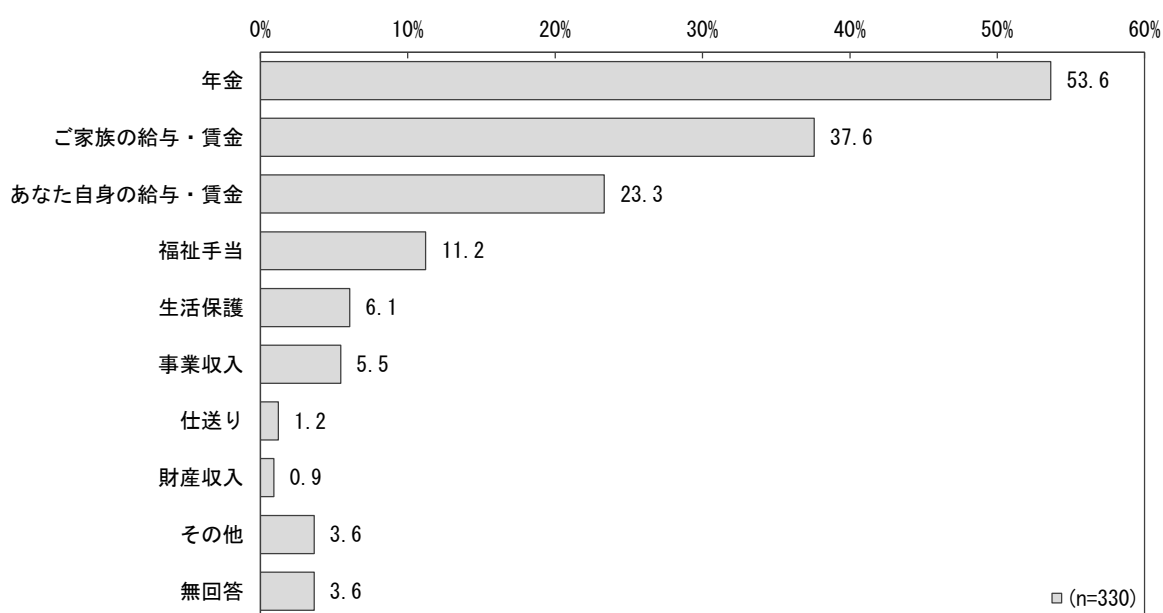
問8 あなたの世帯の主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の世帯の主な収入源については、全体では「年金」が53.6%と最も多く、次いで、「ご家族の給与・賃金」が37.6%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「年金」が最も多く、それぞれ64.7%、52.9%、58.5%となっています。

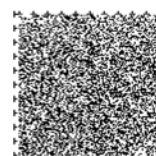
また、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「ご家族の給与・賃金」が最も多く、それぞれ54.0%、53.4%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「ご家族の給与・賃金」がそれぞれ30.1%、38.2%、35.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「年金」がそれぞれ50.8%、42.5%となっています。



(単位: %)

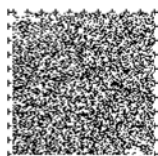
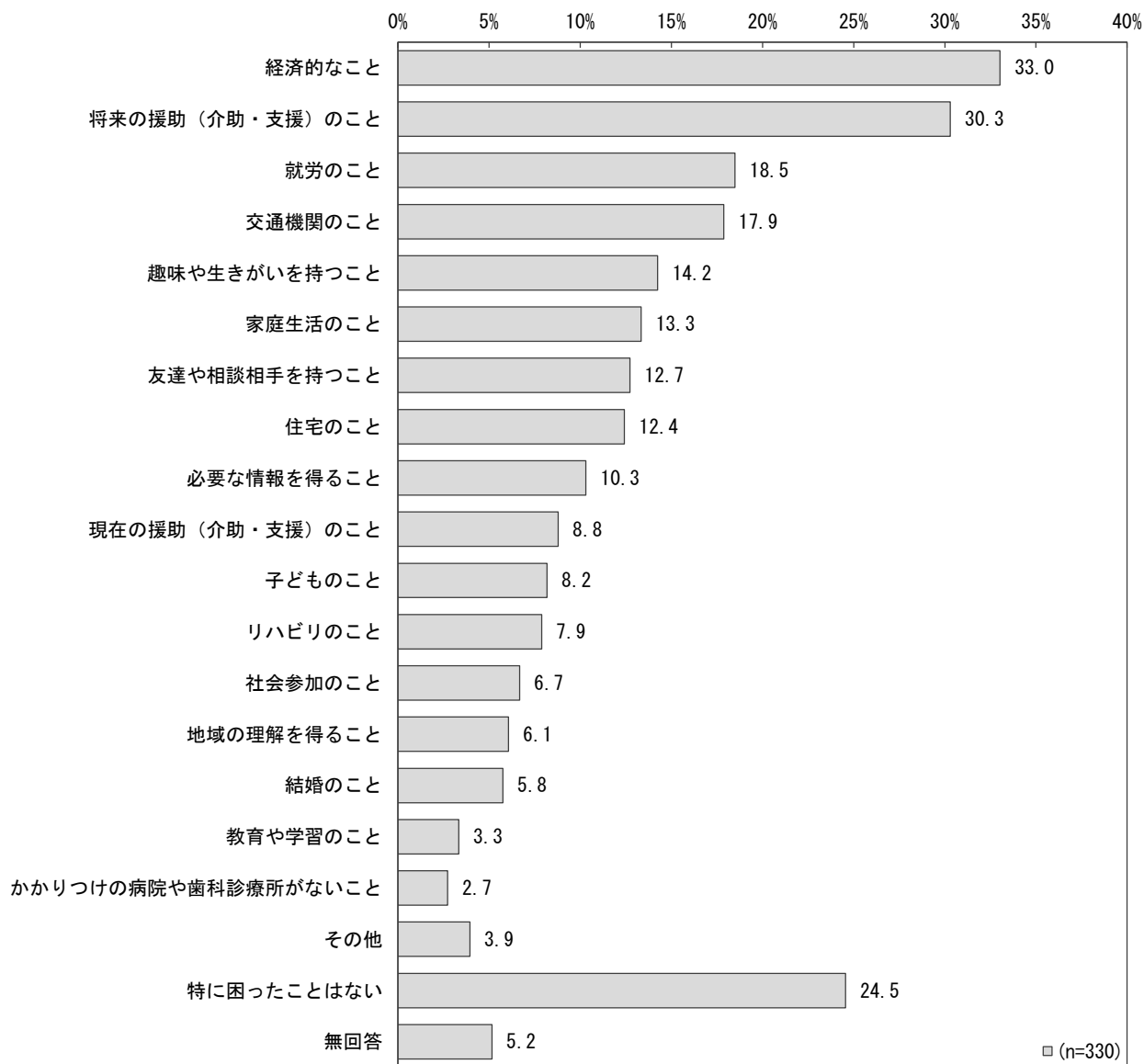
	年金	ご家族の給与・賃金	あなた自身の給与・賃金	福祉手当	生活保護	事業収入	仕送り	財産収入	その他	無回答
全体 (n=330)	53.6	37.6	23.3	11.2	6.1	5.5	1.2	0.9	3.6	3.6
身体障害者手帳 (n=156)	64.7	30.1	17.9	18.6	7.1	6.4	1.9	1.9	3.2	1.3
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	52.9	38.2	29.4	29.4	2.9	0.0	2.9	2.9	2.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	50.8	54.0	28.6	6.3	11.1	4.8	1.6	0.0	7.9	1.6
自立支援医療の受給 (n=73)	42.5	53.4	35.6	5.5	6.8	1.4	1.4	0.0	6.8	1.4
難病医療費など助成の受給 (n=53)	58.5	35.8	18.9	3.8	1.9	5.7	0.0	0.0	3.8	0.0



問9 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

生活で困っていることについては、全体では「経済的なこと」が33.0%と最も多く、次いで、「将来の援助(介助・支援)のこと」が30.3%、「就労のこと」が18.5%となっています。

なお、「特に困ったことはない」が24.5%となっています。



障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「経済的なこと」が最も多く、それぞれ61.9%、57.5%、45.3%となり、身体障害者手帳所持者では「特に困ったことはない」が38.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「将来の援助（介助・支援のこと）」が47.1%と最も多くなっています。

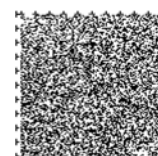
次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「将来の援助（介助・支援）のこと」がそれぞれ25.6%、41.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「就労のこと」がそれぞれ47.6%、43.8%、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「経済的なこと」が23.5%となっています。

(単位:%)

	経済的なこと	将来の援助（介助・支援）のこと	就労のこと	交通機関のこと	趣味や生きがいを持つこと	家庭生活のこと	友達や相談相手を持つこと	住宅のこと	必要な情報を得ること	現在の援助（介助・支援）のこと
全体 (n=330)	33.0	30.3	18.5	17.9	14.2	13.3	12.7	12.4	10.3	8.8
身体障害者手帳 (n=156)	18.6	25.6	8.3	16.7	11.5	8.3	5.8	10.3	6.4	7.7
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	23.5	47.1	20.6	8.8	17.6	14.7	17.6	8.8	5.9	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	61.9	33.3	47.6	28.6	31.7	33.3	31.7	20.6	20.6	14.3
自立支援医療の受給 (n=73)	57.5	37.0	43.8	23.3	23.3	23.3	28.8	15.1	17.8	15.1
難病医療費など助成の受給 (n=53)	45.3	41.5	15.1	26.4	9.4	15.1	5.7	11.3	11.3	9.4

(単位:%)

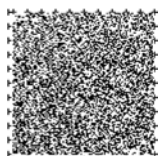
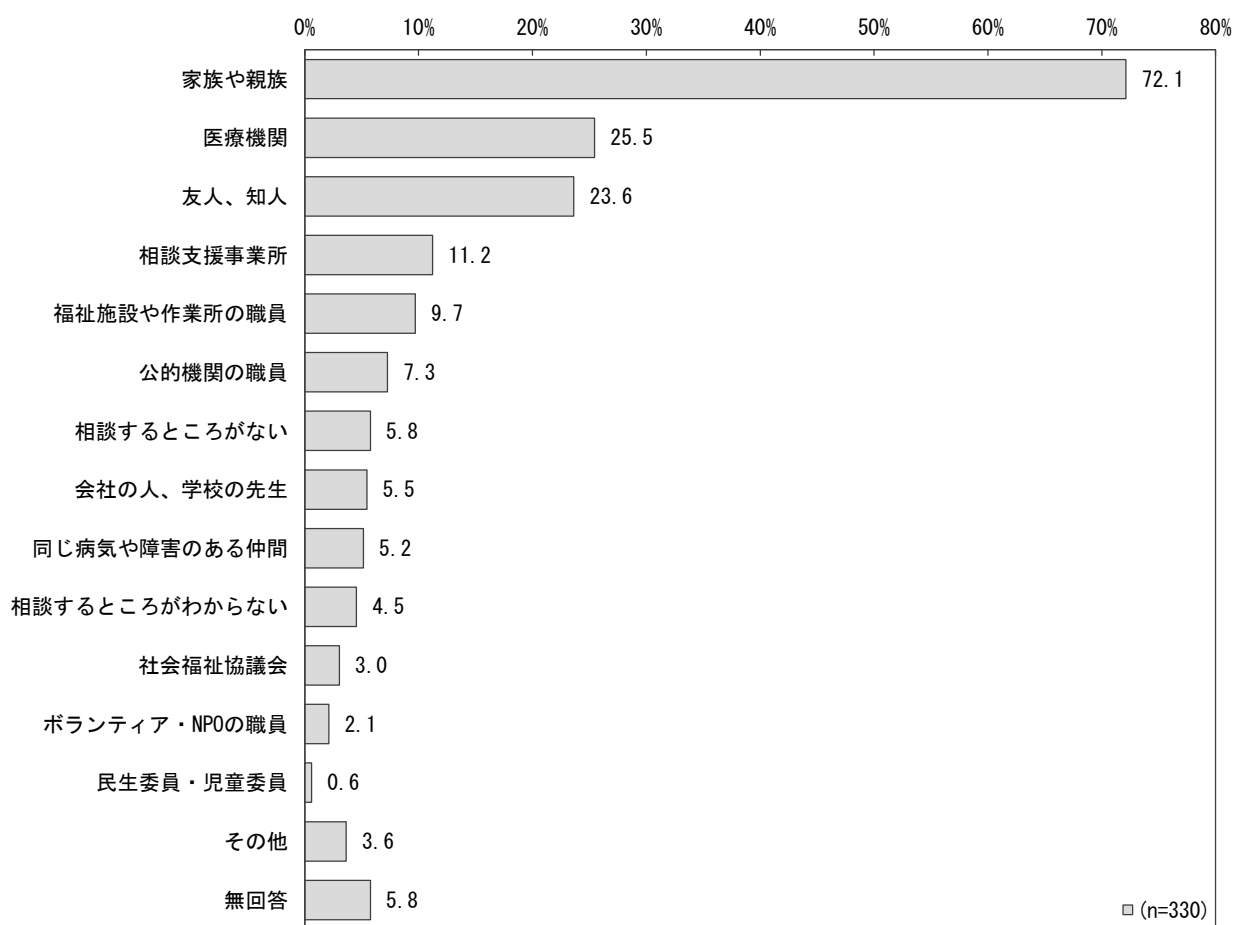
	子どものこと	リハビリのこと	社会参加のこと	地域の理解を得ること	結婚のこと	教育や学習のこと	かかりつけの病院や歯科診療所がないこと	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=330)	8.2	7.9	6.7	6.1	5.8	3.3	2.7	3.9	24.5	5.2
身体障害者手帳 (n=156)	4.5	7.7	3.2	4.5	2.6	1.3	1.3	5.1	38.5	3.8
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	2.9	8.8	2.9	20.6	2.9	8.8	0.0	2.9	17.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	14.3	6.3	17.5	12.7	17.5	4.8	4.8	3.2	6.3	0.0
自立支援医療の受給 (n=73)	16.4	6.8	16.4	9.6	13.7	5.5	6.8	6.8	9.6	1.4
難病医療費など助成の受給 (n=53)	9.4	9.4	0.0	1.9	3.8	5.7	1.9	1.9	9.4	0.0



問10 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

困っていることを相談する相手については、障害種別に関係なく「家族や親族」が最も多く、難病医療費など助成の受給者では83.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者では74.6%、他の障害種別でも60%以上となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「医療機関」がそれぞれ22.4%、38.1%、38.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「福祉施設や作業所の職員」が35.3%、難病医療費など助成の受給者では「友人、知人」が32.1%となっています。

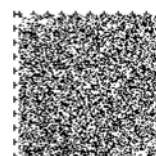


(単位：%)

	家族や親族	医療機関	友人、知人	相談支援事業所	福祉施設や作業所の職員	公的機関の職員	会社の人、学校の先生	同じ病気や障害のある仲間
全体 (n=330)	72.1	25.5	23.6	11.2	9.7	7.3	5.5	5.2
身体障害者手帳 (n=156)	67.3	22.4	19.9	9.0	6.4	6.4	1.9	5.8
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	67.6	20.6	8.8	26.5	35.3	5.9	8.8	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	74.6	38.1	27.0	25.4	19.0	9.5	12.7	7.9
自立支援医療の受給 (n=73)	69.9	38.4	31.5	19.2	12.3	12.3	11.0	8.2
難病医療費など助成の受給 (n=53)	83.0	28.3	32.1	5.7	3.8	9.4	3.8	5.7

(単位：%)

	社会福祉協議会	ボランティア・NPOの職員	民生委員・児童委員	相談するところがない	相談するところがわからない	その他	無回答
全体 (n=330)	3.0	2.1	0.6	5.8	4.5	3.6	5.8
身体障害者手帳 (n=156)	3.8	0.6	0.6	6.4	4.5	3.2	6.4
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	11.8	8.8	2.9	0.0	2.9	5.9	2.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	3.2	6.3	1.6	6.3	3.2	3.2	6.3
自立支援医療の受給 (n=73)	1.4	4.1	0.0	9.6	5.5	8.2	4.1
難病医療費など助成の受給 (n=53)	0.0	0.0	0.0	3.8	3.8	1.9	3.8

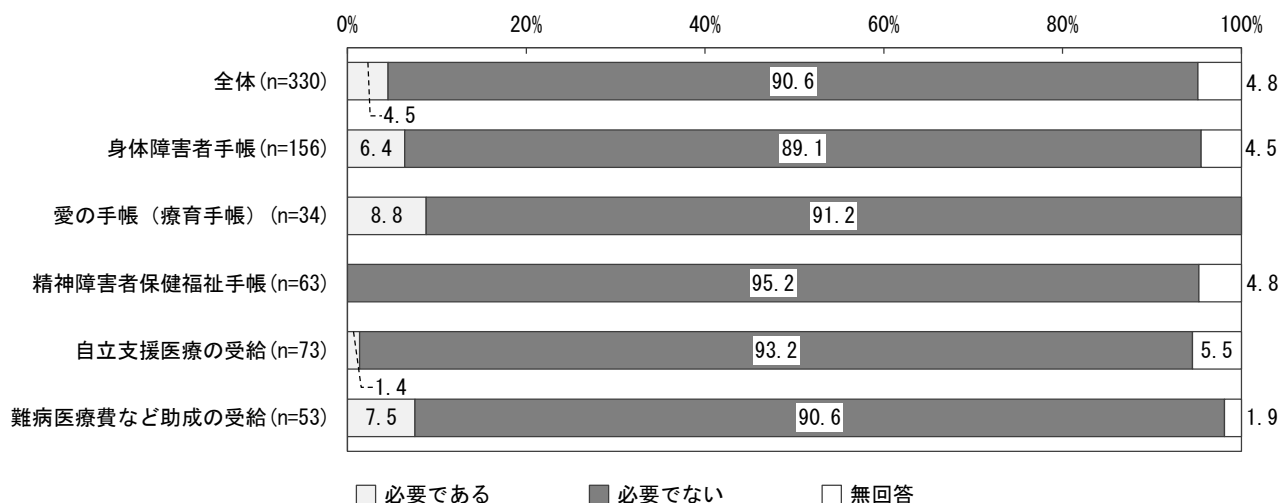


3 健康・医療・リハビリテーションについて

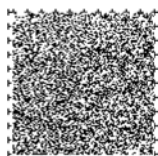
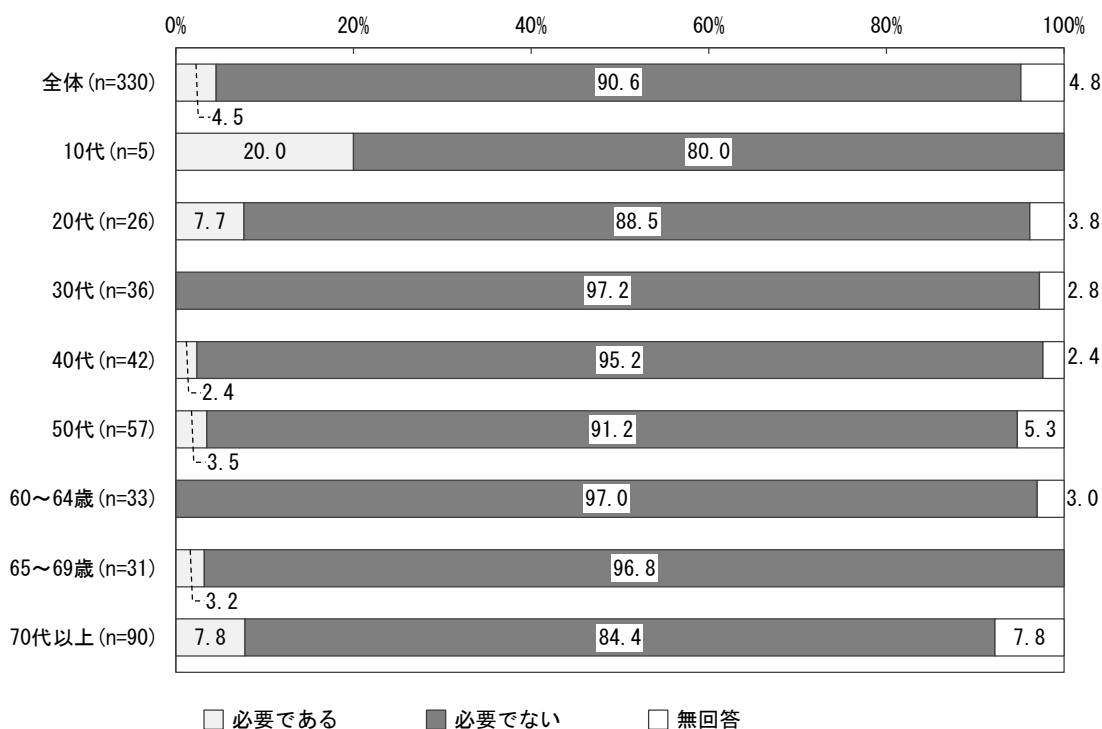
問 1 1 あなたは、普段の生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的ケアが必要ですか。
(1つに○)

普段の生活で医療的ケアが「必要である」と回答した人は、全体では4.5%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で6.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者で8.8%、自立支援医療の受給者で1.4%、難病医療費など助成の受給者で7.5%となっています。



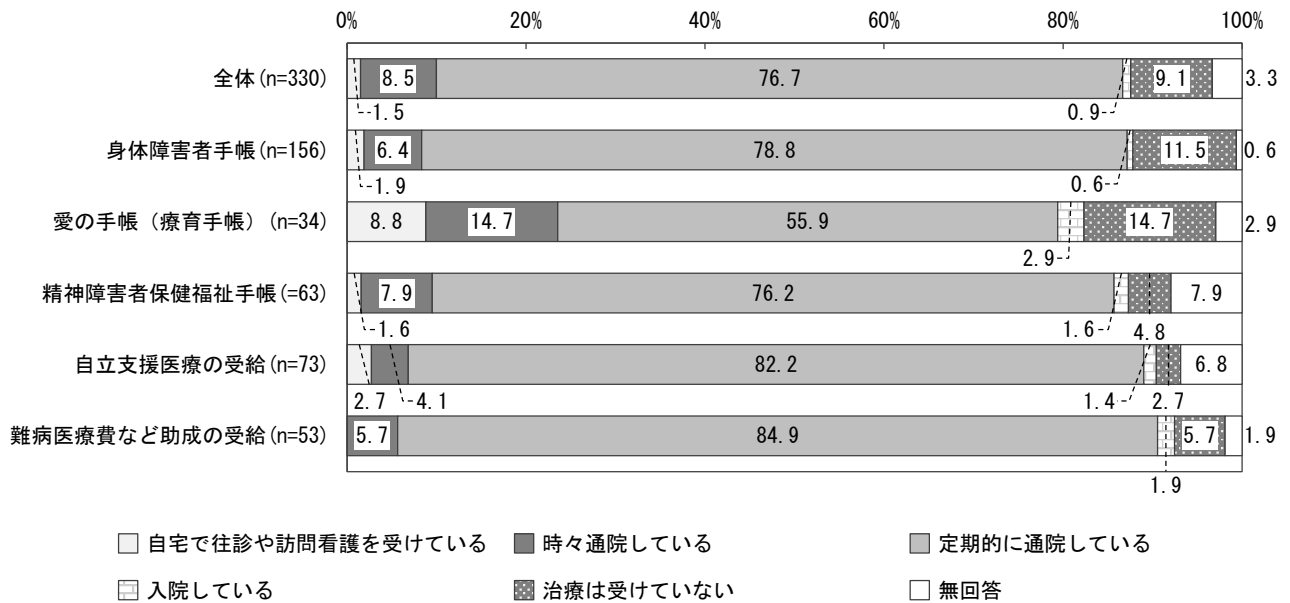
年代別では、普段の生活で医療的ケアが「必要である」と回答した人は、10代で20.0%と最も多く、次いで、70代以上で7.8%、20代で7.7%となっています。



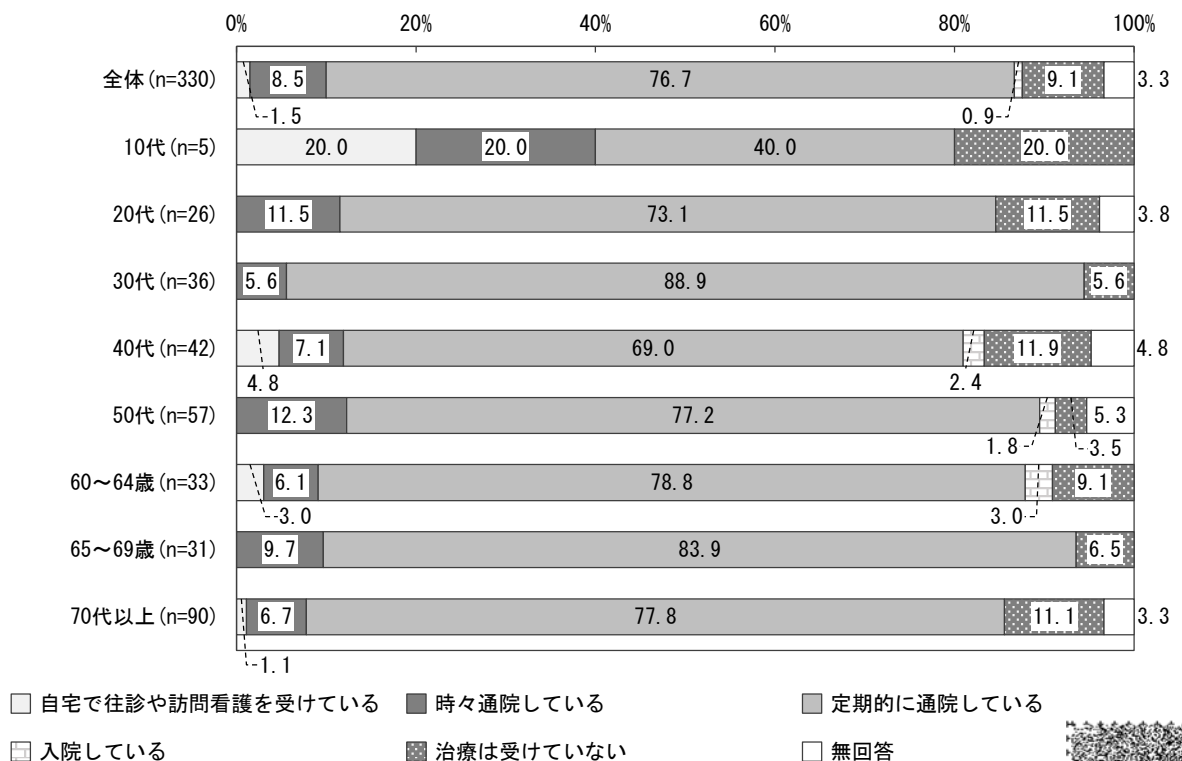
問 1 2 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

現在、医師の治療を受けている人（「自宅で往診や訪問介護を受けている」、「時々通院している」、「定期的に通院している」及び「入院している」の合計。以下、同じ。）は、全体では87.6%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で87.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者で82.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で87.3%、自立支援医療の受給者で90.4%、難病医療費など助成の受給者で92.5%となっています。



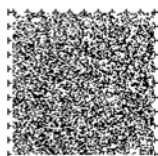
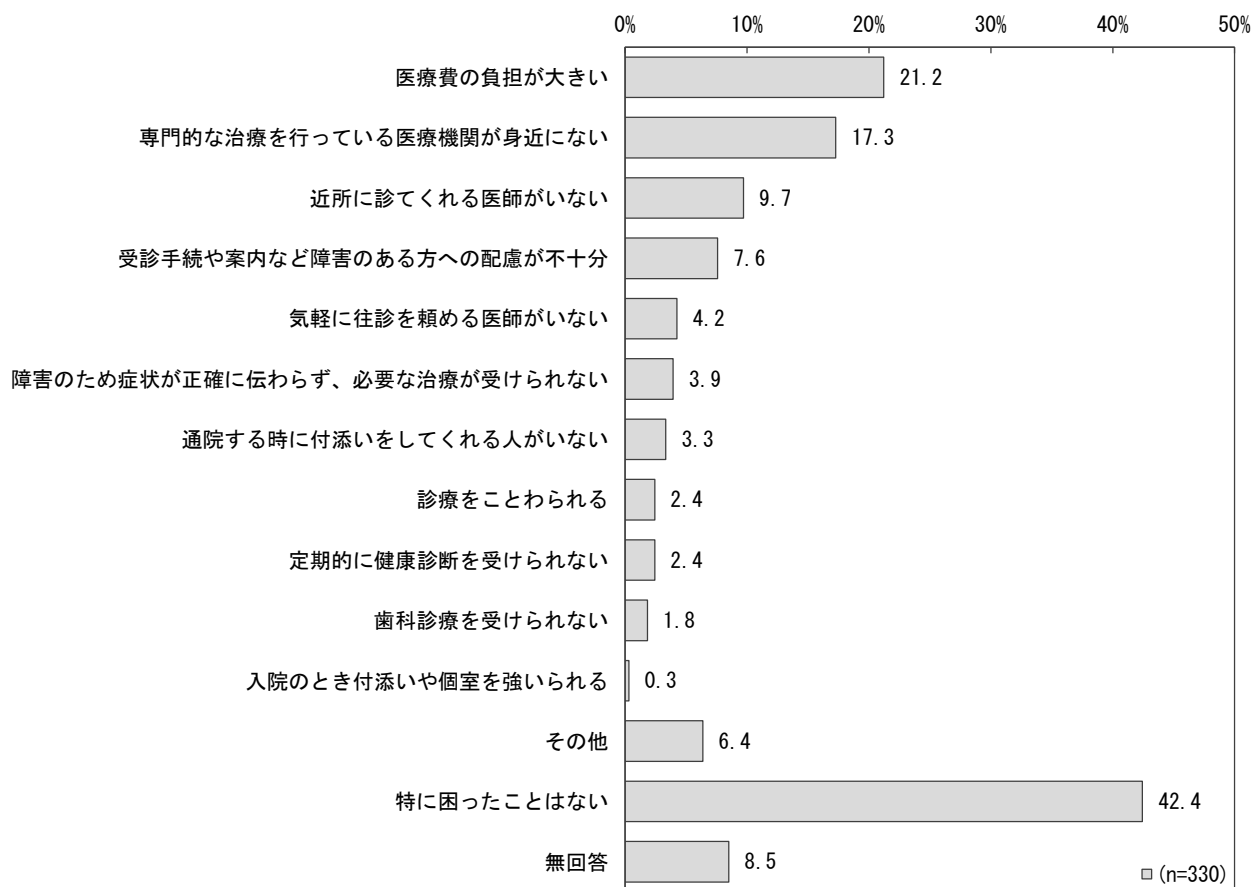
年代別では、現在、医師の治療を受けている人は、30代で94.5%と最も多く、次いで、65～69歳で93.6%、50代で91.3%となっています。



問13 健康管理や医療について困ったり不便に思ったことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

健康管理や医療で困っていることについては、全体では「特に困ったことはない」が42.4%で最も多く、次いで、「医療費の負担が大きい」が21.2%、「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が17.3%となっています。



障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者以外では「特に困ったことはない」が最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「医療費の負担が大きい」が31.7%と最も多くなっています。

なお、自立支援医療の受給者では、「医療費の負担が大きい」が同じく28.8%となっています。

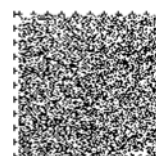
次いで、身体障害者手帳所持者では「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」が16.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」が14.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「特に困ったことはない」が30.2%、自立支援医療の受給者では「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」及び「近所に診てくれる医師がいない」がともに19.2%、難病医療費など助成の受給者では「医療費の負担が大きい」が32.1%となっています。

(単位:%)

	医療費の負担が大きい	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	近所に診てくれる医師がいない	受診手続や案内など障害のある方への配慮が不十分	気軽に往診を頼める医師がいない	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	通院する時に付添いをしてくれる人がいない	診療をことわられる
全体 (n=330)	21.2	17.3	9.7	7.6	4.2	3.9	3.3	2.4
身体障害者手帳 (n=156)	14.1	16.7	5.8	7.1	3.8	2.6	3.2	2.6
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	8.8	5.9	5.9	5.9	0.0	14.7	5.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	31.7	23.8	15.9	12.7	6.3	11.1	6.3	3.2
自立支援医療の受給 (n=73)	28.8	19.2	19.2	11.0	5.5	5.5	6.8	2.7
難病医療費など助成の受給 (n=53)	32.1	20.8	11.3	5.7	3.8	1.9	1.9	1.9

(単位:%)

	定期的に健康診断を受けられない	歯科診療を受けられない	入院のとき付添いや個室を強いられる	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=330)	2.4	1.8	0.3	6.4	42.4	8.5
身体障害者手帳 (n=156)	1.9	2.6	0.0	5.1	50.6	7.1
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	0.0	0.0	2.9	5.9	52.9	11.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	6.3	1.6	0.0	9.5	30.2	6.3
自立支援医療の受給 (n=73)	5.5	0.0	1.4	11.0	28.8	11.0
難病医療費など助成の受給 (n=53)	1.9	0.0	0.0	3.8	34.0	7.5

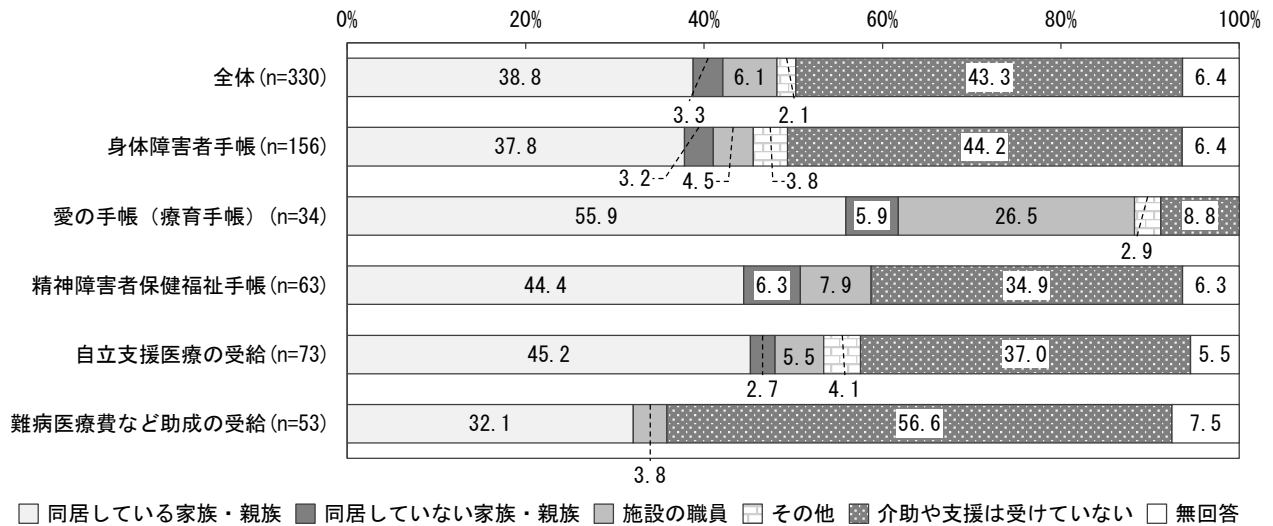


4 介助（支援）の状況について

問14 ふだん、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。（1つに○）

介助者（支援者）がいる人（「同居している家族・親族」、「同居していない家族・親族」、「施設の職員」及び「その他」の合計）は、全体では50.3%となっています。

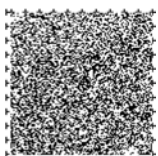
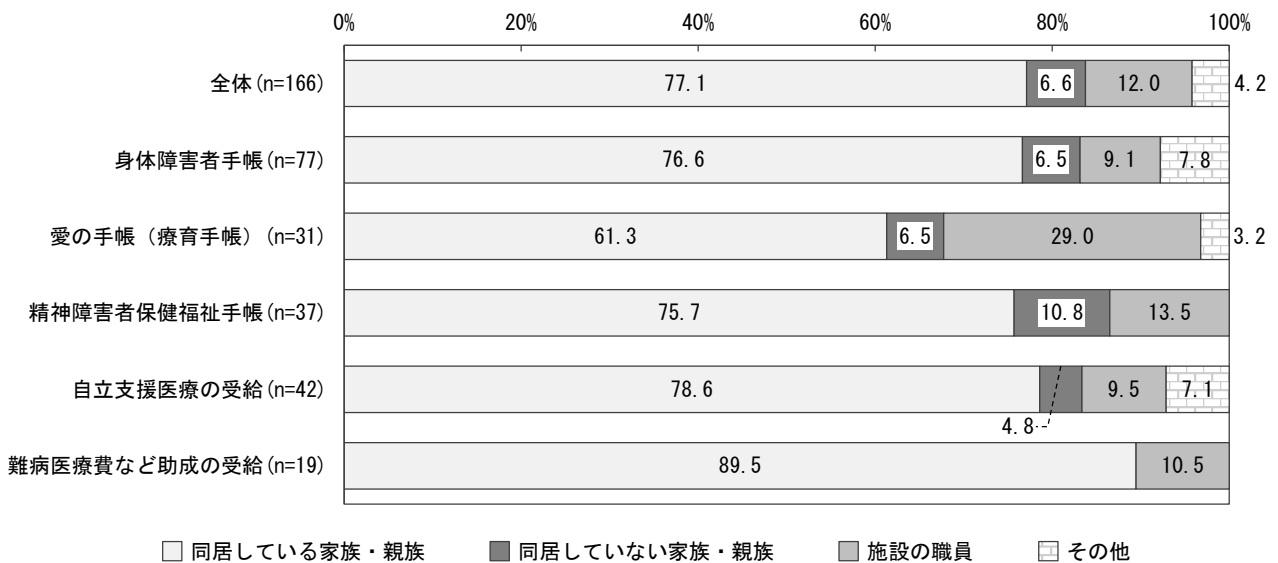
障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者で91.2%と障害種別の中で最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者で58.6%、自立支援医療の受給者で57.5%、身体障害者手帳所持者で49.3%、難病医療費など助成の受給者で35.9%となっています。



■介助者（支援）者の内訳（問14）

回答者を介助（支援）している人は、障害種別に関係なく「同居している家族・親族」が最も多く、難病医療費など助成の受給者では89.5%と障害種別の中で最も多くなっています。

愛の手帳（療育手帳）所持者では、「同居している家族・親族」は61.3%と障害種別の中で最も少なく、一方で、「施設の職員」が29.0%と障害種別の中で最も多くなっています。



問14で「1」～「4」と答えた方におうかがいします。

問15 その方の年齢について教えてください。（1つに○）

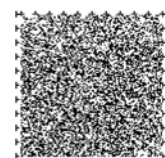
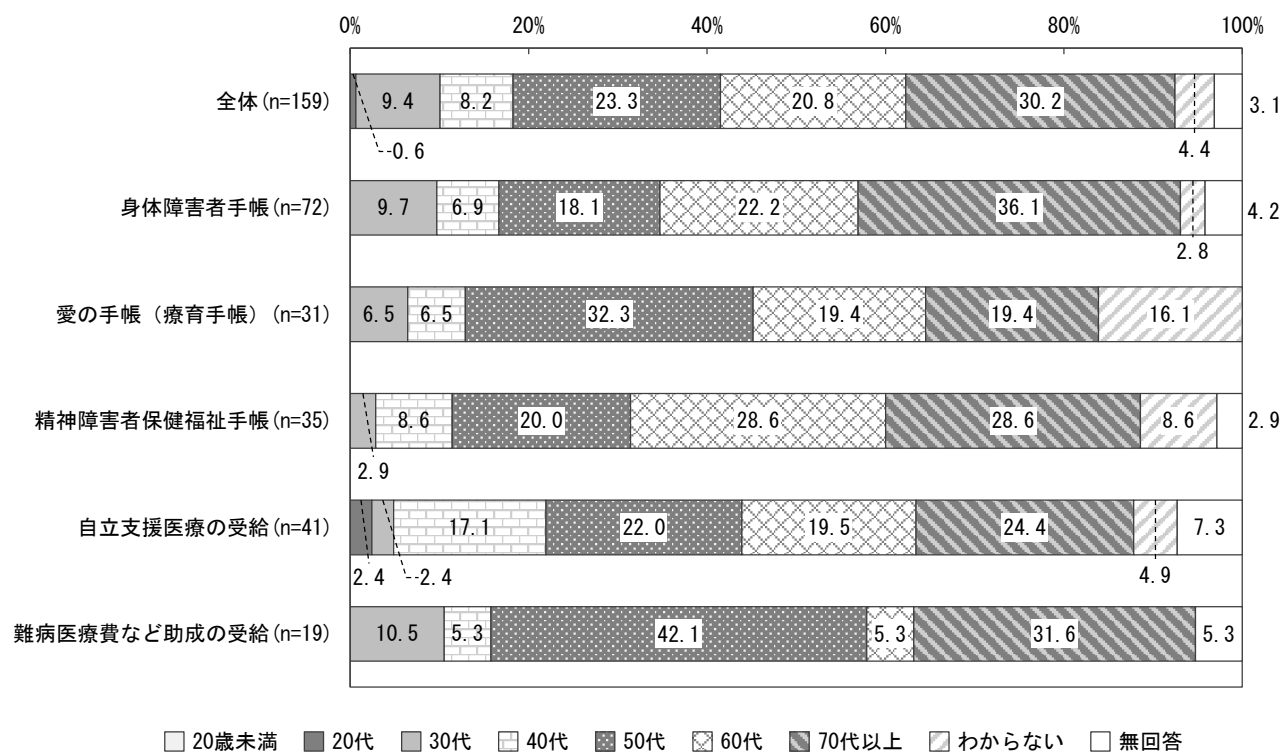
介助者（支援者）の年齢は、全体では70代以上が30.2%と最も多く、次いで、50代が23.3%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では、「70代以上」が最も多く、それぞれ36.1%、28.6%、24.4%となり、次いで、「50代」や「60代」が多くなっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「60代」が「70代以上」と同じ割合となっています。

愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「50代」が最も多く、それぞれ32.3%、42.1%となっています。

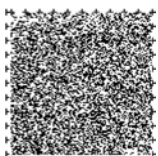
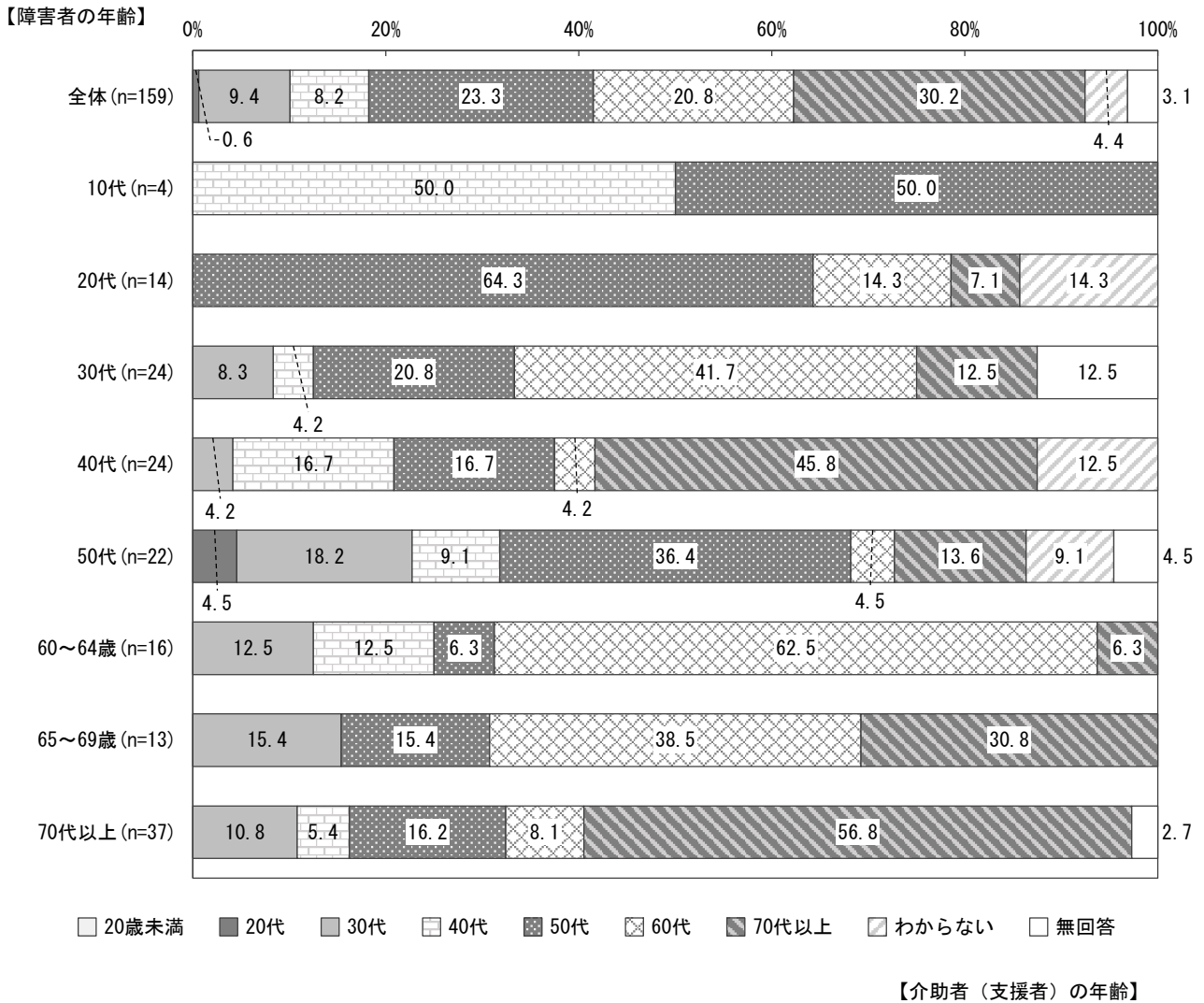
次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者では「60代」及び「70代以上」、難病医療費など助成の受給者では「70代以上」が多くなっています。



■ 障害者の年齢（問2）×介助者（支援者）の年齢（問15）

障害者の年齢が「10代」、「20代」及び「50代」では、介助者（支援者）の年齢は「50代」が最も多く、障害者の年齢が「30代」、「60～64歳」及び「65～69歳」では、介助者（支援者）の年齢は「60代」が最も多く、障害者の年齢が「40代」及び「70代以上」では、介助者（支援者）の年齢は「70代以上」が最も多くなっています。

なお、障害者の年齢が「50代」では、「20代」の介助者（支援者）が4.5%となっています。

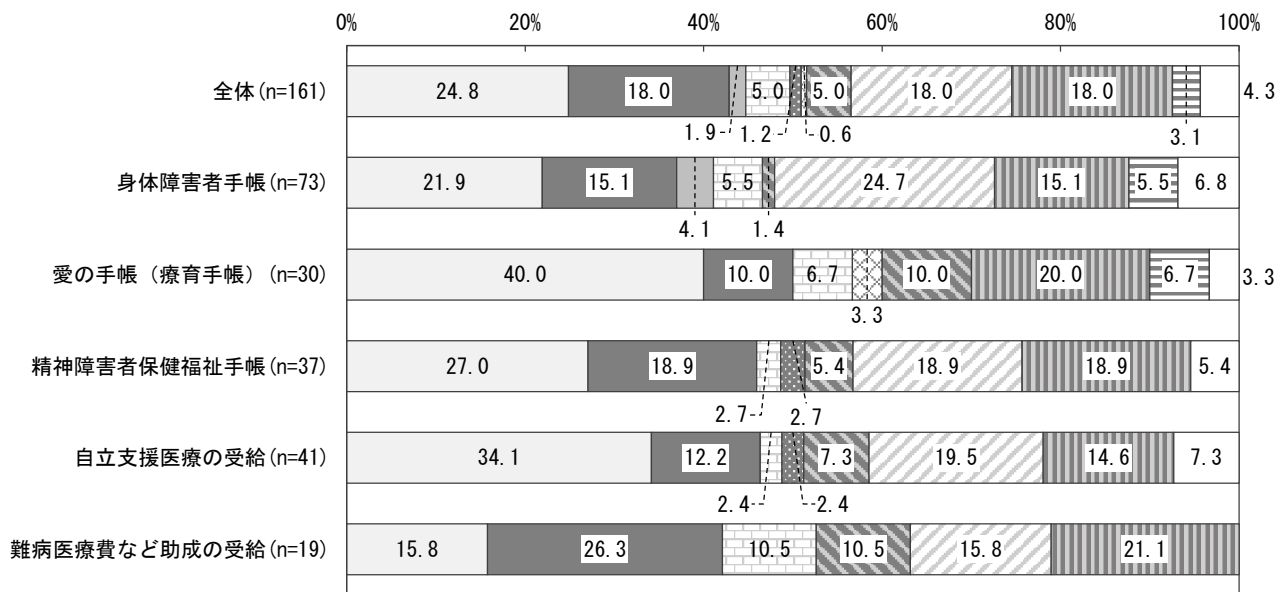


問 1 6 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

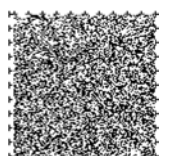
介助者（支援者）が介助（支援）できないときは、全体では「同居している他の家族・親族に頼む」が24.8%と最も多く、次いで、「別居している他の家族・親族に頼む」、「一人でなんとかする」及び「わからない」がともに18.0%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者以外では、「同居している他の家族・親族に頼む」が最も多くなっています。

なお、身体障害者手帳所持者では「一人でなんとかする」が24.7%と最も多く、難病医療費など助成の受給者では「別居している他の家族・親族に頼む」が26.3%と最も多くなっています。



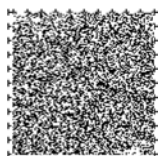
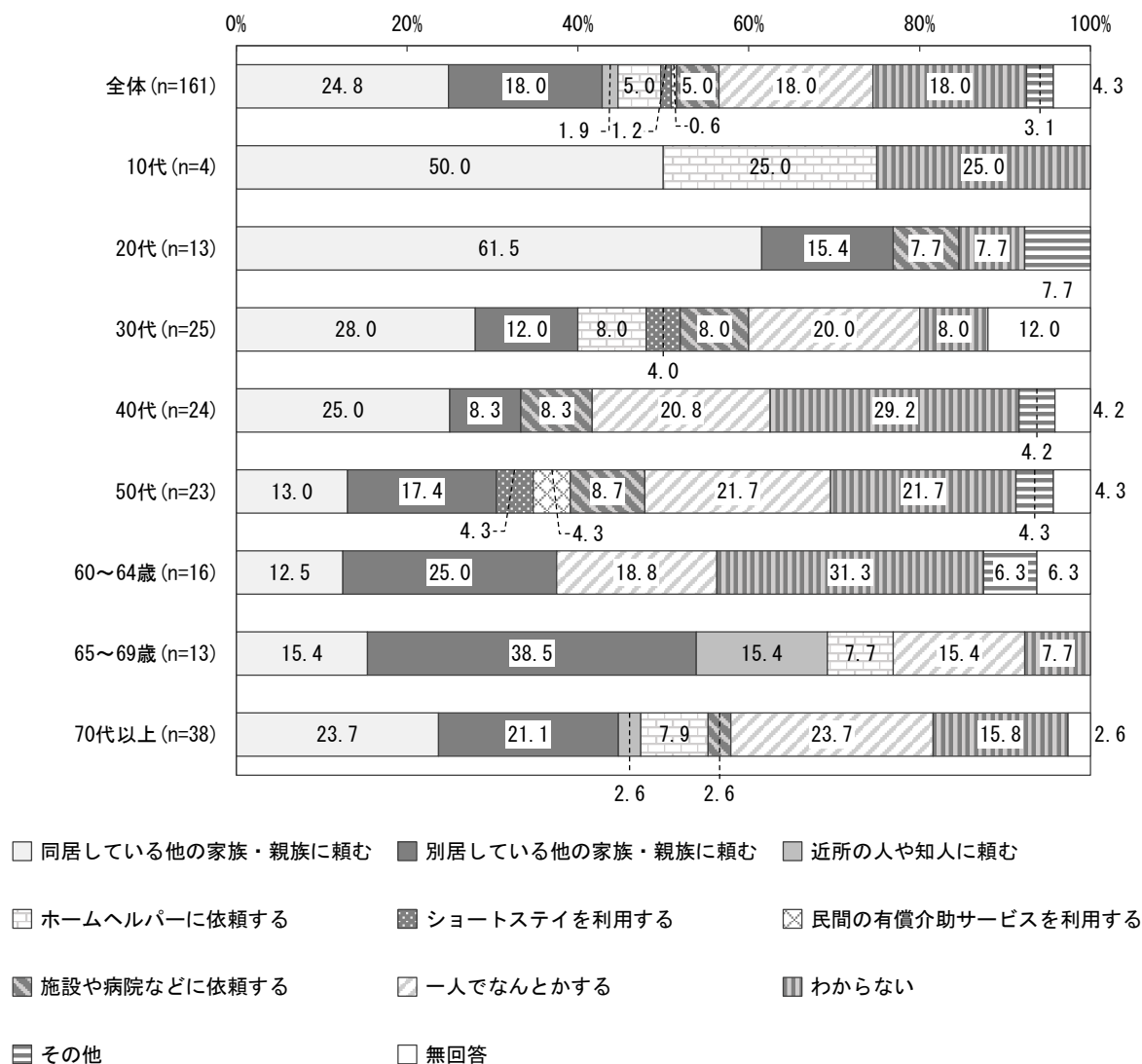
- 同居している他の家族・親族に頼む
- 別居している他の家族・親族に頼む
- 近所の人や知人に頼む
- ホームヘルパーに依頼する
- ショートステイを利用する
- 民間の有償介助サービスを利用する
- 施設や病院などに依頼する
- 一人でなんとかする
- わからない
- その他
- 無回答



年代別で最も多い回答は、10代、20代、30代及び70代以上では「同居している他の家族・親族に頼む」、65～69歳では「別居している他の家族・親族に頼む」となっています。

なお、50代及び70代以上では、「一人でなんとかする」が「同居している他の家族・親族に頼む」と同じ割合となっています。

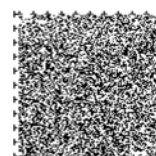
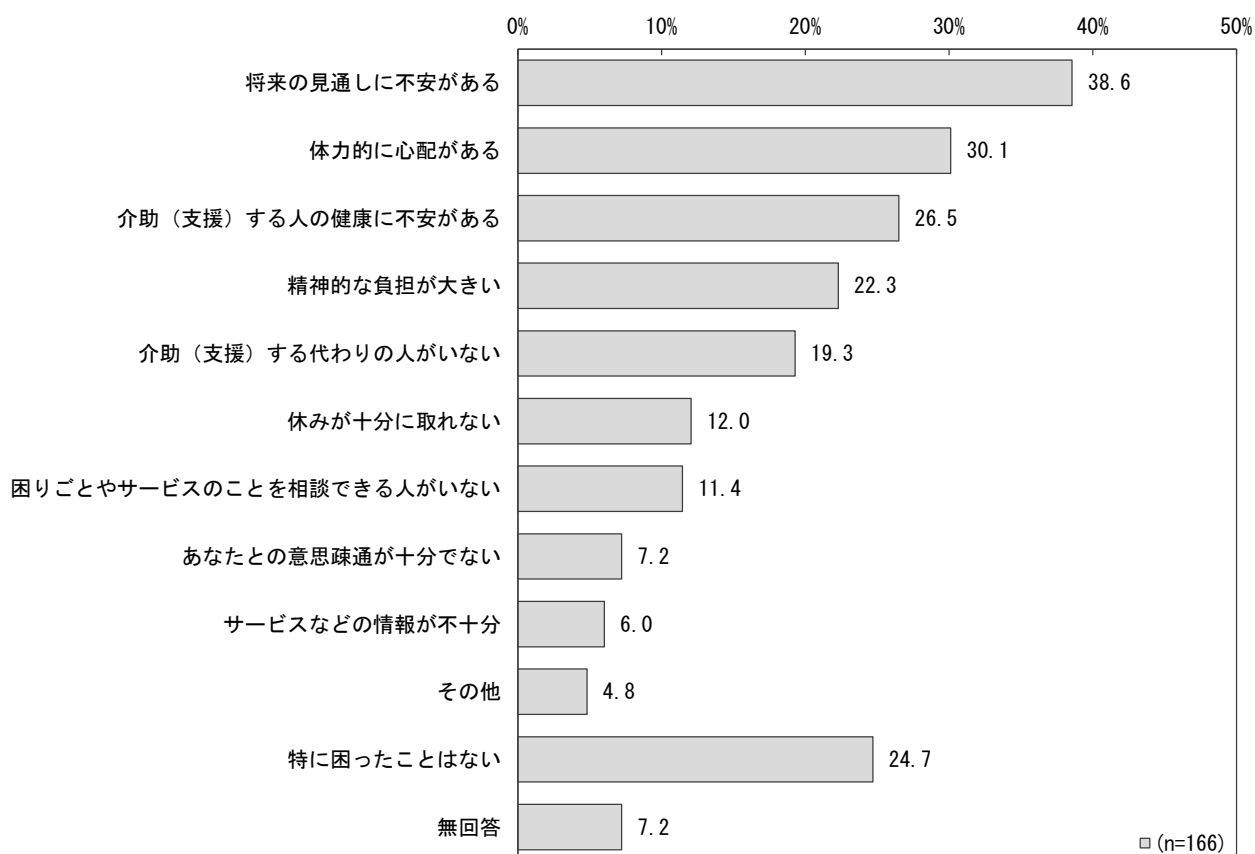
また、40代、50代及び60～64歳では「わからない」が最も多くなっています。



問17 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

介助者（支援者）が困っていることについては、全体では「将来の見通しに不安がある」が38.6%と最も多く、次いで、「体力的に心配がある」が30.1%、「介助（支援）する人の健康に不安がある」が26.5%となっています。

なお、「特に困ったことはない」が24.7%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「体力的に心配がある」が33.8%と最も多く、他の障害種別では「将来の見通しに不安がある」が最も多くなっています。

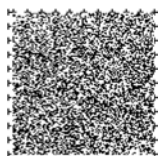
次いで、身体障害者手帳所持者では「特に困ったことはない」が29.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「体力的に心配がある」がそれぞれ35.5%、36.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「精神的な負担が大きい」が37.8%、自立支援医療の受給者では「介助（支援）する人の健康に不安がある」が35.7%となっています。

(単位:%)

	将来の見通しに不安がある	体力的に心配がある	介助（支援）する人の健康に不安がある	精神的な負担が大きい	介助（支援）する代わりの人がいない	休みが十分に取れない	困りごとやサービスのことを相談できる人がいない
全体 (n=166)	38.6	30.1	26.5	22.3	19.3	12.0	11.4
身体障害者手帳 (n=77)	28.6	33.8	24.7	16.9	14.3	7.8	11.7
愛の手帳（療育手帳） (n=31)	48.4	35.5	29.0	29.0	19.4	12.9	6.5
精神障害者保健福祉手帳 (n=37)	43.2	29.7	32.4	37.8	27.0	18.9	18.9
自立支援医療の受給 (n=42)	38.1	23.8	35.7	28.6	16.7	14.3	9.5
難病医療費など助成の受給 (n=19)	52.6	36.8	10.5	15.8	26.3	10.5	10.5

(単位:%)

	あなたとの意思疎通が十分でない	サービスなどの情報が不十分	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=166)	7.2	6.0	4.8	24.7	7.2
身体障害者手帳 (n=77)	5.2	5.2	5.2	29.9	6.5
愛の手帳（療育手帳） (n=31)	12.9	6.5	6.5	16.1	6.5
精神障害者保健福祉手帳 (n=37)	13.5	5.4	10.8	21.6	8.1
自立支援医療の受給 (n=42)	16.7	9.5	7.1	16.7	11.9
難病医療費など助成の受給 (n=19)	5.3	0.0	0.0	26.3	10.5



5 日中の過ごし方について

問18 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何をして）過ごしていますか。（1つに○）

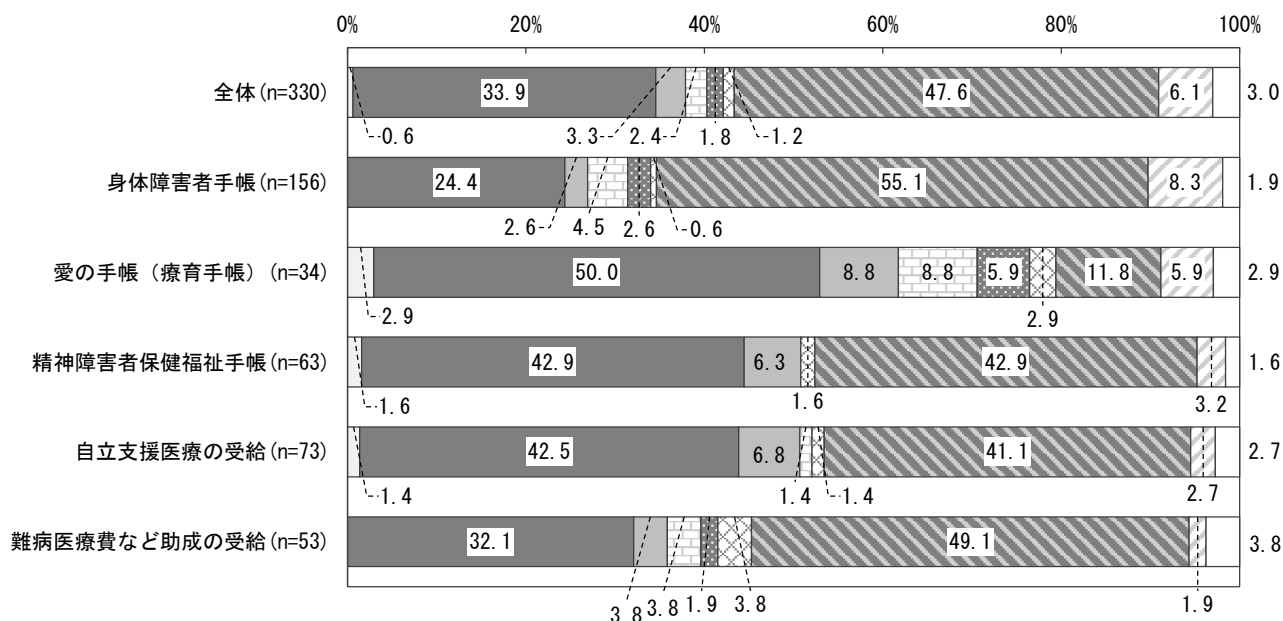
平日の昼間の過ごし方については、全体では「主に自宅にいる（働いていない）」が47.6%と最も多く、次いで、「働いている（福祉的就労の場も含む）」が33.9%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者及び自立支援医療の受給者では「働いている（福祉的就労の場も含む）」が最も多く、それぞれ50.0%、42.5%、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「主に自宅にいる（働いていない）」が最も多く、それぞれ55.1%、49.1%となっています。

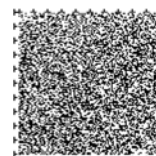
また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「働いている（福祉的就労の場も含む）」及び「主に自宅にいる（働いていない）」がともに42.9%と最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「働いている（福祉的就労の場も含む）」がそれぞれ24.4%、32.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び自立支援医療の受給者では「主に自宅にいる（働いていない）」がそれぞれ11.8%、41.1%となっています。

また、精神障害者保健福祉手帳所持者では「施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている」が6.3%となっています。



- 学校に通っている（大学や専門学校など）
- 働いている（福祉的就労の場も含む）
- 施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている
- 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している
- 施設に入所している
- 病院に入院している
- 主に自宅にいる（働いていない）
- その他
- 無回答

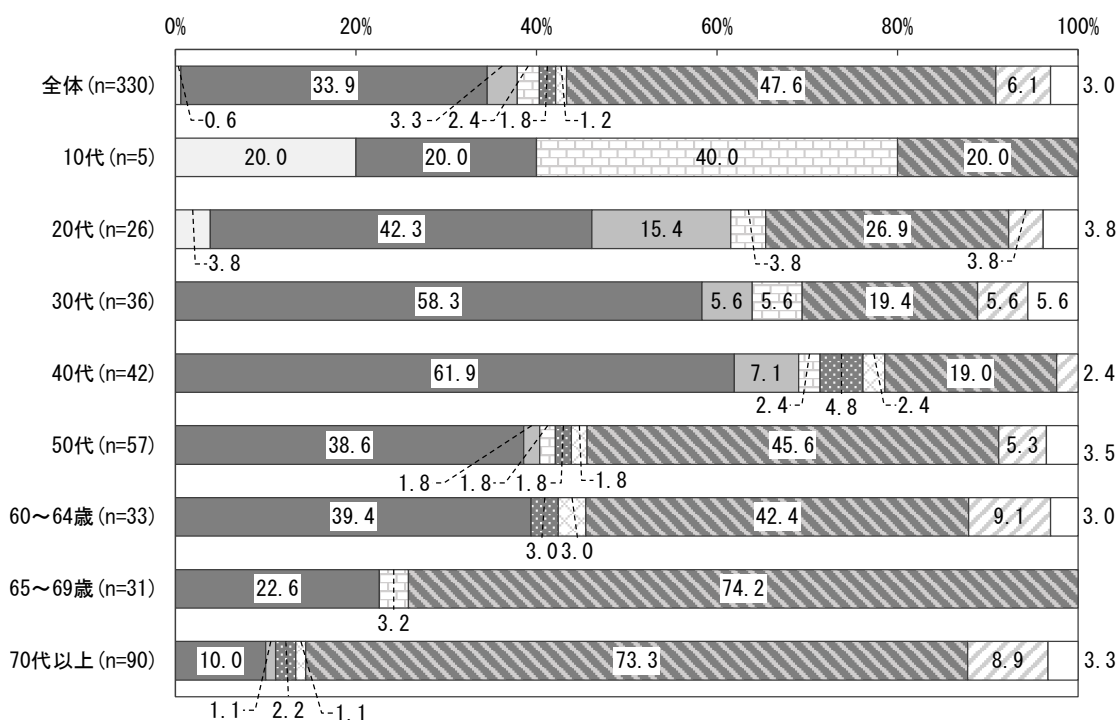


年代別では、10代では「日中一時支援・地域活動支援センターを利用している」が40.0%と最も多く、20代、30代及び40代では「働いている（福祉的就労の場を含む）」が最も多く、それぞれ42.3%、58.3%、61.9%となっています。

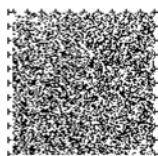
また、50代、60～64歳、65～69歳及び70代以上では「主に自宅にいる（働いていない）」が最も多く、それぞれ45.6%、42.4%、74.2%、73.3%となっています。

次いで、20代、30代及び40代では「主に自宅にいる（働いていない）」がそれぞれ26.9%、19.4%、19.0%、50代、60～64歳、65～69歳及び70代以上では「働いている（福祉的就労の場を含む）」がそれぞれ38.6%、39.4%、22.6%、10.0%となっています。

なお、10代では「学校に通っている（大学や専門学校など）」、「働いている（福祉的就労の場を含む）」及び「主に自宅にいる（働いていない）」が同じ割合となっています。



- 学校に通っている（大学や専門学校など）
- 施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている
- 施設に入所している
- 主に自宅にいる（働いていない）
- 無回答
- 働いている（福祉的就労の場も含む）
- 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している
- 病院に入院している
- その他



問18で「2. 働いている（福祉的就労の場も含む）」と答えた方におうかがいします。

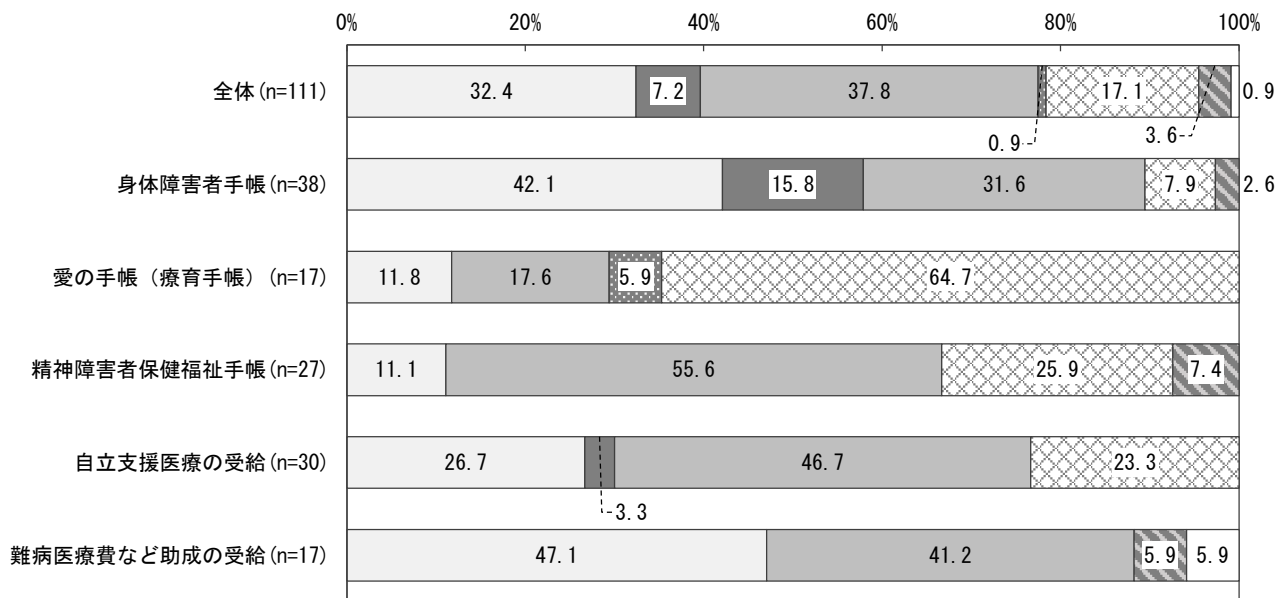
問19 あなたは、どのような働き方をしていますか。（1つに○）

回答者の勤務形態については、全体では「パート・アルバイトなど」が37.8%と最も多く、次いで、「正社員など」が32.4%、「就労移行・就労継続・授産施設など」が17.1%となっています。

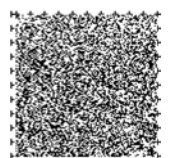
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「正社員など」が最も多く、それぞれ42.1%、47.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「パート・アルバイトなど」が最も多く、それぞれ55.6%、46.7%となっています。

また、愛の手帳（療育手帳）所持者では「就労移行・就労継続・授産施設など」が64.7%と最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「パート・アルバイトなど」がそれぞれ31.6%、17.6%、41.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「就労移行・就労継続・授産施設など」が25.9%、自立支援医療の受給者では「正社員など」が26.7%となっています。



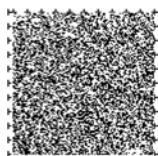
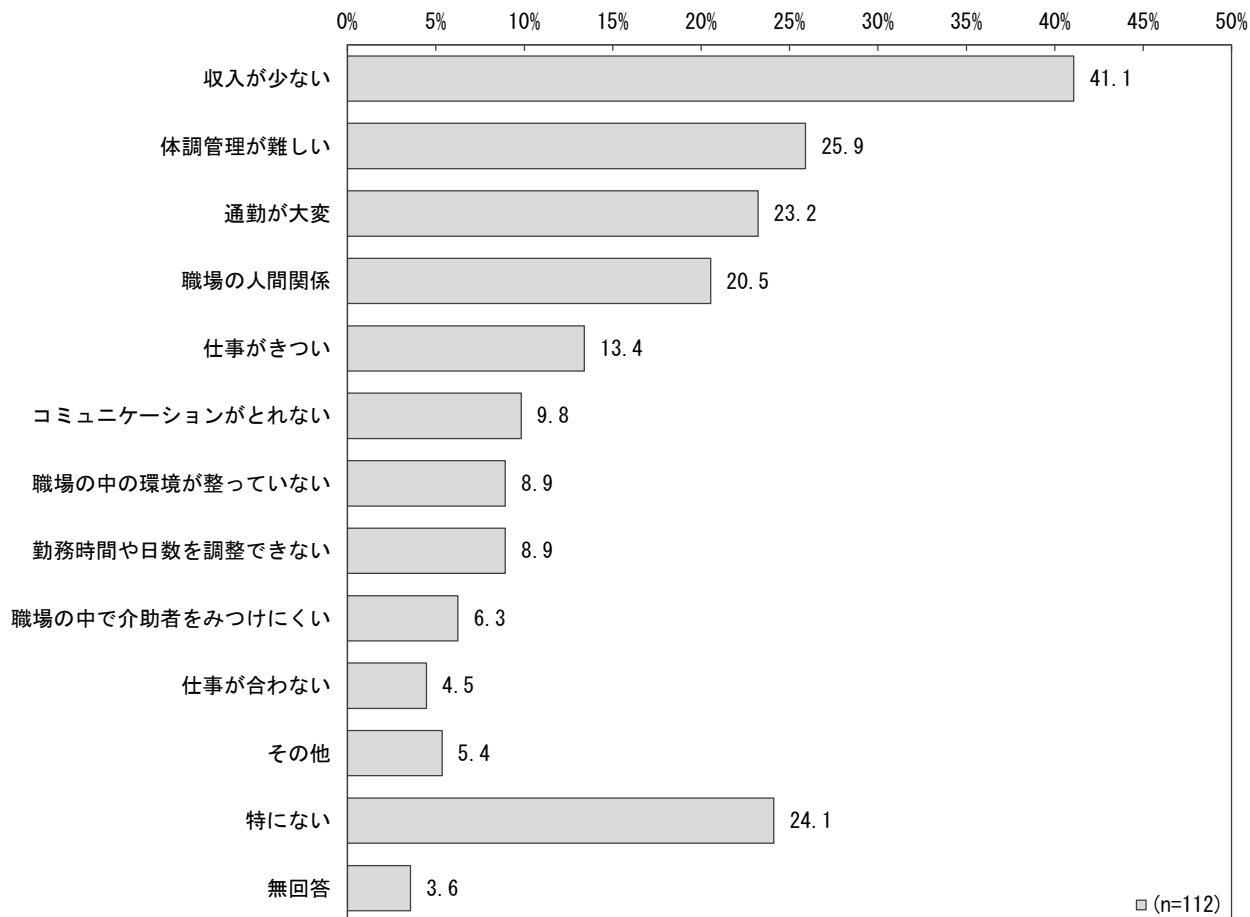
- 正社員など
- 自営業
- パート・アルバイト
- 家業（自営業）の手伝い
- 内職
- 就労移行・就労継続・授産施設など
- その他
- 無回答



問20 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

仕事をする上で困っていることについては、全体では「収入が少ない」が41.1%と最も多く、次いで、「体調管理が難しい」が25.9%、「通勤が大変」が23.2%となっています。



障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「収入が少ない」が最も多く、自立支援医療の受給者では54.8%と、障害種別の中で最も多くなっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では、「体調管理が難しい」及び「収入が少ない」がともに48.1%、難病医療費など助成の受給者では「特にない」及び「収入が少ない」がともに35.3%となっています。

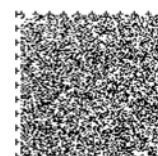
次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「特にない」がそれぞれ34.2%、29.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「通勤が大変」及び「職場の人間関係」がともに33.3%、自立支援医療の受給者では「職場の人間関係」が38.7%、難病医療費など助成の受給者では「体調管理が難しい」が23.5%となっています。

(単位:%)

	収入が少ない	体調管理が難しい	通勤が大変	職場の人間関係	仕事が見つからない	コミュニケーションがとれない	勤務時間や日数を調整できない	職場の中の環境が整っていない
全体 (n=112)	41.1	25.9	23.2	20.5	13.4	9.8	8.9	8.9
身体障害者手帳 (n=38)	39.5	18.4	13.2	18.4	10.5	5.3	7.9	7.9
愛の手帳（療育手帳） (n=38)	47.1	11.8	17.6	17.6	11.8	11.8	5.9	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=17)	48.1	48.1	33.3	33.3	14.8	18.5	7.4	18.5
自立支援医療の受給 (n=31)	54.8	35.5	32.3	38.7	16.1	16.1	9.7	19.4
難病医療費など助成の受給 (n=17)	35.3	23.5	17.6	5.9	17.6	0.0	5.9	0.0

(単位:%)

	職場の中で介助者を見つけにくい	仕事合わない	その他	特にない	無回答
全体 (n=112)	6.3	4.5	5.4	24.1	3.6
身体障害者手帳 (n=38)	10.5	2.6	0.0	34.2	2.6
愛の手帳（療育手帳） (n=38)	5.9	5.9	0.0	29.4	11.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=17)	11.1	7.4	14.8	11.1	0.0
自立支援医療の受給 (n=31)	6.5	9.7	12.9	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=17)	0.0	0.0	0.0	35.3	5.9



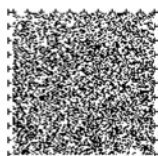
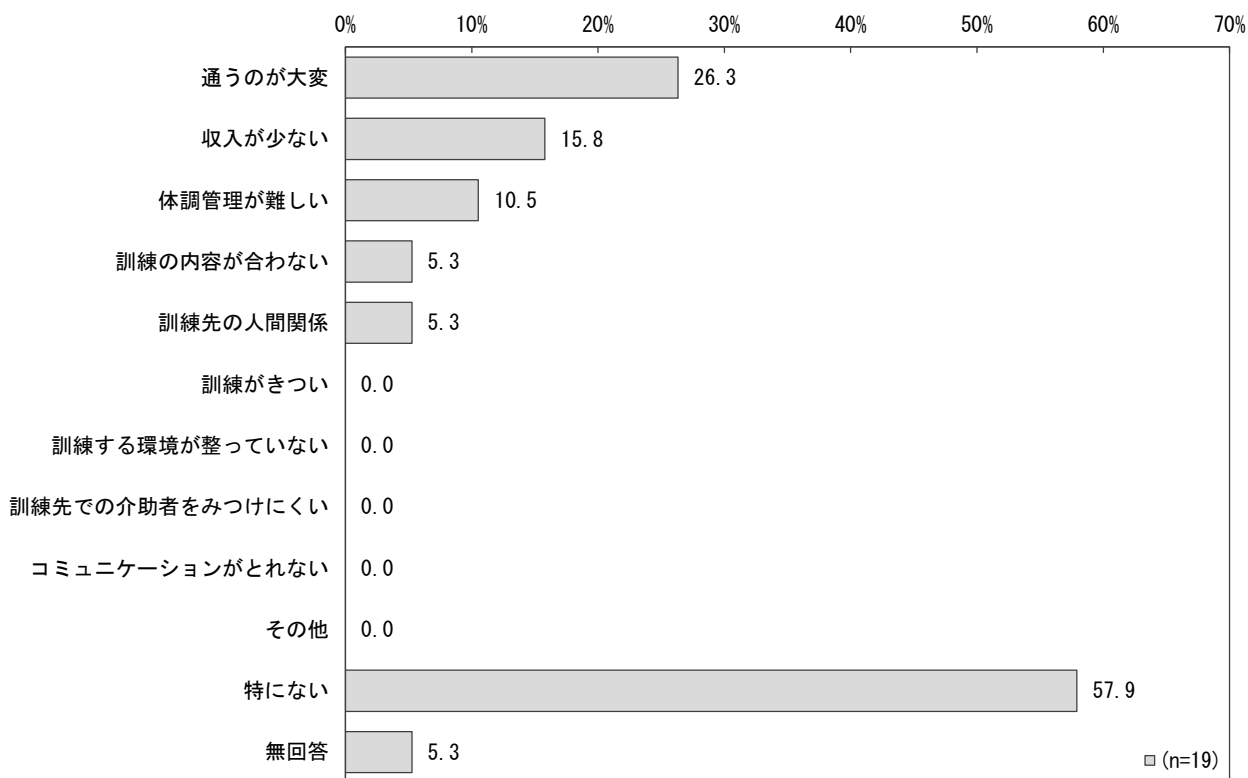
問18で「3. 施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている」「4. 日中一時支援・地域活動センターを利用している」と答えた方におうかがいします。

問21 支援を受ける上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

支援を受ける上で困っていることについては、全体では「通うのが大変」が26.3%と最も多く、次いで、「収入が少ない」が15.8%、「体調管理が難しい」が10.5%となっています。

なお、「特にない」が57.9%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「特にない」が最も多く、それぞれ90.9%、83.3%となり、精神障害者保健福祉手帳所持者では「通うのが大変」及び「体調管理が難しい」がともに50.0%と最も多くなっています。

また、自立支援医療の受給者では「通うのが大変」が66.7%、難病医療費など助成の受給者では「収入が少ない」が75.0%と最も多くなっています。

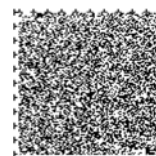
次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者では「通うのが大変」が16.7%、自立支援医療の受給者では「収入が少ない」及び「体調管理が難しい」がともに33.3%、難病医療費など助成の受給者では「通うのが大変」が50.0%となっています。

(単位:%)

	通うのが大変	収入が少ない	体調管理が難しい	訓練の内容が合わない	訓練先の人間関係	訓練がきつい	訓練する環境が整っていない
全体 (n=19)	26.3	15.8	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0
身体障害者手帳 (n=11)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=4)	50.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=6)	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	50.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	訓練先での介助者を見つけにくい	コミュニケーションがとれない	その他	特にない	無回答
全体 (n=19)	0.0	0.0	0.0	57.9	5.3
身体障害者手帳 (n=11)	0.0	0.0	0.0	90.9	9.1
愛の手帳（療育手帳） (n=6)	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=6)	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0



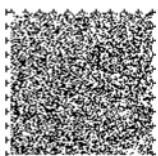
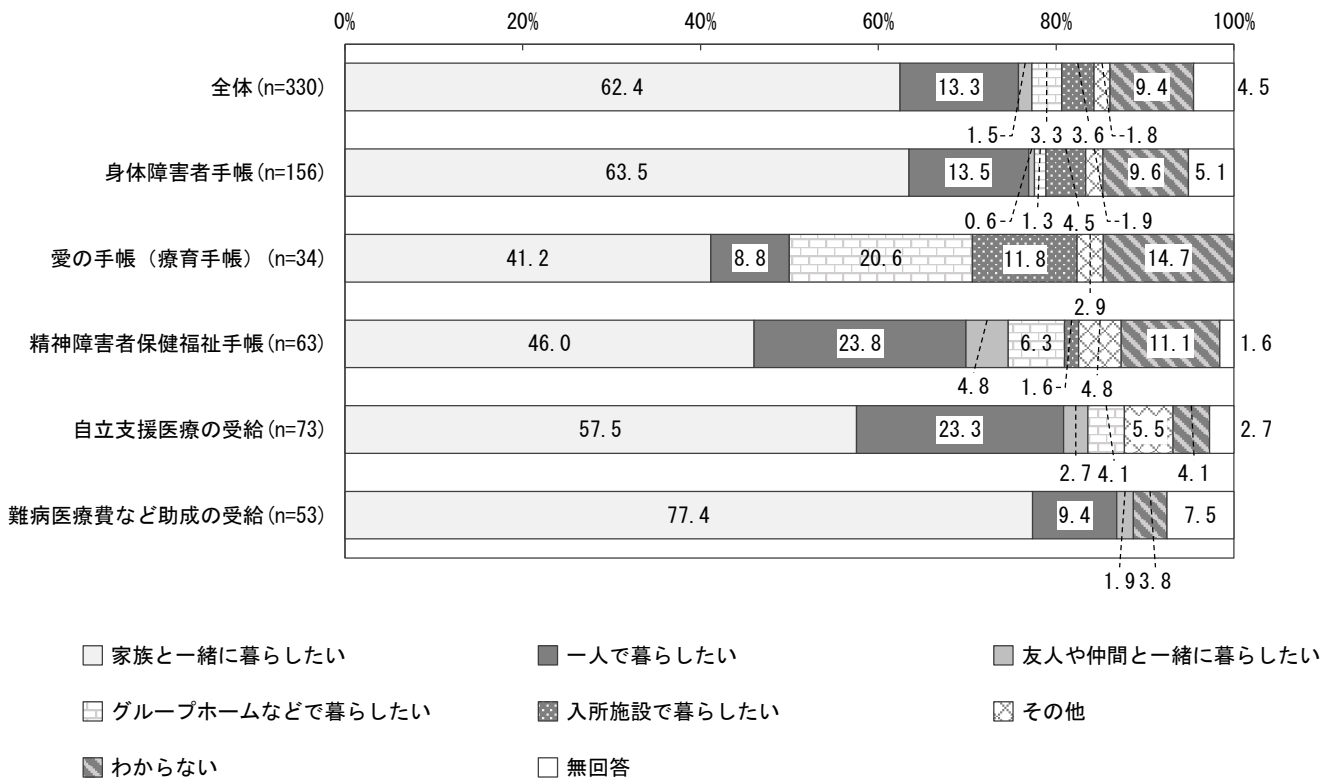
6 将来の過ごし方について

問22 あなたは、将来（おおよそ5年後）どのように暮らしたいですか。（1つに○）

将来の暮らし方については、障害種別に関係なく「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、全体では62.4%となっています。

障害種別ごとでは、難病医療費など助成の受給者では77.4%となっていますが、愛の手帳（療育手帳）所持者では41.2%、精神障害者保健福祉手帳所持者では46.0%と少なくなっています。

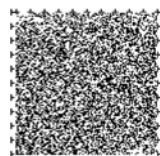
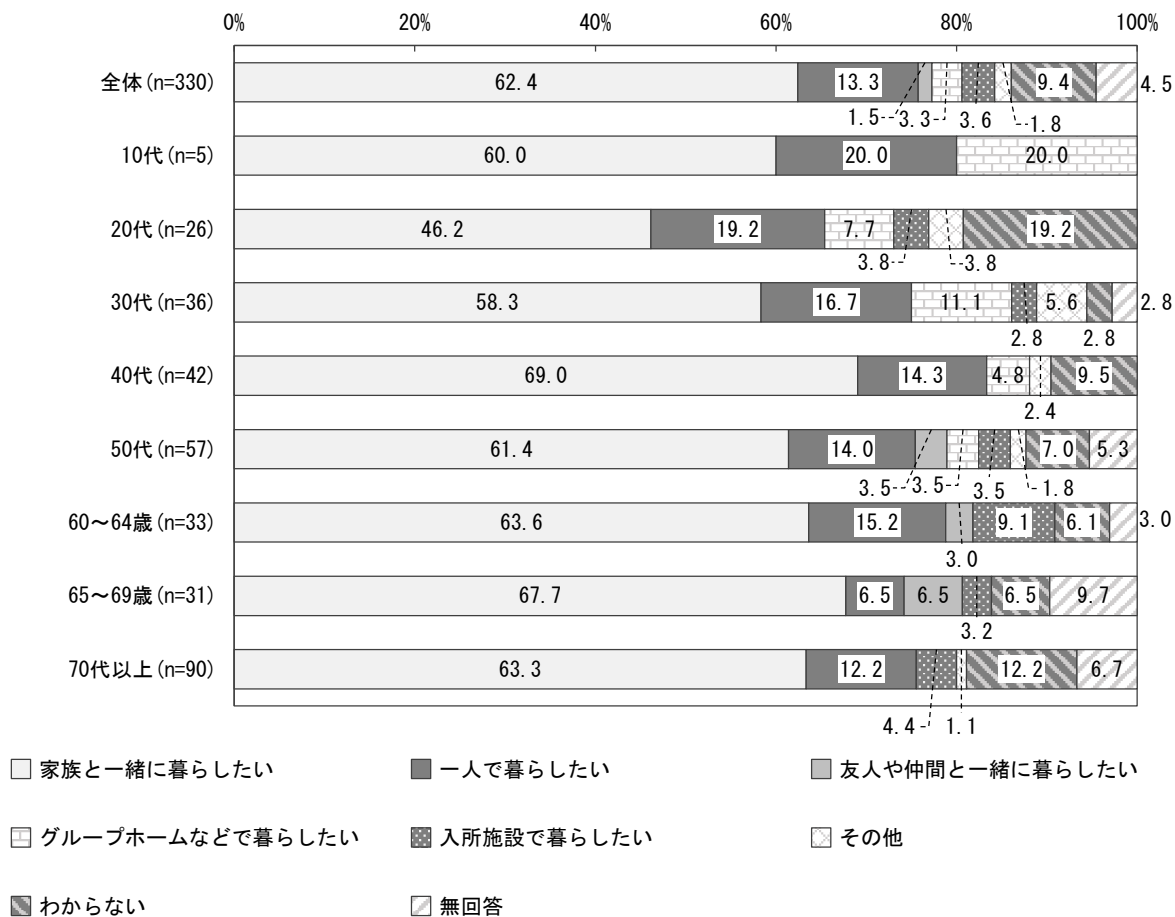
次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者では「グループホームなどで暮らしたい」が20.6%、それ以外の障害種別では「一人で暮らしたい」が多く、特に精神障害者保健福祉手帳所持者では23.8%、自立支援医療の受給者では23.3%となっています。



年代別では、全ての年代で「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、特に40代では69.0%、65～69歳では67.7%となっています。

次いで、全ての年代で「一人で暮らしたい」が多く、特に10代では20.0%、20代では19.2%となっています。

なお、10代では、「グループホームなどで暮らしたい」が「一人で暮らしたい」と同じ割合となっています。

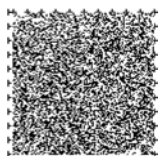
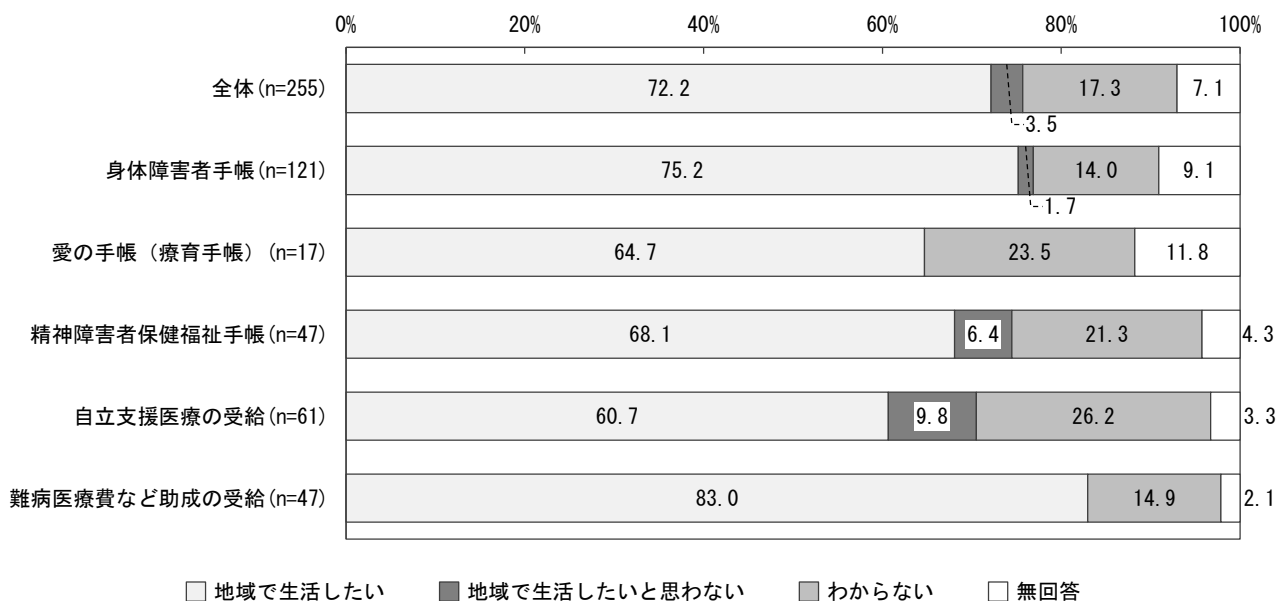


問22で「1. 家族と一緒に暮らしたい」「2. 一人で暮らしたい」「3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい」と答えた方におうかがいします。

問23 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。(1つに○)

将来の生活については、障害種別に関係なく「地域で生活したい」が最も多く、全体では72.2%となっています。

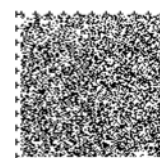
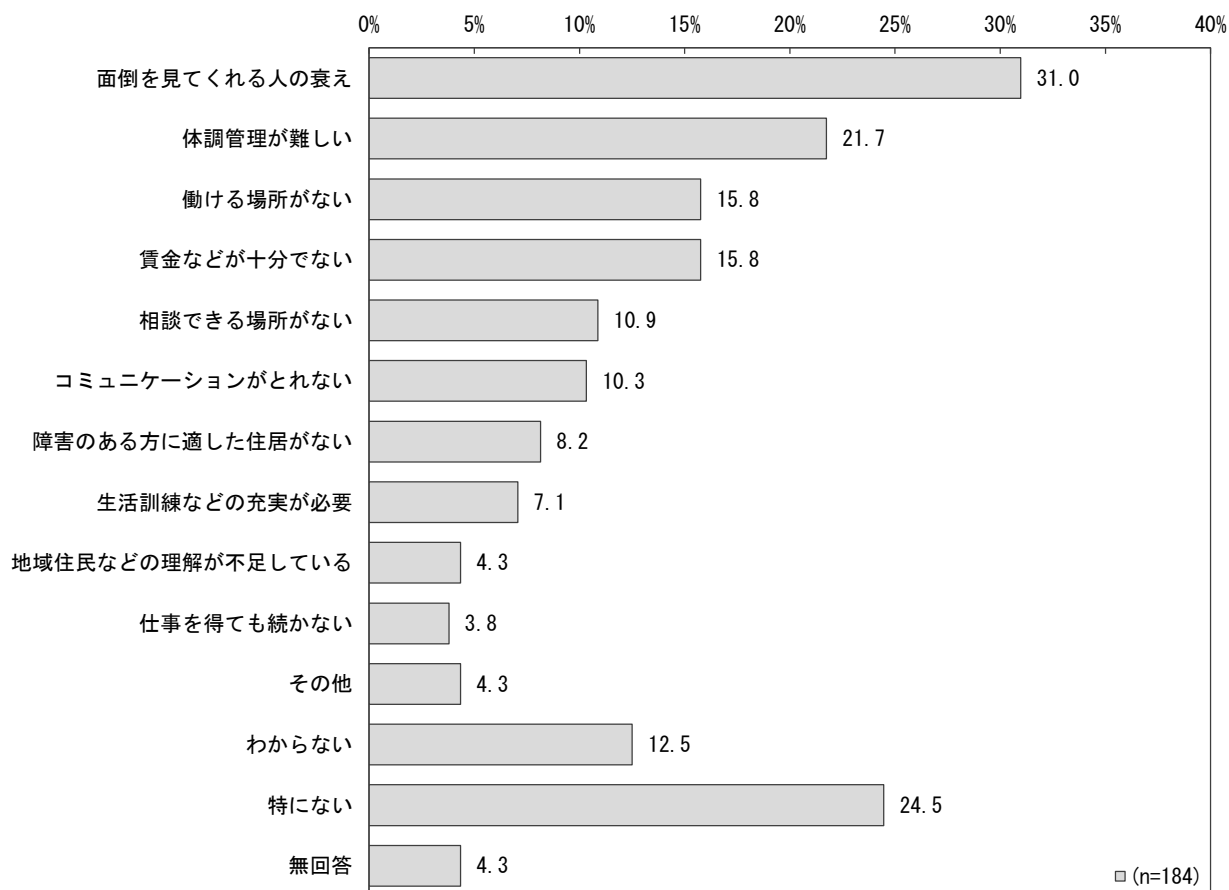
なお、「地域で生活したいと思わない」は3.5%、「わからない」は17.3%となっています。



問23で「1. 地域で生活したい」と答えた方におうかがいします。

問24 地域で生活するためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するにあたっての課題については、全体では「面倒を見てくれる人の衰え」が31.0%と最も多く、次いで、「特にない」が24.5%、「体調管理が難しい」が21.7%となっています。なお、「わからない」が12.5%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「特にない」が34.1%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者及び難病医療費など助成の受給者では「面倒を見てくれる人の衰え」がそれぞれ63.6%、30.8%、精神障害者手帳所持者では「体調管理が難しい」が43.8%、自立支援医療の受給者では「賃金などが十分でない」が32.4%となっています。

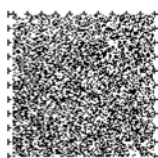
次いで、身体障害者手帳所持者では「面倒を見てくれる人の衰え」が26.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「賃金などが十分でない」が27.3%、精神障害者手帳所持者では「面倒を見てくれる人の衰え」及び「働ける場所がない」がともに40.6%、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「体調管理が難しい」がそれぞれ29.7%、28.2%となっています。

(単位:%)

	面倒を見てくれる人の衰え	体調管理が難しい	働ける場所がない	賃金などが十分でない	相談できる場所がない	コミュニケーションがとれない	障害のある方に適した住居がない	生活訓練などの充実が必要
全体 (n=184)	31.0	21.7	15.8	15.8	10.9	10.3	8.2	7.1
身体障害者手帳 (n=91)	26.4	18.7	11.0	11.0	6.6	7.7	11.0	6.6
愛の手帳（療育手帳） (n=11)	63.6	9.1	18.2	27.3	18.2	9.1	9.1	9.1
精神障害者保健福祉手帳 (n=32)	40.6	43.8	40.6	31.3	18.8	28.1	6.3	15.6
自立支援医療の受給 (n=37)	24.3	29.7	27.0	32.4	24.3	16.2	5.4	8.1
難病医療費など助成の受給 (n=39)	30.8	28.2	20.5	10.3	10.3	12.8	5.1	2.6

(単位:%)

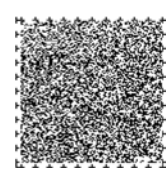
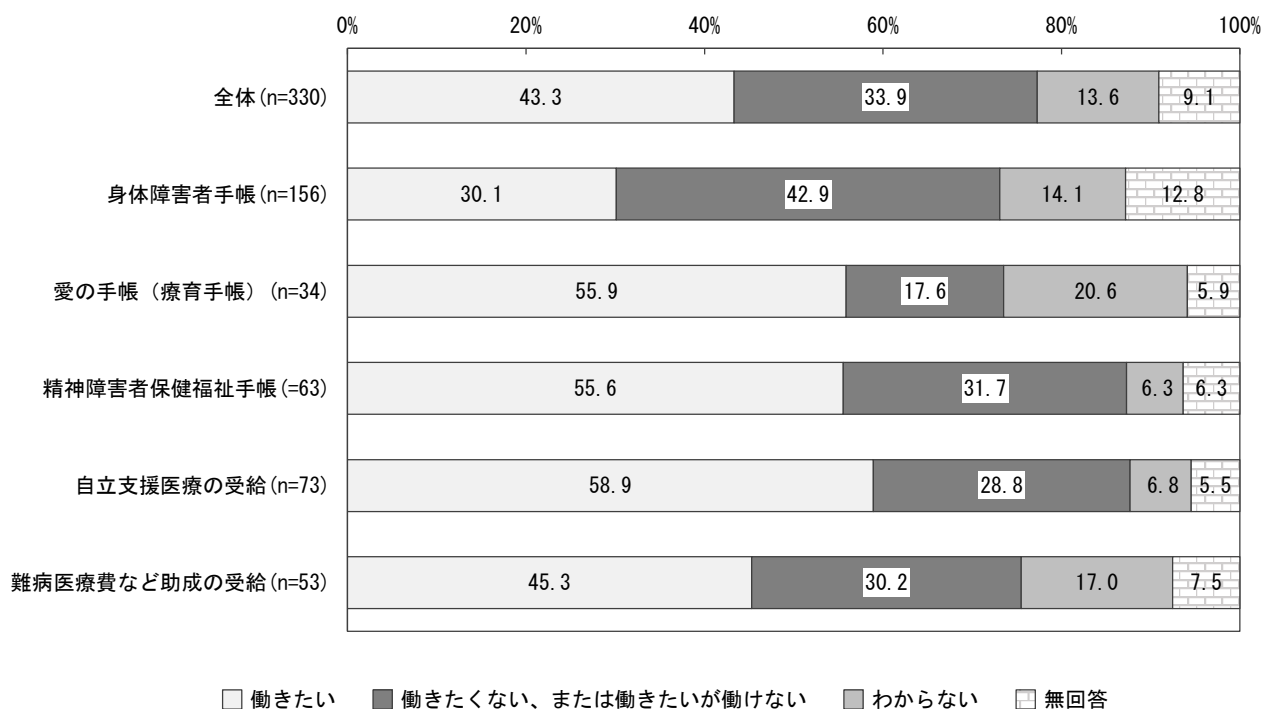
	地域住民などの理解が不足している	仕事を得ても続かない	その他	わからない	特にない	無回答
全体 (n=184)	4.3	3.8	4.3	12.5	24.5	4.3
身体障害者手帳 (n=91)	5.5	2.2	3.3	13.2	34.1	3.3
愛の手帳（療育手帳） (n=11)	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1
精神障害者保健福祉手帳 (n=32)	9.4	15.6	3.1	3.1	6.3	3.1
自立支援医療の受給 (n=37)	5.4	2.7	10.8	8.1	18.9	8.1
難病医療費など助成の受給 (n=39)	7.7	5.1	5.1	20.5	15.4	2.6



問25 あなたは今後（将来）働くことを希望しますか。（1つに○）

今後の就業希望については、全体では「働きたい」が43.3%、「働きたくない、または働きたいが働けない」が33.9%、「わからない」が13.6%、「わからない」が13.6%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「働きたい」が「働きたくない、または働きたいが働けない」を上回っていますが、身体障害者手帳所持者では「働きたくない、または働きたいが働けない」が「働きたい」を上回っています。



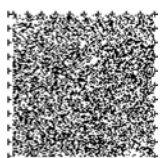
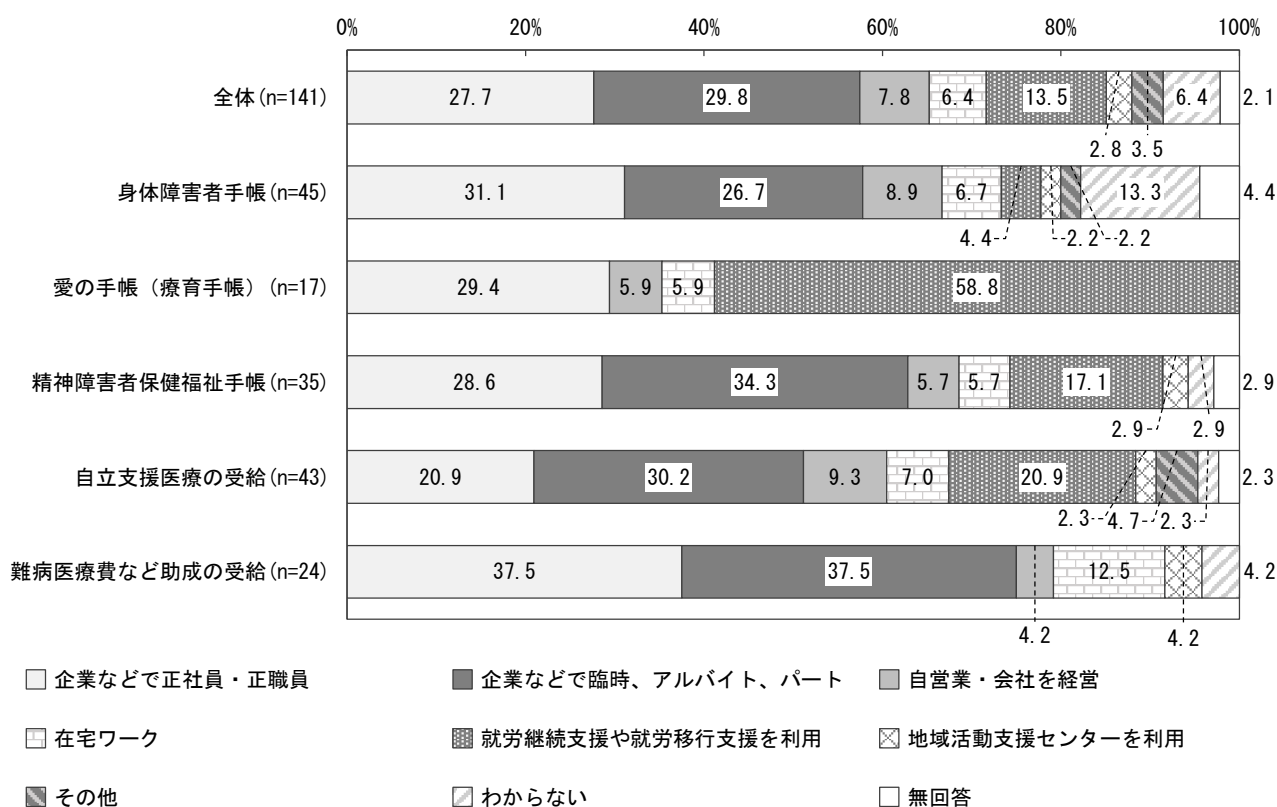
問25で「1. 働きたい」と答えた方におうかがいします。

問26 どのように働きたいですか。(1つに○)

希望する雇用形態については、全体では「企業などで臨時、アルバイト、パート」が29.8%と最も多く、次いで、「企業などで正社員・正職員」が27.7%、「就労継続支援や就労移行支援を利用」が13.5%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「企業などで正社員・正職員」が31.1%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者では「就労継続支援や就労移行支援を利用」が58.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「企業などで臨時、アルバイト、パート」がそれぞれ34.3%、30.2%、難病医療費など助成の受給者では「企業などで正社員・正職員」及び「企業などで臨時、アルバイト、パート」がともに37.5%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「企業などで臨時、アルバイト、パート」が26.7%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「企業などで正社員・正職員」がそれぞれ29.4%、28.6%、自立支援医療の受給者では「企業などで正社員・正職員」及び「就労継続支援や就労移行支援を利用」がともに20.9%、難病医療費など助成の受給者では「在宅ワーク」が12.5%となっています。

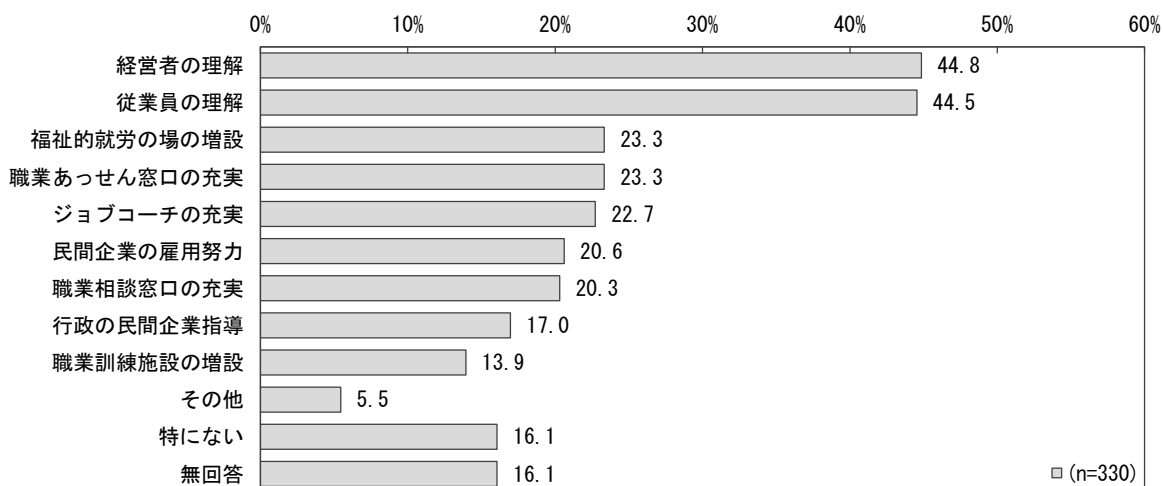


問27 障害のある方の就業を促進するために、どのようなことが必要と思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

障害のある方の就業に必要なことについては、全体では「経営者の理解」が44.8%と最も多く、次いで、「従業員の理解」が44.5%となっています。

障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「経営者の理解」及び「従業員の理解」が多くなっていますが、精神障害者保健福祉手帳所持者では「ジョブコーチの充実」が、自立支援医療の受給者では「職業あっせん窓口の充実」がいずれも40%以上となっています。

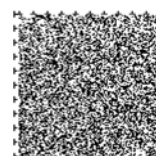


(単位: %)

	経営者の理解	従業員の理解	福祉的就労の場の増設	職業あっせん窓口の充実	ジョブコーチの充実	職業相談窓口の充実	民間企業の雇用努力
全体 (n=330)	44.8	44.5	23.3	23.3	22.7	20.3	20.6
身体障害者手帳 (n=156)	34.6	34.0	18.6	17.3	14.1	14.1	17.3
愛の手帳 (療育手帳) (n=34)	47.1	50.0	29.4	17.6	26.5	14.7	20.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	57.1	55.6	34.9	34.9	42.9	36.5	33.3
自立支援医療の受給 (n=73)	61.6	61.6	30.1	41.1	37.0	34.2	30.1
難病医療費など助成の受給 (n=53)	50.9	50.9	22.6	22.6	26.4	20.8	18.9

(単位: %)

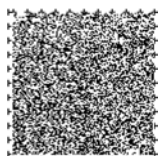
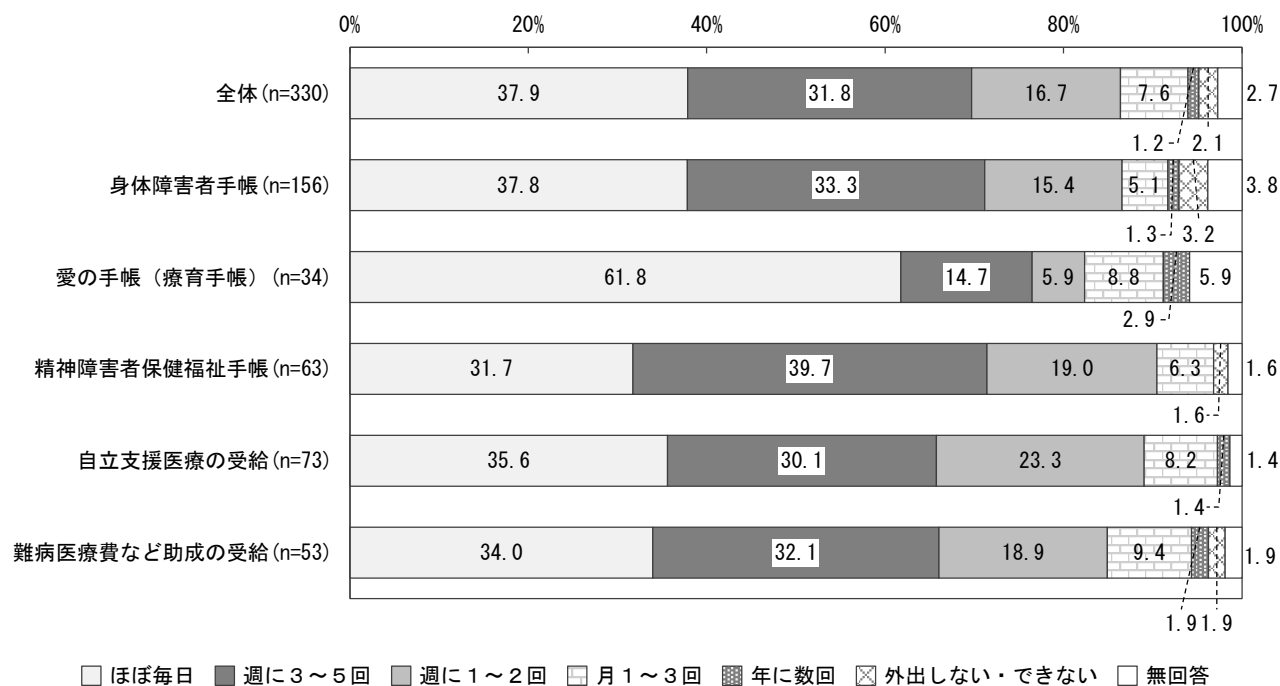
	行政の民間企業指導	職業訓練施設の増設	その他	特にない	無回答
全体 (n=330)	17.0	13.9	5.5	16.1	16.1
身体障害者手帳 (n=156)	11.5	6.4	3.8	22.4	19.9
愛の手帳 (療育手帳) (n=34)	17.6	11.8	5.9	11.8	11.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	31.7	27.0	14.3	7.9	6.3
自立支援医療の受給 (n=73)	28.8	24.7	9.6	9.6	9.6
難病医療費など助成の受給 (n=53)	17.0	13.2	1.9	7.5	22.6



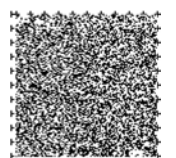
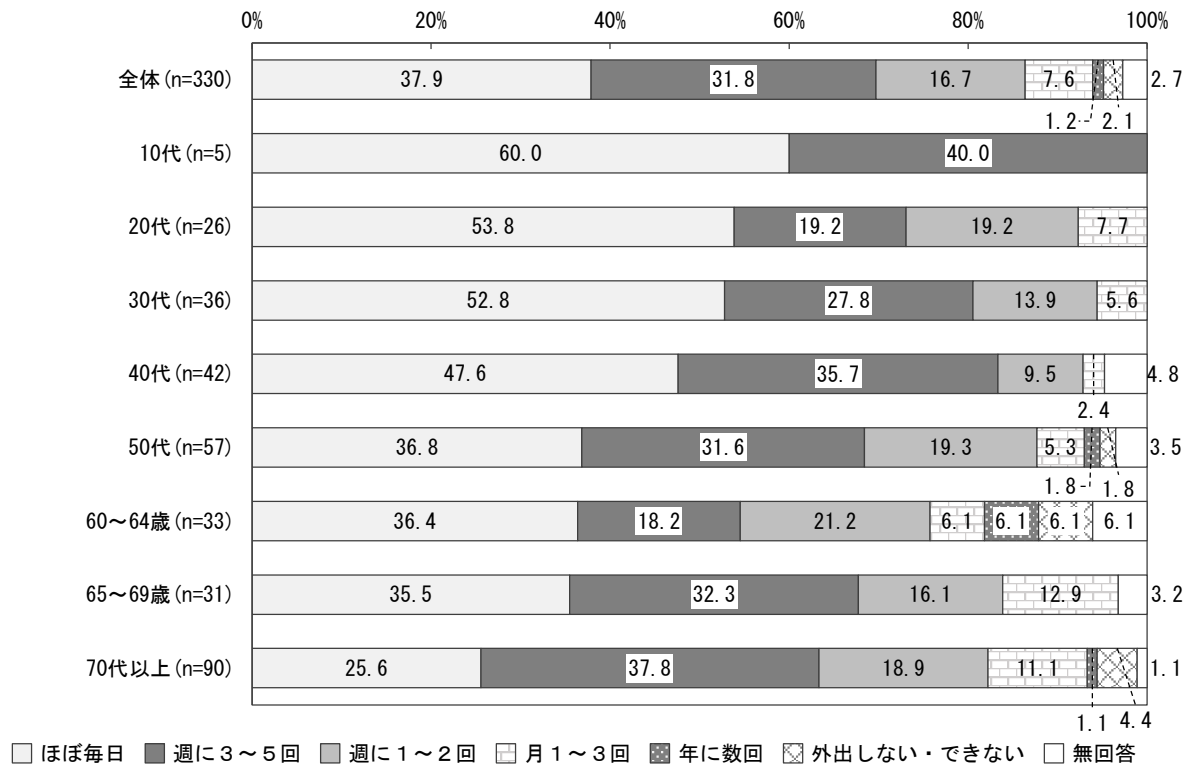
7 外出や活動などについて

問28 あなたの外出する回数は、およそどのくらいですか。職場や学校への通勤・通学、病院への通院も回数に数えてください。(1つに○)

外出する回数については、障害種別に関係なく、週1回以上外出している人が80%以上となり、特に、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「ほぼ毎日」が61.8%と障害種別の中で最も多くなっています。

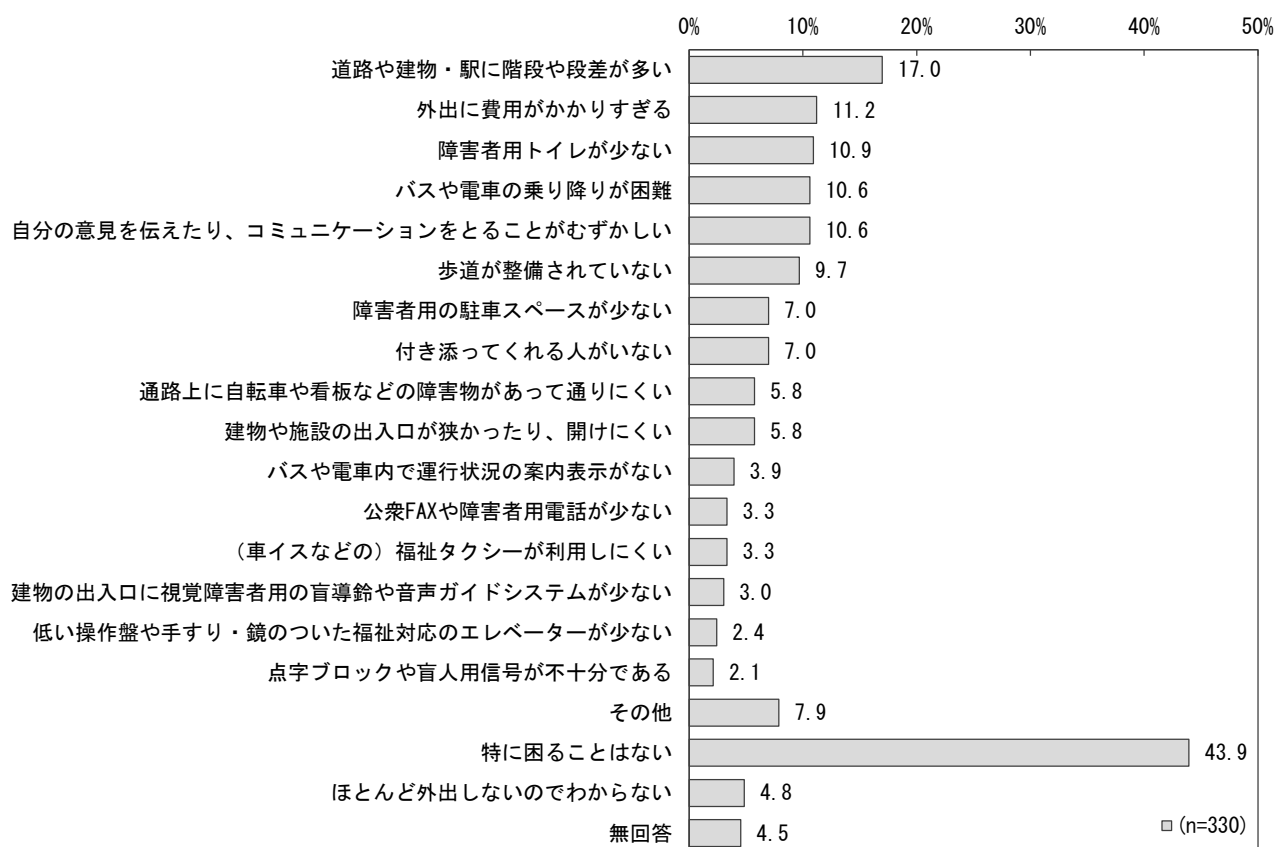


年代別では、どの年代でも週1回以上外出している人が70%以上となっていますが、年代が上がるにつれて「ほぼ毎日」が少なくなり、70代以上で「ほぼ毎日」外出する人は、25.6%となっています。



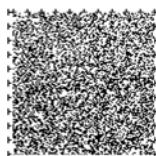
問29 外出する時に、不便に感じることや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

外出する時に困っていることについては、全体では「特に困ることはない」が43.9%と最も多くなっています。



以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

「4. 歩道が整備されていない」具体的な場所	「5. 障害者用の駐車スペースが少ない」具体的な場所
<ul style="list-style-type: none"> 伊奈平から●●●●●●へ行くまで バス停から病院へ行く歩道の幅が狭い。車いす、歩道が狭い 自宅周辺 伊奈平、緑が丘 家の前 青梅街道沿い 歩行者用道路がぼこぼこで転ぶ。 青梅街道、大曲より大和方面 旧青梅から新青梅まで出る歩道が狭くて困難 バス停の位置、信号がない。 学園通り商店街のバスの歩道、●●●●●近く、●●●●の●●●●●の裏の歩道、レンガがかけていたり、外れている所がある。 伊奈平工場地帯 	<ul style="list-style-type: none"> ●●●●●●の障害用スペースでは一般の方が停める人が多い。 スーパー、お年寄りや子供連れの若い人が停めているので空いていない。 市の駐車場 コインパーキング。困るのは健常者の方が駐車している。 スーパー、公共施設 ●●●●●●●●●●スーパー・都内のコンビニ パーキング



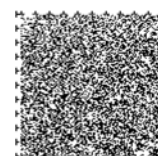
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「道路や建物・駅に階段や段差が多い」がそれぞれ23.7%、28.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」が35.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「外出に費用がかかりすぎる」がそれぞれ22.2%、20.5%となっています。

(単位:%)

	道路や建物・駅に階段や段差が多い	外出に費用がかかりすぎる	障害者用トイレが少ない	バスや電車の乗り降りが困難	自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	歩道が整備されていない	障害者用の駐車スペースが少ない	付き添ってくれる人がいない	通路上に自転車や看板などの障害物がある通りにくい	建物や施設の出入口が狭かったり、開けにくい
全体(n=330)	17.0	11.2	10.9	10.6	10.6	9.7	7.0	7.0	5.8	5.8
身体障害者手帳(n=156)	23.7	7.1	15.4	16.0	7.1	12.8	12.8	5.1	7.7	9.6
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	14.7	8.8	14.7	8.8	35.3	11.8	5.9	8.8	8.8	8.8
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	6.3	22.2	4.8	4.8	15.9	7.9	1.6	12.7	4.8	3.2
自立支援医療の受給(n=73)	6.8	20.5	6.8	4.1	11.0	8.2	2.7	8.2	4.1	6.8
難病医療費など助成の受給(n=53)	28.3	15.1	13.2	11.3	3.8	7.5	0.0	1.9	5.7	3.8

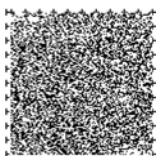
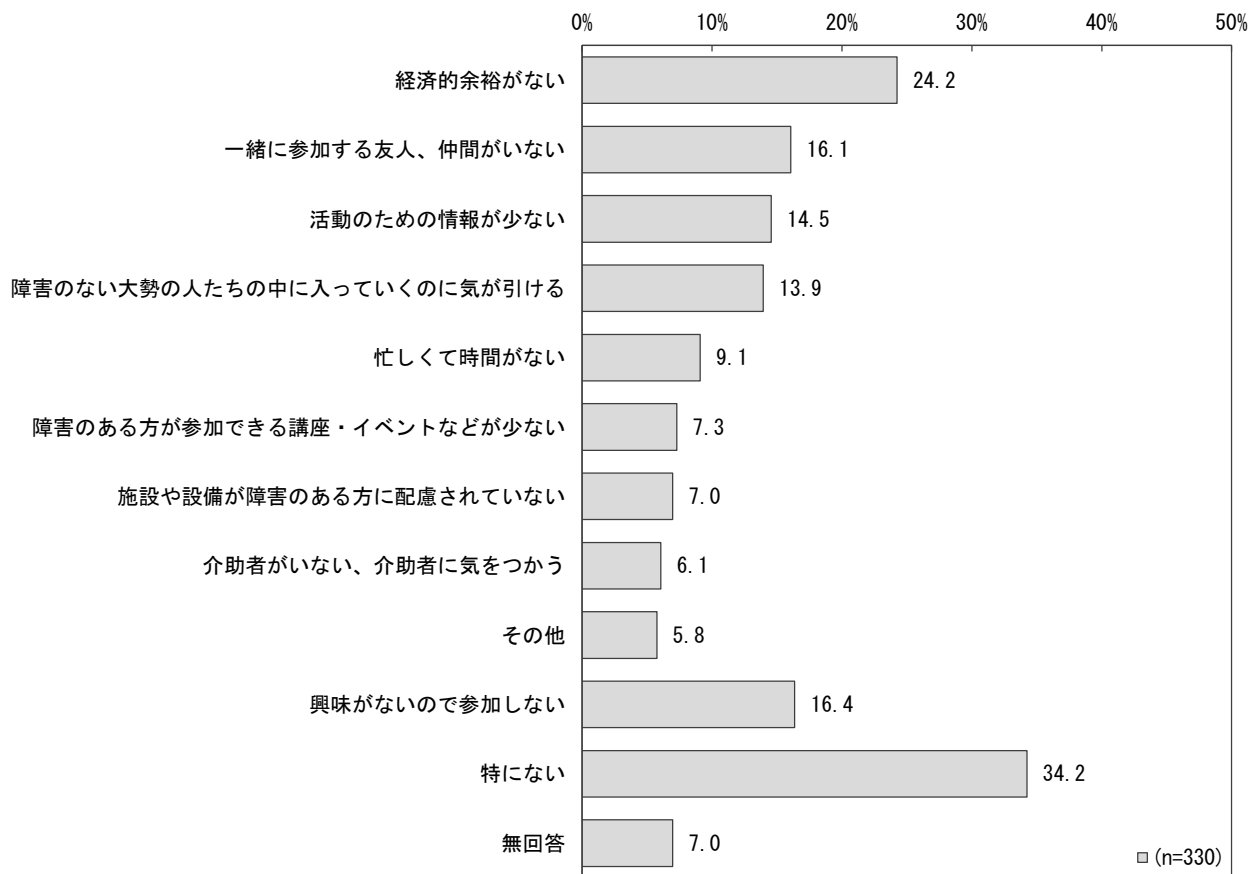
(単位:%)

	バスや電車内で運行状況の案内表示がない	公衆FAXや障害者用電話が少ない	(車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい	建物の出入口口に視覚障害者用の盲導鈴や音声ガイドシステムが少ない	低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない	点字ブロックや盲人用信号が不十分である	その他	特に困ることはない	ほとんど外出しないのでわからない	無回答
全体(n=330)	3.9	3.3	3.3	3.0	2.4	2.1	7.9	43.9	4.8	4.5
身体障害者手帳(n=156)	3.2	3.8	3.8	4.5	3.2	3.8	7.1	43.6	5.1	3.8
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	2.9	0.0	5.9	2.9	0.0	2.9	11.8	38.2	0.0	5.9
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	7.9	3.2	4.8	3.2	1.6	1.6	12.7	38.1	6.3	4.8
自立支援医療の受給(n=73)	4.1	4.1	5.5	1.4	1.4	1.4	13.7	45.2	5.5	5.5
難病医療費など助成の受給(n=53)	5.7	3.8	3.8	0.0	1.9	1.9	3.8	39.6	1.9	3.8



問30 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動をするときに困っていることについては、全体では「特にない」が34.2%と最も多く、次いで、「経済的余裕がない」が24.2%、「一緒に参加する友人、仲間がいない」が16.1%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「特にない」がそれぞれ44.9%、41.2%と最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「経済的余裕がない」が最も多く、それぞれ42.9%、41.1%、32.1%となっています。

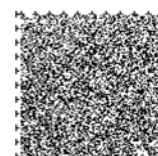
次いで、身体障害者手帳所持者では「興味がないので参加しない」が17.9%、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「一緒に参加する友人、仲間がいない」がそれぞれ20.6%、30.2%、自立支援医療の受給者では「活動のための情報が少ない」が27.4%、難病医療費など助成の受給者では「特にない」が28.3%となっています。

(単位:%)

	経済的余裕がない	一緒に参加する友人、仲間がいない	活動のための情報が少ない	障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける	忙しくて時間がない	障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない	施設や設備が障害のある方に配慮されていない
全体(n=330)	24.2	16.1	14.5	13.9	9.1	7.3	7.0
身体障害者手帳(n=156)	14.7	9.6	10.9	13.5	3.2	6.4	7.7
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	5.9	20.6	11.8	8.8	0.0	14.7	8.8
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	42.9	30.2	19.0	22.2	14.3	11.1	12.7
自立支援医療の受給(n=73)	41.1	23.3	27.4	20.5	21.9	5.5	4.1
難病医療費など助成の受給(n=53)	32.1	13.2	15.1	11.3	17.0	7.5	3.8

(単位:%)

	介助者がいない、介助者に気づかない	その他	興味がないので参加しない	特にない	無回答
全体(n=330)	6.1	5.8	16.4	34.2	7.0
身体障害者手帳(n=156)	5.8	3.8	17.9	44.9	7.7
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	2.9	0.0	14.7	41.2	11.8
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	12.7	12.7	17.5	14.3	4.8
自立支援医療の受給(n=73)	12.3	9.6	13.7	17.8	4.1
難病医療費など助成の受給(n=53)	1.9	5.7	17.0	28.3	3.8



8 コミュニティ（地域）について

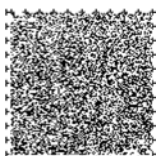
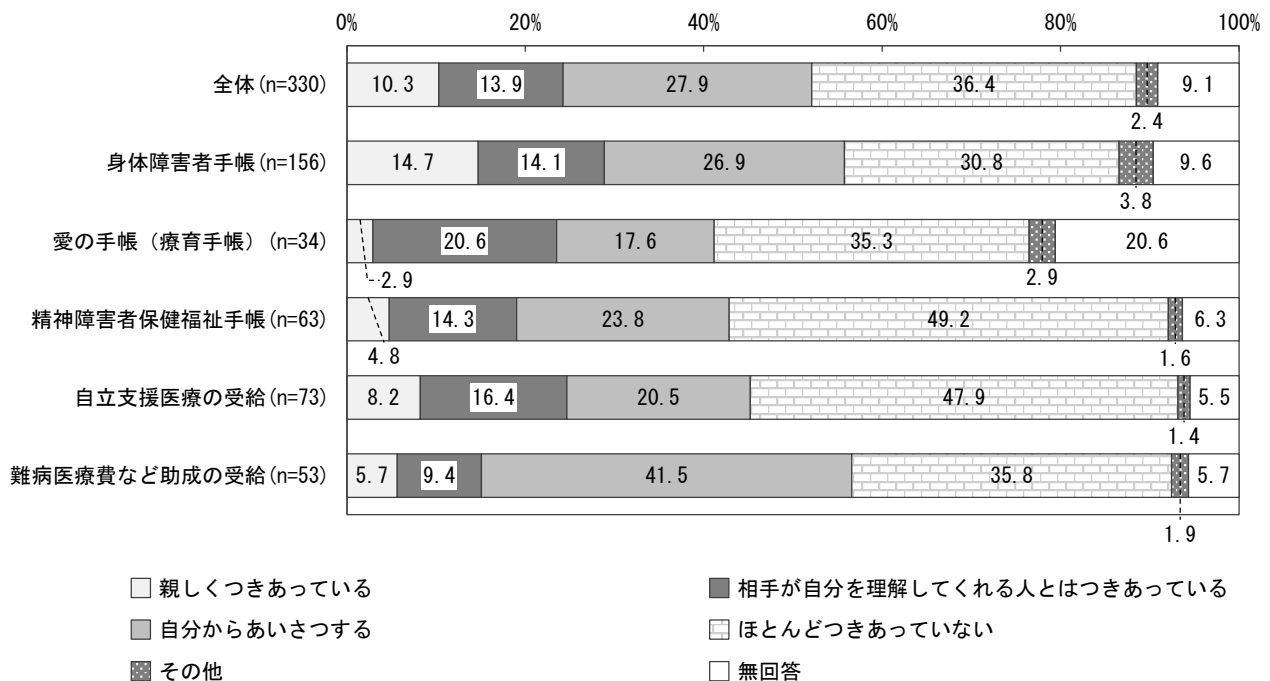
問31 あなたは、近所や地域の人とどの程度の付き合い方をしていますか。（1つに○）

近所や地域の人とつきあっている（「親しくつきあっている」及び「相手が自分を理解してくれる人とはつきあっている」の合計。以下、同じ。）と回答した人は、全体では24.2%にとどまっています。

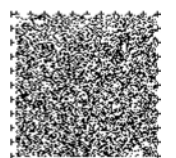
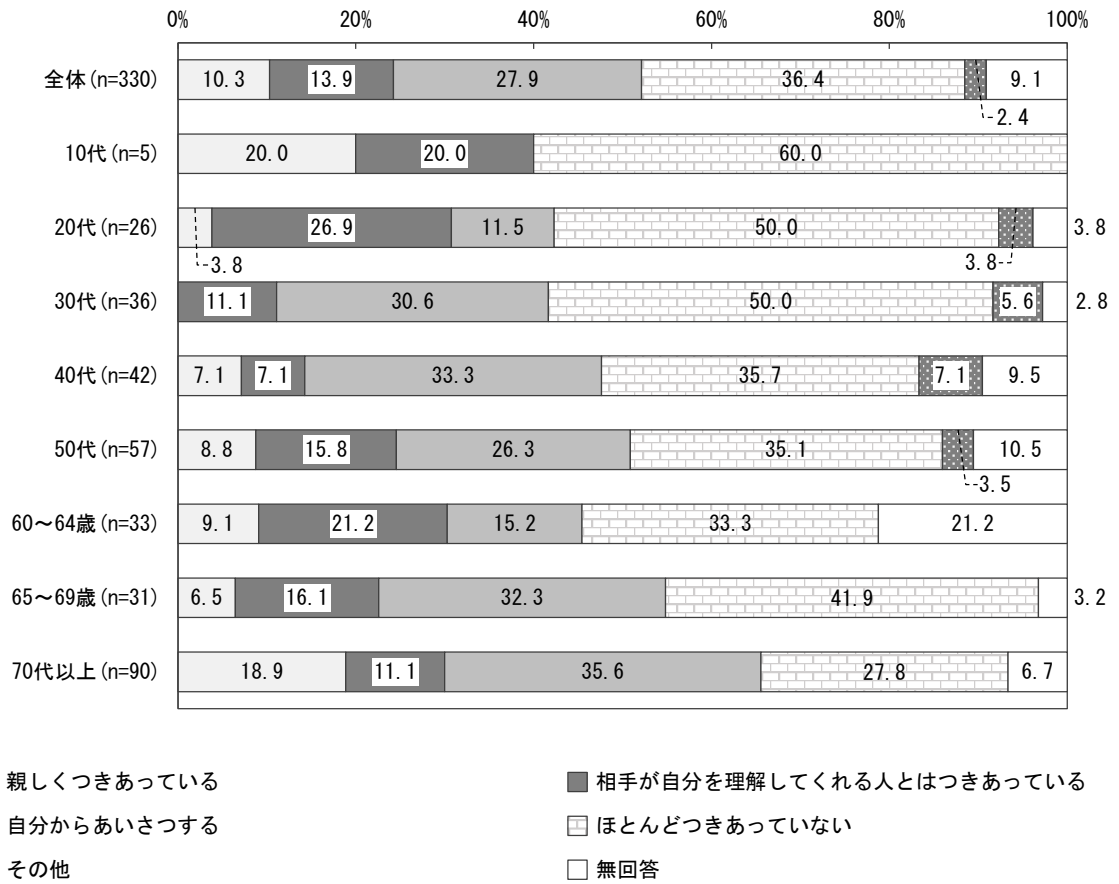
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で28.8%、自立支援医療の受給者では24.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者では23.5%にとどまっています。

一方で、障害種別に関係なく「ほとんどつきあっていない」と回答した人が多く、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者ではそれぞれ49.2%、47.9%となっています。

なお、難病医療費など助成の受給者では、「自分からあいさつする」が41.5%と最も多くなっています。

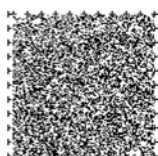
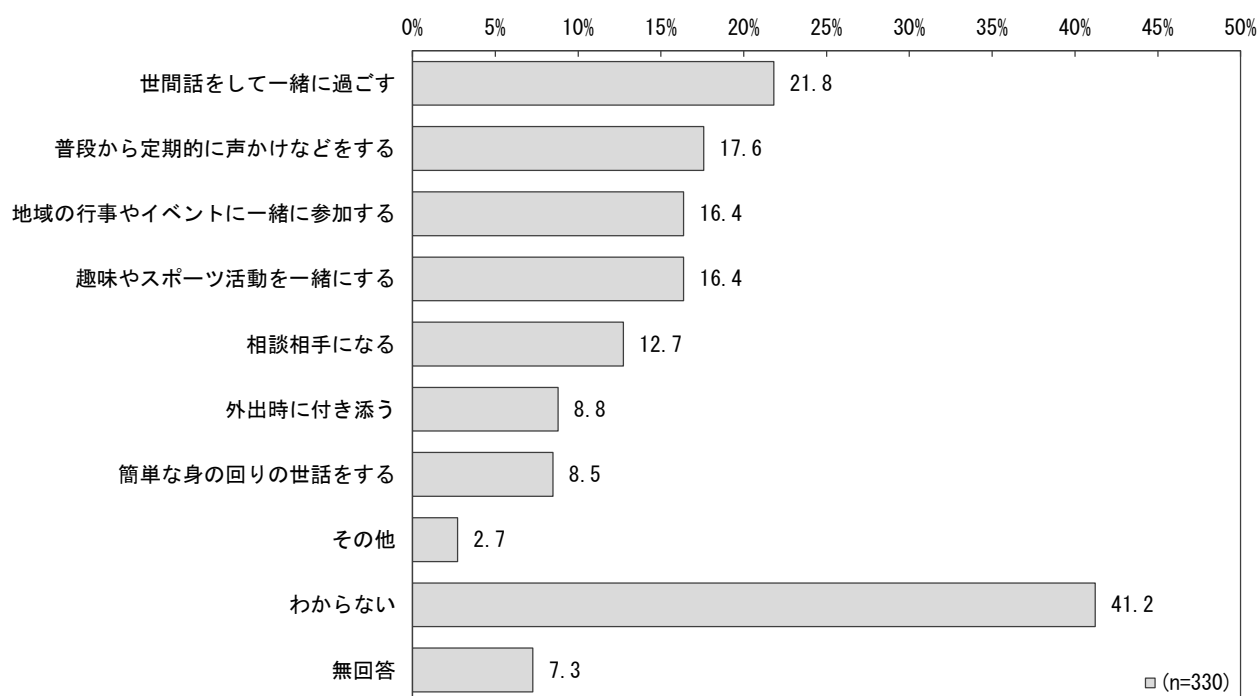


年代別で、近所や地域の人とつきあっていると回答した人は、10代で40.0%、20代で30.7%、30代で11.1%と、年代が上がるにつれて減少していますが、40代以上になると、40代で14.2%、50代で24.6%、60～64歳で30.3%と年代が上がるにつれて増加しています。
 しかし、65～69歳では22.6%と減少し、70代以上では30.0%となっています。
 なお、30代以下では「ほとんどつきあっていない」が50%以上となっています。



問32 あなたは、地域の人何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

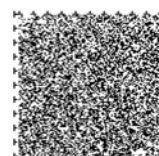
地域の人ボランティアをしたいと思っている場合、あるとよい支援・交流については、全体では「わからない」が41.2%と最も多く、次いで、「世間話をして一緒に過ごす」が21.8%となっています。



障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者では「地域の行事やイベントと一緒に参加する」が26.5%となっていますが、他の障害種別では「世間話をして一緒に過ごす」が10%以上となっています。

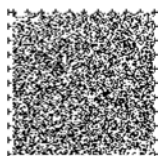
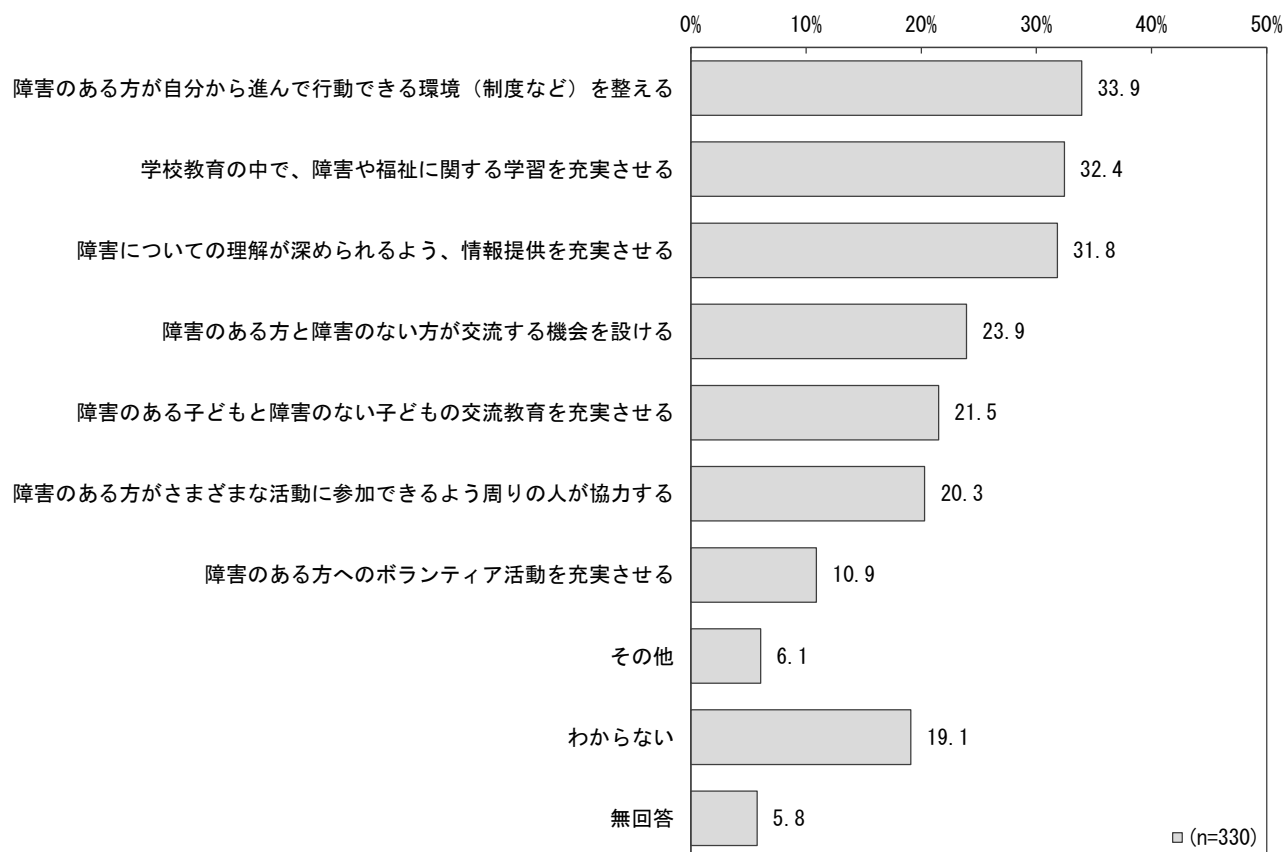
(単位:%)

	世間話をして一緒に過ごす	普段から定期的に声かけなどをする	地域の行事やイベントと一緒に参加する	趣味やスポーツ活動と一緒にする	相談相手になる	外出時に付き添う	簡単な身の回りの世話をする	その他	わからない	無回答
全体(n=330)	21.8	17.6	16.4	16.4	12.7	8.8	8.5	2.7	41.2	7.3
身体障害者手帳(n=156)	17.3	16.7	14.7	14.1	10.3	7.7	7.7	0.0	44.9	7.1
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	5.9	17.6	26.5	17.6	5.9	20.6	11.8	0.0	38.2	5.9
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	34.9	22.2	17.5	22.2	17.5	12.7	14.3	7.9	38.1	3.2
自立支援医療の受給(n=73)	31.5	23.3	21.9	23.3	19.2	8.2	6.8	6.8	37.0	4.1
難病医療費など助成の受給(n=53)	26.4	20.8	15.1	15.1	13.2	11.3	9.4	3.8	35.8	11.3



問33 障害のある方と障害のない方がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

障害のある方とない方が共に生きる社会をつくっていくために必要な事については、全体では「障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」が33.9%と最も多く、次いで、「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」が32.4%、「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が31.8%となっています。

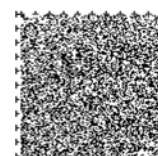


障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」が30.8%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」がそれぞれ41.2%、41.3%、自立支援医療の受給者では「障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」が41.1%、難病医療費など助成の受給者では「障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける」が43.4%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」がそれぞれ30.1%、35.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる」及び「障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える」がともに38.1%、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる」がそれぞれ37.0%、35.8%となっています。

(単位:%)

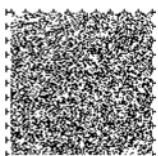
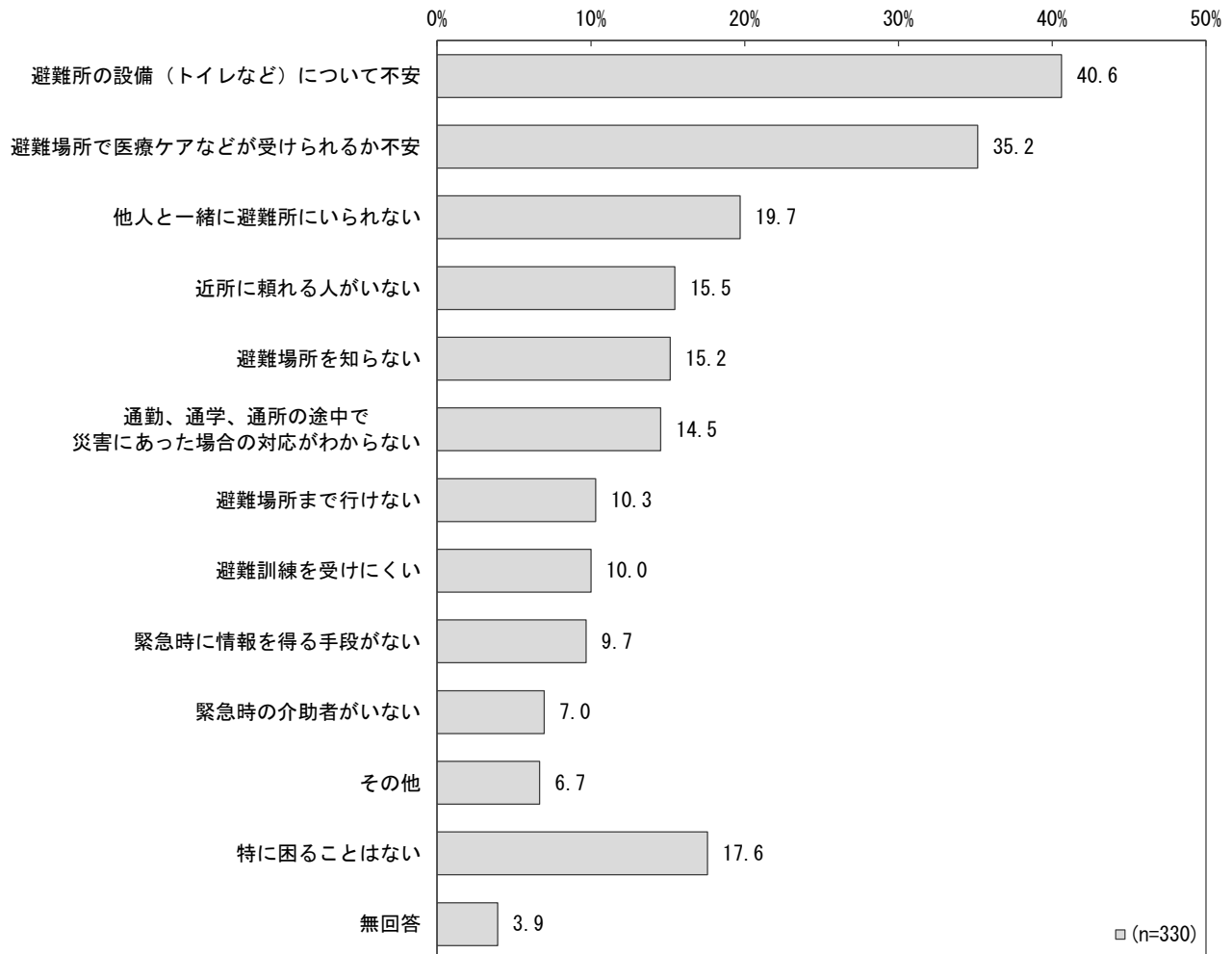
	障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える	学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる	障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる	障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける	障害のある子どもと障害のない子どもの交流教育を充実させる	障害のある方がさまざまな活動に参加できるよう周りの人が協力する	障害のある方へのボランティア活動を充実させる	その他	わからない	無回答
全体 (n=330)	33.9	32.4	31.8	23.9	21.5	20.3	10.9	6.1	19.1	5.8
身体障害者手帳 (n=156)	30.1	26.9	30.8	20.5	17.9	16.0	11.5	5.8	21.8	5.8
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	35.3	41.2	29.4	29.4	23.5	23.5	8.8	2.9	17.6	8.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	38.1	41.3	38.1	19.0	19.0	30.2	11.1	11.1	20.6	1.6
自立支援医療の受給 (n=73)	41.1	37.0	32.9	23.3	23.3	24.7	9.6	9.6	17.8	5.5
難病医療費など助成の受給 (n=53)	30.2	35.8	28.3	43.4	22.6	20.8	15.1	0.0	17.0	7.5



9 防災対策について

問34 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることについては、全体では「避難所の設備（トイレなど）について不安」が40.6%と最も多く、次いで、「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が35.2%、「他人と一緒に避難所にいられない」が19.7%となっています。



障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者では「他人と一緒に避難所にいられない」が38.2%と最も多くなっていますが、他の障害種別では「避難所の設備（トイレなど）について不安」が最も多くなっています。

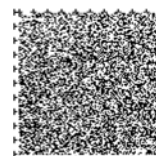
次いで、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」がそれぞれ40.4%、49.1%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「避難所の設備（トイレなど）について不安」が29.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」及び「他人と一緒に避難所にいられない」がともに34.9%、自立支援医療の受給者では「他人と一緒に避難所にいられない」が28.8%となっています。

(単位:%)

	避難所の設備（トイレなど）について不安	避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	他人と一緒に避難所にいられない	近所に頼れる人がいない	避難場所を知らない	通勤、通学、通所の途中で災害にあつた場合の対応がわからない	避難場所まで行けない	避難訓練を受けにくい
全体 (n=330)	40.6	35.2	19.7	15.5	15.2	14.5	10.3	10.0
身体障害者手帳 (n=156)	44.2	40.4	16.7	12.8	12.2	9.0	14.7	9.0
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	29.4	20.6	38.2	20.6	20.6	23.5	8.8	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	38.1	34.9	34.9	25.4	12.7	17.5	4.8	14.3
自立支援医療の受給 (n=73)	37.0	23.3	28.8	11.0	20.5	20.5	6.8	13.7
難病医療費など助成の受給 (n=53)	52.8	49.1	13.2	20.8	9.4	15.1	7.5	7.5

(単位:%)

	緊急時に情報を得る手段がない	緊急時の介助者がいない	その他	特に困ることはない	無回答
全体 (n=330)	9.7	7.0	6.7	17.6	3.9
身体障害者手帳 (n=156)	8.3	7.7	9.6	17.3	5.1
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	14.7	5.9	5.9	17.6	5.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	11.1	6.3	7.9	15.9	1.6
自立支援医療の受給 (n=73)	9.6	5.5	5.5	21.9	2.7
難病医療費など助成の受給 (n=53)	9.4	7.5	3.8	11.3	3.8

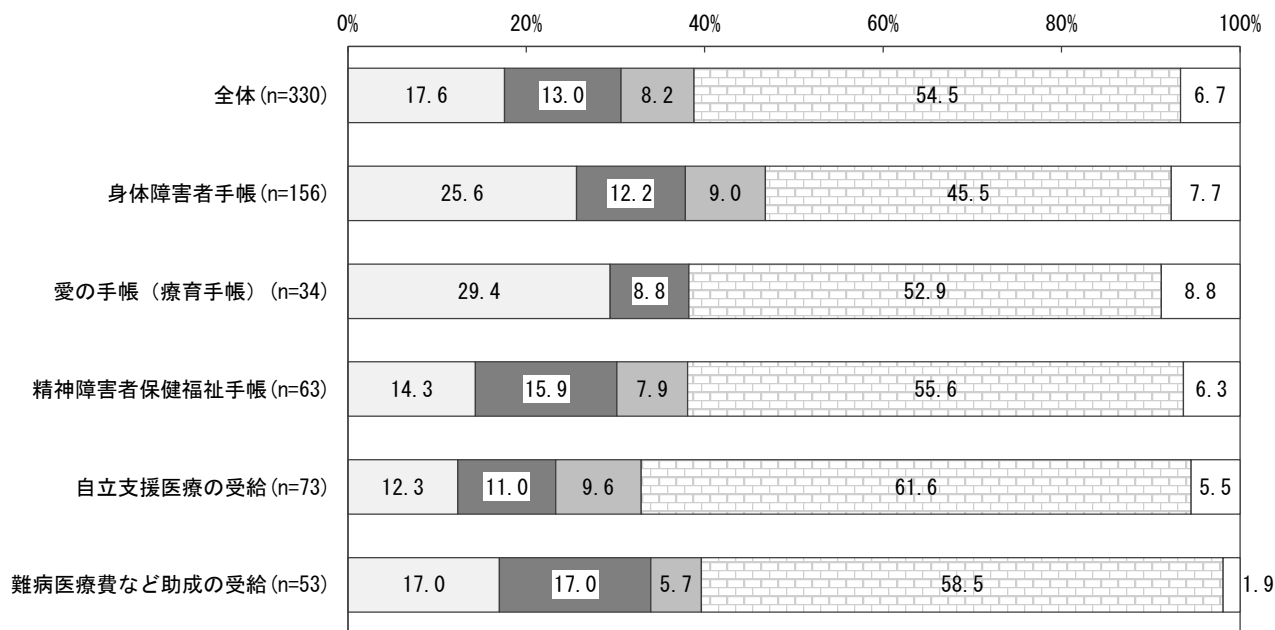


問35 あなたは、避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意をしていますか。(1つに○)

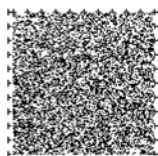
避難行動要支援者名簿について関係機関への情報提供に「同意している」人は、全体では17.6%、「同意していないが、今後、同意したい」は13.0%、「同意したいと思わない」は8.2%、「わからない」は54.5%となっています。

なお、「同意している」人については、愛の手帳（療育手帳）所持者で29.4%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で25.6%となっています。

一方で、「同意したいと思わない」人は、自立支援医療の受給者で9.6%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で9.0%となっています。

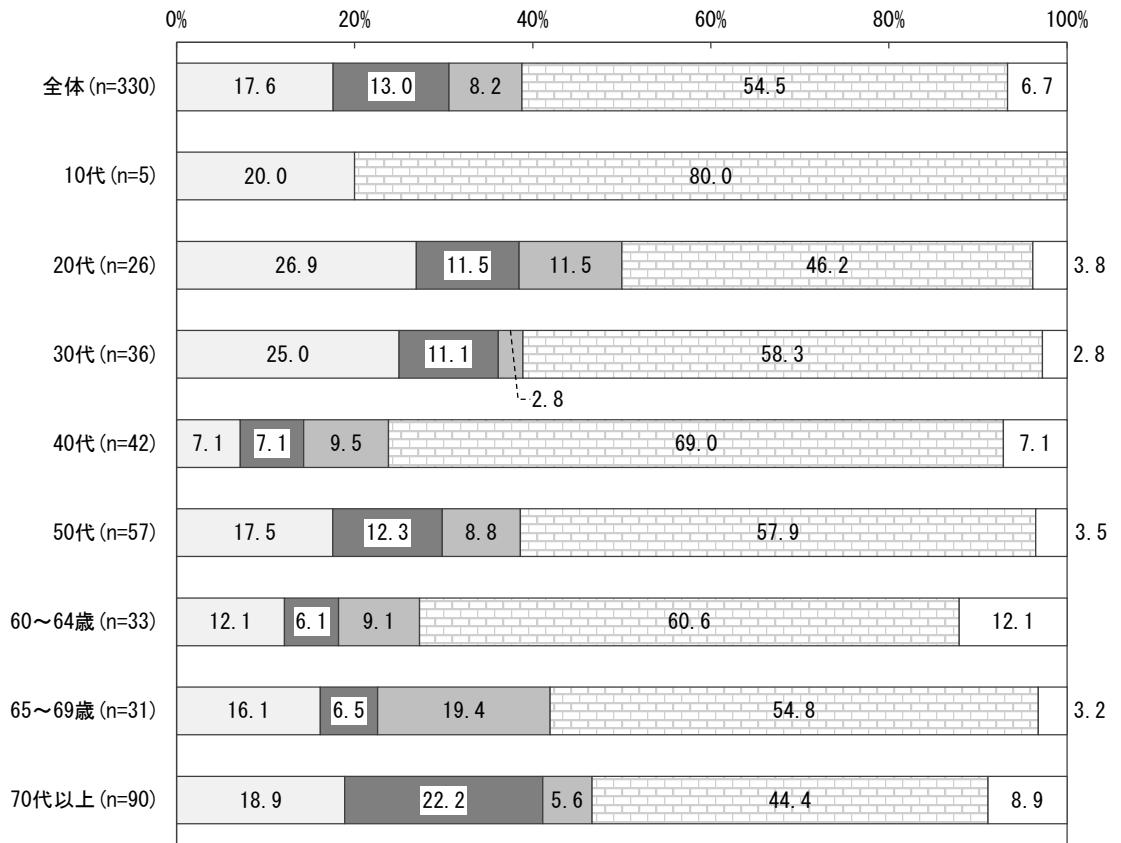


□ 同意している ■ 同意していないが、今後、同意したい ■ 同意したいと思わない ■ わからない □ 無回答

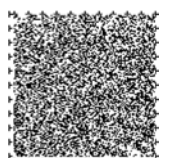


年代別では、避難行動要支援者名簿について関係機関への情報提供に「同意している」人は、20代で26.9%と最も多く、次いで、30代で25.0%となっています。

一方で、「同意したいと思わない」人は、65～69歳で19.4%と最も多く、次いで、20代で11.5%となっています。



□ 同意している ■ 同意していないが、今後、同意したい ▨ 同意したいと思わない ▩ わからない □ 無回答



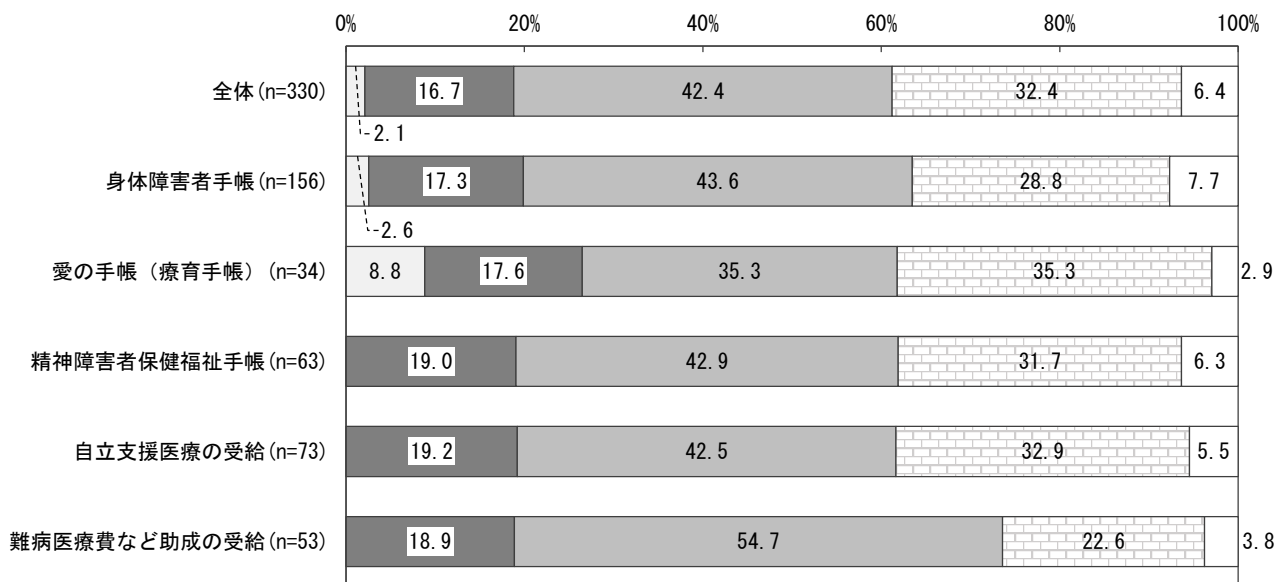
10 障害のある方の権利擁護について

問36 成年後見制度について、どの程度知っていますか。(1つに○)

成年後見制度の認知度については、全体では「知っている」(「利用している(いた)ので、内容も知っている」及び「利用したことがないが、制度の内容は知っている」の合計。以下、同じ。)人は、全体では18.8%で、「知らない」(「聞いたことがあるが、あまりよく知らない」及び「全く知らない」)の合計。以下、同じ。)人の74.8%を下回っています。

なお、「知っている」人については、愛の手帳(療育手帳)所持者で26.4%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で19.9%となっています。

一方で、「知らない」人はいずれの障害種別でも70%以上となり、難病医療費など助成の受給者では、77.3%と障害種別の中で最も多く、次いで、自立支援医療の受給者で75.4%となっています。



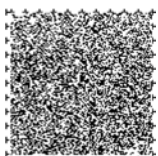
利用している (いた) ので、内容も知っている

利用したことがないが、制度の内容は知っている

聞いたことがあるが、あまりよく知らない

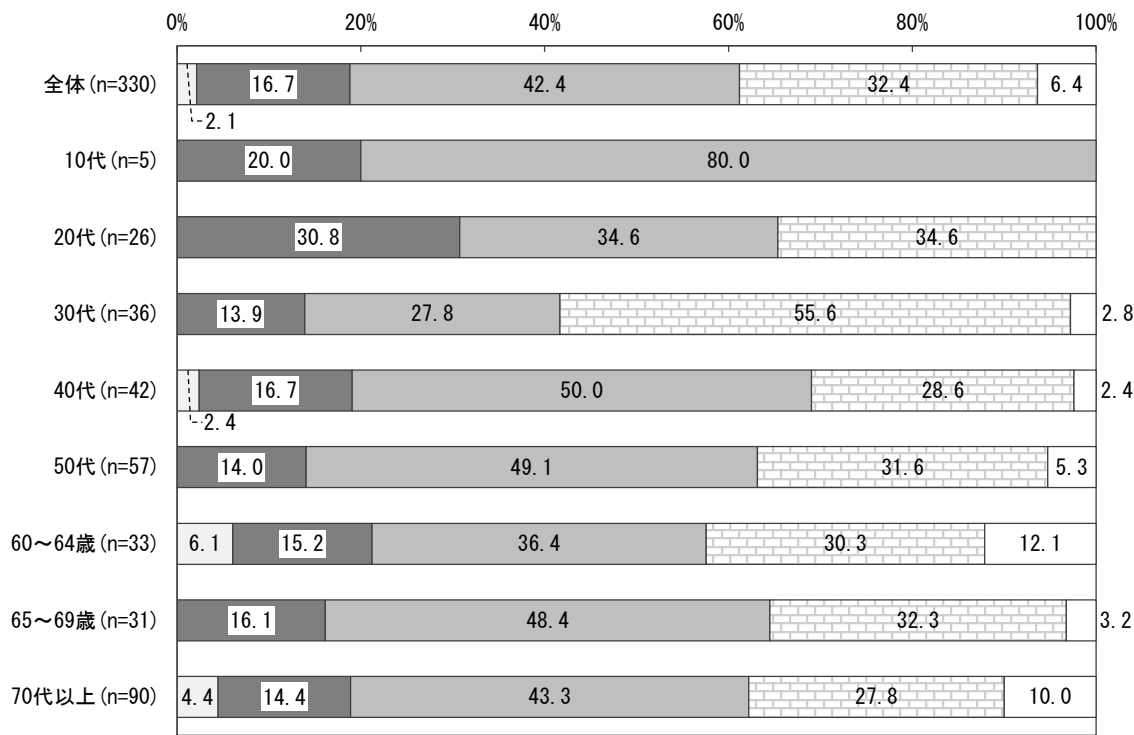
全く知らない

無回答

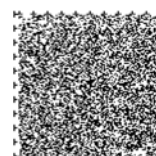


年代別では、成年後見制度を「知っている」人は20代で30.8%と最も多く、次いで、60～64歳で21.3%となっています。

一方で「知らない」人はいずれの年代でも60%以上となり、特に30代で83.4%と最も多く、次いで、50代及び65～69歳で80.7%となっています。



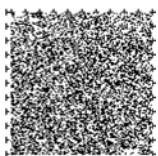
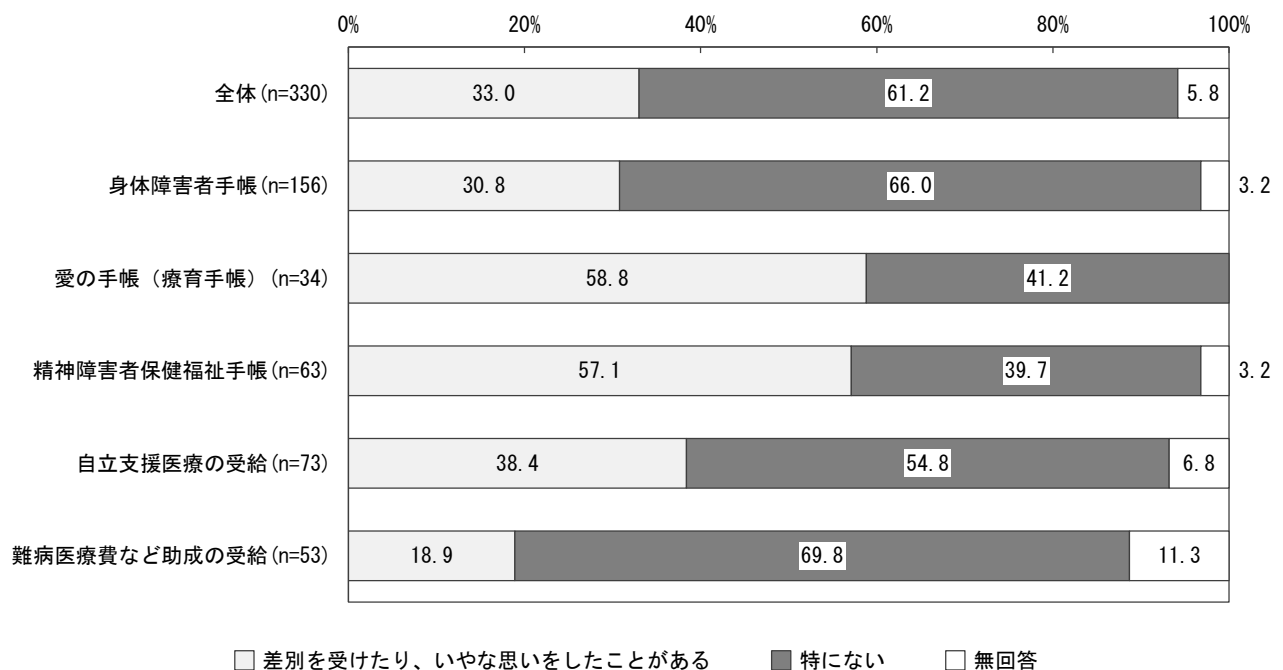
- 利用している (いた) ので、内容も知っている
- 利用したことがないが、制度の内容は知っている
- 聞いたことがあるが、あまりよく知らない
- 全く知らない
- 無回答



**問37 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)**

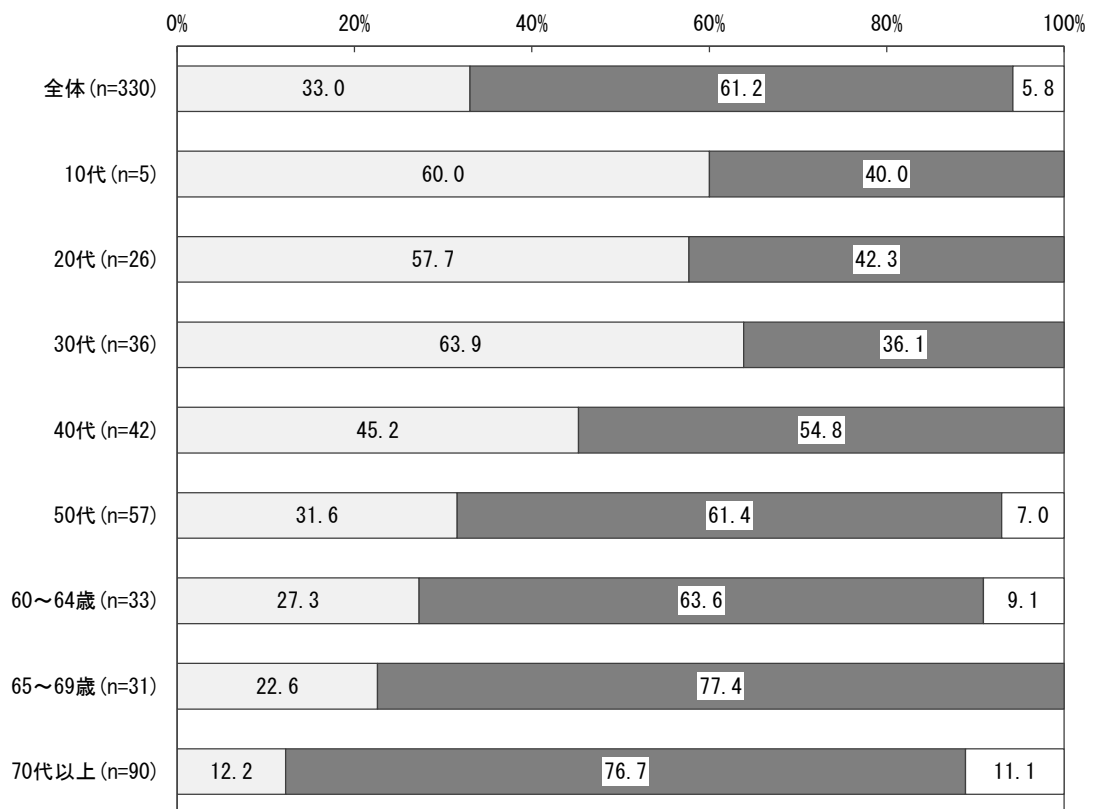
障害が原因で受けた「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、全体では33.0%、「特にない」人が61.2%となっています。

障害種別ごとでは、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、愛の手帳（療育手帳）所持者で58.8%と障害種別の中で最も多く、次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者で57.1%となっています。

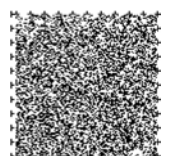


年代別では、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」人は、30代で63.9%と最も多く、次いで、10代で60.0%となっています。

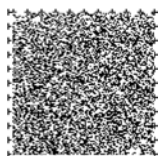
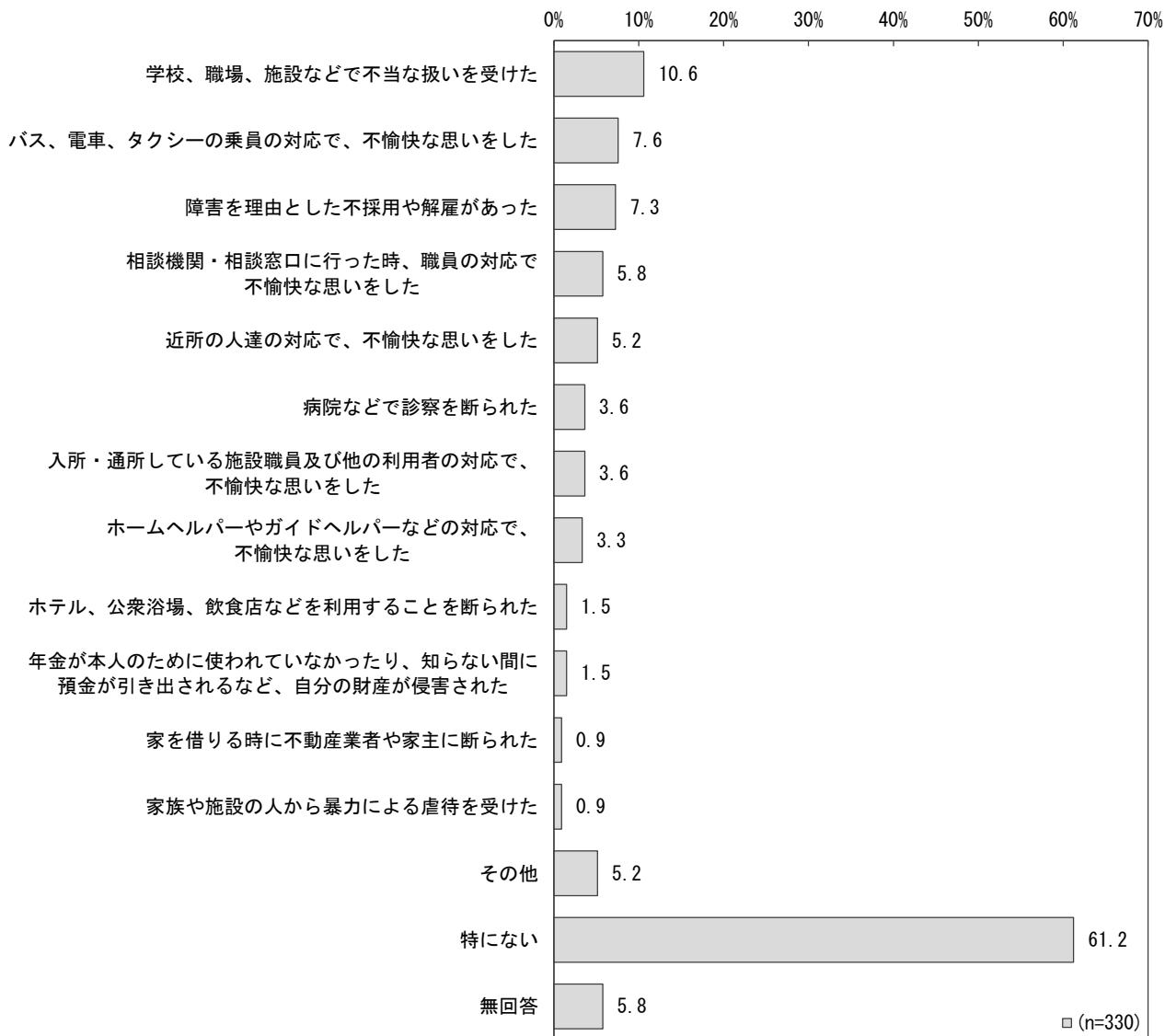
一方で、「特にない」人は65～69歳で77.4%と最も多く、次いで、70代以上で76.7%となっています。



□ 差別を受けたり、いやな思いをしたことがある ■ 特にない □ 無回答



「特にない」を除いて、障害が原因で差別を受けたり、いやな思いをした内容を見ると、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が10.6%と最も多く、次いで、「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が7.6%、「障害を理由とした不採用や解雇があった」が7.3%となっています。



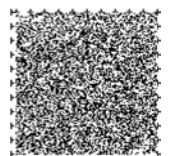
障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」が最も多く、それぞれ23.5%、28.6%、16.4%、身体障害者手帳所持者では「障害を理由とした不採用や解雇があった」が7.7%、難病医療費など助成の受給者では「バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした」が7.5%となっています。

(単位:%)

	学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた	バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした	障害を理由とした不採用や解雇があった	相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした	近所の人達の対応で、不愉快な思いをした	病院などで診察を断られた	入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で、不愉快な思いをした	ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で、不愉快な思いをした
全体(n=330)	10.6	7.6	7.3	5.8	5.2	3.6	3.6	3.3
身体障害者手帳(n=156)	5.1	5.8	7.7	3.2	7.1	3.8	3.2	1.9
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	23.5	8.8	2.9	2.9	14.7	2.9	8.8	8.8
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	28.6	17.5	14.3	15.9	3.2	4.8	6.3	4.8
自立支援医療の受給(n=73)	16.4	8.2	6.8	9.6	2.7	2.7	6.8	4.1
難病医療費など助成の受給(n=53)	1.9	7.5	3.8	3.8	0.0	3.8	3.8	1.9

(単位:%)

	ホテル、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた	年金が本人のために使われていなかったり、知らない間に預金が引き出されるなど、自分の財産が侵害された	家を借りる時に不動産業者や家主に断られた	家族や施設の人から暴力による虐待を受けた	その他	特にない	無回答
全体(n=330)	1.5	1.5	0.9	0.9	5.2	61.2	5.8
身体障害者手帳(n=156)	1.3	1.9	0.0	0.6	4.5	66.0	3.2
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	5.9	2.9	0.0	0.0	2.9	41.2	0.0
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	1.6	1.6	4.8	3.2	7.9	39.7	3.2
自立支援医療の受給(n=73)	0.0	0.0	2.7	0.0	11.0	54.8	6.8
難病医療費など助成の受給(n=53)	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	69.8	11.3



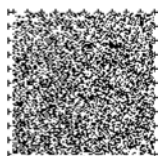
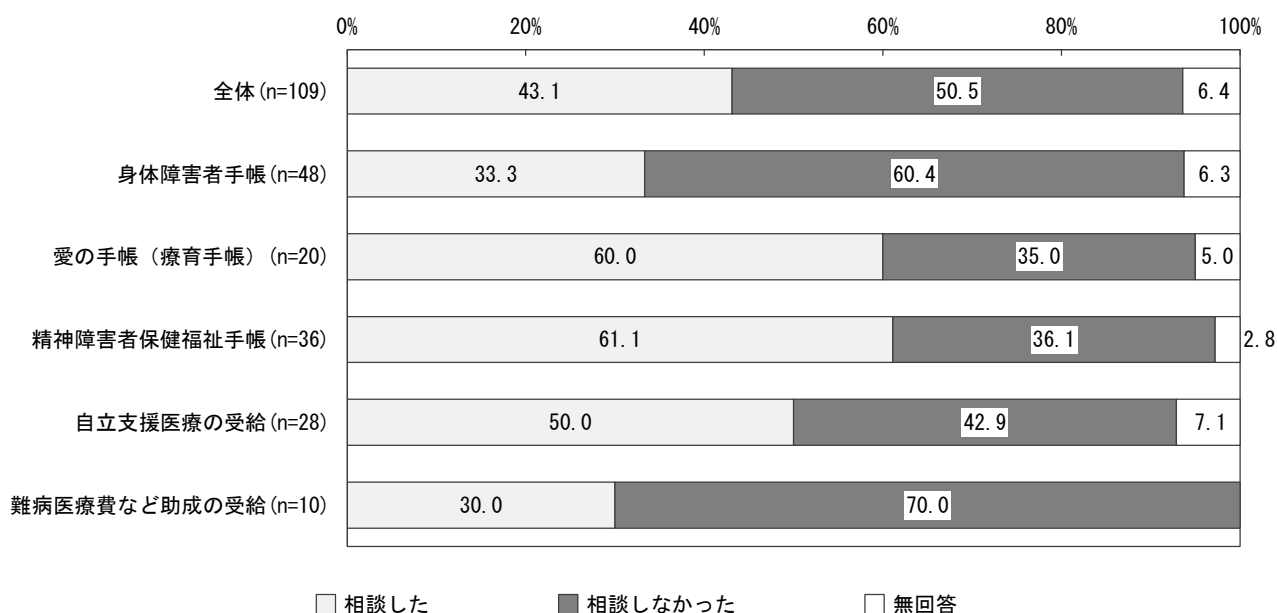
問37で「1」～「13」に○を付けた方におうかがいします。

問38 差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1つに○)

差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがある(「相談した」と回答した)人は、全体では43.1%で、「相談しなかった」人の50.5%を下回っています。

障害種別ごとでは、「相談した」人は精神障害者保健福祉手帳所持者が61.1%と障害種別の中で最も多く、次いで、愛の手帳(療育手帳)所持者が60.0%となっています。

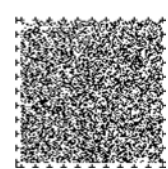
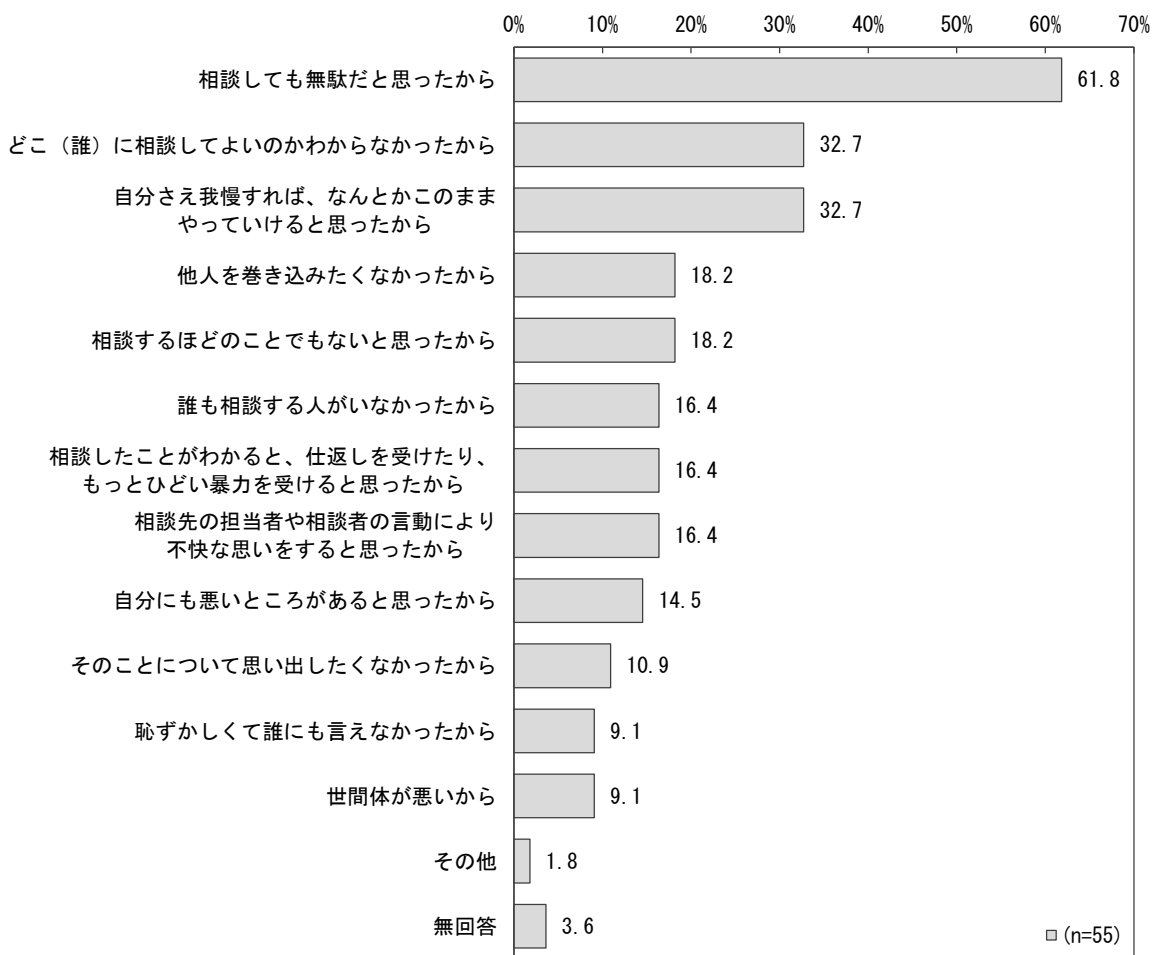
一方で、「相談しなかった」人は、難病医療費など助成の受給者が70.0%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者が60.4%となっています。



問38で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問39 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

差別を受けたことを相談しなかった理由については、全体では「相談しても無駄だと思ったから」が61.8%と最も多く、次いで、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」及び「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」がともに32.7%となっています。



障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者では「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」及び「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっているとあったから」がともに28.6%と最も多く、他の障害種別では「相談しても無駄だと思ったから」が最も多くなっています。

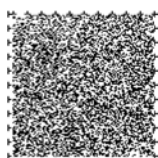
次いで、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっているとあったから」がそれぞれ34.5%、46.2%、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」がそれぞれ50.0%、28.6%となっています。

(単位:%)

	相談しても無駄だと思ったから	どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっているとあったから	他人を巻き込みたくなかったから	相談するほどのことでもないと思っただから	誰も相談する人がいなかったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思っただから
全体 (n=55)	61.8	32.7	32.7	18.2	18.2	16.4	16.4
身体障害者手帳 (n=29)	75.9	20.7	34.5	13.8	20.7	13.8	10.3
愛の手帳（療育手帳） (n=7)	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=13)	69.2	30.8	46.2	23.1	7.7	23.1	23.1
自立支援医療の受給 (n=12)	66.7	50.0	41.7	25.0	16.7	33.3	33.3
難病医療費など助成の受給 (n=7)	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0

(単位:%)

	相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思っただから	自分にも悪いところがあると思っただから	そのことについて思い出しにくかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	世間体が悪いから	その他	無回答
全体 (n=55)	16.4	14.5	10.9	9.1	9.1	1.8	3.6
身体障害者手帳 (n=29)	17.2	6.9	13.8	6.9	10.3	3.4	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=13)	23.1	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=12)	16.7	41.7	16.7	25.0	8.3	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=7)	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3

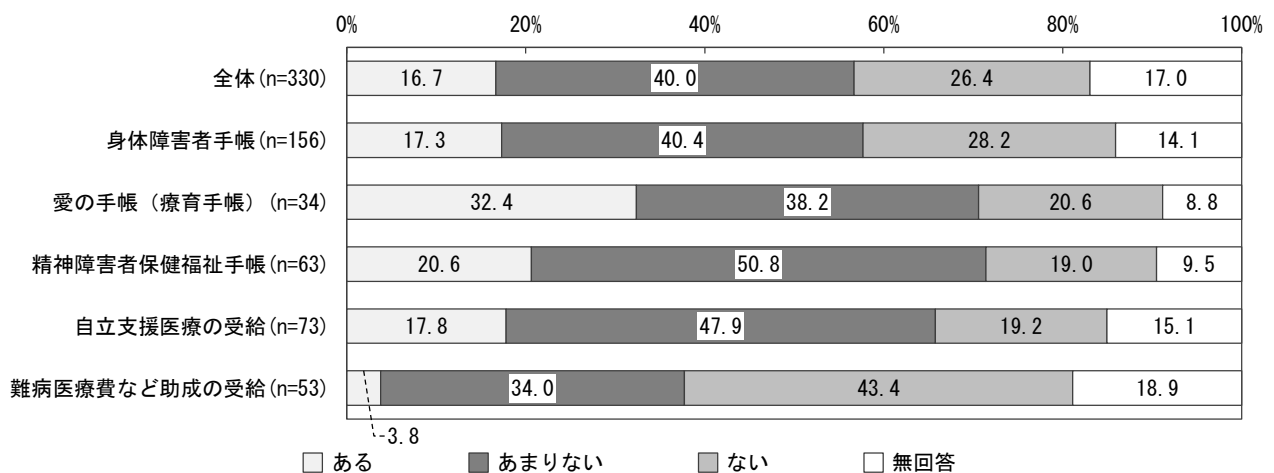


問40 日常生活において、あなたの障害について理解や配慮があり、よかったと感じることはありますか。(1つに○)

日常生活において、障害について理解や配慮があり、よかったと感じることが「ある」と回答した人は、全体では16.7%で、「ない」（「あまりない」及び「ない」の合計。以下、同じ。）と回答した人の66.4%を下回っています。

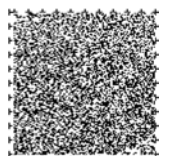
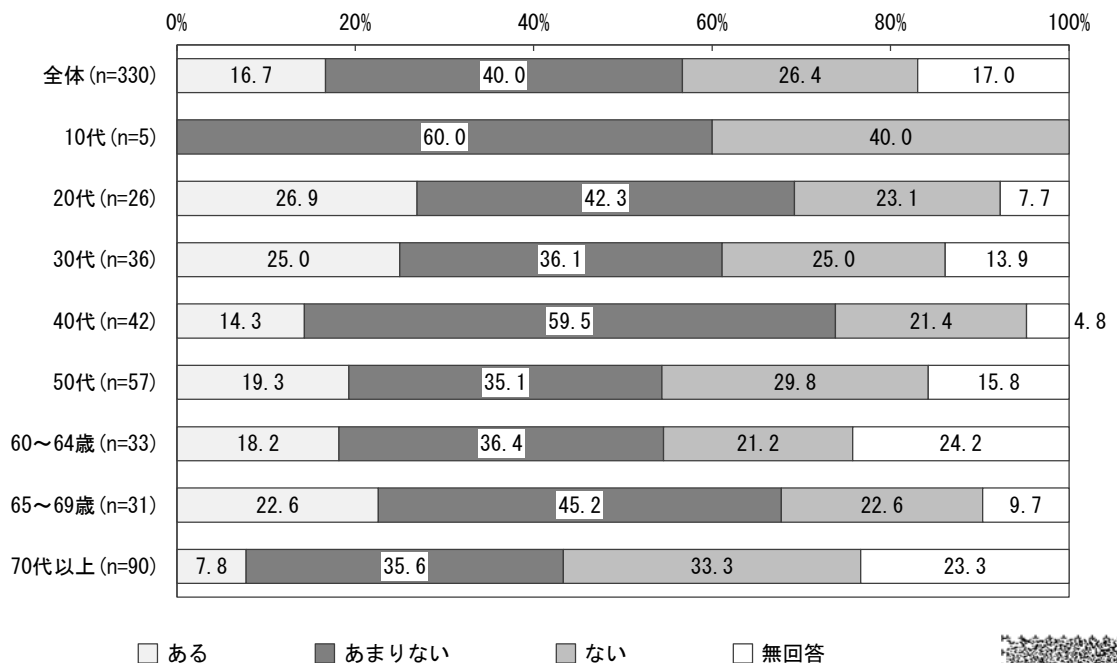
障害種別ごとでは、「ある」と回答した人は、愛の手帳（療育手帳）所持者が32.4%と障害種別の中で最も多く、次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者が20.6%となっています。

一方で、「ない」と回答した人は、難病医療費など助成の受給者が77.4%と障害種別の中で最も多く、次いで、精神障害者保健福祉手帳所持者が69.8%となっています。



年代別では、障害について理解や配慮があり、よかったと感じることが「ある」と回答した人は、20代で26.9%と最も多く、次いで、30代で25.0%となっています。

一方で「ない」と回答した人は、10代で100.0%と最も多く、次いで、40代で80.9%となっています。



具体的な体験では、思いやりや障害に対する理解、話を聞いてもらえる人がいる等の体験が多く挙げられました。具体的な体験を整理すると以下のとおりです。

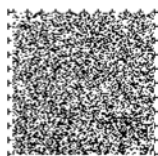
以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

(1) 思いやりについて (17件)

- ・ 障害の適応ペースメーカーです。外見ではわかりませんが、年齢的に下肢が不自由で杖をついているので親切にしてもらう事があります。
- ・ 外出先で通りすがりの人が扉をおさえてくれたり、よく気を使ってもらえる事はよくあります。
- ・ 些細な事でも気にかけて下さる友人・知人・ご近所さんがいることには感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・ 思いやりをもった声かけ。
- ・ 近所の方が助けてくれる。
- ・ 精神障害なので体調不良時に障害者駐車場の停めるためヘルプマークと車いすマークを車に付けていてS. Aで障害者駐車場にスムーズに案内された。
- ・ 落としてしまったものを拾っていただく。
- ・ 買物等でスーパー等で声をかけられた「お手伝いしましょうか」との声かけ。
- ・ 友人や知り合いにわかってもらえている。
- ・ 自分でできない事やってくれる。
- ・ 食事について家族が協力してくれる。
- ・ 席を譲ってもらった。
- ・ 会社の同僚が気にかけてくれる。
- ・ 買物へ行った際、周りの方が親切です。
- ・ サポート校というものに出会えたのは本当に良かったと思います。
- ・ 友人に車で乗せてもらう。
- ・ 僕よりも支えてくれてる母親の方が苦勞をしていると思うが、地域や近所の方が見守ってくれたり、力になってくれていること。

(2) 理解・対話について (15件)

- ・ 障害者だからと差別しないで導いてくれる人たちとの出会いがあった。
- ・ ホームヘルパーさんや訪問看護の人話をよく聞いてくれた。
- ・ 話を聞いてもらえる。
- ・ 話を聞いて下さる方がいたこと。
- ・ 夫がいて良かったが去年亡くなってしまい今は誰もいない。
- ・ 訪問看護師がいい。
- ・ 話す人がいる。
- ・ 支援センターで話を聞いてもらえた。
- ・ かかりつけの先生が通院する交通費がないと言ったら障害手帳をもらえるようにしてくれた。
- ・ 施設入所できている為安心して生活できる。
- ・ 話をよく聞いてくれる。



- ・ お世話になっている子ども家庭支援センターと●●●●●●●●●●において、適切なアドバイスをもらえる。また通院している病院の医師に理解をしてもらえ、大切にもらえる。
- ・ 外出している時など、人々の目が20年前より暖かく感じる。福祉に関する理解が高まってきているように思えた。
- ・ 家族が理解してくれたこと。
- ・ 単なるわがままや自分勝手と思われなくなった。

(3) 職場や作業所について (7件)

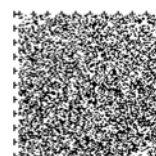
- ・ 人工肛門でトイレが困りますが、仕事場では行きやすい環境にしてもらっています。自宅トイレは洗えるように取り付けもしてもらっています。
- ・ 作業所は理解があるので通えていて良いと思います。
- ・ 家族や職場から配慮をうけられるため体調が悪化しにくい。
- ・ 仕事に就くことができた。
- ・ 職場や施設の理解。
- ・ 職場で上司が心の支えになる。
- ・ 作業所の存在、仕事場の理解、`●●●`の存在。

(4) 制度について (3件)

- ・ 医療費の控除。
- ・ 生活保護。
- ・ 医療費の補助。

(5) その他 (6件)

- ・ 母が元気なうちは心配ない。
- ・ 階段の昇降。
- ・ バス会社にHP上でメールしました。
- ・ 人間関係が嫌だ。
- ・ 障害についてもっと理解してほしい。
- ・ 弁護士に相談したがよくわからなかった。



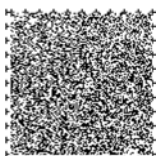
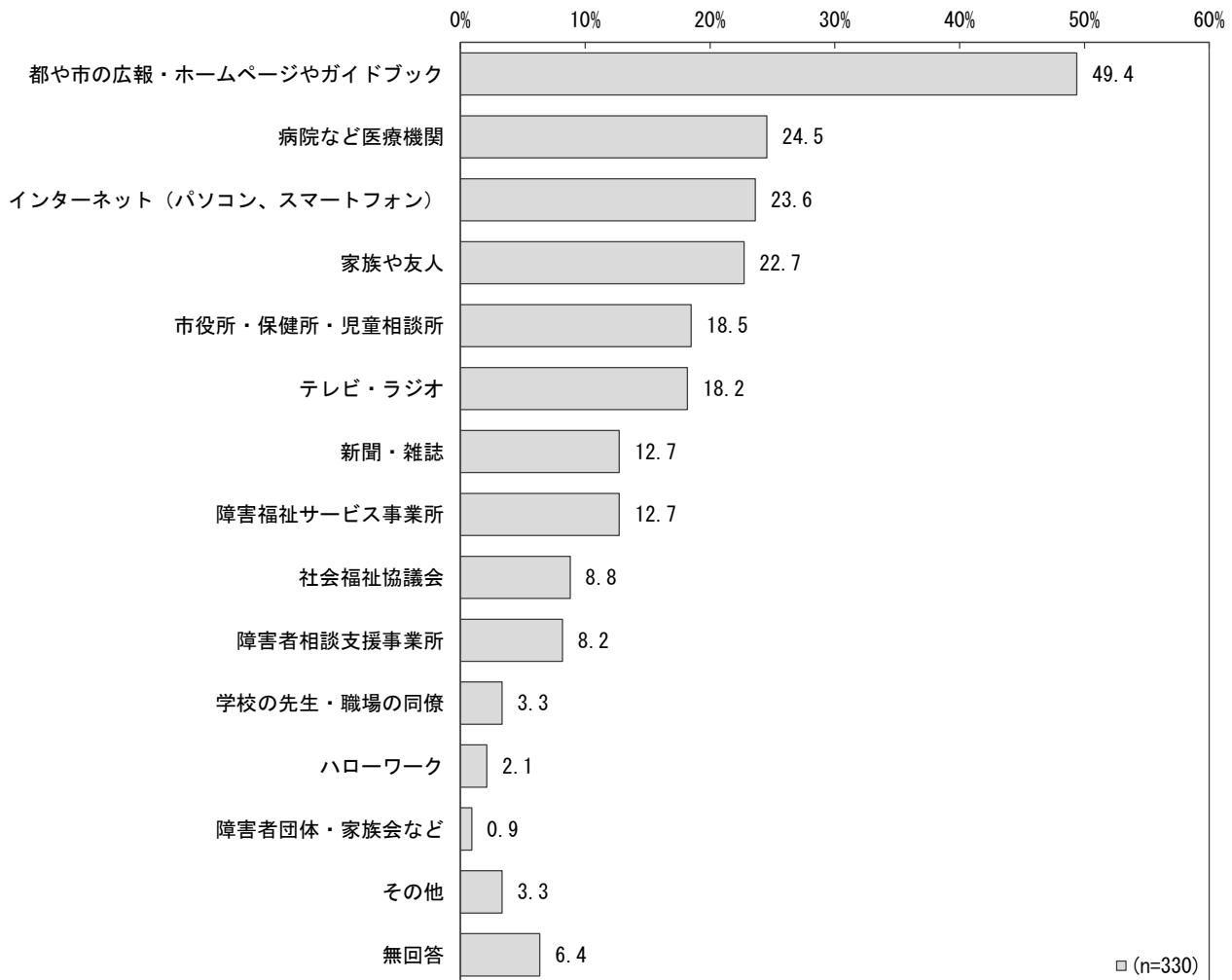
1 1 情報提供や普段の相談について

問 4 1 福祉に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

福祉に関する情報を取得する場所については、全体では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が49.4%と最も多く、次いで、「病院などの医療機関」が24.5%、「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が23.6%となっています。

障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者では「家族や友人」が44.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が46.0%と最も多く、他の障害種別では、「都や市の広報・ホームページやガイドブック」が最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「家族や友人」及び「テレビ・ラジオ」がともに20.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害福祉サービス事業所」では35.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「都や市の広報・ホームページやガイドブック」及び「病院など医療機関」がともに39.7%、自立支援医療の受給者では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が35.6%、難病医療費など助成の受給者では「病院など医療機関」が28.3%となっています。

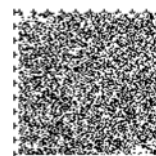


(単位:%)

	都や市の広報・ホームページやガイドブック	病院など医療機関	インターネット(パソコン、スマートフォン)	家族や友人	市役所・保健所・児童相談所	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	障害福祉サービス事業所
全体(n=330)	49.4	24.5	23.6	22.7	18.5	18.2	12.7	12.7
身体障害者手帳(n=156)	50.6	19.2	17.3	20.5	16.7	20.5	14.1	13.5
愛の手帳(療育手帳)(n=34)	23.5	8.8	8.8	44.1	32.4	2.9	0.0	35.3
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	39.7	39.7	46.0	27.0	27.0	14.3	9.5	19.0
自立支援医療の受給(n=73)	46.6	32.9	35.6	24.7	17.8	15.1	13.7	13.7
難病医療費など助成の受給(n=53)	62.3	28.3	24.5	15.1	17.0	22.6	13.2	5.7

(単位:%)

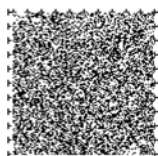
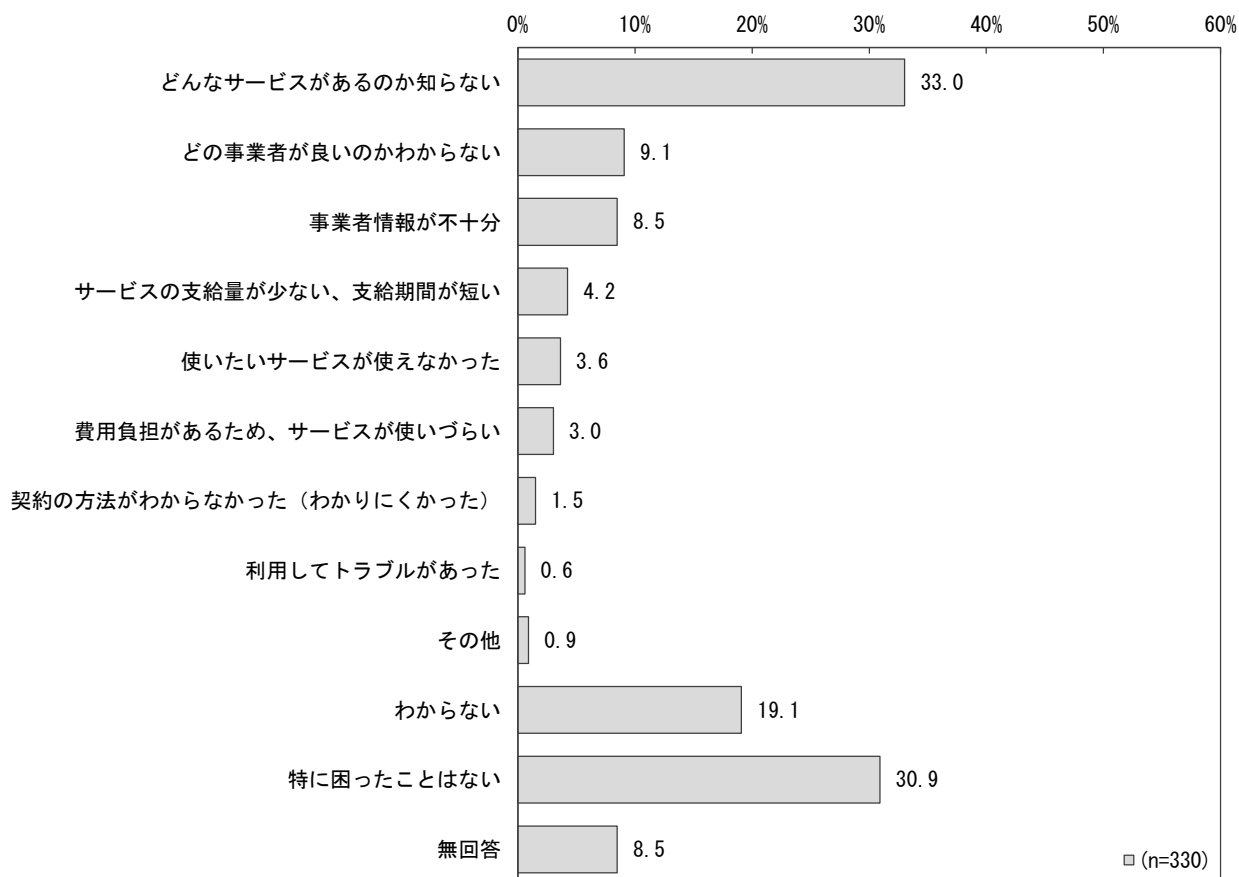
	社会福祉協議会	障害者相談支援事業所	学校の先生・職場の同僚	ハローワーク	障害者団体・家族会など	その他	無回答
全体(n=330)	8.8	8.2	3.3	2.1	0.9	3.3	6.4
身体障害者手帳(n=156)	9.0	4.5	1.3	1.3	0.6	5.1	7.1
愛の手帳(療育手帳)(n=34)	20.6	11.8	20.6	0.0	5.9	0.0	2.9
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	7.9	25.4	3.2	7.9	1.6	1.6	6.3
自立支援医療の受給(n=73)	6.8	15.1	4.1	2.7	1.4	2.7	6.8
難病医療費など助成の受給(n=53)	3.8	1.9	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0



**問4 2 福祉サービスを利用するときに何か困ること（困ったこと）がありますか。
（主なものを2つまで○）**

福祉サービスを利用するときに困ること（困ったこと）については、全体では「どんなサービスがあるのか知らない」が33.0%と最も多く、次いで、「どの事業者が良いのかわからない」が9.1%、「事業者情報が不十分」が8.5%となっています。

なお、「特に困ったことは無い」が30.9%、「わからない」が19.1%となっています。



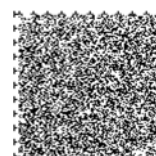
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「特に困ったことはない」がそれぞれ41.7%、26.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「どんなサービスがあるのか知らない」がそれぞれ41.3%、38.4%、39.6%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「どんなサービスがあるのか知らない」がそれぞれ25.0%、23.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「わからない」がそれぞれ27.0%、24.7%、難病医療費など助成の受給者では「特に困ったことはない」が26.4%となっています。

なお、自立支援医療の受給者では「サービスの支給量が少ない、支給期間が短い」が、難病医療費など助成の受給者では「費用負担があるため、サービスが使いづらい」が他の障害種別より多くなっています。

(単位:%)

	どんなサービスがあるのか知らない	どの事業者が良いのかわからない	事業者情報が不十分	サービスの支給量が少ない、支給期間が短い	使いたいサービスが使えなかった	費用負担があるため、サービスが使いづらい	契約の方法がわからなかった（わかりにくかった）	利用してトラブルがあった	その他	わからない	特に困ったことはない	無回答
全体(n=330)	33.0	9.1	8.5	4.2	3.6	3.0	1.5	0.6	0.9	19.1	30.9	8.5
身体障害者手帳(n=156)	25.0	7.1	9.6	3.2	4.5	2.6	0.6	0.6	0.0	16.0	41.7	8.3
愛の手帳（療育手帳）(n=34)	23.5	11.8	17.6	2.9	8.8	5.9	2.9	0.0	0.0	11.8	26.5	11.8
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	41.3	14.3	11.1	3.2	3.2	6.3	1.6	3.2	3.2	27.0	15.9	3.2
自立支援医療の受給(n=73)	38.4	8.2	8.2	8.2	2.7	4.1	2.7	1.4	2.7	24.7	19.2	8.2
難病医療費など助成の受給(n=53)	39.6	13.2	7.5	3.8	1.9	11.3	0.0	0.0	0.0	13.2	26.4	11.3

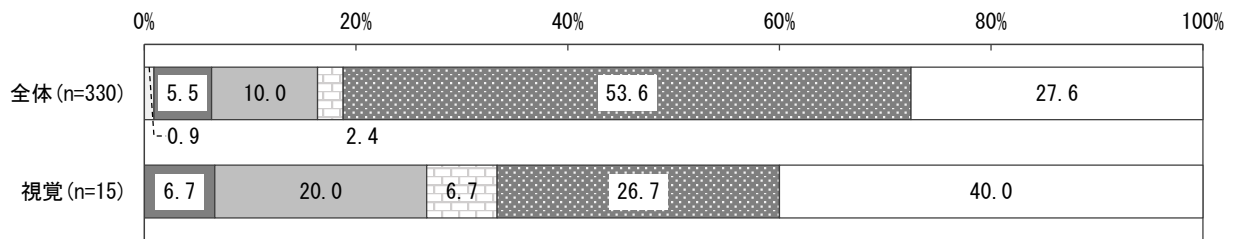


問43 次のような立場の人たちが市からの情報を受け取ることについて、
あなたはどのように感じますか。(それぞれ1つに○)

(1) 視覚障害者（点字や音声テープなど）

視覚障害者の方が受け取る情報について、情報を受け取れていると感じている人（「十分受け取れている」及び「まあ受け取れている」の合計。以下、同じ。）は、全体では6.4%、視覚障害者では6.7%となっています。

一方で、情報を受け取れていないと感じている人（「あまり受け取れていない」及び「全く受け取れていない」の合計、以下、同じ。）は、全体では12.4%、視覚障害者では26.7%となっています。

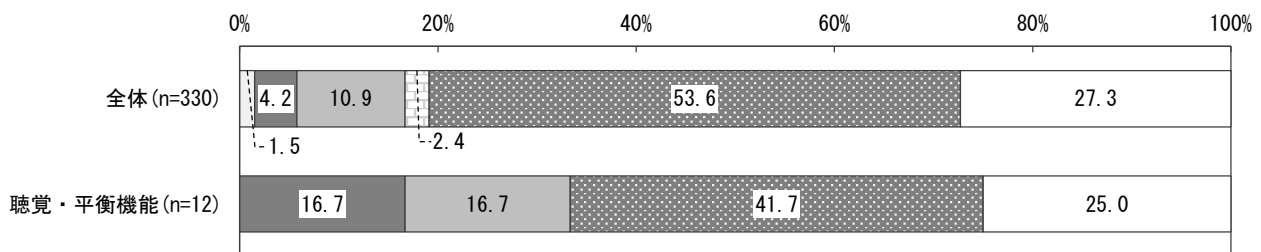


□ 十分受け取れている ■ まあ受け取れている ▒ あまり受け取れていない □ 全く受け取れていない ● わからない □ 無回答

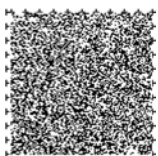
(2) 聴覚障害者（手話や要約筆記など）

聴覚障害者の方が受け取る情報について、情報を受け取れていると感じている人は、全体では5.7%、聴覚・平衡機能障害者では16.7%となっています。

一方で、情報を受け取れていないと感じている人は、全体では13.3%、聴覚障害者では16.7%となっています。



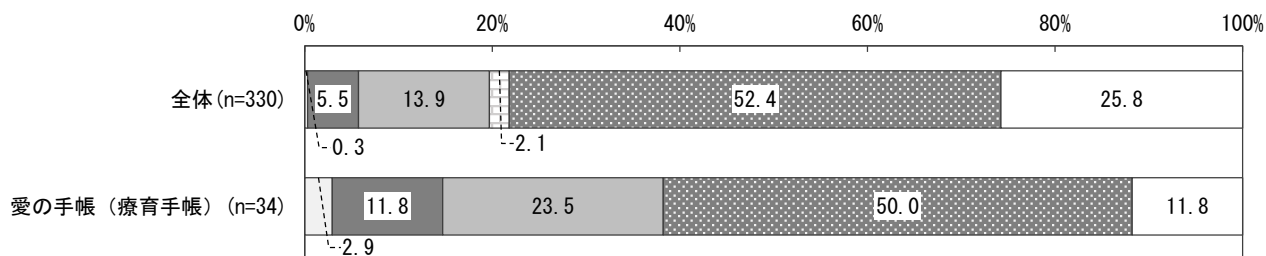
□ 十分受け取れている ■ まあ受け取れている ▒ あまり受け取れていない □ 全く受け取れていない ● わからない □ 無回答



(3) 知的障害者（大きな文字やルビなど）

知的障害者（愛の手帳（療育手帳）所持者。以下、同じ。）の方が受け取る情報について、情報を受け取れていると感じている人は全体では5.8%、知的障害者では14.7%となっています。

一方で、情報を受け取れていないと感じている人は、全体では16.0%、知的障害者では23.5%となっています。

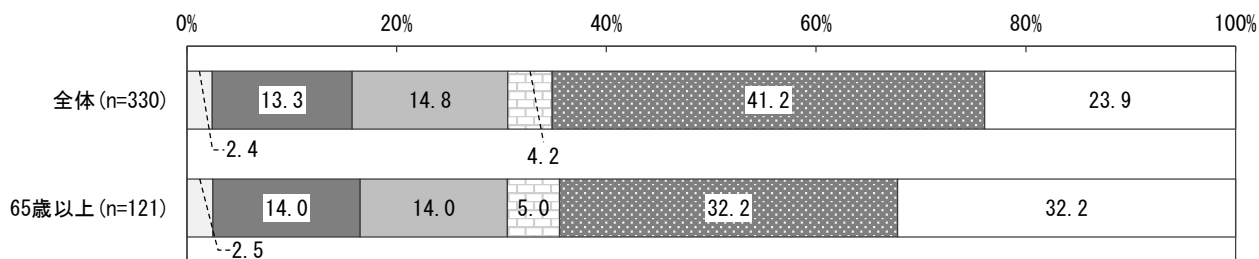


□ 十分受け取れている ■ まあ受け取れている □ あまり受け取れていない ▨ 全く受け取れていない ● わからない □ 無回答

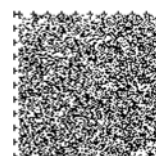
(4) 高齢者（大きな文字など）

高齢者（65歳以上。以下、同じ。）の方が受け取る情報について、情報を受け取れていると感じている人は全体では15.7%、高齢者では16.5%となっています。

一方で、情報を受け取れていないと感じている人は、全体及び高齢者でともに19.0%となっています。

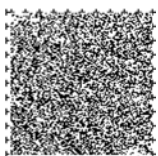
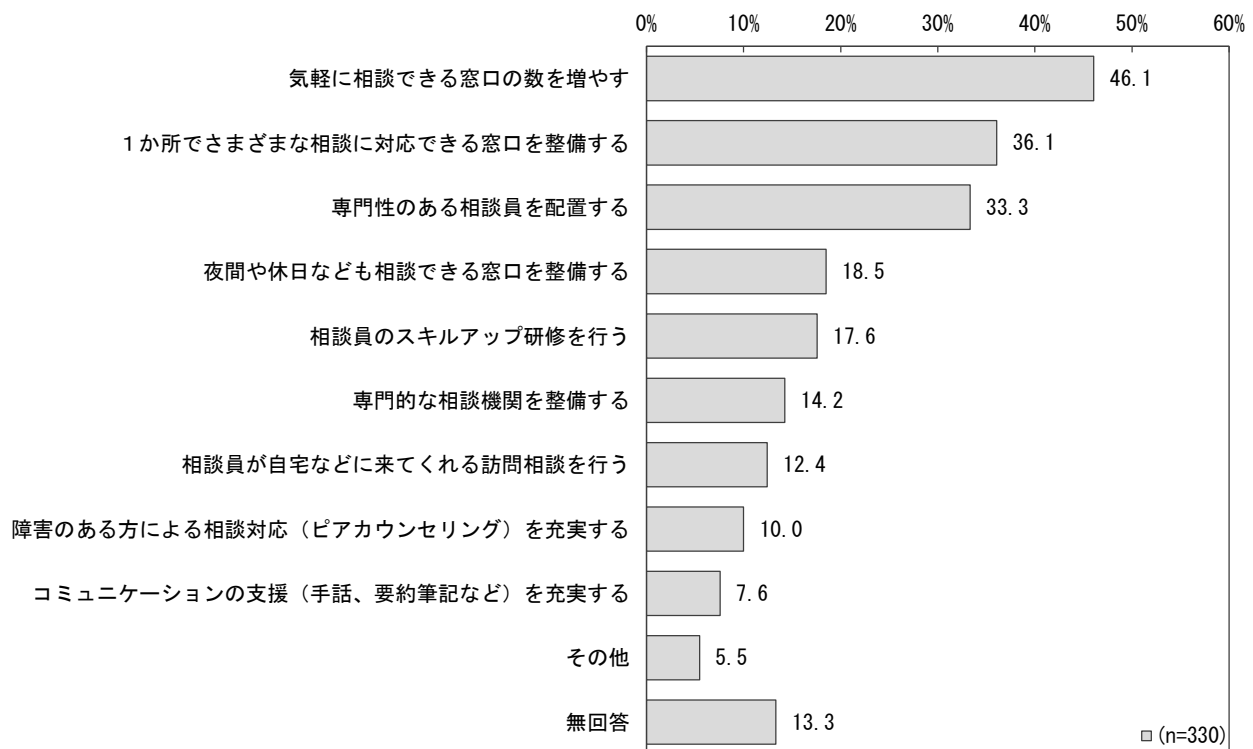


□ 十分受け取れている ■ まあ受け取れている □ あまり受け取れていない ▨ 全く受け取れていない ● わからない □ 無回答



問 4 4 相談事業を充実させるために（相談したときに満足できるよう）特にどのようなことをすればいいと思いますか。（3つまで○）

相談事業を充実するために必要なことについては、全体では「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が46.1%と最も多く、次いで、「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が36.1%、「専門性のある相談員を配置する」が33.3%となっています。

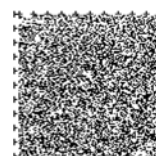


障害種別ごとでは、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が最も多く、それぞれ52.9%、54.0%、52.1%、身体障害者手帳所持者では「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が41.0%、難病医療費など助成の受給では「専門性のある相談員を配置する」が47.2%となっています。

次いで、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「専門性のある相談員を配置する」がそれぞれ29.4%、41.3%、35.6%、身体障害者手帳所持者では「気軽に相談できる窓口の数を増やす」が37.8%、難病医療費など助成の受給者では「1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する」が41.5%となっています。

(単位:%)

	気軽に相談できる窓口の数を増やす	1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する	専門性のある相談員を配置する	夜間や休日なども相談できる窓口を整備する	相談員のスキルアップ研修を行う	専門的な相談機関を整備する	相談員が自宅などに来てくれる訪問相談を行う	障害のある方による相談対応（ピアカウンセリング）を充実する	コミュニケーションの支援（手話や要約筆記）を充実する	その他	無回答
全体 (n=330)	46.1	36.1	33.3	18.5	17.6	14.2	12.4	10.0	7.6	5.5	13.3
身体障害者手帳 (n=156)	37.8	41.0	28.8	9.6	17.3	14.7	13.5	8.3	4.5	3.2	19.2
愛の手帳（療育手帳） (n=34)	52.9	26.5	29.4	20.6	20.6	20.6	23.5	8.8	11.8	0.0	8.8
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	54.0	30.2	41.3	25.4	27.0	19.0	4.8	19.0	11.1	9.5	9.5
自立支援医療の受給 (n=73)	52.1	26.0	35.6	26.0	15.1	12.3	5.5	17.8	9.6	11.0	12.3
難病医療費など助成の受給 (n=53)	37.7	41.5	47.2	22.6	15.1	15.1	15.1	1.9	9.4	3.8	3.8



1 2 障害者施策全般について

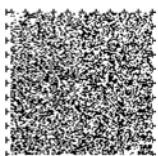
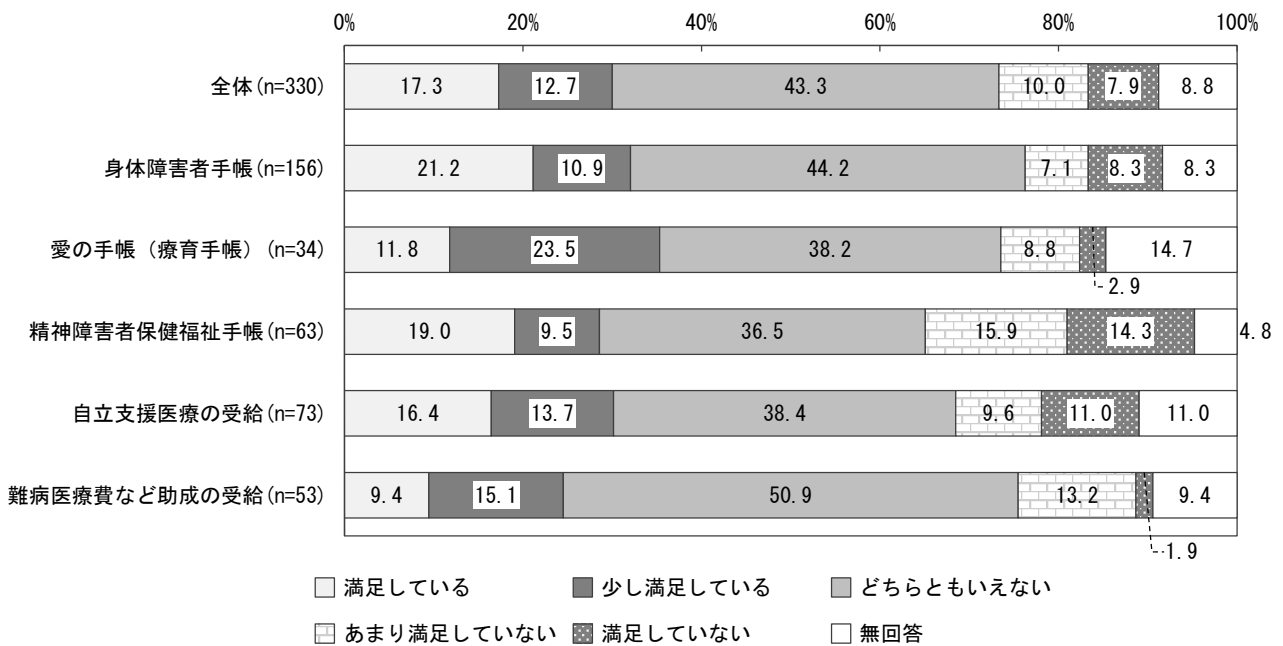
問 4 5 武蔵村山市の福祉サービス全般について、満足していますか。(1つに○)

武蔵村山市の福祉サービス全般の満足度については、全体では「どちらともいえない」が43.3%と最も多くなっていますが、「満足している」（「満足している」及び「少し満足している」の合計。以下、同じ。）が30.0%で、「満足していない」（「あまり満足していない」及び「満足していない」の合計。以下、同じ。）の17.9%を上回っています。

障害種別ごとでは、「満足している」と回答した人は、愛の手帳（療育手帳）所持者で35.3%と、障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者で32.1%となっています。

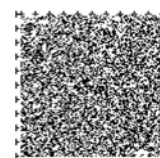
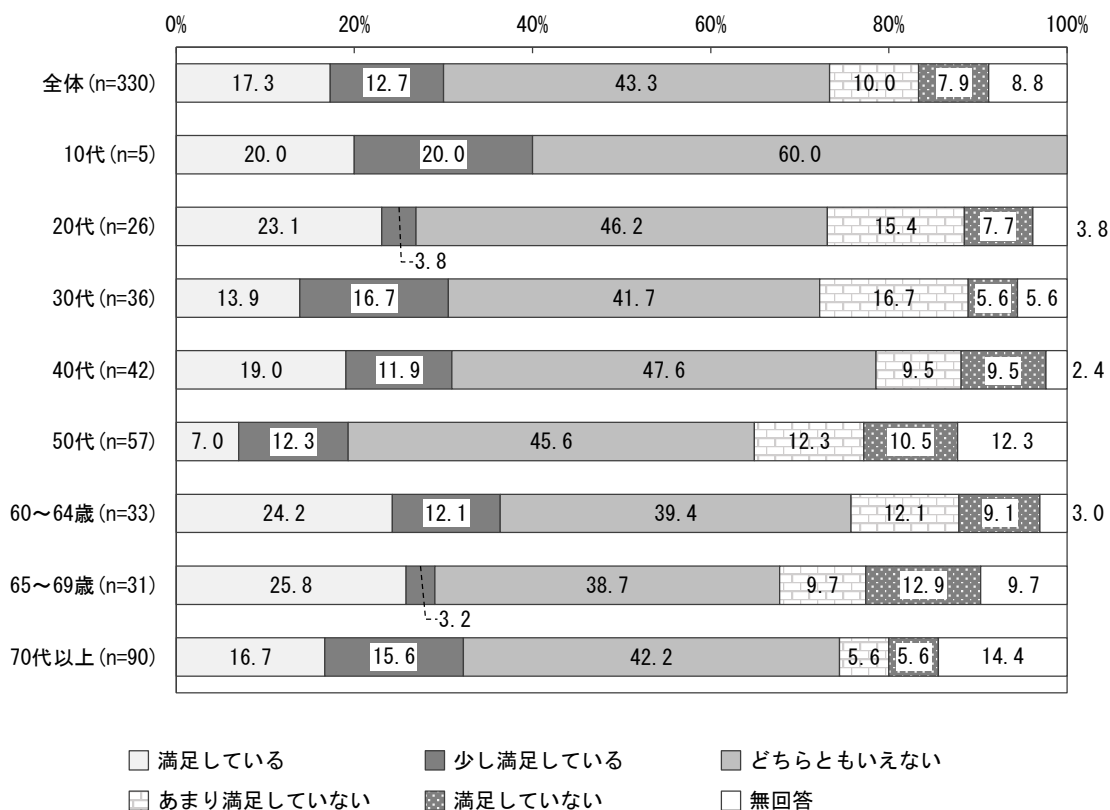
一方で、「満足していない」と回答した人は精神障害者保健福祉手帳で30.2%と最も多く、次いで、自立支援医療の受給者で20.6%となっています。

なお、いずれの障害種別でも「どちらともいえない」が最も多く、難病医療費など助成の受給者では50.9%、身体障害者手帳所持者では44.2%となっています。



年代別では、武蔵村山市のサービス全般について「満足している」と回答した人は、10代で40.0%と最も多く、次いで、60～64歳で36.3%となっています。

一方で、「満足していない」と回答した人は、20代で23.1%と最も多く、次いで、50代で22.8%となっています。



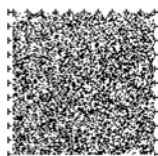
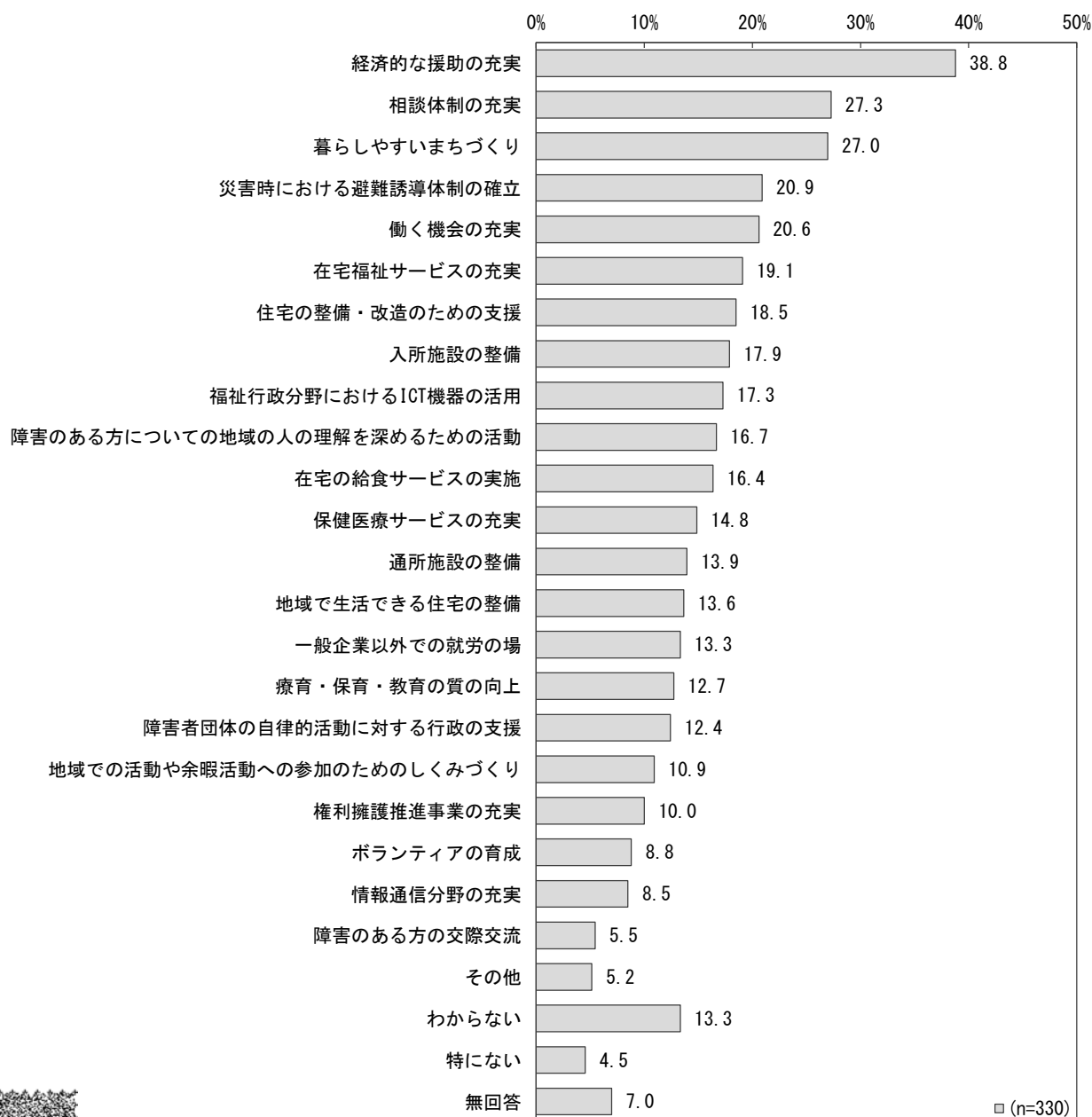
問46 今後どのようなことを特にしていく必要があると思われますか。(あてはまるものすべてに○)

今後の施策として必要なことについては、全体では「経済的な援助の充実」が38.8%と最も多く、次いで、「相談体制の充実」が27.3%、「暮らしやすいまちづくり」が27.0%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「経済的な援助の充実」が最も多く、それぞれ32.7%、57.1%、52.1%となり、愛の手帳(療育手帳)所持者では「地域で生活できる住宅の整備」が41.2%と最も多くなっています。

また、難病医療費など助成の受給者では「暮らしやすいまちづくり」が37.7%と最も多くなっています。

次いで、身体障害者手帳所持者では「暮らしやすいまちづくり」が28.8%、愛の手帳(療育手帳)所持者では「相談体制の充実」及び「入所施設の整備」がともに35.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「相談体制の充実」がそれぞれ52.4%、41.1%、難病医療費など助成の受給者では「経済的な援助の充実」が34.0%となっています。



(単位:%)

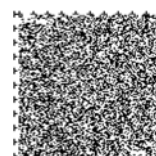
	経済的な援助の充実	相談体制の充実	暮らしやすいまちづくり	災害時における避難誘導体制の確立	働く機会の充実	在宅福祉サービスの充実	住宅の整備・改造のための支援	入所施設の整備	福祉行政分野におけるICT機器の活用
全体(n=330)	38.8	27.3	27.0	20.9	20.6	19.1	18.5	17.9	17.3
身体障害者手帳(n=156)	32.7	19.2	28.8	20.5	10.9	17.9	23.1	17.9	16.0
愛の手帳(療育手帳)(n=34)	29.4	35.3	17.6	26.5	29.4	11.8	5.9	35.3	11.8
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	57.1	52.4	25.4	19.0	41.3	20.6	14.3	14.3	28.6
自立支援医療の受給(n=73)	52.1	41.1	32.9	24.7	38.4	24.7	15.1	17.8	24.7
難病医療費など助成の受給(n=53)	34.0	18.9	37.7	26.4	18.9	20.8	11.3	18.9	7.5

(単位:%)

	障害のある方についての地域の人の理解を深めるための活動	在宅の給食サービスの実施	保健医療サービスの充実	通所施設の整備	地域で生活できる住宅の整備	一般企業以外での就労の場	療育・保育・教育の質の向上	障害者団体の自律的活動に対する行政の支援	地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり
全体(n=330)	16.7	16.4	14.8	13.9	13.6	13.3	12.7	12.4	10.9
身体障害者手帳(n=156)	13.5	17.3	10.9	12.2	11.5	5.1	6.4	7.7	9.0
愛の手帳(療育手帳)(n=34)	32.4	14.7	14.7	20.6	41.2	11.8	11.8	20.6	26.5
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	20.6	17.5	14.3	17.5	17.5	31.7	20.6	17.5	9.5
自立支援医療の受給(n=73)	24.7	13.7	19.2	26.0	20.5	30.1	24.7	19.2	15.1
難病医療費など助成の受給(n=53)	13.2	13.2	20.8	9.4	9.4	9.4	13.2	11.3	7.5

(単位:%)

	権利擁護推進事業の充実	ボランティアの育成	情報通信分野の充実	障害のある方の交際交流	その他	わからない	特になし	無回答
全体(n=330)	10.0	8.8	8.5	5.5	5.2	13.3	4.5	7.0
身体障害者手帳(n=156)	5.1	7.7	8.3	4.5	3.8	12.8	6.4	6.4
愛の手帳(療育手帳)(n=34)	14.7	14.7	5.9	8.8	11.8	11.8	0.0	5.9
精神障害者保健福祉手帳(n=63)	25.4	12.7	11.1	11.1	9.5	9.5	4.8	3.2
自立支援医療の受給(n=73)	20.5	13.7	13.7	11.0	12.3	11.0	1.4	6.8
難病医療費など助成の受給(n=53)	5.7	11.3	5.7	1.9	0.0	15.1	1.9	5.7



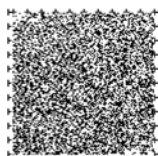
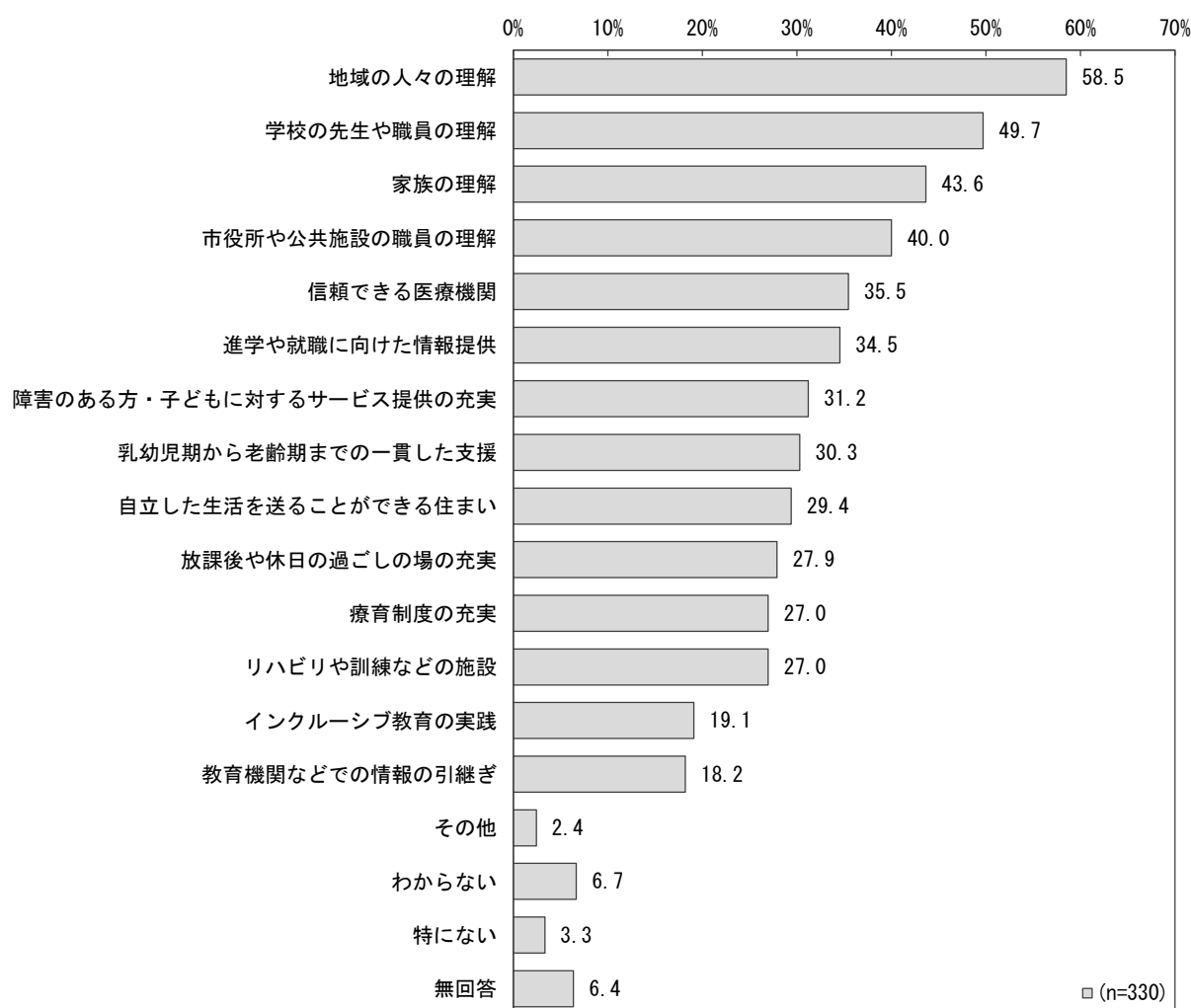
問47 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いますか。(1つに○)

障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するために重要なことについては、全体では「地域の人々の理解」が58.5%と最も多く、次いで、「学校の先生や職員の理解」が49.7%、「家族の理解」が43.6%となっています。

また、いずれの障害種別でも「地域の人々の理解」が最も多く、50%以上となっています。

なお、難病医療費など助成の受給者では、「学校の先生や職員の理解」が「地域の人々の理解」と同じ割合で最も多く、64.2%となっています。

次いで、身体障害者手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「学校の先生や職員の理解」がそれぞれ、45.5%、54.8%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「自立した生活を送ることができる住まい」が47.1%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「家族の理解」が58.7%となっています。

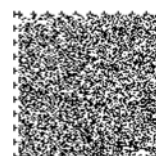


(単位:%)

	地域の人々の理解	学校の先生や職員の理解	家族の理解	市役所や公共施設の職員の理解	信頼できる医療機関	進学や就職に向けた情報提供	障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実	乳幼児期から高齢期までの一貫した支援	自立した生活を送ることができる住まい
全体 (n=330)	58.5	49.7	43.6	40.0	35.5	34.5	31.2	30.3	29.4
身体障害者手帳 (n=156)	52.6	45.5	35.9	38.5	30.1	30.8	34.6	27.6	25.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=34)	61.8	38.2	41.2	35.3	32.4	29.4	38.2	44.1	47.1
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	61.9	54.0	58.7	39.7	46.0	38.1	33.3	36.5	28.6
自立支援医療の受給 (n=73)	61.6	54.8	47.9	39.7	39.7	45.2	32.9	37.0	31.5
難病医療費など助成の受給 (n=53)	64.2	64.2	47.2	49.1	43.4	43.4	22.6	32.1	41.5

(単位:%)

	放課後や休日の過ごし場の充実	療育制度の充実	リハビリや訓練などの施設	インクルーシブ教育の実践	教育機関などでの情報の引継ぎ	その他	わからない	特になし	無回答
全体 (n=330)	27.9	27.0	27.0	19.1	18.2	2.4	6.7	3.3	6.4
身体障害者手帳 (n=156)	22.4	21.2	28.2	17.9	14.1	3.2	8.3	2.6	6.4
愛の手帳 (療育手帳) (n=34)	32.4	38.2	29.4	20.6	14.7	2.9	2.9	8.8	2.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=63)	31.7	30.2	23.8	19.0	22.2	3.2	4.8	6.3	0.0
自立支援医療の受給 (n=73)	37.0	32.9	28.8	28.8	26.0	2.7	6.8	0.0	5.5
難病医療費など助成の受給 (n=53)	39.6	37.7	39.6	26.4	30.2	0.0	5.7	0.0	5.7



13 自由意見

問48 福祉の各種制度の問題点、障害のある方・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

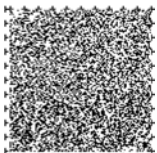
自由記述では、支援サービスの幅や支援のハードルの高さ、障害のある方に対する環境の整備についてなどが多く指摘されています。自由記述を項目ごとに整理すると以下のとおりです。

項目	件数
サービス・支援について	19件
施設・職員について	16件
将来に対する不安について	6件
教育について	6件
アンケートについて	6件
その他	12件
合計	65件

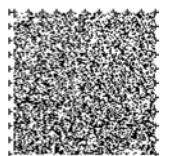
以下では寄せられたご意見の項目ごとに分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

(1) サービス・支援について（19件）

- ・ 障害のある子どもと接する機会を社会福祉士など資格のある人だけでなく、資格がない大人の障害者もボランティアから参加（相談などを受ける）できる場があればいいと思う。子ども達の親も実際に自分の子どもがどのように成長し、生活していくのか考えるきっかけになると思う。
- ・ 利用するまでのハードルが高すぎて支援を受けることをためらってしまう。自ら声を上げることすら難しい人も多く、特に子ども・高齢者は情報を得ることも、自ら手続きを行う事も非常に困難である。本人だけでなく、医療機関や行政等が連携し個々へサービスを提供できるようにしてほしい。
- ・ 放課後等デイサービスが少なく、入れない。
- ・ グループホームに居宅中は障害者のサービス等を使って外出したり、作業所に通い楽しく生活をしていましたが、特養ホーム入居後はサービスを使えなくなり、残念だと思えます。制度が使えるようになることを願います。
- ・ 精神障害と知的障害の支援制度の違いがあってわかりにくい。
- ・ 市よりも都になりますが、私は難病によって手帳を入手し、福祉制度を利用しています。難病になった当初より色々と改悪されていてとても悲しい。世帯ではなく本人をみてほしい。



- ・ 日常生活が困難であっても、障害の等級で分類された制度しか利用できない。手帳があっても年金は受けられず、仕事もせざるを得ない。
市独自のサービス（買い物・宅配・中諸料金の助成など）があっても良いと思う。
- ・ 就労移行支援事業所を利用しています。市街の為交通費が負担です。生活保護を受けていなくても支給して頂ければよいと思います。
- ・ 指定難病手当を増額してほしい。
江戸川区1ヶ月¥12,000、武蔵村山市1ヶ月¥7,000、家賃の安い住宅を建ててほしい。出来なければ家賃補助をしてほしい。
- ・ 大人になって年金・手当でギリギリの生活。子どもだけでなく大人になった障害者も安心して診察を受けられるよう医療費が無料になってほしい。
- ・ 病気をしている人にとって社会参加することがとても難しい。心が弱っているうえに具合も悪いのでどうしても人との交流を避けてしまい、孤立してしまう。
孤立しないような方法を作ってもらいたい。相談員も助かりますが、気軽に話ができる場所・人がいて居場所があれば前向きに生きていけるような気がします。
- ・ 各種、助成金の単価が現在の経済環境に見合っていない。
- ・ 障害手帳を失くしたら再発行まで3か月もかかった。あまりにも遅すぎる。ひどいと思った。2週間くらいで発行できないのだろうか。
- ・ 障害基礎年金の年金額を増やしてほしい。
- ・ GHの家賃補助申請を3か月ではなく、半年又は1年にして頂けたら有難いです。いつも有難うございます。今後ともよろしくお願いします。
- ・ 精神障害者への支援サービスを充実させてください。
- ・ 障害の区分が大きすぎて、各個人に合わせたサービスが受けられない。
- ・ カウンセリング代も自立支援医療の対象にしてほしい。
- ・ 自身が福祉サービスを受けられることに気付くまで、数年が経っていたので、もっと分かりやすく情報を得られるようにしてほしい。また、申請してから受給できるようになるまでの期間が長いと思う。



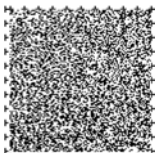
(2) 施設・職員について（16件）

- ・ あまり村山の●●●●●●●●●●●●●●●●には期待していない。立川の生活訓練所で有意義に過ごしてるから。早くモノレールを延伸してくれ。よろしくお願いします。
- ・ 車いすを使っています。武蔵村山の歩道は走れないですよ。あの段差、電動車いすが倒れたら大けがするでしょうね。1度健常者の皆さんで走行してみてください。自分も20回以上バランスを崩しています。事故が起きたらどうするんでしょうね。ちなみに電動車いすは50キロ以上が平均です。歩道から倒れ車いすの下敷きになったら死者も出ますよ。
- ・ 少しでも障害のある方は都営住宅に優先して入れるようにしてほしい。
- ・ 視覚障害に文書読めない・書けない支援がなさすぎ。足の不自由な人の休む場が少ない。高齢の人のイスがない。発展の場が偏り過ぎ。
- ・ 道路の整備。段差をなくしてほしい。
- ・ 以前、市内西部にもMMシャトルが走っていて、車が運転できないこともあり、利用したことがあった。同バスを再度走らせていただきたい。
- ・ 自身の病気があまり障害福祉に繋がりにくいので、あまり協力できない内容で申し訳ないです。

ただ東京に引っ越してきて2年武蔵村山市に引っ越して1年経ちますが、子育てをしている中で、市役所・保健所・病院どこへ行ってもスタッフの対応の悪さ・あいさつ・笑顔のなさにこちらの方が気を遣わざるを得ないことがほとんどでした。涙して帰宅したこともあります。

僭越ながら意見を申し上げますと、環境を整えるのは素晴らしいこととは思いますが、まずはスタッフひとりひとり、自身の対応を見直していただく事で救われる人が多いのではと思います。武蔵村山市の発展繁栄を心から願っております。

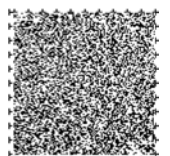
- ・ 特に言いたいのは移動手段（バス）が少なすぎる事。
- ・ 両親が年老いた時、スムーズに入所できる施設などの充実をお願いしたいと思います。
- ・ 学習・発達障害のある子どもに向けた学習塾があれば良いと思った。



- ・ マイナンバーを受け取る際に当人は発言理解能力がないのに、市役所の職員から（管理職でした）「ご本人がマイナンバーカードを取得したいと言ってますか」という内容の差別的な事を言われました。それも周りに他の市民がいる中で。もう少し考えて行動してほしいです。私の周りの人々も役所の方々に不満があります。もちろん配慮のある職員さんは沢山いますが。
- ・ 福祉関係の担当者（窓口）の方。慣れてきたころには異動があるため、色々な方と接して来ました。異動は必要だから行うのですが、職員の対応があまりにも個人差があり、出来れば適した人材の方が必要だと思いました。
- ・ ●●●●●●●●の1人の職員が受け持つ案件が多すぎると思う。また支援してくれている●●●●●●●●の●●の何気ない会話でたまに傷つく。
- ・ 見守りや防犯。公園などの利用環境が窮屈になってきていると思う。危険な事も体験し、学びながら覚えていくもの。正しい知識と対応できる大人の存在。楽しいことを危険だからと取り上げるのではなく、どうすればよくなるか。考えさせるゆとり。
- ・ 就労施設、入所、短期入所施設等、とにかく施設が少ないです。
- ・ 図書館の充実をお願いします。出来れば市内に中央図書館を作って頂きたい（新築でなくてよいから）。本を充実させてほしい。図書館が充実すれば、そこで学ぶ子供たち大人たちも増え、市内の学力の底上げに将来的ではありますが、つながります。

(3) 将来に対する不安について（6件）

- ・ 親がみれなくなった時にどうなるか不安
- ・ まだまだ障害のある人の理解に対して不十分なような気がします。
- ・ 現在はないですが年がたってくると色々困るかも
- ・ 働ける場所が欲しい
- ・ すべての人に福祉の平等をその人の身になって何事も進めてほしい。私も障害に関わるとは思ってもいませんでした。明日は我が身です。
- ・ 子どもが発するSOSを大人も勇気をもって認めてほしい。

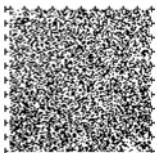


(4) 教育について（6件）

- ・ 福祉の制度はとても分かりづらく教えてもらうまで知らずに過ごしていた。障害の有無にかかわらず教育に力を入れるべきだと考える。村山の子どもの低学力が心配。
- ・ 障害者が身の回りにいることに、特別な考えを持たなくても出しゃばり過ぎない、程よい手助けをみんなが当たり前であれば。そうなるように教育が必要。
- ・ 先生・市職員は質の向上を図り、差別をなくす。
- ・ 健常者と障害が互いに理解し共に生活の出来る市が理想です。
- ・ 息子が特別支援学校に通っていた時、スクールバスに乗るために車いすに乗って移動をしていると、近所の小学校に通学途中のお子さん達が「臭い、汚い」と毎回速足で逃げていきました。その子たちは私の次男の同級生でした。次男は大切な家族を侮辱され、4年経った今でも怒っています。障害があっても皆さんと同じ大切な家族だということに変わらない。この先の教育で気がついてくれて、二度とこんなことが起こらないように願うばかりです。
- ・ 人間関係の理解と充実した生活を送るため、人生の教育を受けた人が何が大切かを経験していくことが指導できるアドバイスを作してほしいと思います。

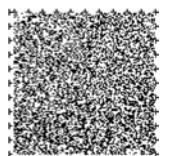
(5) アンケートについて（6件）

- ・ このアンケートは少しむずかしい。
- ・ 手帳を持っている人のためのアンケートのみに思います。
- ・ ① このアンケートは視覚障害者の一人暮らしの方にも送っているのでしょうか？疑問に思います。
- ・ ② 障害者への仕事を共に考え進めて頂きたいです。
- ・ ③ 障害ある地域のアーティストを育ててほしいです。
- ・ アンケート調査はスマホ・PCのFormsなどを利用した方が良い。経費削減にもなるし、回答率もアップする。
- ・ 返信用の封筒がこのアンケートの冊子に対して小さいと思います。
- ・ 障害の状態一言でこのアンケートは書ききれない。一人ひとりがあまりにも違い過ぎて、あまりにも重度すぎて・・・。あてはまる回答がわかりません。

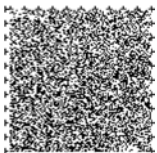


(6) その他（12件）

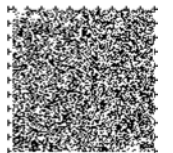
- ・ 自分の意思(意志) で決めたことは、一生続けられる。
- ・ 今回の新型コロナについて、マスクは本当に必要でしょうか。ウイルスはマスクに7日間生きています。ウイルスよりマスクの繊維の継ぎ目の方が大きいし、空気感染だと分かったのでマスクは意味がありません。政府は分かっているはずですが。なのにマスクを外せと言わない。子ども達が可哀そうです。日本はもっと子供たちを大事にしてください。子供は宝物です。同調圧力を吹き飛ばすくらいの強い精神力を育ててください。個性を尊重してください。食の安全を考えてあげてください。
- ・ 福祉は社会全体からリスクを低減し、より大きな事件・事故・保険や医療費の発生を防ぐ効果がある。おりしもワクチンに対するナンセンスな抵抗があったが、予防としての施策に理解を得られるよう努力してほしい。
- ・ 障害者のいる家庭が近くにいるのですが、あまり仲良くなりたいとは思わないのか、上手くお付き合いが出来ない。
- ・ よろしく。
- ・ 「和を以て貴しとなす」の気もちで書く計画の策定・業務にご尽力いただければ幸いです。よろしく申し上げます。聖徳太子。
- ・ 昔から子供の泣き声や奇声、金切り声など聞くとイライラし、腹が立ち暴力をふるいたくなります。でもいろんな人からアドバイスしたら“その場を離れること”とってくれました。でもキリスト教の教会や近所で知っている子どもだったら多少は大丈夫です。
- ・ 介護保険、風呂椅子を買おうとしたが家の中を計量すると言われ断った。以後更新していない。知人がベッドレンタルした時、必要ないものまで「お金はいらぬから」と置いて行かれた。業者の不正だと思う。

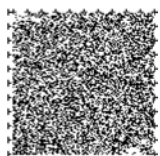


- ・ 障害者と健常者を無理に同じ空間に置くと、差別・いじめは絶対に起きます。そのせいで心が傷を負うのは見たくありません。差別ではなく。区別は必要と私は思います。
そしていじめの根絶を切に願います。私のような人をもう増やさないでください。予算も減っていくはずです。
- ・ これからもよろしく願います。
- ・ この3年間コロナの為、自宅外にあまり出ることなく、じっと我慢の生活でしたので、特別な意見は考えたことはありません。
- ・ 障害者になって日が浅く、どんなサービスがあり、どんなサービスを利用できるのかが分かっていません。毎日家にいますが普通にできていたことができなくなりつつあるので不安です。相談したり、話を聞いてもらったりするサービスは総合センターに行けばいいのでしょうか？自転車・自動車共に手放してしまい、徒歩で行くのは少し遠いです。情報も得づらいので困っています。



Ⅲ 障害児（18歳未満）の調査結果



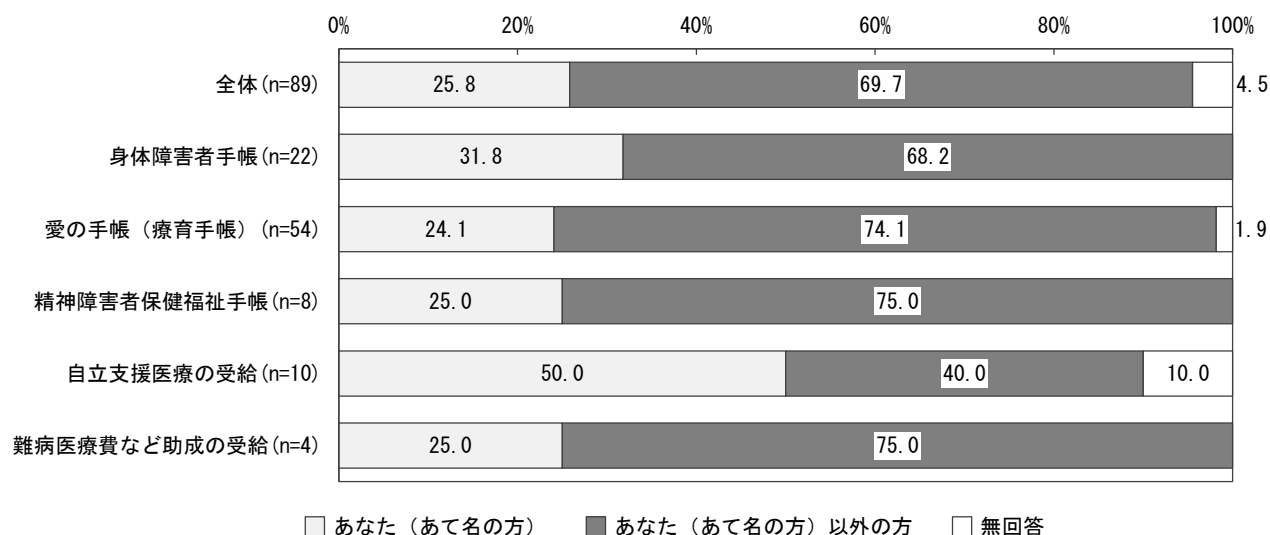


1 回答者の属性

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。(1つに○)

アンケートの記入者は、全体では「あなた（あて名の方）」が25.8%、「あなた（あて名の方）以外の方」が69.7%となっています。

障害種別ごとでは、「あなた（あて名の方）」は自立支援医療の受給者で50.0%、身体障害者手帳所持者で31.8%となっている以外、他の障害種別では20%台となっています。

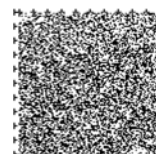
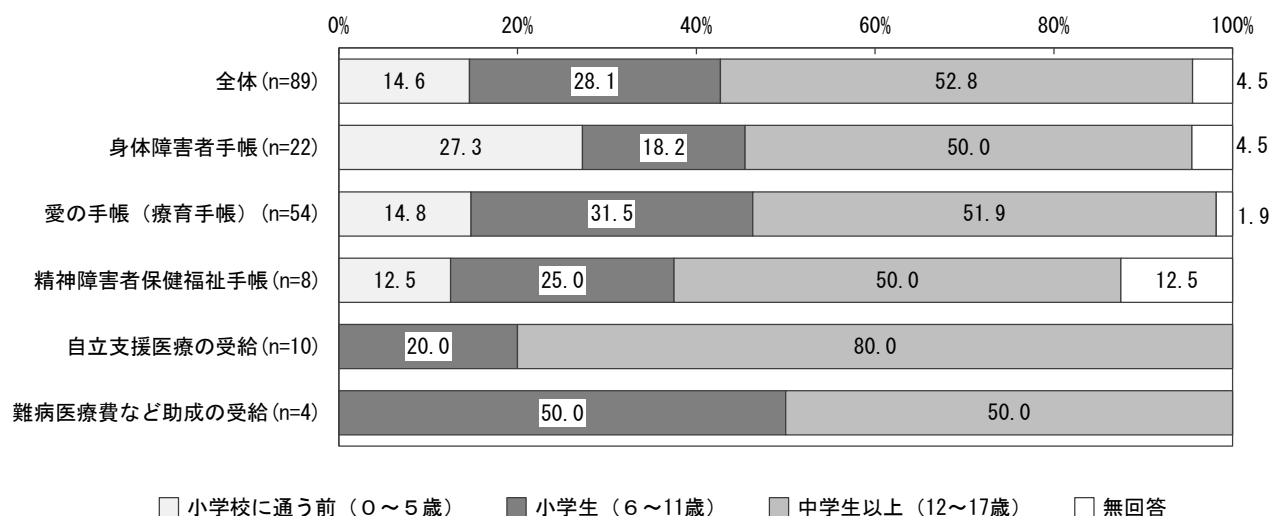


問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。(1つに○)【令和4年11月1日現在】

回答者の年齢は、全体では「小学校に通う前（0～5歳）」が14.6%、「小学生（6～11歳）」が28.1%、「中学生以上（12～17歳）」が52.8%となっています。

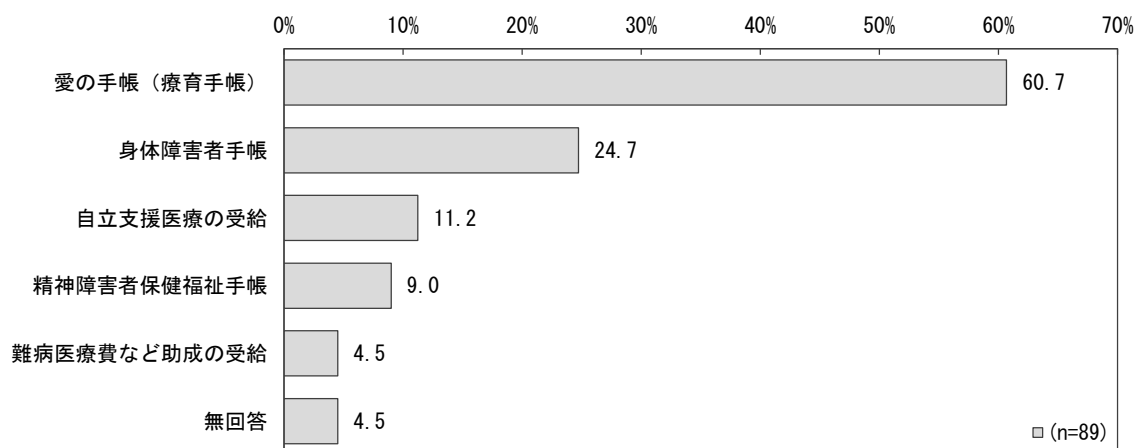
いずれの障害種別でも「中学生以上（12～17歳）」が最も多く、特に、自立支援医療の受給者では80.0%となっています。

なお、難病医療費など助成の受給者では「小学校に通う前（0～5歳）」が50.0%と「中学生以上（12～17歳）」と同じ割合となっています。



問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費などの助成を受けていたりしますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者の障害種別は、「愛の手帳（療育手帳）」が60.7%と最も多く、次いで、「身体障害者手帳」が24.7%、「自立支援医療の受給」が11.2%、「精神障害者保健福祉手帳」が9.0%、「難病医療費など助成の受給」が4.5%となっています。

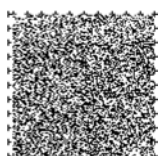


他の手帳の所持や受給の有無については、身体障害者手帳所持者では、「愛の手帳（療育手帳）」が31.8%、「自立支援医療の受給」が4.5%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「身体障害者手帳」が13.0%、「精神障害者保健福祉手帳」が3.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「愛の手帳（療育手帳）」が25.0%、「自立支援医療の受給」が12.5%となっています。

また、自立支援医療の受給者では、「身体障害者手帳」、「愛の手帳（療育手帳）」及び「精神障害者保健福祉手帳」がそれぞれ10.0%、難病医療費など助成の受給者では「愛の手帳（療育手帳）」が25.0%となっています。

(単位:%)

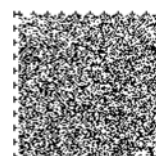
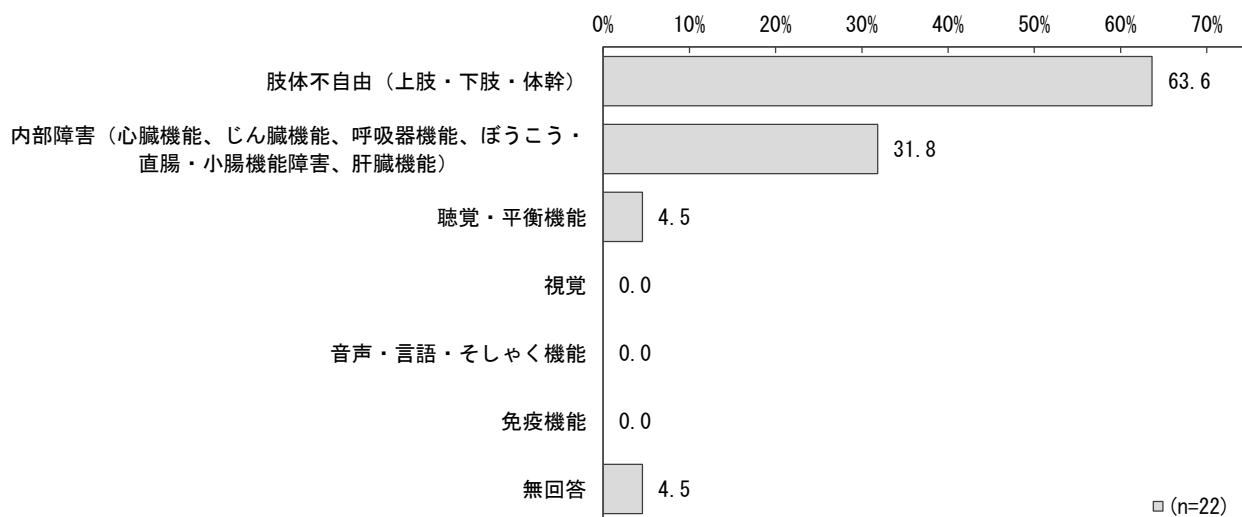
	愛の手帳 (療育手帳)	身体障害者手帳	自立支援医療の受給	精神障害者保健福祉手帳	難病医療費など助成の受給	無回答
全体 (n=89)	60.7	24.7	11.2	9.0	4.5	4.5
身体障害者手帳 (n=22)	31.8	100.0	4.5	0.0	0.0	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=54)	100.0	13.0	1.9	3.7	1.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	25.0	0.0	12.5	100.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	10.0	10.0	100.0	10.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0



問4は身体障害者手帳を所持している方におうかがいします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。(あてはまるものすべてに○)

回答者が手帳を取るきっかけとなった障害は「肢体不自由(上肢・下肢・体幹)」が63.6%と最も多く、次いで、「内部障害(心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能)」が31.8%、「聴覚・平衡機能」が4.5%となっています。

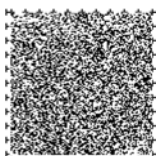
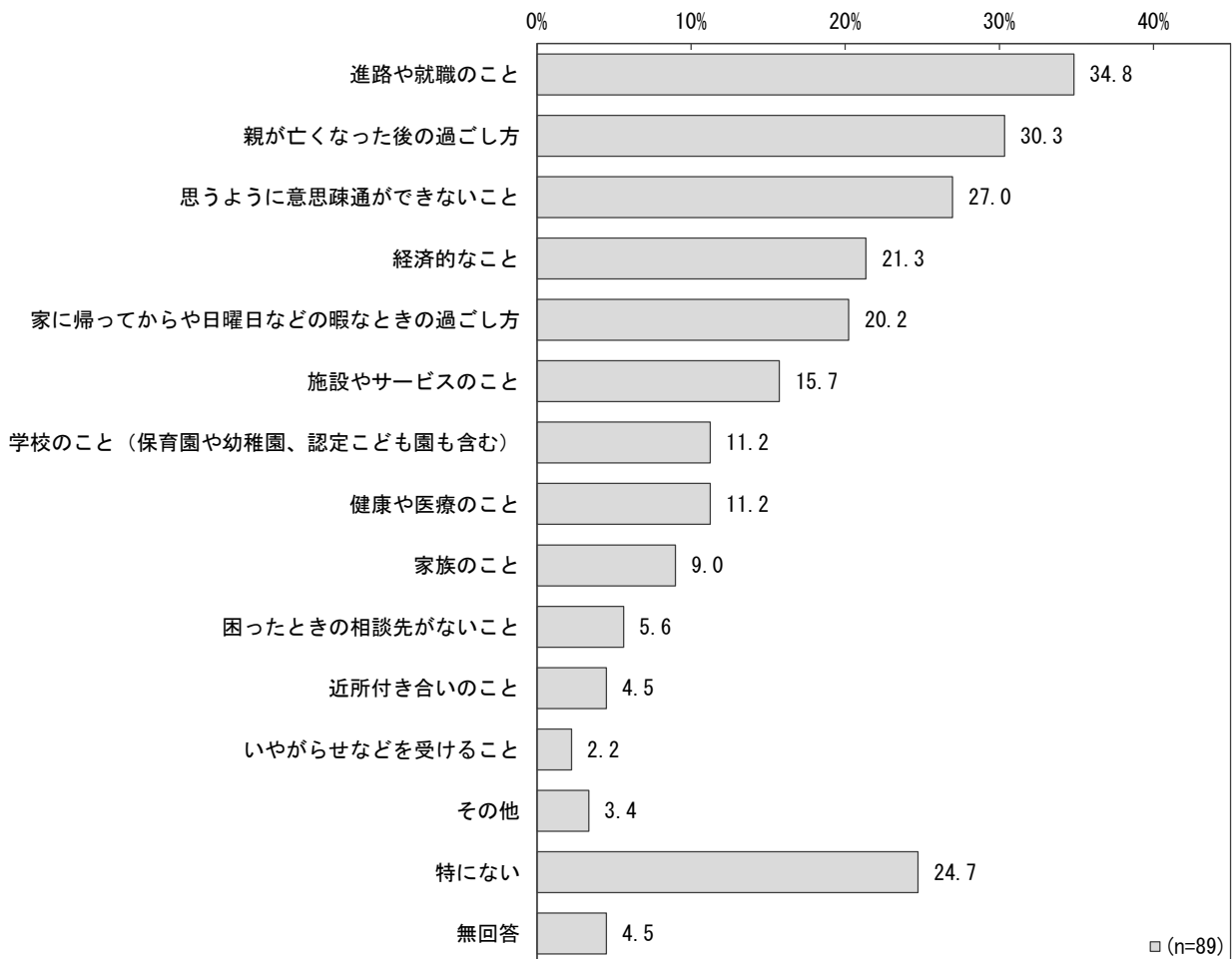


2 生活について

問5 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

生活で困っていることについては、全体では「進路や就職のこと」が34.8%と最も多く、次いで、「親が亡くなった後の過ごし方」が30.3%、「思うように意思疎通ができないこと」が27.0%となっています。

なお、「特にない」が24.7%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「特になし」が最も多く、それぞれ40.9%、50.0%となり、愛の手帳（療育手帳）所持者では「進路や就職のこと」が44.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「進路や就職のこと」、「親が亡くなった後の過ごし方」、「思うように意思疎通ができないこと」及び「経済的なこと」がいずれも37.5%、自立支援医療の受給者では「進路や就職のこと」及び「親が亡くなった後の過ごし方」がいずれも40.0%となっています。

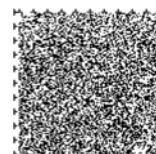
次いで、身体障害者手帳所持者では「思うように意思疎通ができないこと」が27.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「親が亡くなった後の過ごし方」が40.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「施設やサービスのこと」及び「家族のこと」が25.0%、自立支援医療の受給者では「経済的なこと」及び「家に帰ってからや日曜日などの暇なときの過ごし方」がそれぞれ30.0%となっています。

(単位:%)

	進路や就職のこと	親が亡くなった後の過ごし方	思うように意思疎通ができないこと	経済的なこと	家に帰ってからや日曜日などの暇なときの過ごし方	施設やサービスのこと	学校のこと（保育園や幼稚園、認定こども園も含む）	健康や医療のこと
全体 (n=89)	34.8	30.3	27.0	21.3	20.2	15.7	11.2	11.2
身体障害者手帳 (n=22)	18.2	18.2	27.3	9.1	22.7	13.6	9.1	13.6
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	44.4	40.7	35.2	22.2	25.9	14.8	7.4	7.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	37.5	37.5	37.5	37.5	12.5	25.0	12.5	12.5
自立支援医療の受給 (n=10)	40.0	40.0	20.0	30.0	30.0	10.0	20.0	20.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0

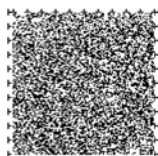
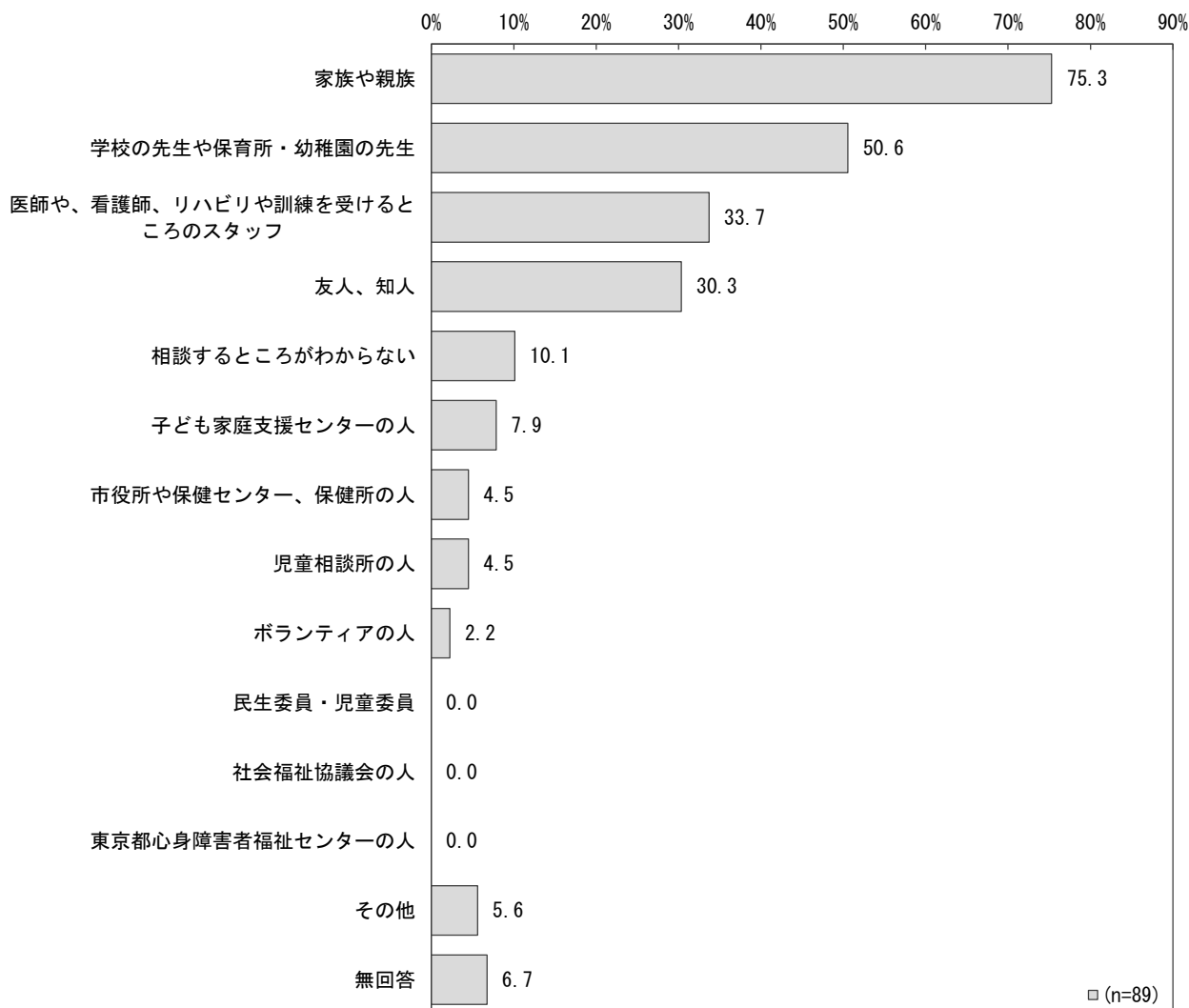
(単位:%)

	家族のこと	困ったときの相談先がないこと	近所付き合いのこと	いやがらせなどを受けること	その他	特になし	無回答
全体 (n=89)	9.0	5.6	4.5	2.2	3.4	24.7	4.5
身体障害者手帳 (n=22)	4.5	4.5	4.5	0.0	0.0	40.9	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	7.4	1.9	3.7	1.9	5.6	16.7	3.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0



問6 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

困っていることを相談する相手については、全体では「家族や親族」が75.3%と最も多く、次いで、「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」が50.6%、「医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ」が33.7%となっています。



障害種別ごとでは、障害の種別に関係なく「家族や親族」が最も多く、身体障害者手帳所持者では90.9%、自立支援医療の受給者では90.0%となり、他の障害種別でも70%以上となっています。

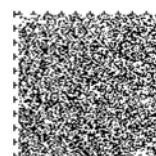
次いで、難病医療費など助成の受給者では「友人、知人」が50.0%、他の障害種別では「学校の先生や保育所・幼稚園の先生」となり、精神障害者保健福祉手帳所持者以外では50%以上となっています。

(単位:%)

	家族や親族	学校の先生や保育所・幼稚園の先生	医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ	友人、知人	相談するところがわからない	子ども家庭支援センターの人	市役所や保健センター、保健所の人	児童相談所の人
全体 (n=89)	75.3	50.6	33.7	30.3	10.1	7.9	4.5	4.5
身体障害者手帳 (n=22)	90.9	50.0	45.5	31.8	4.5	4.5	4.5	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=54)	72.2	57.4	31.5	31.5	13.0	11.1	5.6	7.4
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	75.0	37.5	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5
自立支援医療の受給 (n=10)	90.0	50.0	30.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	75.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

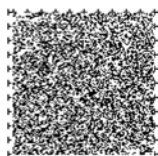
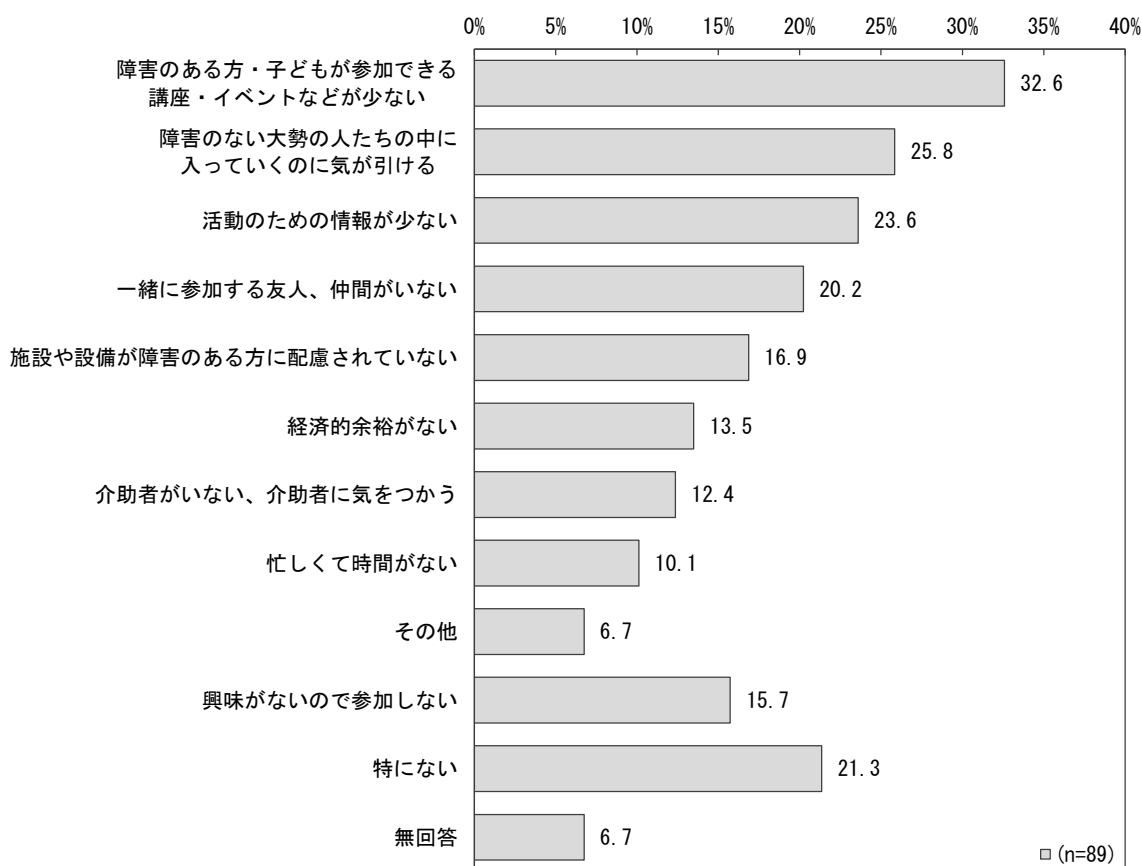
	ボランティアの人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の人	東京都心身障害者福祉センターの人	その他	無回答
全体 (n=89)	2.2	0.0	0.0	0.0	5.6	6.7
身体障害者手帳 (n=22)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5
愛の手帳 (療育手帳) (n=54)	3.7	0.0	0.0	0.0	3.7	3.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0



問7 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

余暇活動をするときに困っていることについては、全体では「障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない」が32.6%と最も多く、次いで、「障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける」が25.8%、「活動のための情報が少ない」23.6%となっています。

なお、「特にない」が21.3%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び難病医療費など助成の受給者では「特にない」が最も多く、それぞれ31.8%、50.0%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない」が40.7%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない」及び「興味がないので参加しない」がともに37.5%、自立支援医療の受給者では「活動のための情報が少ない」が40.0%となっています。

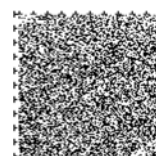
次いで、身体障害者手帳所持者では「施設や設備が障害のある方に配慮されていない」が27.3%、愛の手帳（療育手帳）所持者では「障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける」が29.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける」、「経済的余裕がない」及び「その他」がともに25.0%、自立支援医療の受給者では「障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない」、「障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける」及び「特にない」がともに30.0%となっています。

(単位：%)

	障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない	障害のない大勢の人たちの中に入って行くのに気が引ける	活動のための情報が少ない	一緒に参加する友人、仲間がない	施設や設備が障害のある方に配慮されていない	経済的余裕がない	介助者がいない、介助者に気がつかう
全体 (n=89)	32.6	25.8	23.6	20.2	16.9	13.5	12.4
身体障害者手帳 (n=22)	22.7	22.7	18.2	18.2	27.3	0.0	9.1
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	40.7	29.6	25.9	24.1	20.4	16.7	16.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	37.5	25.0	12.5	12.5	0.0	25.0	12.5
自立支援医療の受給 (n=10)	30.0	30.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)

	忙しくて時間がない	その他	興味がないので参加しない	特にない	無回答
全体 (n=89)	10.1	6.7	15.7	21.3	6.7
身体障害者手帳 (n=22)	4.5	4.5	4.5	31.8	4.5
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	14.8	7.4	14.8	14.8	5.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	0.0	25.0	37.5	12.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	0.0	0.0	20.0	30.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0

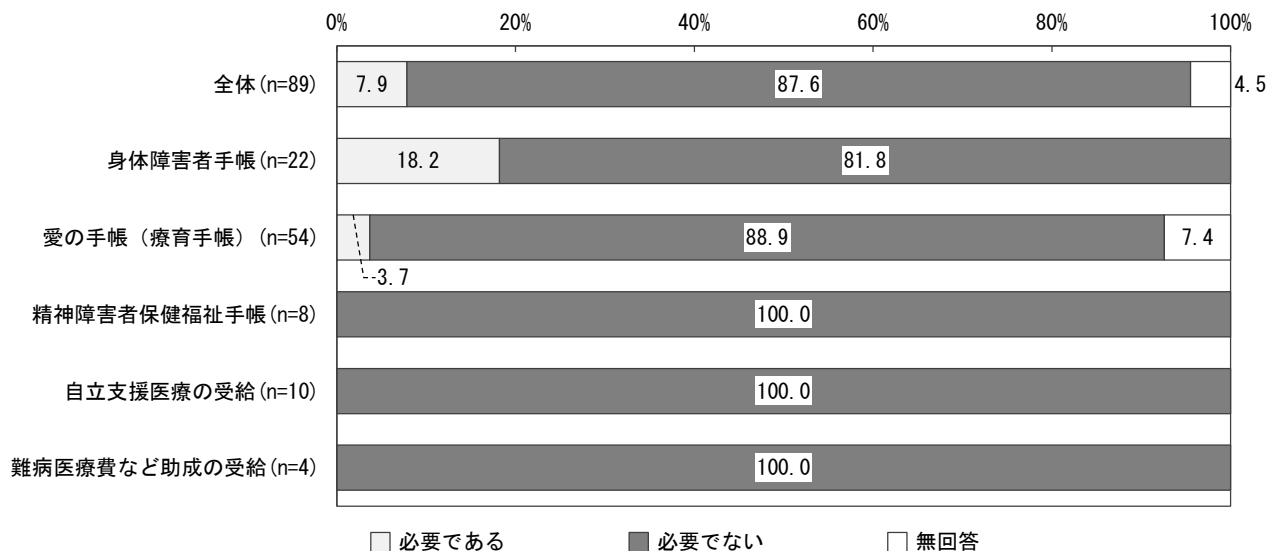


3 健康・医療・リハビリテーションについて

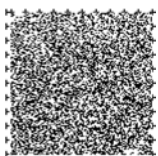
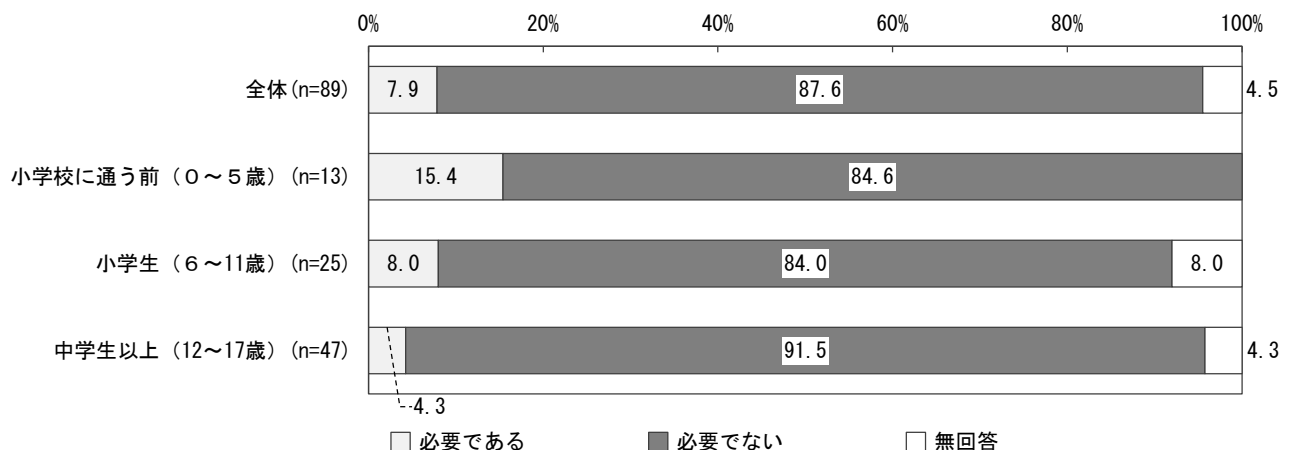
問8 あなたは、ふだんの生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的ケアが必要ですか。
(1つに〇)

普段の生活で医療的ケアが「必要である」と回答した人は、全体では7.9%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で18.2%、愛の手帳（療育手帳）所持者で3.7%となっています。



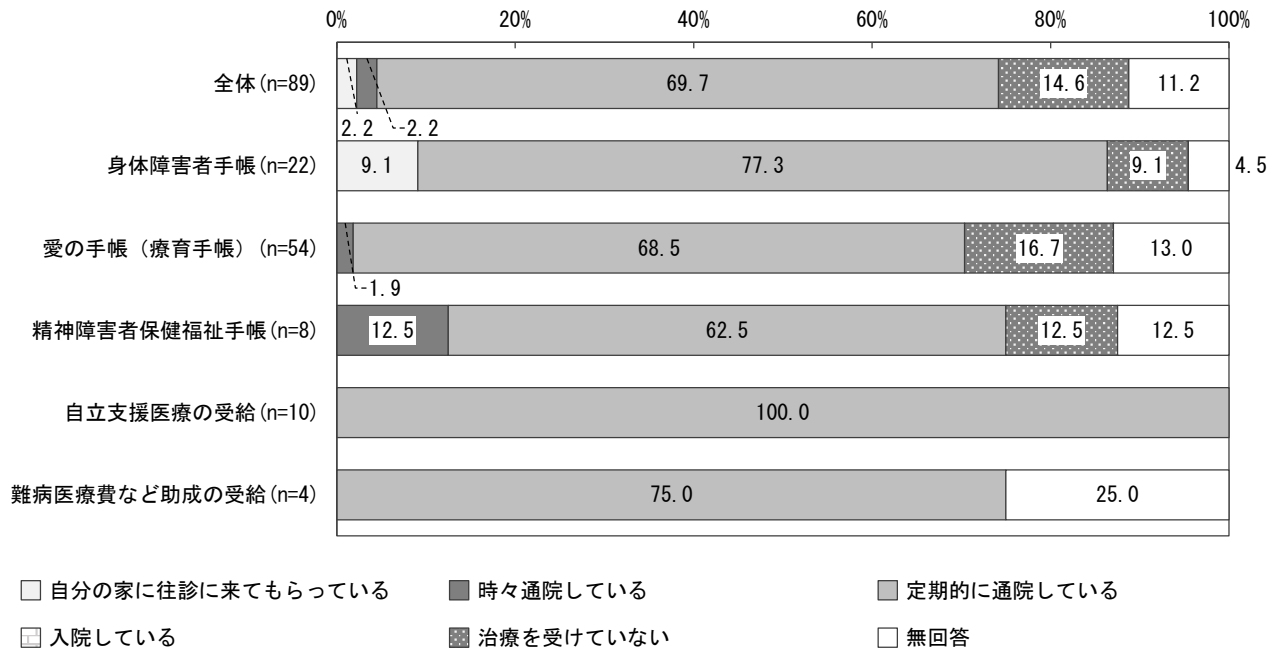
年代別では、「必要である」と回答した人は、小学校に通う前（0～5歳）で15.4%、小学生（6～11歳）で8.0%、中学生以上（12～17歳）で4.3%となっています。



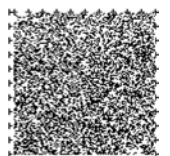
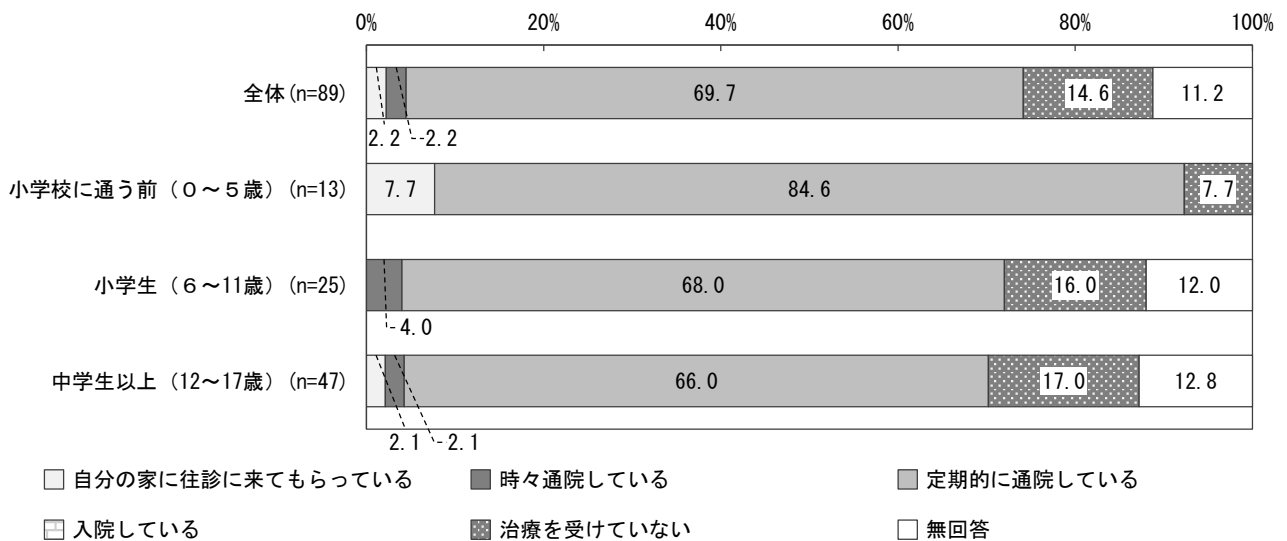
問9 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

現在、医師の治療を受けている人（「自分の家に往診に来てもらっている」、「時々通院している」、「定期的に通院している」及び「入院している」の合計。以下、同じ。）は、全体では74.1%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で86.4%、愛の手帳（療育手帳）所持者で70.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者で75.0%、自立支援医療の受給者で100.0%、難病医療費など助成の受給者で75.0%となっています。



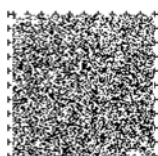
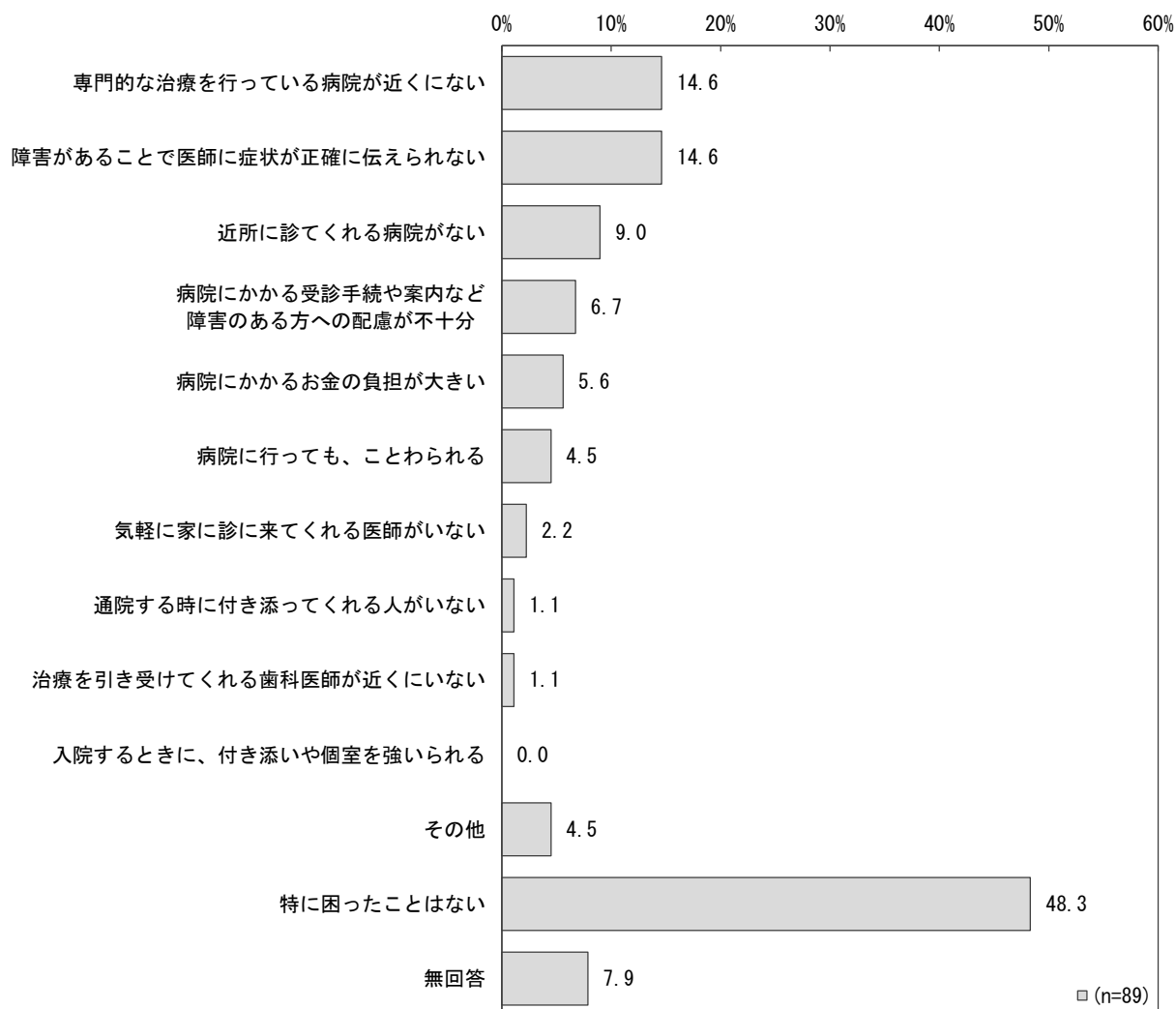
年代別では、現在、医師の治療を受けている人は、小学校に通う前（0～5歳）で92.3%、小学生（6～11歳）で72.0%、中学生以上（12～17歳）で70.2%となっています。



問10 病院にかかるときに、困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

病院にかかるときに困っていることについては、全体では「専門的な治療を行っている病院が近くにない」及び「障害があることで医師に症状が正確に伝えられない」が14.6%と最も多く、次いで、「近所に診てくれる病院がない」が9.0%、「病院にかかる受診手続や案内など障害のある方への配慮が不十分」が6.7%となっています。

なお、「特に困ったことはない」が全体では48.3%となっています。



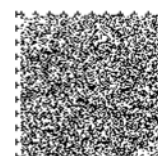
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「専門的な治療を行っている病院が近くにない」が31.8%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害があることで医師に症状が正確に伝えられない」がそれぞれ18.5%、25.0%、自立支援医療の受給者では「近所に診てくれる病院がない」が30.0%、難病医療費など助成の受給者では「専門的な治療を行っている病院が近くにない」、「近所に診てくれる病院がない」及び「病院に行っても、ことわられる」がそれぞれ25.0%となっています。

(単位:%)

	専門的な治療を行っている病院が近くにない	障害があることで医師に症状が正確に伝えられない	近所に診てくれる病院がない	病院にかかる受診手続や案内など障害のある方への配慮が不十分	病院にかかるお金の負担が大きい	病院に行っても、ことわられる	気軽に家に診に来てくれる医師がない
全体 (n=89)	14.6	14.6	9.0	6.7	5.6	4.5	2.2
身体障害者手帳 (n=22)	31.8	9.1	9.1	4.5	0.0	0.0	4.5
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	7.4	18.5	3.7	9.3	5.6	5.6	1.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	12.5	25.0	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	20.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0

(単位:%)

	通院する時に付き添ってくれる人がいない	治療を引き受けてくれる歯科医師が近くにいない	入院するときに、付き添いや個室を強いられる	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=89)	1.1	1.1	0.0	4.5	48.3	7.9
身体障害者手帳 (n=22)	0.0	4.5	0.0	0.0	50.0	4.5
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	1.9	0.0	0.0	3.7	46.3	11.1
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	0.0	0.0	0.0	25.0	37.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0

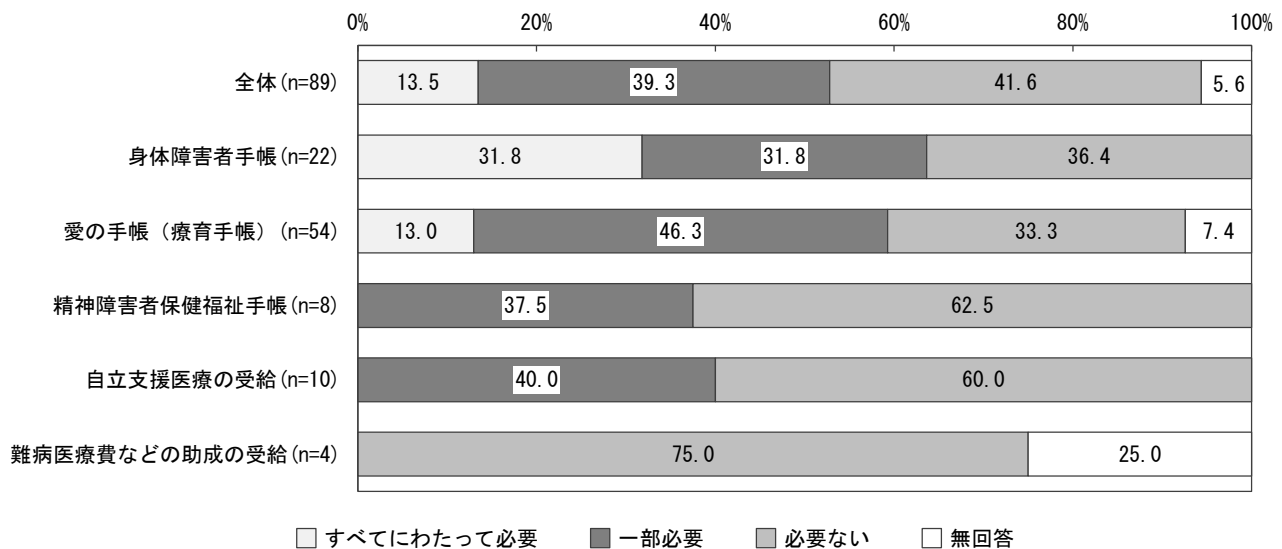


4 介助（支援）の状況について

問 1 1 現在、あなたは介助（支援）が必要ですか。（1つに○）

現在、介助が必要な人（「すべてにわたって必要」及び「一部必要」の合計。以下、同じ。）は、全体では52.8%となっています。

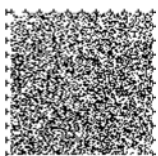
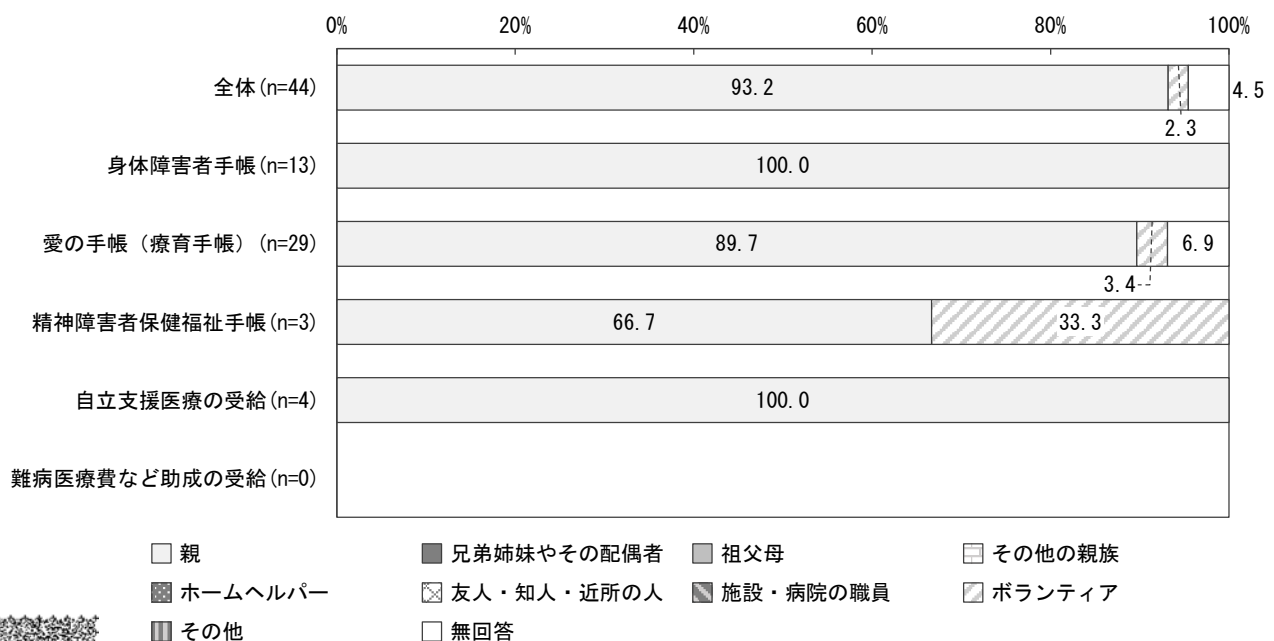
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者で63.6%、愛の手帳（療育手帳）所持者で59.3%、精神障害者保健福祉手帳所持者で37.5%、自立支援医療費の受給者で40.0%となっています。



問 1 1 で「1. すべてにわたって必要」「2. 一部必要」と答えた方におうかがいします。

問 1 2 あなたの介助（支援）をおもにしているのはどなたですか。（1つに○）

介助が必要な人の介助（支援）者は、障害種別に関係なく「親」が最も多く、次いで、「ボランティア」となっています。



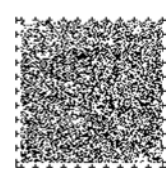
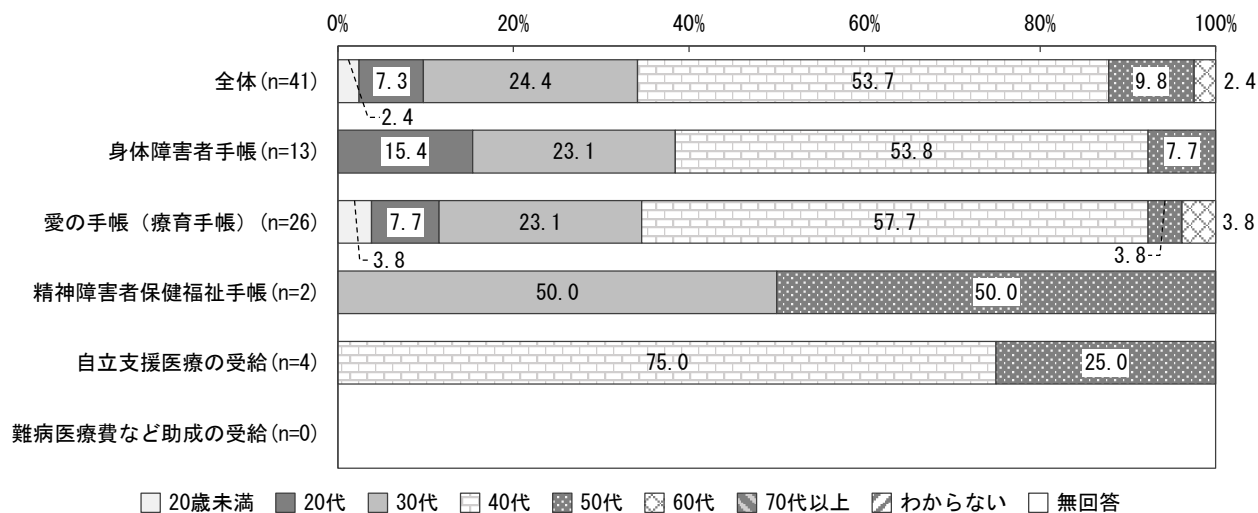
問12で「1」～「4」と答えた方におうかがいします。

問13 その方の年齢について教えてください。（1つに○）

介助者（支援者）の年齢は、全体では、「40代」が53.7%と最も多く、次いで、「30代」が24.4%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者、愛の手帳（療育手帳）所持者及び自立支援医療の受給者では「40代」が最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「30代」が、自立支援医療の受給者では「50代」が多くなっています。

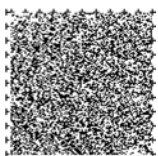
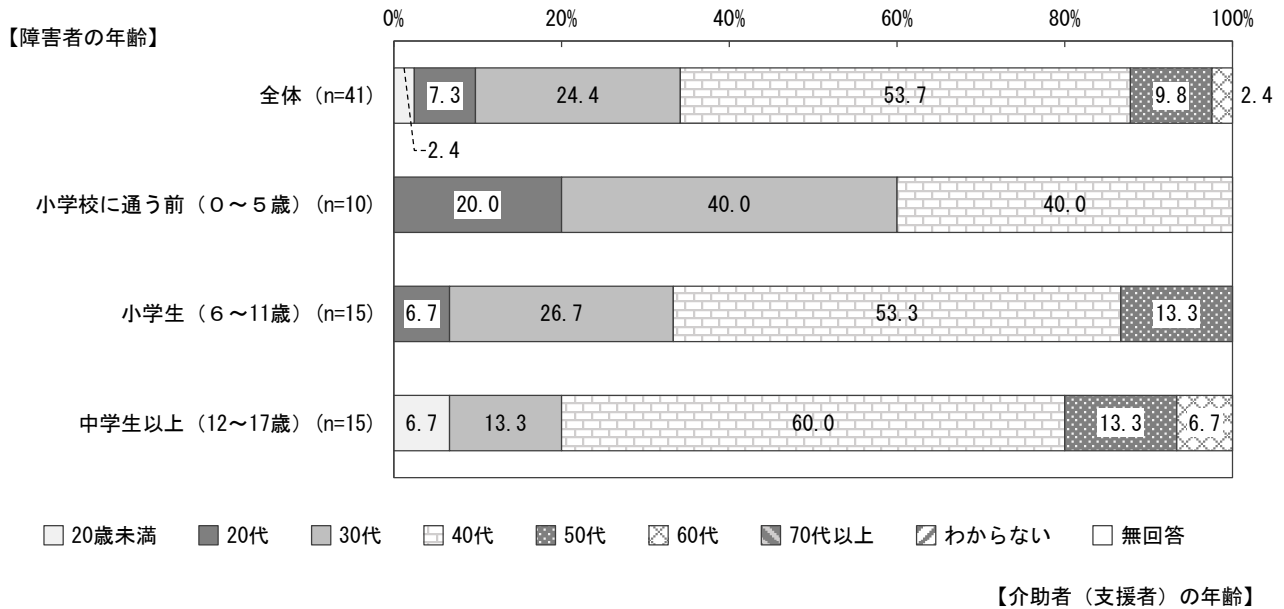
なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「30代」及び「50代」がそれぞれ50.0%となっています。



■ 障害者の年齢（問2）×介助者（支援者の年齢）（問13）

障害者の年齢が小学校に通う前（0～5歳）では、介助者（支援者）の年齢は「30代」及び「40代」がともに40.0%と最も多く、小学生（6～11歳）及び中学生以上（12～17歳）では「40代」が最も多く、それぞれ53.3%、60.0%となっています。

障害者の年代が上がるにつれて介助者（支援者）の年齢も高くなっていき、中学生以上（12～17歳）では「60代」が6.7%となっています。

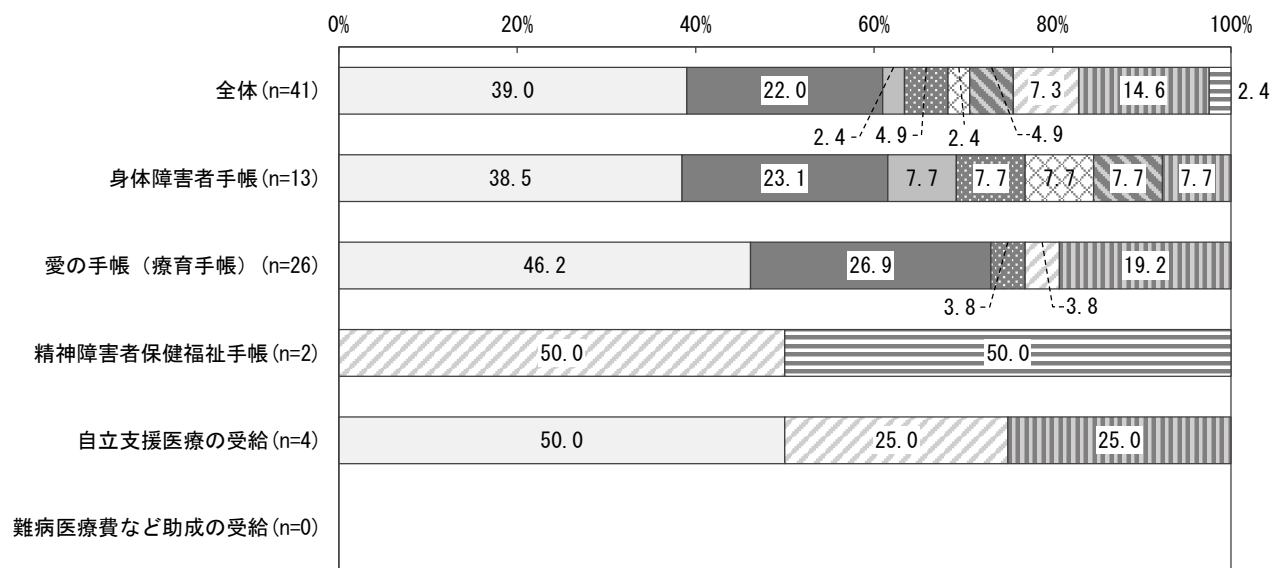


問14 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

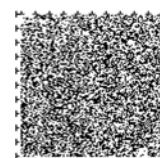
介助者（支援者）が介助（支援）できないときは、全体では、「一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む」が39.0%と最も多く、次いで、「他の家に住む家族・親族に頼む」が22.0%となっています。

障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者及び自立支援医療の受給者では「一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む」が最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「他の家に住む家族・親族に頼む」が、自立支援医療の受給者では「一人で何とかする」、「わからない」が多くなっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では「一人でなんとかする」及び「その他」がそれぞれ50.0%となっています。



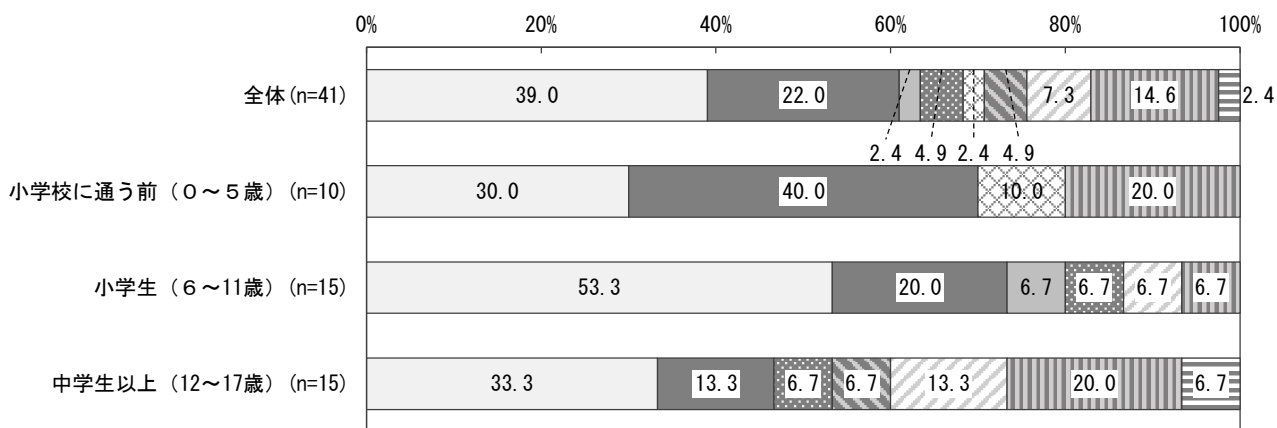
- 一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む
- ホームヘルパーに依頼する
- 施設や病院などに依頼する
- その他
- 他の家に住む家族・親族に頼む
- ショートステイを利用する
- 一人でなんとかする
- 無回答
- 近所の人や知人に頼む
- 民間の有償介助サービスを利用する
- わからない



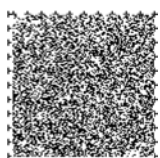
年代別では、小学校に通う前（0～5歳）では「他の家に住む家族・親族に頼む」が40.0%と最も多く、次いで、「一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む」が30.0%となっています。

一方で、小学生（6～11歳）及び中学生以上（12歳～17歳）では、「一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む」が最も多く、それぞれ53.3%、33.3%となっています。

次いで、小学生（6～11歳）では「他の家に住む家族・親族に頼む」が20.0%、中学生以上（12～17歳）では「わからない」が20.0%となっています。

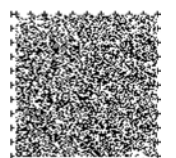
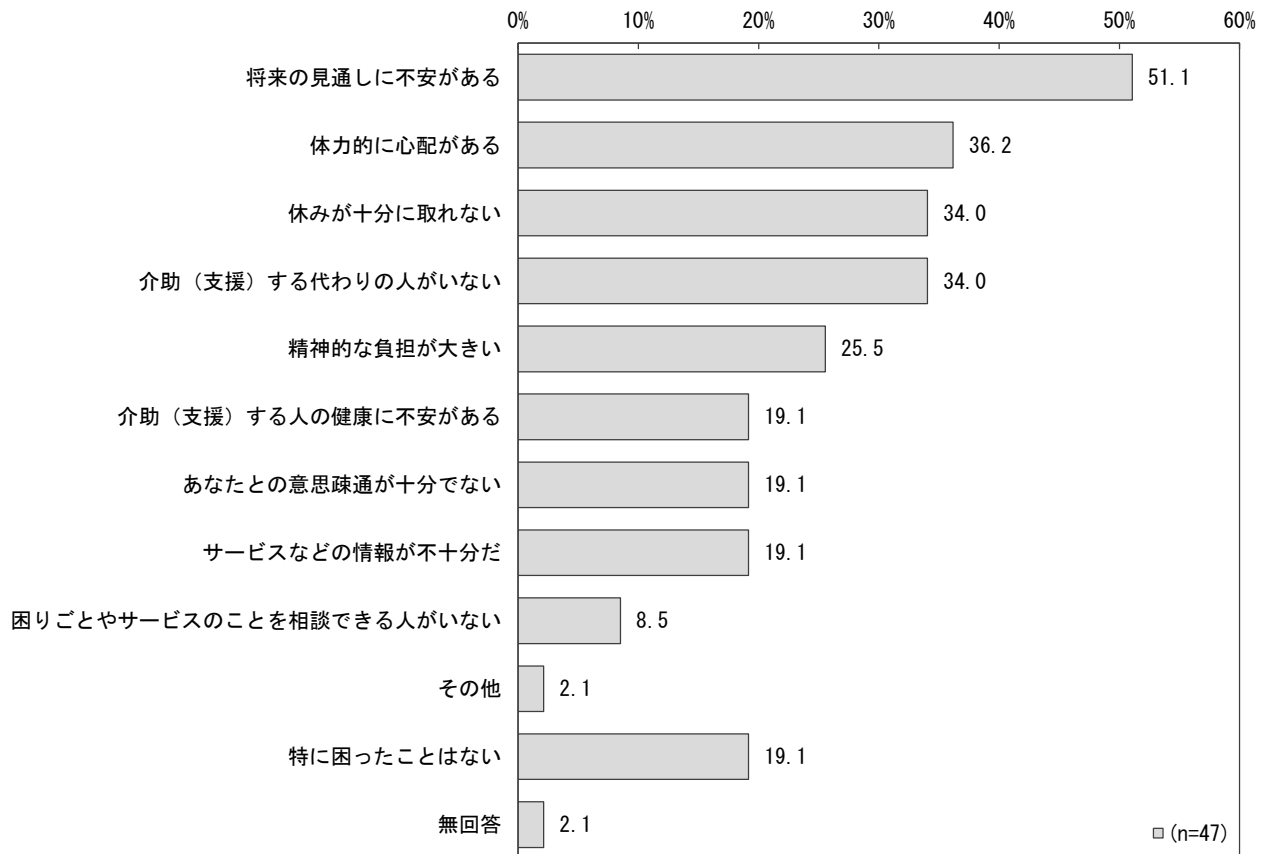


- 一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む
- 他の家に住む家族・親族に頼む
- ▨ 近所の人や知人に頼む
- ▤ ホームヘルパーに依頼する
- ▥ ショートステイを利用する
- ▧ 民間の有償介助サービスを利用する
- ▩ 施設や病院などに依頼する
- 一人でなんとかする
- わからない
- ▬ その他
- 無回答



問15 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

介助（支援）者が困っていることについては、全体では、「将来の見通しに不安がある」が51.1%と最も多く、次いで、「体力的に心配がある」が36.2%、「休みが十分に取れない」及び「介助（支援）する代わりに人がいない」がともに34.0%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「休みが十分に取れない」が57.1%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者では「将来の見通しに不安がある」が53.1%、自立支援医療の受給者では「将来の見通しに不安がある」が100.0%となっています。

なお、精神障害者保健福祉手帳所持者では、「特に困ったことはない」が66.7%となっています。

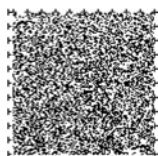
次いで、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「体力的に心配がある」がそれぞれ42.9%、43.8%となっています。

(単位:%)

	将来の見通しに不安がある	体力的に心配がある	休みが十分に取れない	介助（支援）する代わりの人がいない	精神的な負担が大きい	介助（支援）する人の健康に不安がある	いあなたとの意思疎通が十分でない
全体(n=47)	51.1	36.2	34.0	34.0	25.5	19.1	19.1
身体障害者手帳(n=14)	35.7	42.9	57.1	35.7	14.3	28.6	14.3
愛の手帳（療育手帳）(n=32)	53.1	43.8	28.1	37.5	31.3	21.9	25.0
精神障害者保健福祉手帳(n=3)	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
自立支援医療の受給(n=4)	100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	サービスなどの情報が不十分だ	困りごとやサービスのことを相談できる人がいない	その他	特に困ったことはない	無回答
全体(n=47)	19.1	8.5	2.1	19.1	2.1
身体障害者手帳(n=14)	14.3	7.1	7.1	14.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=32)	21.9	3.1	3.1	18.8	3.1
精神障害者保健福祉手帳(n=3)	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0
自立支援医療の受給(n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

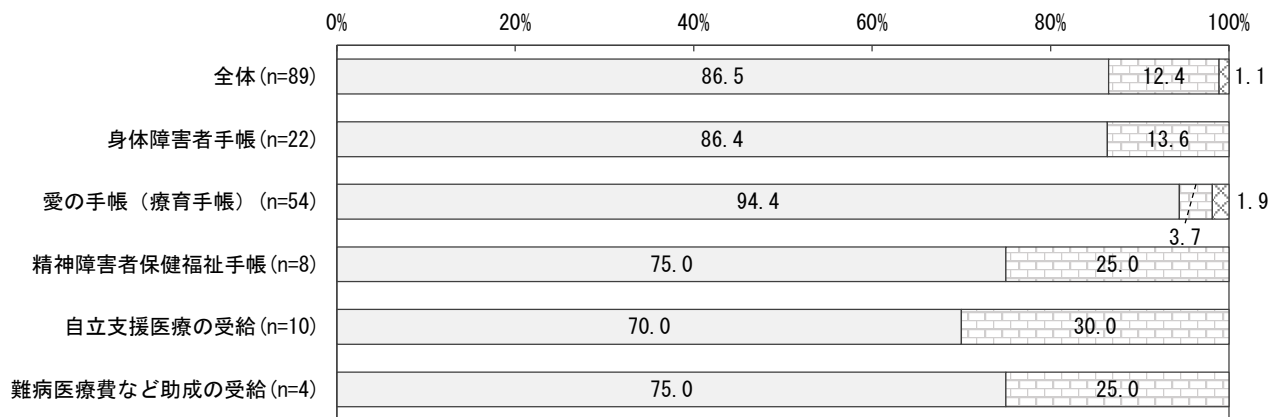


5 日中の過ごし方について

問16 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何をして）過ごしていますか。（1つに○）

平日の昼間の過ごし方については、全体では「学校に通っている」が86.5%と最も多く、次いで、「主に自宅にいる」が12.4%となっています。

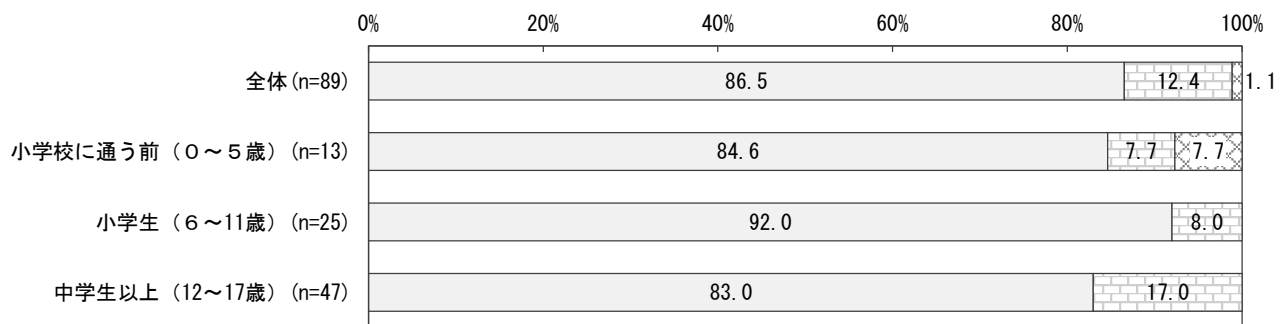
障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「学校に通っている」が最も多く、特に、愛の手帳（療育手帳）所持者では94.4%、身体障害者手帳所持者では86.4%となっています。



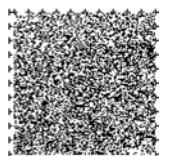
- 学校に通っている（保育園や、認定こども園を含む）
- 施設に入所している
- 病院に入院している
- 主に自宅にいる
- 就学前年齢のため自宅にいる
- その他
- 無回答

年代別では、全ての年代で「学校に通っている」が最も多く、小学校に通う前（0～5歳）で84.6%、小学生（6～11歳）で92.0%、中学生以上（12～17歳）で83.0%となっています。

次いで、全ての年代で「主に自宅にいる」となり、小学校に通う前（0～5歳）で7.7%、小学生（6～11歳）で8.0%、中学生以上（12～17歳）で17.0%となっています。



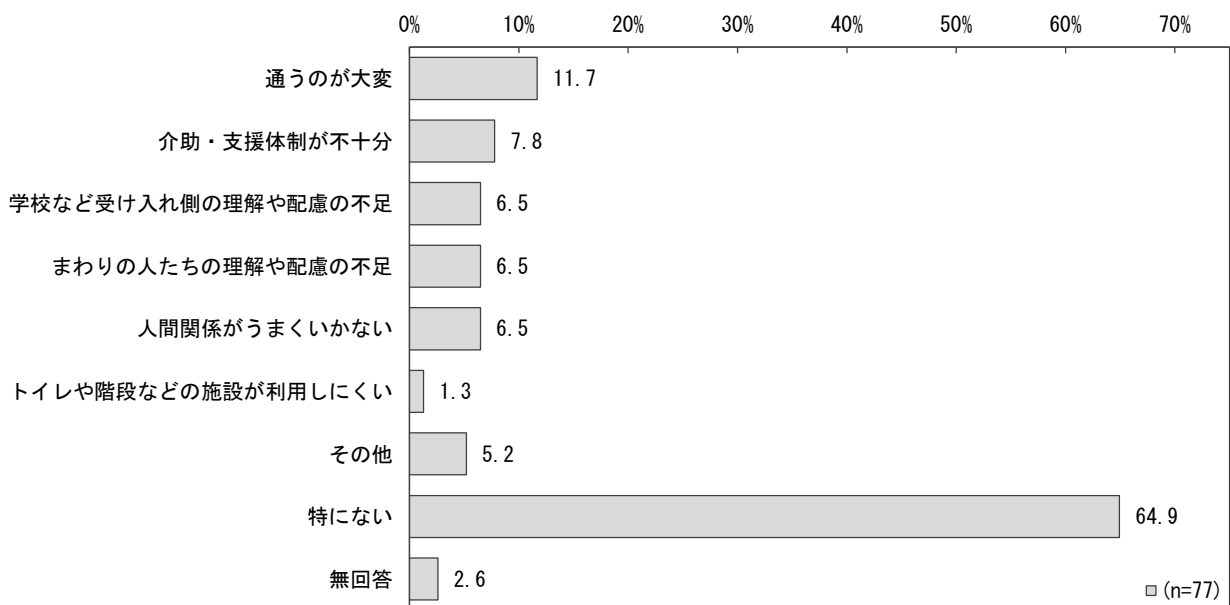
- 学校に通っている（保育園や、認定こども園を含む）
- 施設に入所している
- 病院に入院している
- 主に自宅にいる
- 就学前年齢のため自宅にいる
- その他
- 無回答



問16で「1. 学校に通っている」と答えた方におうかがいします。

問17 あなたは、通園や通学で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

通園や通学で困っていることについては、「特にない」が64.9%と最も多く、次いで、「通うのが大変」が11.7%、「介助・支援体制が不十分」が7.8%となっています。

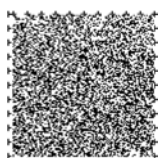


障害種別ごとでは、「特にない」を除くと、身体障害者手帳所持者では「通うのが大変」が31.6%と最も多く、愛の手帳（療育手帳）所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「人間関係がうまくいかない」がそれぞれ9.8%、16.7%となっています。

また、自立支援医療の受給者では、「通うのが大変」、「介助・支援体制が不十分」、「学校など受け入れ側の理解や配慮の不足」及び「まわりの人たちの理解や配慮の不足」がそれぞれ14.3%となっています。

(単位:%)

	通うのが大変	介助・支援体制が不十分	学校など受け入れ側の理解や配慮の不足	まわりの人たちの理解や配慮の不足	人間関係がうまくいかない	トイレや階段などの施設が利用しにくい	その他	特にない	無回答
全体(n=77)	11.7	7.8	6.5	6.5	6.5	1.3	5.2	64.9	2.6
身体障害者手帳(n=19)	31.6	10.5	5.3	10.5	0.0	5.3	0.0	57.9	0.0
愛の手帳（療育手帳）(n=51)	7.8	7.8	7.8	3.9	9.8	0.0	7.8	60.8	3.9
精神障害者保健福祉手帳(n=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	83.3	0.0
自立支援医療の受給(n=7)	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	57.1	0.0
難病医療費など助成の受給(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0



6 将来の過ごし方について

問18 おとなになったらどのように暮らしたいですか。(1つに○)

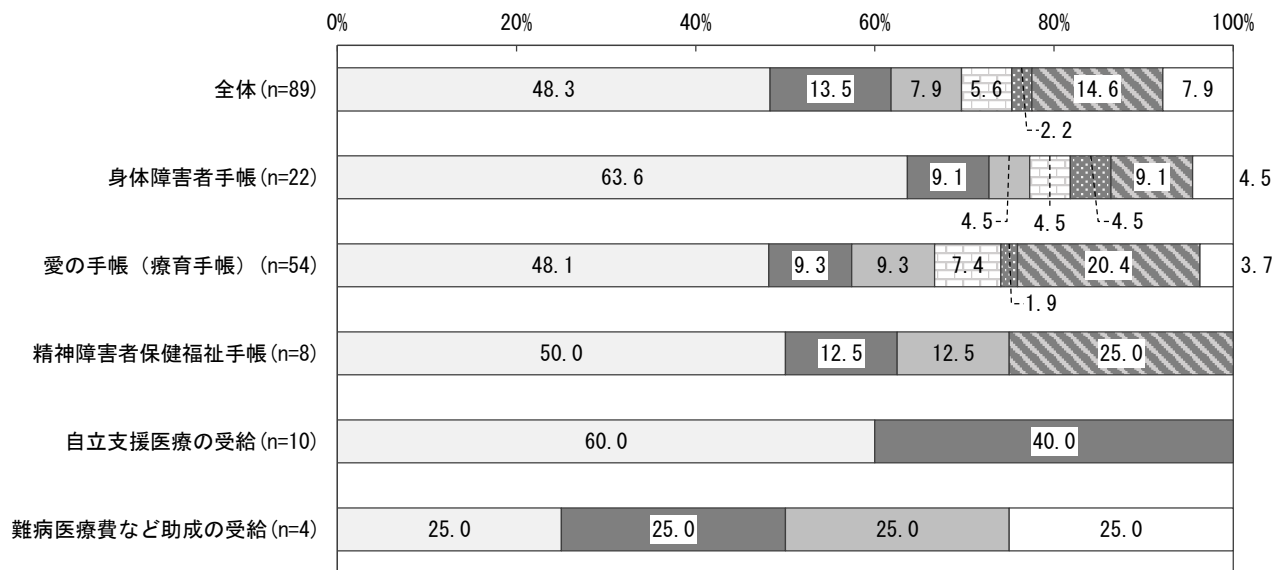
将来の暮らし方については、全体では「家族と一緒に暮らしたい」が48.3%と最も多く、次いで、「一人で暮らしたい」が13.5%となっています。

なお、「わからない」が14.6%となっています。

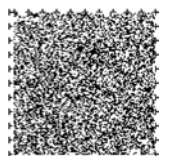
障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、特に、身体障害者手帳所持者では63.6%、自立支援医療の受給者では60.0%となっています。

次いで、「一人で暮らしたい」が自立支援医療の受給者では40.0%、難病医療費など助成の受給者では25.0%となっています。

なお、「わからない」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では25.0%、愛の手帳（療育手帳）所持者では20.4%となっています。

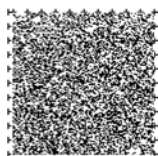
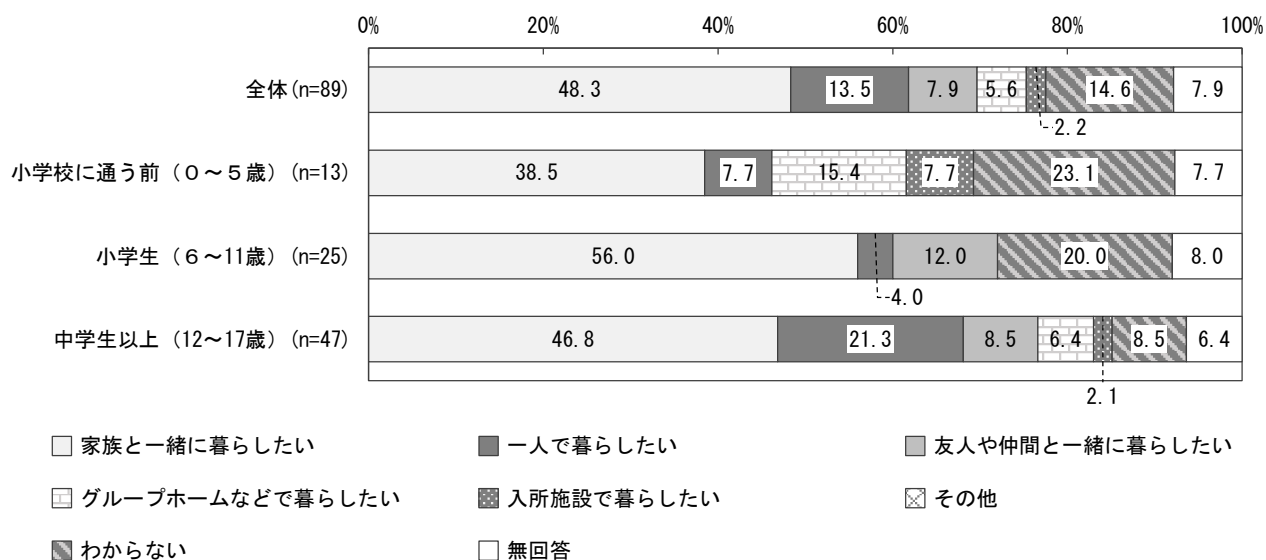


- 家族と一緒に暮らしたい
- 一人で暮らしたい
- 友人や仲間と一緒に暮らしたい
- グループホームなどで暮らしたい
- 入所施設で暮らしたい
- その他
- わからない
- 無回答



年代別では、全ての年代で「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、小学校に通う前（0～5歳）では38.5%、小学生（6～11歳）では56.0%、中学生以上（12～17歳）では46.8%となっています。

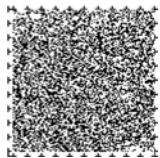
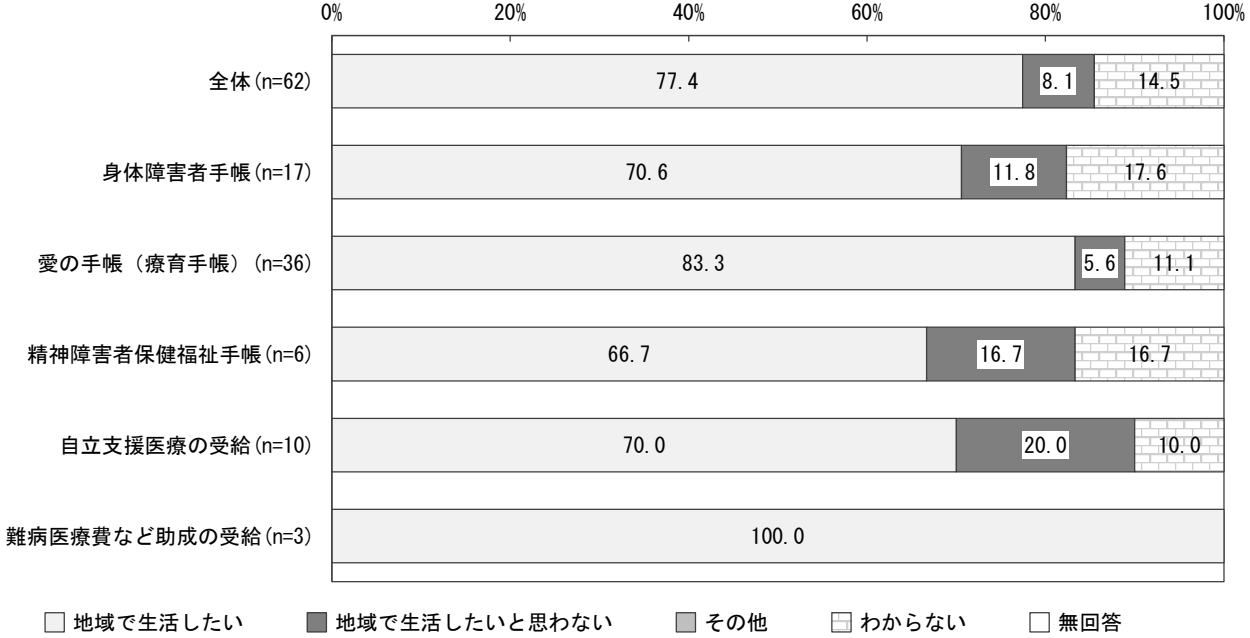
次いで、中学生以上（12～17歳）では「一人で暮らしたい」が21.3%、小学生に通う前（0～5歳）及び小学生（6～11歳）では「わからない」がそれぞれ23.1%、20.0%となっています。



問 19 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。(1つに○)

将来の生活については、全体では「地域で生活したい」が77.4%、「地域で生活したいと思わない」が8.1%、「わからない」が14.5%となっています。

障害種別ごとでは、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では「地域で生活したいと思わない」がそれぞれ16.7%、20.0%で、他の障害種別より多くなっています。

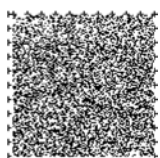
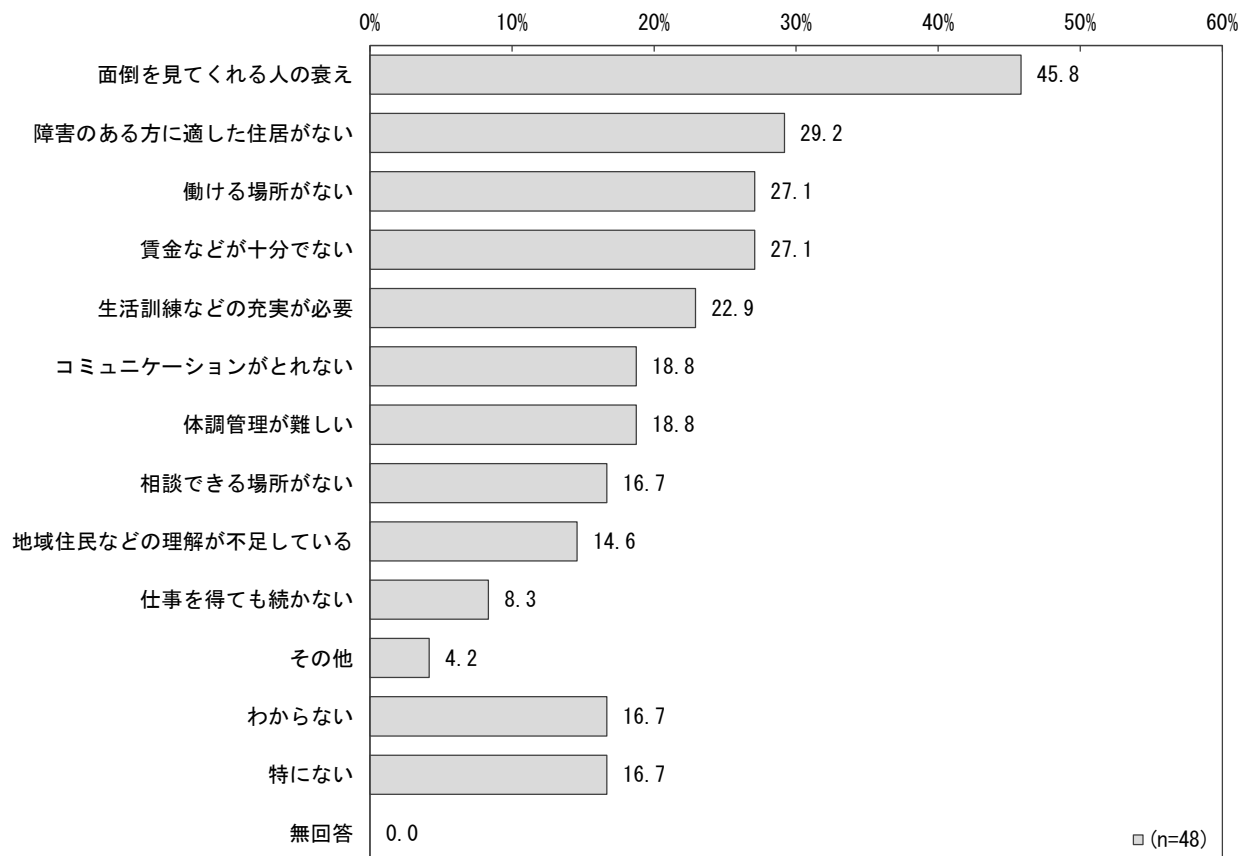


問19で「1. 地域で生活したい」と答えた方におうかがいします。

問20 地域で生活するためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するにあたっての課題と感じていることは、全体では、「面倒を見てくれる人の衰え」が45.8%と最も多く、次いで、「障害のある方に適した住居がない」が29.2%、「働ける場所がない」及び「賃金などが十分でない」がともに27.1%となっています。

なお、「わからない」及び「特にない」がそれぞれ16.7%となっています。



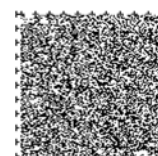
障害種別ごとでは、自立支援医療の受給者と難病医療費など助成の受給者を除く障害者では、「面倒を見てくれる人の衰え」が最も多く、自立支援医療の受給者では「生活訓練などの充実が必要」が最も多くなっています。

(単位:%)

	面倒を見てくれる人の衰え	障害のある方に適した住居がない	働ける場所がない	賃金などが十分でない	生活訓練などの充実が必要	コミュニケーションがとれない	体調管理が難しい	相談できる場所がない
全体 (n=48)	45.8	29.2	27.1	27.1	22.9	18.8	18.8	16.7
身体障害者手帳 (n=12)	66.7	58.3	41.7	16.7	8.3	8.3	50.0	16.7
愛の手帳 (療育手帳) (n=30)	56.7	23.3	30.0	33.3	16.7	23.3	10.0	13.3
精神障害者保健福祉手帳 (n=4)	75.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	50.0
自立支援医療の受給 (n=7)	14.3	28.6	0.0	0.0	42.9	14.3	14.3	14.3
難病医療費など助成の受給 (n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	地域住民などの理解が不足している	仕事を得ても続かない	その他	わからない	特にない	無回答
全体 (n=48)	14.6	8.3	4.2	16.7	16.7	0.0
身体障害者手帳 (n=12)	16.7	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=30)	16.7	6.7	3.3	16.7	20.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=4)	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=7)	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0



7 外出や活動などについて

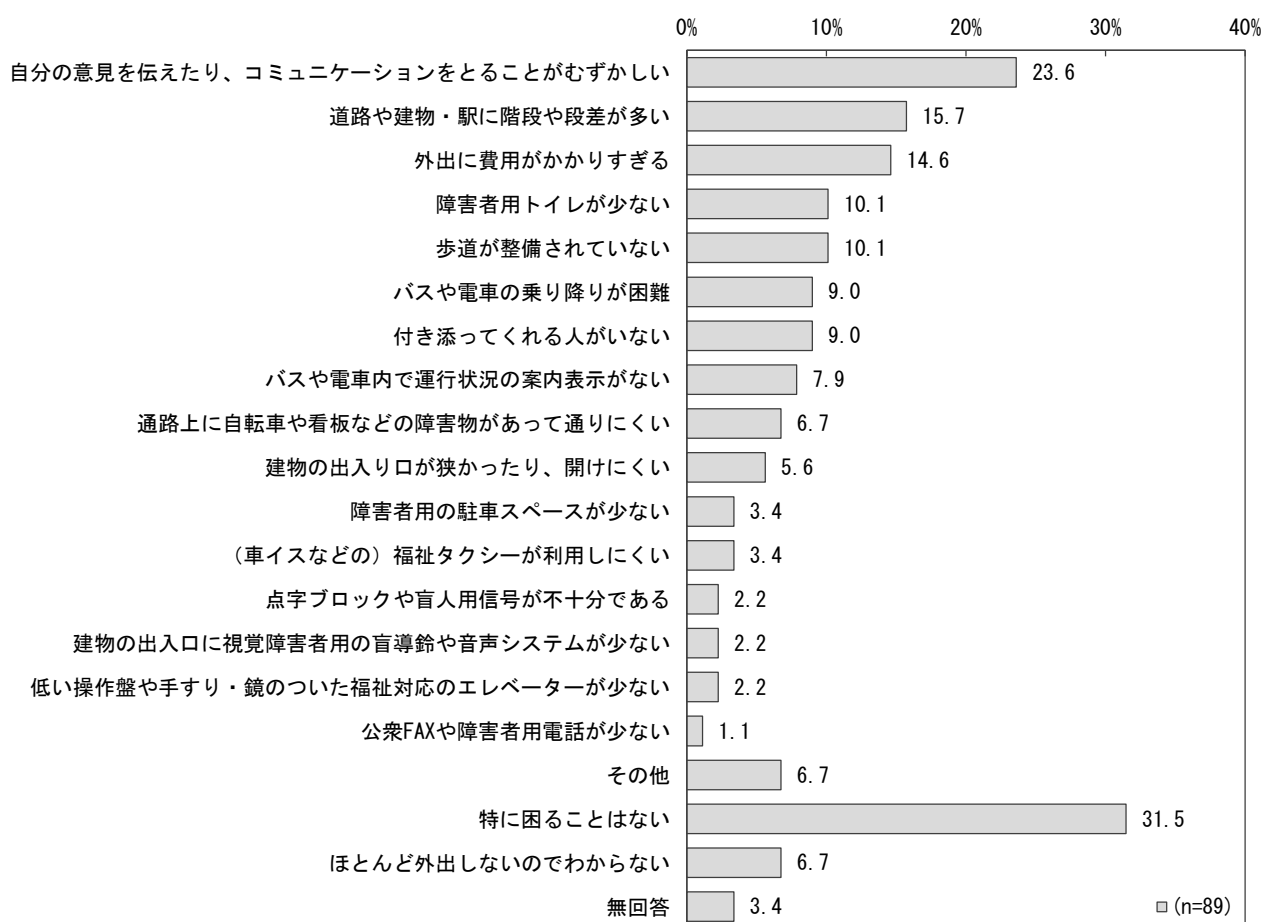
問21 外出する時に、不便に感じることや困っていることはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

外出する時に不便に感じることや困っていることは、身体障害者手帳所持者では「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が40.9%と最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「バスや電車内で運行状況の案内表示がない」が37.5%と最も多くなっています。

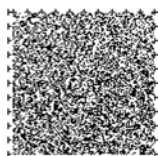
また、愛の手帳(療育手帳)所持者、自立支援医療の受給者及び難病医療費など助成の受給者では「特に困ることはない」が最も多く、それぞれ27.8%、40.0%、75.0%となっています。

なお、障害種別に関係なく、「自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい」や「外出に費用がかかりすぎる」が多くなっています。



以下では寄せられたご意見を分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

「4. 歩道が整備されていない」具体的な場所	「5. 障害者用の駐車スペースが少ない」具体的な場所
<ul style="list-style-type: none"> 伊奈平から残堀付近 中央3丁目、整備というか通学が危ない。 新青梅街道 ●●●●●●●● 	<ul style="list-style-type: none"> ●●●●●●●●

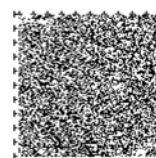


(単位:%)

	自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	道路や建物・駅に階段や段差が多い	外出に費用がかかりすぎる	障害者用トイレが少ない	歩道が整備されていない	バスや電車の乗り降りが困難	付き添ってってくれる人がいない	バスや電車内で運行状況の案内表示がない	通路上に自転車や看板などの障害物があつて通りにくい	建物の出入り口が狭かったり、開けにくい
全体 (n=89)	23.6	15.7	14.6	10.1	10.1	9.0	9.0	7.9	6.7	5.6
身体障害者手帳 (n=22)	22.7	40.9	9.1	22.7	22.7	13.6	13.6	4.5	18.2	22.7
愛の手帳 (療育手帳) (n=54)	25.9	14.8	14.8	13.0	7.4	9.3	11.1	7.4	7.4	5.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	37.5	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	30.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	障害者用の駐車スペースが少ない	(車イスなどの) 福祉タクシーが利用しにくい	点字ブロックや盲人用信号が不十分である	建物の出入口に視覚障害者用の盲導鈴や音声システムが少ない	低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない	公衆 F A X や障害者用電話が少ない	その他	特に困ることはない	ほとんど外出しないのでわからない	無回答
全体 (n=89)	3.4	3.4	2.2	2.2	2.2	1.1	6.7	31.5	6.7	3.4
身体障害者手帳 (n=22)	9.1	13.6	4.5	4.5	9.1	4.5	9.1	18.2	0.0	0.0
愛の手帳 (療育手帳) (n=54)	1.9	1.9	1.9	1.9	0.0	0.0	9.3	27.8	3.7	5.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	37.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	30.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0

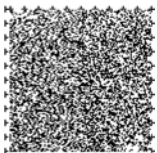
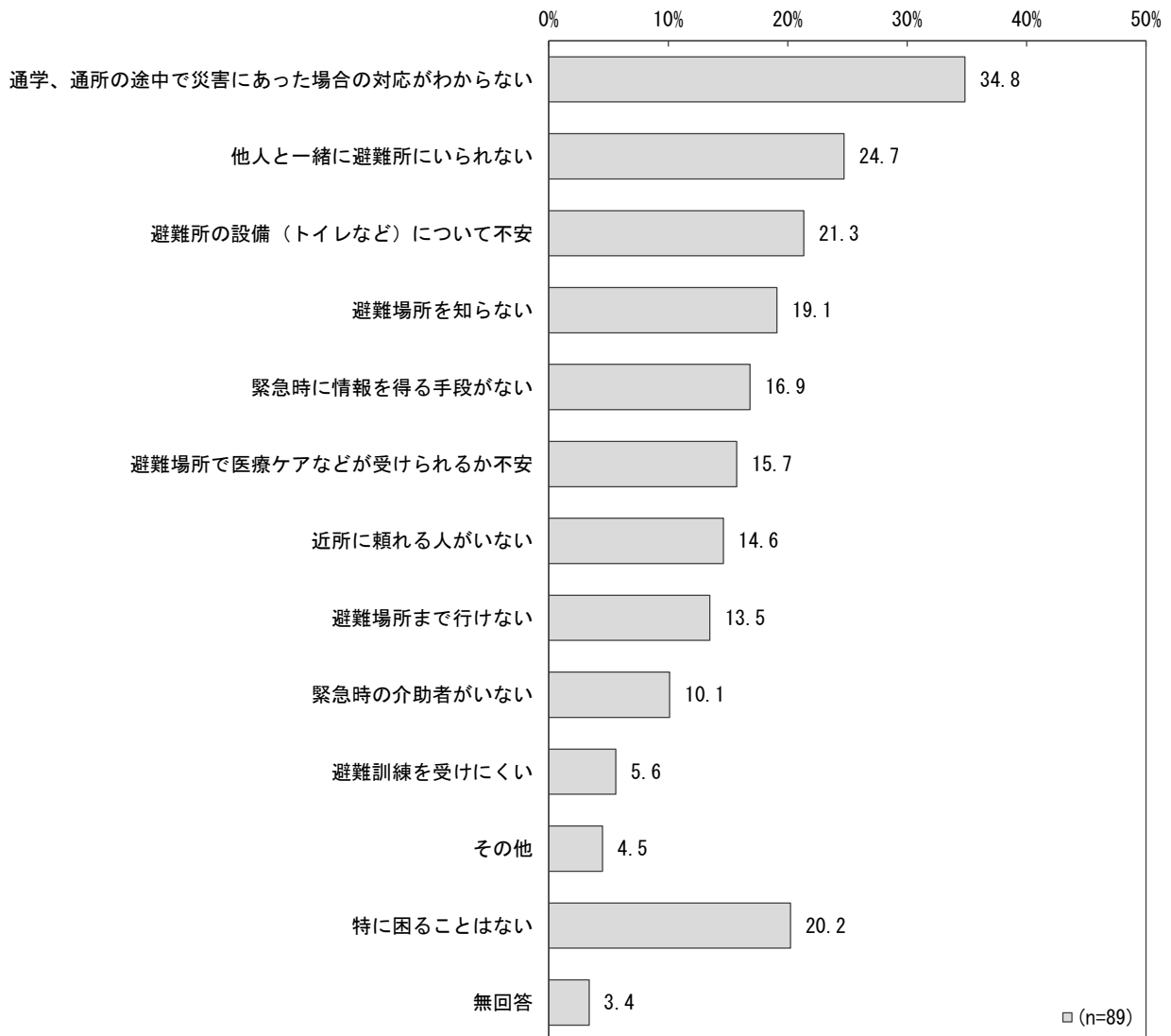


8 防災対策について

問22 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

災害時に困ることについて、全体では、「通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」が34.8%と最も多く、次いで、「他人と一緒に避難所にいられない」が24.7%、「避難所の設備（トイレなど）について不安」が21.3%となっています。

なお、「特に困ることはない」が20.2%となっています。



障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者では「避難所の設備（トイレなど）について不安」が50.0%と最も多く、難病医療費など助成の受給者では「避難場所を知らない」が50.0%と最も多くなっています。

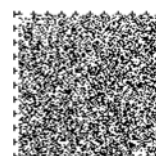
また、愛の手帳（療育手帳）所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者及び自立支援医療の受給者では、「通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない」がそれぞれ37.0%、75.0%、40.0%と最も多くなっています。

(単位:%)

	通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	他人と一緒に避難所にいられない	避難所の設備（トイレなど）について不安	避難場所を知らない	緊急時に情報を得る手段がない	避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	近所に頼れる人がいない	避難場所まで行けない
全体 (n=89)	34.8	24.7	21.3	19.1	16.9	15.7	14.6	13.5
身体障害者手帳 (n=22)	22.7	13.6	50.0	9.1	13.6	18.2	13.6	22.7
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	37.0	27.8	22.2	24.1	22.2	11.1	16.7	18.5
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	75.0	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	40.0	30.0	10.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0

(単位:%)

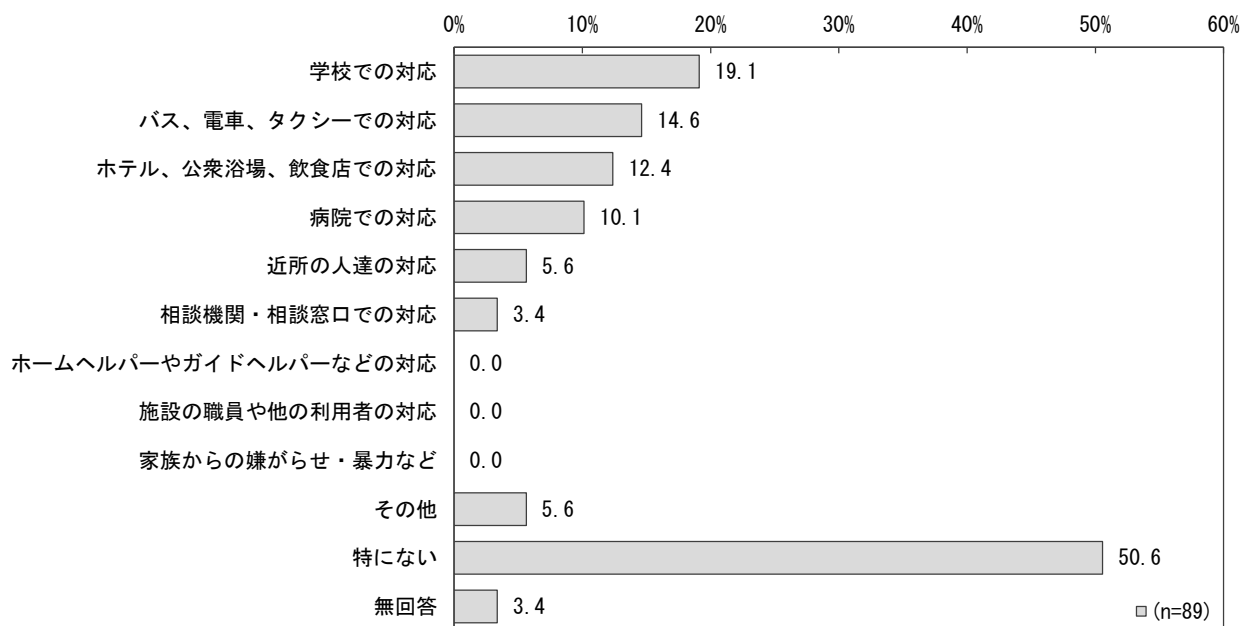
	緊急時の介助者がいない	避難訓練を受けにくい	その他	特に困ることはない	無回答
全体 (n=89)	10.1	5.6	4.5	20.2	3.4
身体障害者手帳 (n=22)	13.6	0.0	4.5	13.6	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	11.1	7.4	3.7	14.8	5.6
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	10.0	0.0	0.0	30.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0



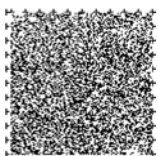
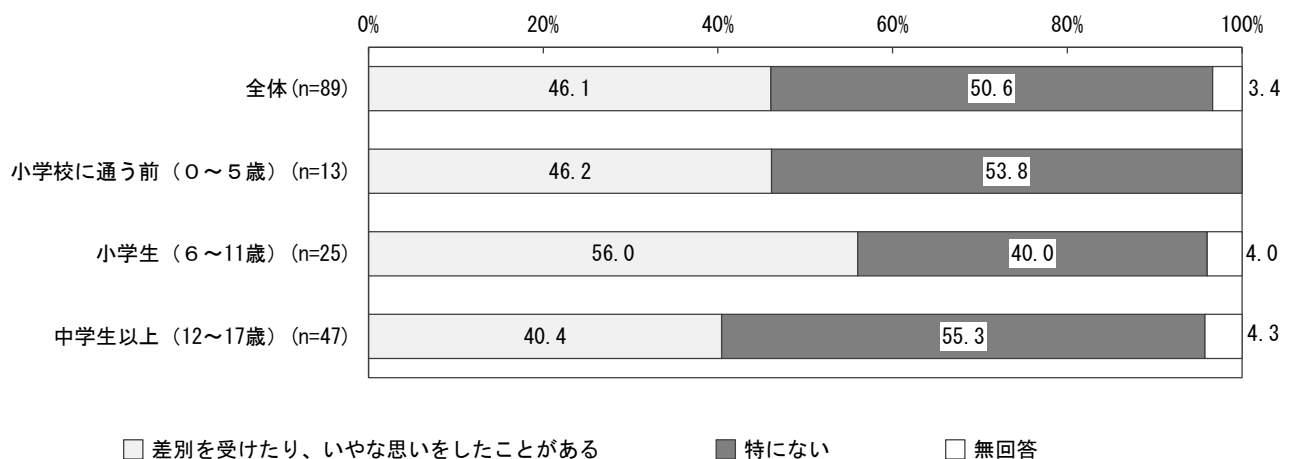
9 障害のある方の権利擁護について

問23 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

障害が原因で受けた差別やいやな思いの内容は、全体では、「学校での対応」が19.1%と最も多く、次いで、「バス、電車、タクシーでの対応」が14.6%、「ホテル、公衆浴場、飲食店での対応」が12.4%となっています。



年代別では、小学生（6～11歳）では、「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」が56.0%と「特にない」の40.0%より多く、小学校に通う前（0～5歳）及び中学生以上（12～17歳）では、「特にない」が「差別を受けたり、いやな思いをしたことがある」より多くなっています。



障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「学校での対応」が最も多くなっています。

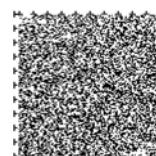
なお、愛の手帳（療育手帳）所持者では、「バス、電車、タクシーでの対応」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「バス、電車、タクシーでの対応」、「ホテル、公衆浴場、飲食店での対応」及び「近所の人達の対応」も多くなっています。

(単位:%)

	学校での対応	バス、電車、タクシーでの対応	ホテル、公衆浴場、飲食店での対応	病院での対応	近所の人達の対応	相談機関・相談窓口での対応	ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応
全体 (n=89)	19.1	14.6	12.4	10.1	5.6	3.4	0.0
身体障害者手帳 (n=22)	18.2	18.2	9.1	4.5	4.5	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	18.5	18.5	13.0	13.0	3.7	3.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	12.5	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	30.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

	施設の職員や他の利用者の対応	家族からの嫌がらせ・暴力など	その他	特にない	無回答
全体 (n=89)	0.0	0.0	5.6	50.6	3.4
身体障害者手帳 (n=22)	0.0	0.0	9.1	59.1	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	0.0	0.0	3.7	46.3	3.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	0.0	0.0	0.0	50.0	10.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0



問23で「1」～「10」と答えた方におうかがいします。

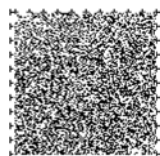
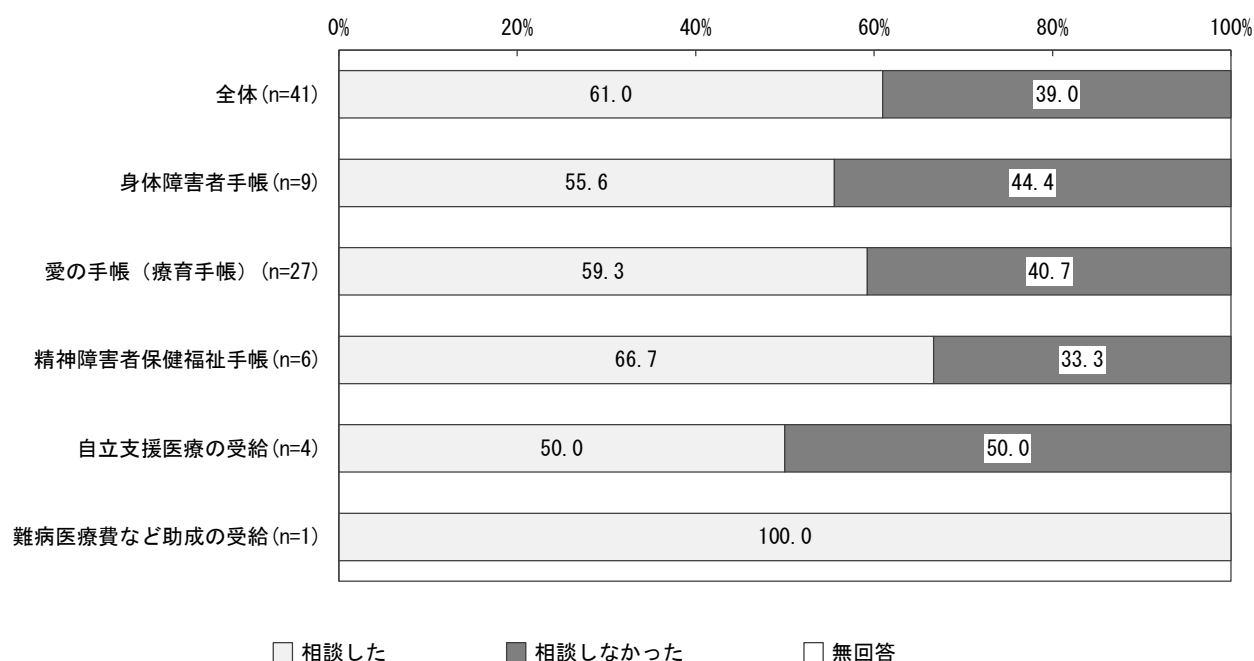
問24 差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)

差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがある(「相談した」と回答した)人は、全体では61.0%で、「相談しなかった」人の39.0%を上回っています。

障害種別ごとでは、「相談した」人は精神障害者保健福祉手帳所持者が66.7%と障害種別の中で最も多く、次いで、愛の手帳(療育手帳)所持者が59.3%となっています。

なお、回答者が1人の難病医療費など助成の受給者では100.0%となっています。

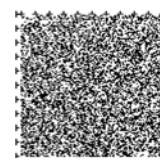
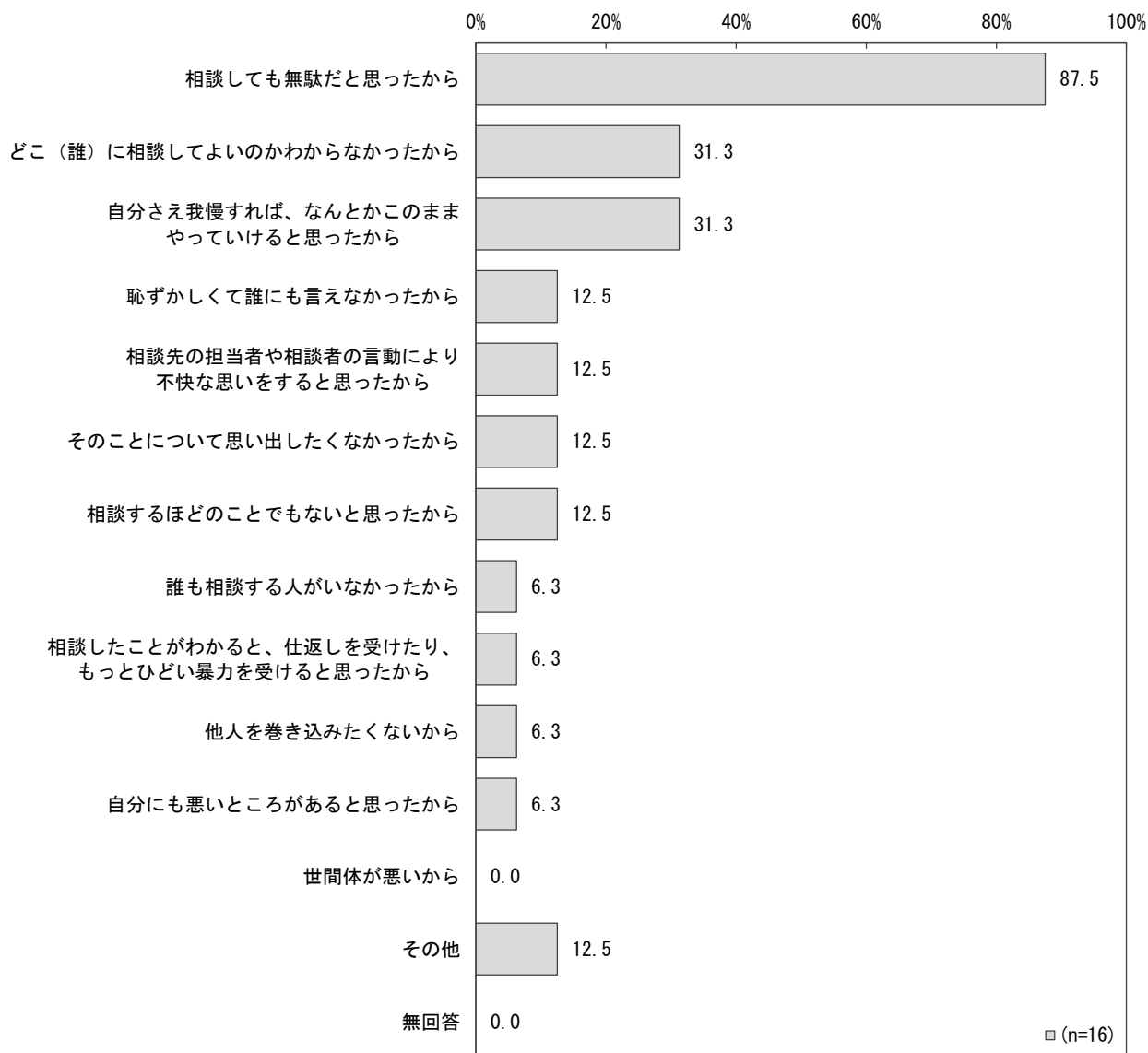
一方で、「相談しなかった」人は、自立支援医療の受給者で50.0%と障害種別の中で最も多く、次いで、身体障害者手帳所持者が44.4%となっています。



問24で「2. 相談しなかった」と答えた方におうかがいします。

問25 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

差別を受けたことを相談しなかった理由については、全体では「相談しても無駄だと思ったから」が87.5%と最も多く、次いで、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」及び「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」がともに31.3%となっています。



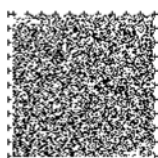
障害種別ごとでは、いずれの障害種別でも「相談しても無駄だと思ったから」が最も多く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」及び「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから」が同じ回答割合となっています。

(単位:%)

	相談しても無駄だと思ったから	どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	そのことについて思い出しにくかったから	相談するほどのことでもないと思ったから	誰も相談する人がいなかった
全体 (n=16)	87.5	31.3	31.3	12.5	12.5	12.5	12.5	6.3
身体障害者手帳 (n=4)	75.0	25.0	50.0	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0
愛の手帳（療育手帳） (n=11)	81.8	18.2	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=2)	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=2)	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

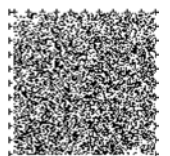
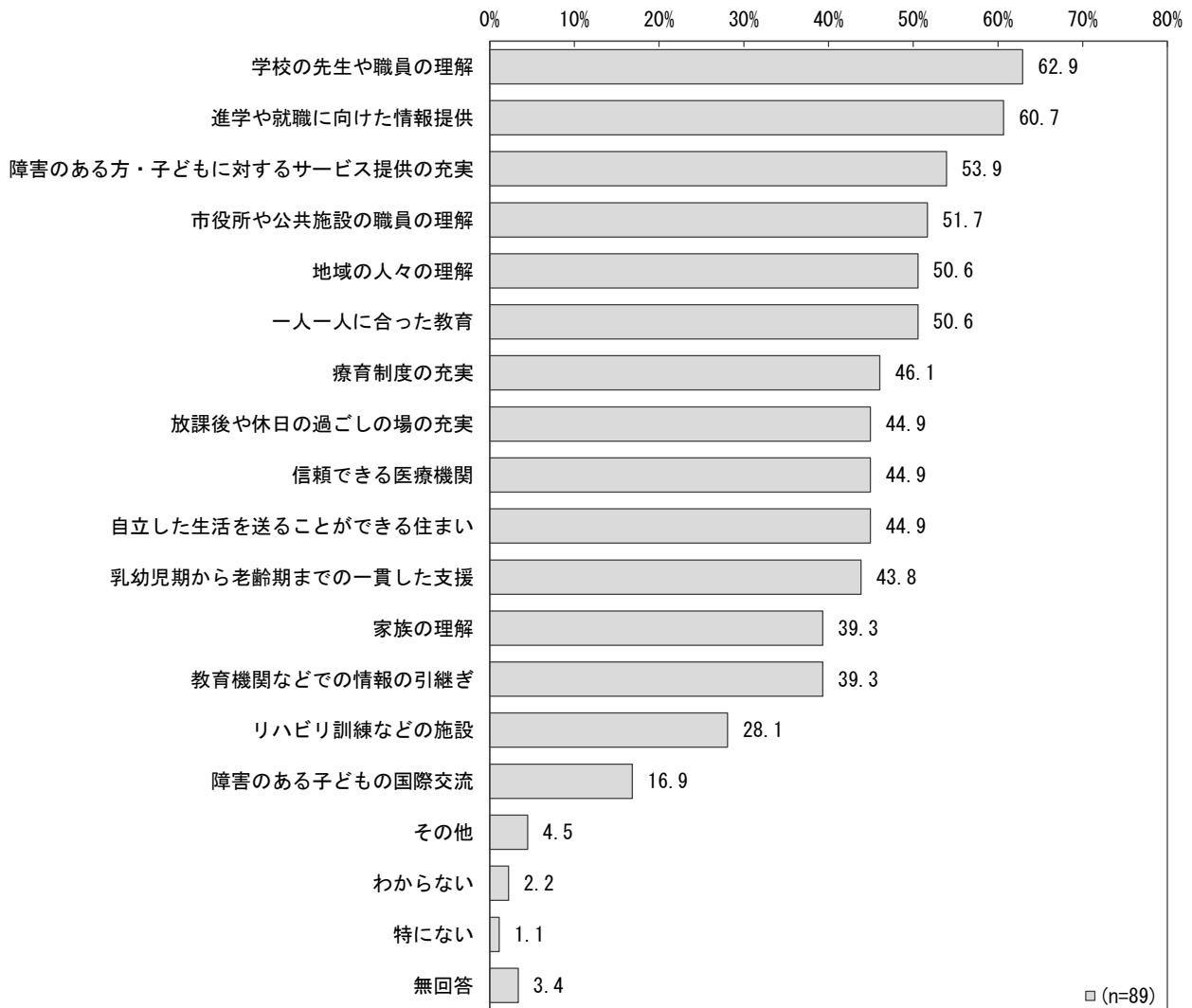
	相談したことがわかったり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	他人を巻き込みたくないから	自分にも悪いところがあると思ったから	世間体が悪いから	その他	無回答
全体 (n=16)	6.3	6.3	6.3	0.0	12.5	0.0
身体障害者手帳 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=11)	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
精神障害者保健福祉手帳 (n=2)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病医療費など助成の受給 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



10 障害者施策全般について

問26 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するために重要なことについては、全体では、「学校の先生や職員の理解」が62.9%と最も多く、次いで、「進学や就職に向けた情報提供」が60.7%、「障害のある方・子どもに対するサービスの充実」が53.9%となっています。



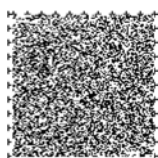
障害種別ごとでは、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳（療育手帳）所持者では「進学や就職に向けた情報提供」が最も多く、それぞれ68.2%、66.7%となり、精神障害者保健福祉手帳所持者では「学校の先生や職員の理解」及び「障害のある方・子どもに対するサービスの充実」がともに75.0%、自立支援医療の受給者では「信頼できる医療機関」及び「家族の理解」が60.0%、難病医療費など助成の受給者では「学校の先生や職員の理解」が100.0%となっています。

(単位:%)

	学校の先生や職員の理解	進学や就職に向けた情報提供	障害のある方・子どもに対するサービスの充実	市役所や公共施設の職員の理解	地域の人々の理解	一人一人に合った教育	療育制度の充実	放課後や休日の過ごし場の充実	信頼できる医療機関	自立した生活を送ることができる住まい
全体 (n=89)	62.9	60.7	53.9	51.7	50.6	50.6	46.1	44.9	44.9	44.9
身体障害者手帳 (n=22)	54.5	68.2	54.5	50.0	50.0	45.5	40.9	59.1	50.0	45.5
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	63.0	66.7	61.1	50.0	51.9	48.1	44.4	46.3	37.0	51.9
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	75.0	62.5	75.0	50.0	50.0	62.5	37.5	50.0	50.0	62.5
自立支援医療の受給 (n=10)	50.0	50.0	20.0	50.0	30.0	50.0	40.0	40.0	60.0	30.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	100.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0

(単位:%)

	乳幼児期から老齢期までの一貫した支援	家族の理解	教育機関などでの情報の引継ぎ	リハビリ訓練などの施設	障害のある子どもとの国際交流	その他	わからない	特になし	無回答
全体 (n=89)	43.8	39.3	39.3	28.1	16.9	4.5	2.2	1.1	3.4
身体障害者手帳 (n=22)	54.5	36.4	36.4	31.8	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳） (n=54)	42.6	31.5	37.0	24.1	18.5	3.7	1.9	1.9	3.7
精神障害者保健福祉手帳 (n=8)	50.0	75.0	62.5	37.5	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0
自立支援医療の受給 (n=10)	30.0	60.0	30.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0
難病医療費など助成の受給 (n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



1 1 自由意見

問27 福祉の各種制度の問題点、障害のある方・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

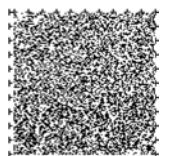
自由記述では、金銭面の支援や市の福祉サービス、障害のある方に向けた施設の増設についてなどが多く指摘されています。自由記述を項目ごとに整理すると以下の通りです。

項目	件数
サービス・支援について	14 件
施設について	9 件
教育について	5 件
将来に対する不安について	5 件
情報について	3 件
その他	4 件
合 計	40 件

以下では寄せられたご意見の項目ごとに分割せず、個人等が特定できる記載を除いて原文のまま掲載しています。

(1) サービス・支援について（14件）

- ・ お金の支援が足りない。（2件）
- ・ 日常生活用具給付（紙おむつ）の申請がすごく手間がかかる。申請は年単位にしてほしい。以前は年単位だった（他市住まいの時）。スロープがある住宅に住んでいるが、スロープ部分に屋根がないため、悪天候の時は困っている。雪の日や気温が低い日は凍結するので車いす利用者には危険である。実際に滑ったことがある。
- ・ 息子は17歳ですが訪問入浴のサービスが月3回しかありません。出来れば週に2回ぐらい無料で入れるようになってほしいです。1回の自己負担が1万5千円は高すぎてなかなか入らせてあげられません。
- ・ 児童発達支援の受け皿が少なく、選択すらできない。
- ・ 高校を卒業したら、就労の前・後時間を過ごせる施設がなく（放デイのような）親自身が仕事を辞めなければいけないと聞いている。就労施設をつなぐ支援はできないか。



・ おむつ支給1日3枚では足りません。パットは動いて外れるので使えません。もう少し多めに支給してほしいです。

・ 移送サービス利用の時、リフレッシュできる●●●●●●●●●●や駅での買い物なども使えたら家から出れていいと思う。

一般的な福祉タクシーは高いので使えない。タクシー券ももらえない人は特に。

・ 精神障害の級によって、サービスを受けられなかったり、援助がなかったり、金銭的（経済的）に大変困っています。

18歳までしか援助もなく、障害は一生続くもので死ぬまでです！死ぬまで援助してくれる制度にして頂きたい。

等級が低くても働けなかったりするので、経済的に困る。親は死ぬので、残された子供はどうしたらよいのでしょうか？

・ 医療ケアがなく、知的にも重度でない子や発達障害のグレーな子など、サービスの受けきれない、狭間の子に対するサポートをもっと考えてほしいです。

大分、放課後デイや施設が増えたように見えますが、相談支援先がまだまだ足りません。

・ 現在息子は愛の手帳2度の小学生で学校後放課後デイサービス利用しています。週6利用ですが支給日数的に足りなく、日数調整でお休みしなければならない月もあり、もう少し日数を増やしてほしいです。

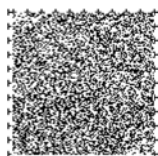
あとおむつ支給も頂いていますが、子供用のパットがあるといいなあ・・・

いつも窓口では色々とアドバイス頂いたり、よく対応してもらってます。ありがとうございます。

・ 病院で武蔵村山で愛の手帳4度だと特児手当がほとんどもらえないと言われたので、申請をやめました。

子どもの将来のために少しでも頂きたかったのですが、所得制限があったり、全然障害者や家族に優しくない街だなと思いました。

愛の手帳があれば必ず特児手当もらえるようにして下さい。

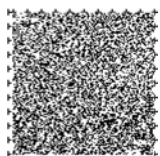


(3) 教育について（5件）

- ・ 小学校・中学校の授業に、バリアフリーや障害者への理解・不便さ・手助けなどやってほしい。そしたら向こうもどこまで手助けできるか行動できると思います。
- ・ 教育に関して地域（武蔵村山）で受けることができない。結局拒否された過去があります。専門教育はもちろん必要ですが、どうしても排斥された印象が残っています。現社会的に仕方ないことであることは理解しておりますが、地域社会で生きていくには隔離された教育現場が当たり前である事に疑問を感じます。
- ・ 教育委員会に学校生活について相談した時に、学校がそう言うなら、そうなんじゃないですか？と言われ、相談にならず、当てにならない場所だと思った。
- ・ 子どもに対しての理解ができていない先生とそうではない人の差がまだまだだと思えます。息子も悩んだりしてしまう事が多いのもう少し寄り添って話を根気強く聞いてくれたらいいなと思っております。
- ・ インクルーシブ教育を市内でも行ってほしい（学校）。市内の小中学校の教育が、支援級と通常級でほぼ離れていることが良くないと思う。各種、申請書類のわかりにくさ。字も小さく、説明わかりにくいところあり。本人もわかる書き方等、対応の工夫を願いたい。

(4) 将来に対する不安について（5件）

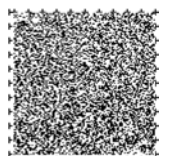
- ・ 小学生の時に発達障害で愛の手帳4度の判定を受けているが、現在は中学生になり、はたして現在の状態は4度のままなのか、または悪化しているのか、改善しているのか、定期的に判定を受ける制度がないものかと思っている。
- ・ 学校がある平日は働けるが、夏休みなどの長期休みの時に預ける先が（放課後デイ）開所が遅いため、フルタイムでは働けない。将来は更に働ける時間が短くなり経済的に不安（親として）。
- ・ 子に基礎疾患があるため、コロナ禍で感染リスクが怖く、復職をあきらめました（育休中に退社）。経済的な面と感染症へのリスク、両立を図るのが難しい。



- ・ もし自分の持っている障害（うつ病に近い障害）がまた復活した場合が心配です。
- ・ 親が亡くなった後のことが非常に心配です。身内はすべて遠方のため、頼れる親族がいません。将来的にお金の管理や衣食住に対しての不安が大きいです。グループホーム等の充実があるとありがたいです。
忙しい中ですがよろしくお願ひ致します。

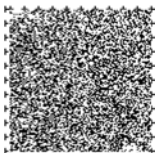
(5) 情報について（3件）

- ・ 市役所で申請をする時に診断書や本人が来ることを求められることがあります、引きこもりで、病院にも連れて行こうにも本人が拒否していけず、診断書がとれなかったり、自閉スペクトラム本人が知らない場所へ出向くことがとても難しい場合、困っているのに申請できない、支援を受けたいのに受けられない状況があります。
今は親がいるから生活が成り立っていますが、自立した生活に向けて支援したり、情報提供してほしいです。
家に市の方が来たり、病院の先生が自宅に来ていただけると良いなと思います。そして診断書、申請が出来て必要なサポートを受け、自立生活へ促していきたいです。
職業訓練など自宅に来て頂けないのでしょうか。パソコンなど、引きこもりなので、自宅でも仕事が出来て、収入を得られるスキルを学びたいです。プログラミングなど興味があります。
- ・ 情報が少ない。まずどこに相談に行けば良いのか分からない。こちらからかなり積極的に発信しなければ得たい情報が得られない。行政から発信してくれた情報は全くなく、同じ立場の人とつながることによってのみ情報が得られる。
子どもに関する総合的な相談窓口があっても良いのでは？
- ・ 自分で情報収集しないと情報が手に入らない。役所へ行って聞いても担当以外はわからないと言われたり、間違った情報を伝えられ、あっちこっち行かないと行けなくて困ります。

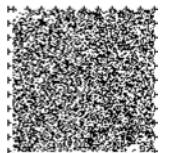


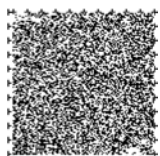
(6) その他（４件）

- ・ 障害者の予後、二次障害などを起こさないようにするためにも、地域の支援級での適切な理解・知識が早急に必要と感じます。まだまだ無知な方が多い現状を感じます。
- ・ 難病の証明書もほしい。
- ・ カバンとかにつけられる難病のキーホルダーもほしい。
- ・ 他の市に比べると、武蔵村山市の福祉センターの職員さんは親身に話を聞いてくれると思っています。いつもありがとうございます。



IV 資料編

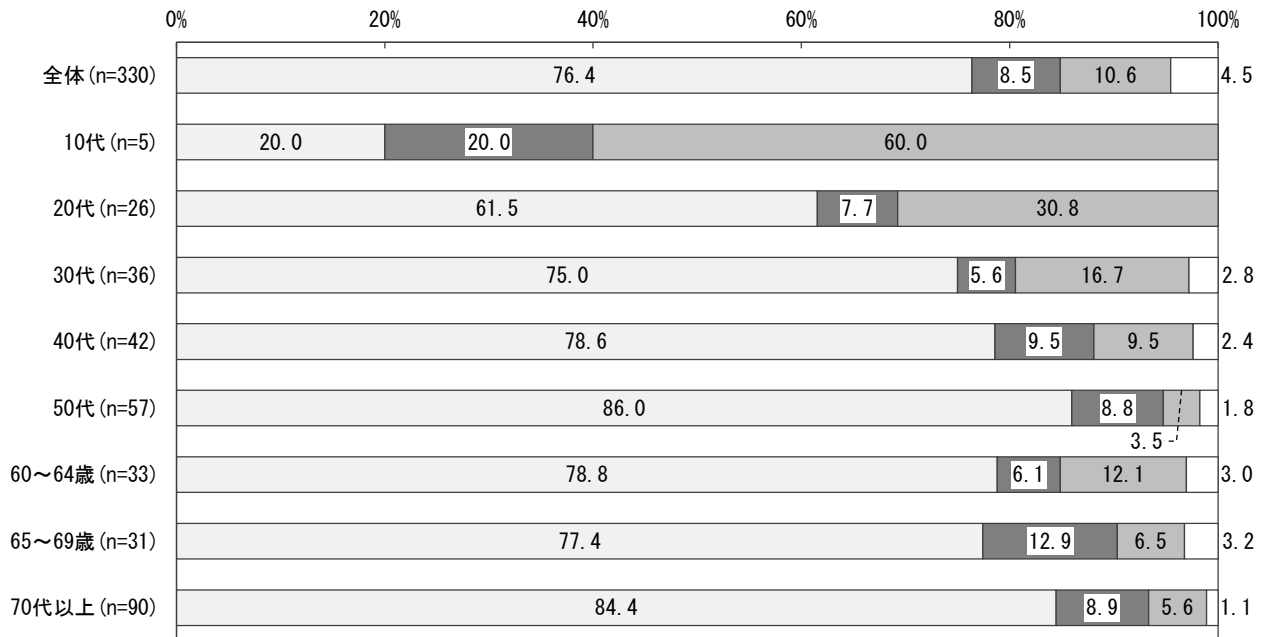




1 設問ごとの年代別クロス集計結果（18歳以上）

※報告書本編で使用した集計結果は除くとする。

■障害者の年齢（問2）×アンケート記入者（問1）

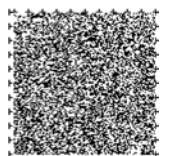


□ 本人が記入 ■ 本人の意思を「代筆」で記入 ▒ 家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入 □ 無回答

■障害者の年齢（問2）×障害の種類（問4）

(単位：%)

	視覚	聴覚・平衡機能	音声・言語・そしゃく機能	肢体不自由（上肢・下肢・体幹）	内部障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）	免疫機能	無回答
全体 (n=156)	9.6	7.7	1.3	42.9	41.7	0.0	1.9
10代 (n=2)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=6)	0.0	16.7	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
30代 (n=13)	0.0	15.4	7.7	53.8	38.5	0.0	0.0
40代 (n=11)	18.2	0.0	0.0	54.5	45.5	0.0	0.0
50代 (n=17)	17.6	11.8	0.0	52.9	29.4	0.0	0.0
60～64歳 (n=18)	11.1	0.0	0.0	55.6	33.3	0.0	0.0
65～69歳 (n=20)	10.0	10.0	0.0	45.0	35.0	0.0	0.0
70代以上 (n=68)	8.8	7.4	1.5	27.9	51.5	0.0	4.4



■障害者の年齢（問2）×助成を受けるまでの問題（問5）

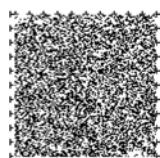
（単位：％）

	制度を知らなかった	どこに相談していいか分からなかった	障害を受容するまでに長い時間が必要だった	不便さを感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかかった	障害との関わり方を相談する機関がなかった	リハビリや療育を十分に受ける場や機会がなかった、または、知らなかった	その他	特に問題はなかった	無回答
全体 (n=330)	30.6	18.2	16.1	15.5	9.7	5.5	8.8	34.5	11.5
10代 (n=5)	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0
20代 (n=26)	38.5	30.8	15.4	34.6	15.4	3.8	11.5	34.6	0.0
30代 (n=36)	30.6	27.8	25.0	22.2	13.9	8.3	11.1	27.8	2.8
40代 (n=42)	33.3	14.3	23.8	19.0	11.9	7.1	11.9	23.8	7.1
50代 (n=57)	36.8	26.3	17.5	15.8	14.0	7.0	12.3	26.3	12.3
60～64歳 (n=33)	27.3	15.2	9.1	9.1	3.0	3.0	3.0	30.3	27.3
65～69歳 (n=31)	22.6	12.9	19.4	12.9	9.7	0.0	3.2	51.6	3.2
70代以上 (n=90)	30.0	13.3	11.1	10.0	5.6	6.7	8.9	45.6	8.9

■障害者の年齢（問2）×同居人（問7）

（単位：％）

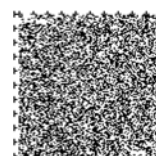
	配偶者	子ども	両親	一人で暮らしている	兄弟姉妹	その他	無回答
全体 (n=330)	44.8	26.7	22.4	15.8	9.4	11.5	3.6
10代 (n=5)	0.0	0.0	100.0	0.0	60.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	0.0	3.8	80.8	11.5	50.0	11.5	0.0
30代 (n=36)	22.2	19.4	55.6	5.6	25.0	19.4	0.0
40代 (n=42)	35.7	21.4	40.5	4.8	4.8	23.8	0.0
50代 (n=57)	45.6	33.3	12.3	19.3	5.3	14.0	3.5
60～64歳 (n=33)	60.6	36.4	3.0	18.2	0.0	15.2	0.0
65～69歳 (n=31)	61.3	32.3	3.2	29.0	0.0	0.0	0.0
70代以上 (n=90)	66.7	33.3	2.2	20.0	1.1	4.4	1.1



■障害者の年齢（問2）×世帯の主な収入源（問8）

（単位：％）

	年金	ご家族の給与・賃金	あなた自身の給与・賃金	福祉手当	生活保護	事業収入	仕送り	財産収入	その他	無回答
全体(n=330)	53.6	37.6	23.3	11.2	6.1	5.5	1.2	0.9	3.6	3.6
10代(n=5)	0.0	80.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代(n=26)	46.2	76.9	30.8	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代(n=36)	47.2	52.8	41.7	13.9	8.3	5.6	2.8	0.0	5.6	2.8
40代(n=42)	38.1	45.2	35.7	14.3	7.1	0.0	2.4	0.0	7.1	0.0
50代(n=57)	31.6	49.1	28.1	8.8	8.8	5.3	0.0	0.0	5.3	1.8
60～64歳(n=33)	42.4	36.4	33.3	18.2	9.1	6.1	3.0	3.0	3.0	0.0
65～69歳(n=31)	83.9	19.4	22.6	12.9	9.7	6.5	0.0	3.2	0.0	0.0
70代以上(n=90)	82.2	16.7	5.6	4.4	3.3	10.0	0.0	1.1	3.3	1.1



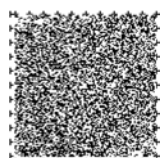
■障害者の年齢（問2）×生活で困っていること（問9）

（単位：％）

	経済的なこと	将来の援助（介助・支援）のこと	就労のこと	交通機関のこと	趣味や生きがいを持つこと	家庭生活のこと	友達や相談相手を持つこと	住宅のこと	必要な情報を得ること	現在の援助（介助・支援）のこと
全体 (n=330)	33.0	30.3	18.5	17.9	14.2	13.3	12.7	12.4	10.3	8.8
10代 (n=5)	60.0	80.0	40.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0
20代 (n=26)	46.2	30.8	46.2	15.4	30.8	26.9	26.9	7.7	15.4	0.0
30代 (n=36)	50.0	36.1	36.1	27.8	13.9	25.0	13.9	22.2	19.4	16.7
40代 (n=42)	45.2	33.3	28.6	14.3	11.9	14.3	19.0	14.3	19.0	14.3
50代 (n=57)	36.8	26.3	26.3	21.1	19.3	15.8	15.8	12.3	8.8	10.5
60～64歳 (n=33)	27.3	30.3	6.1	9.1	18.2	12.1	18.2	15.2	6.1	6.1
65～69歳 (n=31)	32.3	35.5	3.2	16.1	12.9	12.9	3.2	12.9	6.5	9.7
70代以上 (n=90)	17.8	27.8	4.4	21.1	6.7	4.4	4.4	10.0	5.6	6.7

（単位：％）

	子どものこと	リハビリのこと	社会参加のこと	地域の理解を得ること	結婚のこと	教育や学習のこと	かかりつけの病院や歯科診療所がないこと	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=330)	8.2	7.9	6.7	6.1	5.8	3.3	2.7	3.9	24.5	5.2
10代 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	7.7	0.0	19.2	15.4	15.4	7.7	0.0	3.8	7.7	0.0
30代 (n=36)	16.7	11.1	16.7	19.4	19.4	2.8	5.6	11.1	11.1	2.8
40代 (n=42)	7.1	9.5	9.5	7.1	9.5	11.9	2.4	2.4	16.7	2.4
50代 (n=57)	10.5	5.3	5.3	7.0	7.0	3.5	3.5	1.8	21.1	3.5
60～64歳 (n=33)	15.2	12.1	6.1	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	39.4	3.0
65～69歳 (n=31)	3.2	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	3.2	32.3	6.5
70代以上 (n=90)	4.4	10.0	2.2	2.2	0.0	0.0	1.1	5.6	36.7	1.1



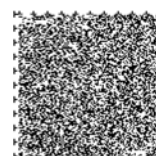
■障害者の年齢（問2）×相談相手（問10）

（単位：％）

	家族や親族	医療機関	友人、知人	相談支援事業所	福祉施設や作業所の職員	公的機関の職員	会社の人、学校の先生	同じ病気や障害のある仲間
全体 (n=330)	72.1	25.5	23.6	11.2	9.7	7.3	5.5	5.2
10代 (n=5)	60.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	65.4	26.9	26.9	23.1	11.5	11.5	11.5	11.5
30代 (n=36)	80.6	41.7	25.0	36.1	25.0	5.6	13.9	5.6
40代 (n=42)	76.2	26.2	35.7	7.1	16.7	7.1	16.7	2.4
50代 (n=57)	63.2	24.6	26.3	8.8	7.0	10.5	1.8	8.8
60～64歳 (n=33)	66.7	24.2	27.3	6.1	12.1	6.1	3.0	3.0
65～69歳 (n=31)	61.3	25.8	16.1	12.9	3.2	9.7	3.2	3.2
70代以上 (n=90)	78.9	15.6	17.8	3.3	4.4	5.6	0.0	4.4

（単位：％）

	社会福祉協議会	ボランティア・NPOの職員	民生委員・児童委員	相談するところがない	相談するところがわからない	その他	無回答
全体 (n=330)	3.0	2.1	0.6	5.8	4.5	3.6	5.8
10代 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	0.0	15.4	0.0	3.8	7.7	7.7	3.8
30代 (n=36)	2.8	2.8	0.0	5.6	2.8	2.8	0.0
40代 (n=42)	7.1	2.4	0.0	7.1	0.0	2.4	7.1
50代 (n=57)	1.8	1.8	1.8	7.0	5.3	1.8	10.5
60～64歳 (n=33)	6.1	0.0	0.0	0.0	6.1	3.0	6.1
65～69歳 (n=31)	0.0	0.0	0.0	9.7	9.7	3.2	3.2
70代以上 (n=90)	2.2	0.0	1.1	6.7	3.3	5.6	6.7



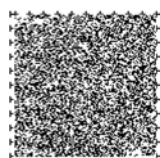
■障害者の年齢（問2）×健康管理について困っていること（問13）

（単位：％）

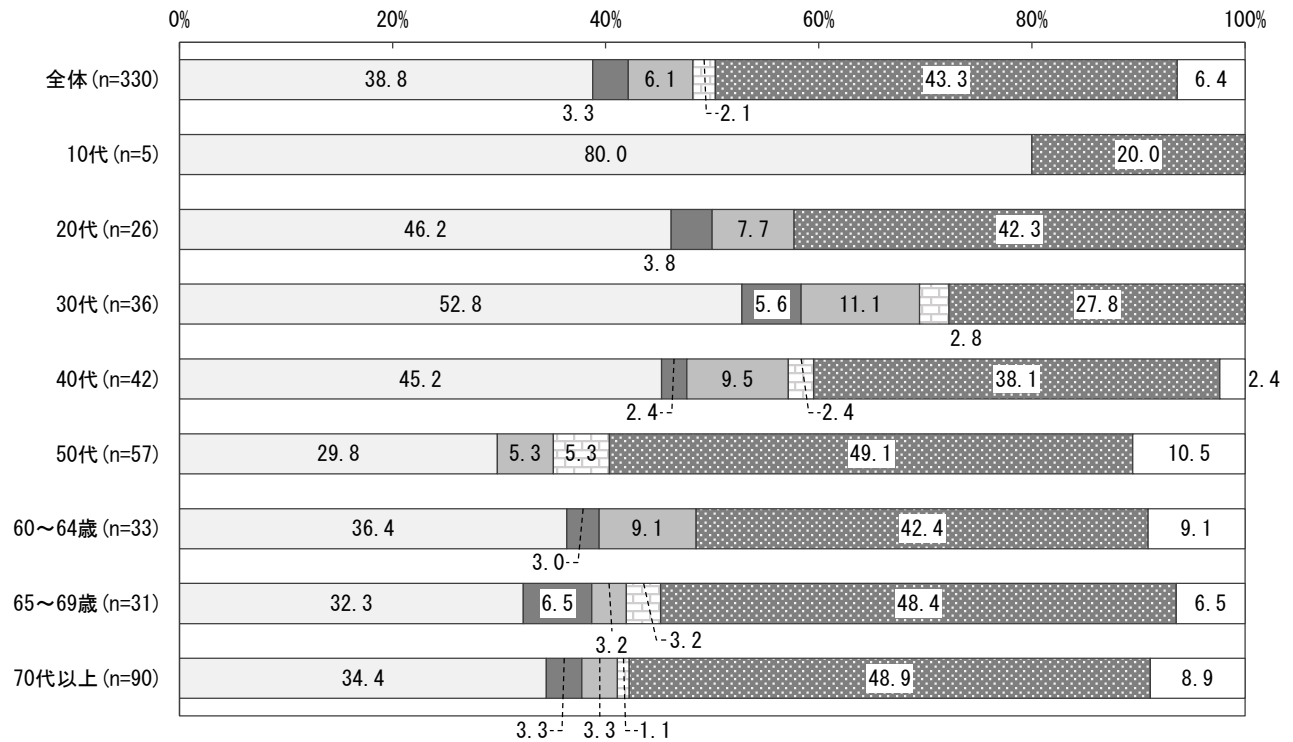
	医療費の負担が大きい	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	近所に診てくれる医師がいない	受診手続や案内など障害のある方への配慮が不十分	気軽に往診を頼める医師がいない	障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	通院する時に付添いをしてくれる人がいない
全体 (n=330)	21.2	17.3	9.7	7.6	4.2	3.9	3.3
10代 (n=5)	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	26.9	19.2	26.9	11.5	3.8	11.5	7.7
30代 (n=36)	33.3	19.4	8.3	11.1	2.8	8.3	5.6
40代 (n=42)	19.0	4.8	9.5	9.5	2.4	7.1	4.8
50代 (n=57)	22.8	22.8	14.0	7.0	7.0	3.5	7.0
60～64歳 (n=33)	15.2	24.2	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0
65～69歳 (n=31)	16.1	25.8	12.9	16.1	6.5	3.2	0.0
70代以上 (n=90)	18.9	13.3	4.4	5.6	4.4	1.1	1.1

（単位：％）

	診療をことわられる	定期的に健康診断を受けられない	歯科診療を受けられない	入院のとき付添いや個室を強いら	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=330)	2.4	2.4	1.8	0.3	6.4	42.4	8.5
10代 (n=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0
20代 (n=26)	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	34.6	3.8
30代 (n=36)	0.0	8.3	0.0	2.8	5.6	30.6	16.7
40代 (n=42)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	40.5	11.9
50代 (n=57)	5.3	7.0	3.5	0.0	5.3	43.9	5.3
60～64歳 (n=33)	3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	48.5	6.1
65～69歳 (n=31)	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	41.9	3.2
70代以上 (n=90)	2.2	0.0	2.2	0.0	7.8	46.7	8.9



■障害者の年齢（問2）×介助（支援）者（問14）

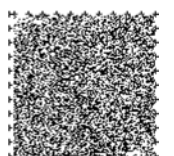


□同居している家族・親族 ■同居していない家族・親族 ▨施設の職員 □その他 ▩介助や支援は受けていない □無回答

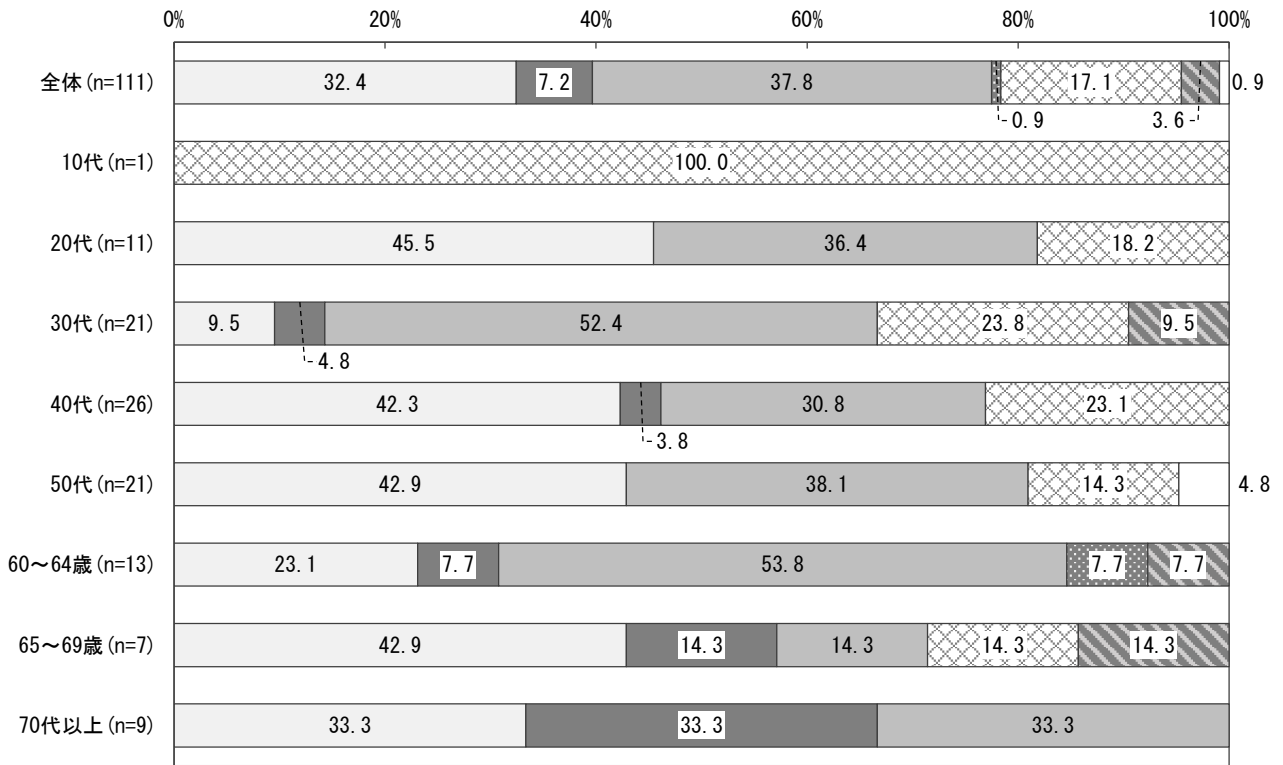
■障害者の年齢（問2）×介助（支援）者が困っていること（問17）

（単位：%）

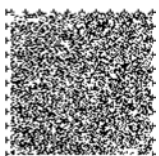
	介助（支援）する人の健康に不安がある	体力的に心配がある	精神的な負担が大きい	休みが十分に取れない	あなたとの意思疎通が十分でない	サービスなどの情報が不十分	相談できる人がいない	困りごとやサービスのことを	介助（支援）する代わりに人がいない	将来の見通しに不安がある	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=166)	26.5	30.1	22.3	12.0	7.2	6.0	11.4	19.3	38.6	4.8	24.7	7.2	
10代 (n=4)	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
20代 (n=15)	20.0	46.7	33.3	40.0	6.7	13.3	6.7	33.3	53.3	6.7	20.0	0.0	
30代 (n=26)	34.6	34.6	42.3	11.5	11.5	7.7	11.5	23.1	38.5	3.8	19.2	15.4	
40代 (n=25)	32.0	24.0	12.0	4.0	12.0	0.0	8.0	12.0	40.0	12.0	24.0	4.0	
50代 (n=23)	17.4	30.4	26.1	26.1	4.3	4.3	13.0	26.1	39.1	0.0	26.1	8.7	
60～64歳 (n=16)	31.3	25.0	12.5	6.3	0.0	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	31.3	6.3	
65～69歳 (n=14)	35.7	28.6	21.4	0.0	7.1	7.1	21.4	14.3	50.0	0.0	21.4	7.1	
70代以上 (n=38)	21.1	23.7	13.2	5.3	5.3	2.6	10.5	5.3	28.9	7.9	34.2	7.9	



■ 障害者の年齢（問2） × 勤務形態（問19）



- 正社員など
- 自営業
- パート・アルバイト
- ▨ 家業（自営業）の手伝い
- ▨ 内職
- ▨ 就労移行・就労継続・授産施設など
- ▨ その他
- 無回答



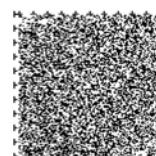
■障害者の年齢（問2）×仕事で困っていること（問20）

（単位：％）

	収入が少ない	体調管理が難しい	通勤が大変	職場の人間関係	仕事が見つからない	コミュニケーションがとれない	職場の中の環境が整っていない
全体 (n=112)	41.1	25.9	23.2	20.5	13.4	9.8	8.9
10代 (n=1)	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=11)	45.5	27.3	36.4	36.4	27.3	18.2	0.0
30代 (n=21)	57.1	52.4	33.3	33.3	9.5	19.0	28.6
40代 (n=26)	50.0	19.2	15.4	15.4	11.5	11.5	7.7
50代 (n=22)	31.8	22.7	18.2	27.3	9.1	9.1	4.5
60～64歳 (n=13)	30.8	0.0	15.4	15.4	23.1	0.0	7.7
65～69歳 (n=7)	42.9	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
70代以上 (n=9)	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位：％）

	勤務時間や日数を調整できない	職場の中で介助者を見つけにくい	仕事合わない	その他	特になし	無回答
全体 (n=112)	8.9	6.3	4.5	5.4	24.1	3.6
10代 (n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=11)	0.0	18.2	18.2	0.0	9.1	9.1
30代 (n=21)	4.8	14.3	0.0	4.8	0.0	0.0
40代 (n=26)	15.4	3.8	7.7	11.5	30.8	3.8
50代 (n=22)	9.1	4.5	0.0	4.5	13.6	9.1
60～64歳 (n=13)	15.4	0.0	7.7	7.7	46.2	0.0
65～69歳 (n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
70代以上 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0

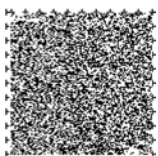
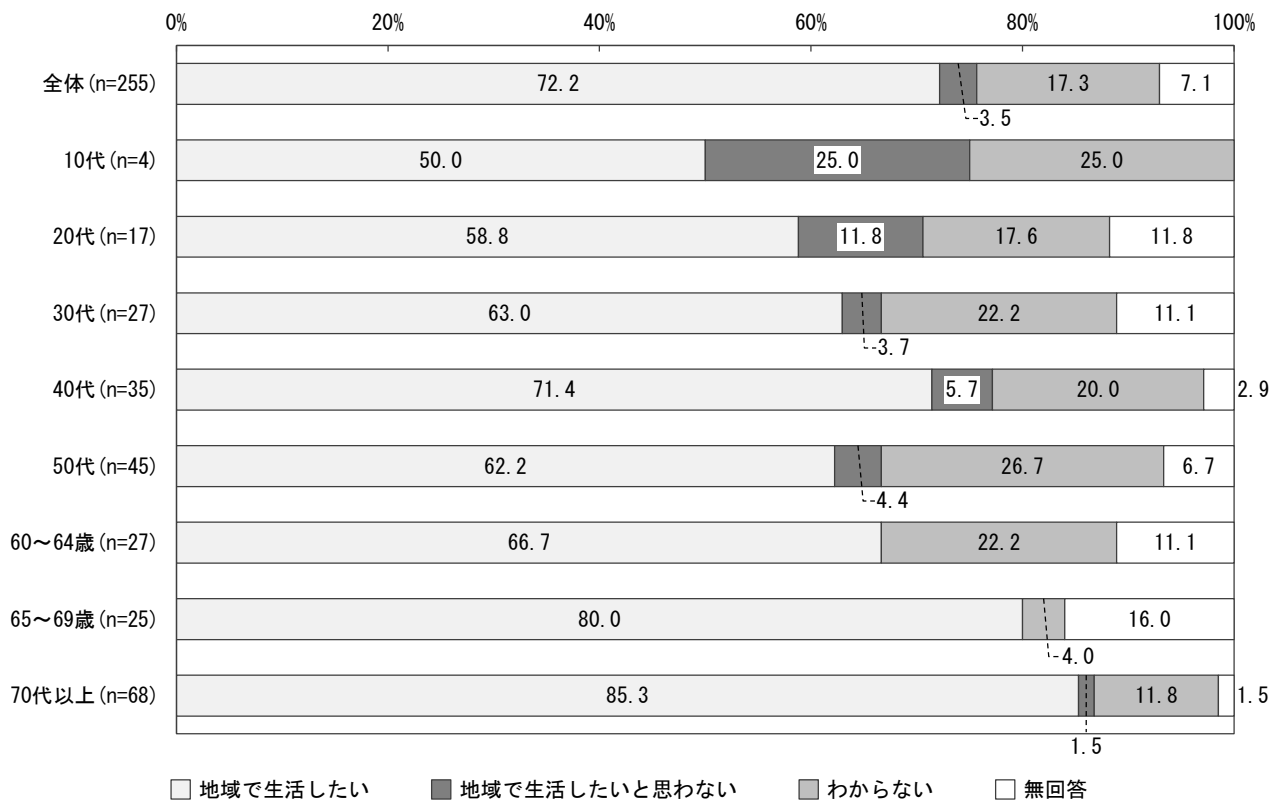


■障害者の年齢（問2）×支援を受ける上で困っていること（問2 1）

（単位：％）

	通うのが大変	収入が少ない	体調管理が難しい	訓練の内容が合わない	訓練先の人間関係	訓練がきつい	訓練する環境が整っていない	訓練先での介助者を見つけにくい	コミュニケーションがとれない	その他	特にない	無回答
全体 (n=19)	26.3	15.8	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.9	5.3
10代 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
20代 (n=5)	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
30代 (n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
40代 (n=4)	50.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
50代 (n=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
60～64歳 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
65～69歳 (n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70代以上 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

■障害者の年齢（問2）×将来の生活（問2 3）



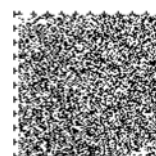
■障害者の年齢（問2）×地域で生活するための課題（問24）

（単位：％）

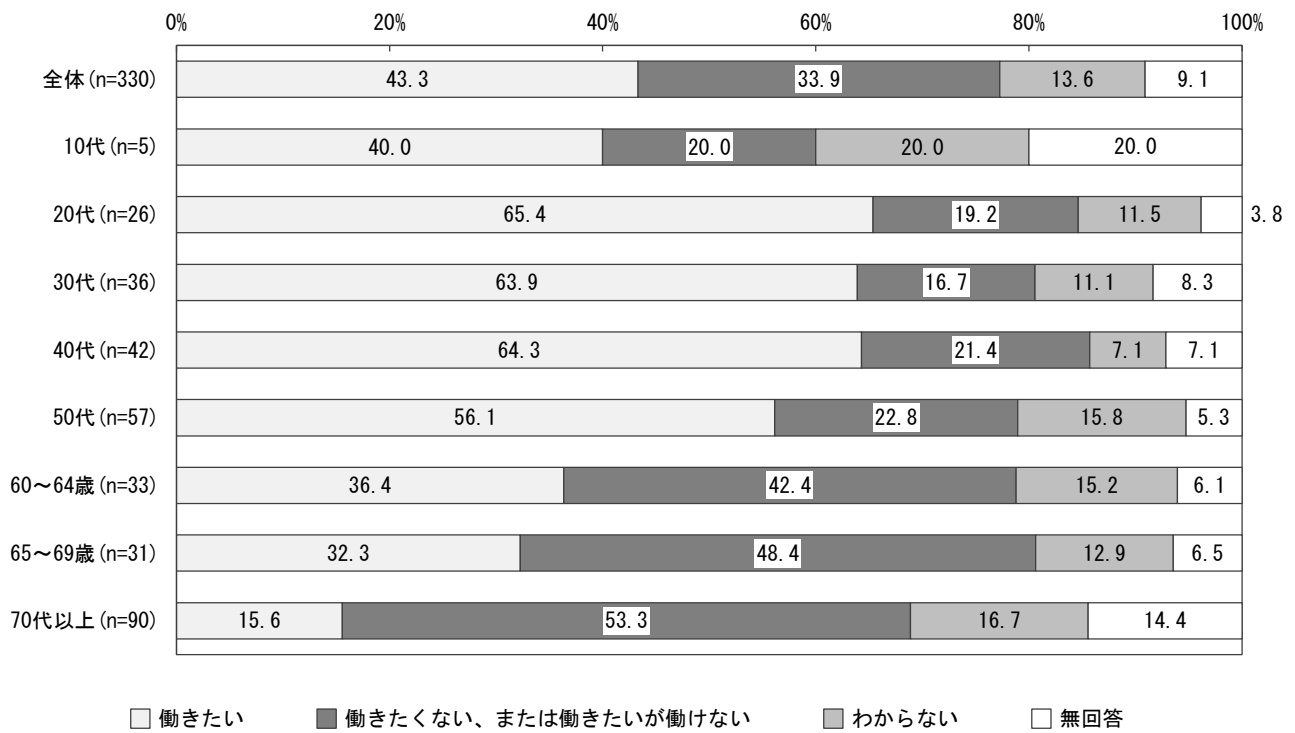
	衰え 面倒を見てくれる人の	体調管理が難しい	働ける場所がない	働ける場所がない	相談できる場所がない	コミュニケーションが とれない	障害のある方に適した 住居がない
全体 (n=184)	31.0	21.7	15.8	15.8	10.9	10.3	8.2
10代 (n=2)	100.0	0.0	50.0	50.0	50.0	100.0	0.0
20代 (n=10)	60.0	30.0	30.0	30.0	20.0	10.0	0.0
30代 (n=17)	41.2	35.3	11.8	11.8	11.8	17.6	17.6
40代 (n=25)	28.0	12.0	24.0	24.0	16.0	12.0	0.0
50代 (n=28)	21.4	21.4	25.0	25.0	14.3	10.7	14.3
60～64歳 (n=18)	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	11.1	0.0
65～69歳 (n=20)	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	5.0
70代以上 (n=58)	32.8	24.1	8.6	8.6	6.9	8.6	8.6

（単位：％）

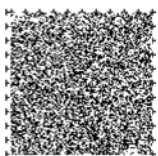
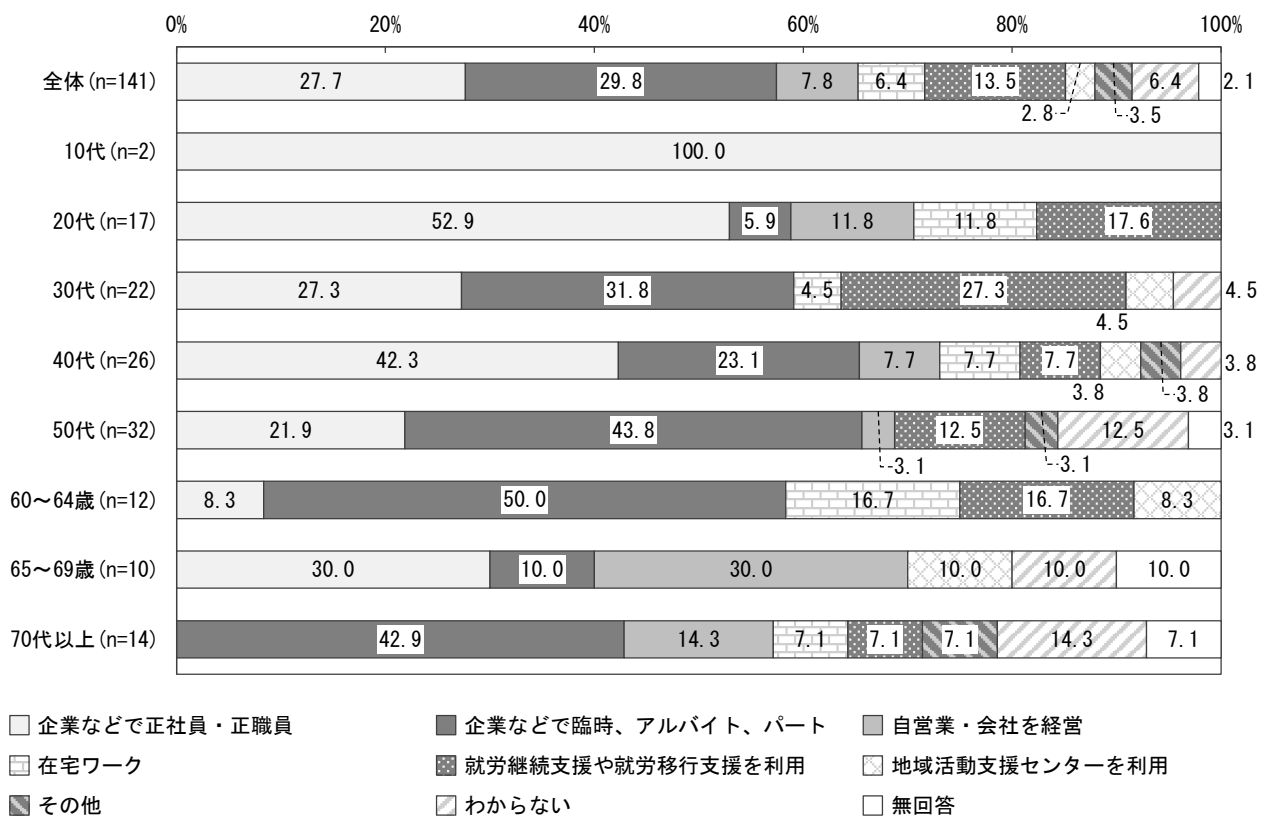
	必要 生活訓練などの充実が	地域住民などの理解が 不足している	仕事を得ても続かない	その他	わからない	特 に ない	無 回 答
全体 (n=184)	7.1	4.3	3.8	4.3	12.5	24.5	4.3
10代 (n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=10)	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0
30代 (n=17)	17.6	11.8	17.6	5.9	11.8	29.4	0.0
40代 (n=25)	4.0	4.0	8.0	12.0	12.0	16.0	4.0
50代 (n=28)	3.6	10.7	0.0	7.1	7.1	17.9	7.1
60～64歳 (n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	27.8	5.6
65～69歳 (n=20)	5.0	0.0	5.0	5.0	35.0	30.0	0.0
70代以上 (n=58)	8.6	3.4	0.0	0.0	8.6	34.5	5.2



■ 障害者の年齢（問2） × 地域で生活するための課題（問25）



■ 障害者の年齢（問2） × 希望する雇用形態（問26）



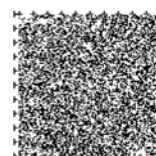
■障害者の年齢（問2）×障害のある方の就業に必要なこと（問27）

（単位：％）

	経営者の理解	従業員の理解	福祉的就労の場の増設	職業あつせん窓口の充実	ジョブコーチの充実	民間企業の雇用努力
全体 (n=330)	44.8	44.5	23.3	23.3	22.7	20.6
10代 (n=5)	60.0	60.0	40.0	20.0	20.0	40.0
20代 (n=26)	69.2	69.2	15.4	26.9	30.8	26.9
30代 (n=36)	61.1	52.8	36.1	27.8	38.9	19.4
40代 (n=42)	45.2	50.0	23.8	31.0	35.7	28.6
50代 (n=57)	59.6	64.9	29.8	26.3	24.6	26.3
60～64歳 (n=33)	33.3	36.4	21.2	27.3	12.1	15.2
65～69歳 (n=31)	45.2	35.5	22.6	25.8	22.6	12.9
70代以上 (n=90)	25.6	24.4	16.7	13.3	8.9	15.6

（単位：％）

	職業相談窓口の充実	行政の民間企業指導	職業訓練施設の増設	その他	特にない	無回答
全体 (n=330)	20.3	17.0	13.9	5.5	16.1	16.1
10代 (n=5)	20.0	40.0	40.0	0.0	20.0	20.0
20代 (n=26)	23.1	11.5	15.4	3.8	3.8	11.5
30代 (n=36)	27.8	30.6	22.2	5.6	11.1	11.1
40代 (n=42)	33.3	26.2	21.4	21.4	9.5	9.5
50代 (n=57)	26.3	26.3	19.3	5.3	8.8	12.3
60～64歳 (n=33)	15.2	3.0	9.1	0.0	21.2	15.2
65～69歳 (n=31)	16.1	16.1	12.9	3.2	19.4	9.7
70代以上 (n=90)	11.1	6.7	4.4	2.2	26.7	26.7



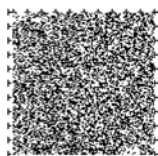
■障害者の年齢（問2）×外出する時に不便に感じていること（問29）

（単位：％）

	道路や建物・駅に階段や段差が多い	外出に費用がかかりすぎる	障害者用トイレが少ない	バスや電車の乗り降りが困難	自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	歩道が整備されていない	付き添ってくれる人がいない	障害者用の駐車スペースが少ない	通路上に自転車や看板などの障害物があつて通りにくい	建物や施設の出入口が狭かったり、開けにくい
全体 (n=330)	17.0	11.2	10.9	10.6	10.6	9.7	7.0	7.0	5.8	5.8
10代 (n=5)	40.0	0.0	60.0	0.0	40.0	60.0	0.0	20.0	20.0	40.0
20代 (n=26)	7.7	11.5	3.8	7.7	34.6	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8
30代 (n=36)	19.4	16.7	11.1	13.9	16.7	5.6	13.9	5.6	2.8	8.3
40代 (n=42)	9.5	14.3	9.5	4.8	11.9	7.1	7.1	2.4	7.1	0.0
50代 (n=57)	15.8	14.0	10.5	8.8	5.3	15.8	7.0	8.8	3.5	7.0
60～64歳 (n=33)	15.2	15.2	3.0	6.1	9.1	6.1	9.1	9.1	6.1	6.1
65～69歳 (n=31)	19.4	12.9	3.2	9.7	3.2	16.1	0.0	12.9	9.7	9.7
70代以上 (n=90)	21.1	5.6	14.4	15.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	4.4

（単位：％）

	バスや電車内で運行状況の案内表示がない	公衆FAXや障害者用電話が少ない	（車イスなどの）福祉タクシーが利用しにくい	建物の出入口に視覚障害者用の盲導鈴や音声ガイドシステムが少ない	低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない	点字ブロックや盲人用信号が不十分である	その他	特に困ることはない	ほとんど外出しないのでわからない	無回答
全体 (n=330)	3.9	3.3	3.3	3.0	2.4	2.1	7.9	43.9	4.8	4.5
10代 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	38.5	0.0	3.8
30代 (n=36)	5.6	8.3	5.6	2.8	2.8	0.0	13.9	33.3	5.6	0.0
40代 (n=42)	0.0	0.0	2.4	2.4	0.0	4.8	11.9	52.4	2.4	7.1
50代 (n=57)	1.8	1.8	5.3	3.5	3.5	1.8	12.3	38.6	7.0	7.0
60～64歳 (n=33)	6.1	3.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	51.5	12.1	6.1
65～69歳 (n=31)	3.2	0.0	0.0	6.5	6.5	0.0	0.0	51.6	0.0	0.0
70代以上 (n=90)	4.4	4.4	4.4	3.3	1.1	4.4	5.6	46.7	5.6	3.3



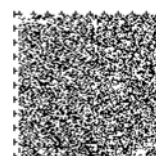
■障害者の年齢（問2）×余暇活動をするときに困ること（問30）

（単位：％）

	経済的余裕がない	一緒に参加する友人、仲間がない	活動のための情報が少ない	障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける	忙しくて時間がない	障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない
全体 (n=330)	24.2	16.1	14.5	13.9	9.1	7.3
10代 (n=5)	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0
20代 (n=26)	23.1	23.1	15.4	26.9	11.5	3.8
30代 (n=36)	36.1	25.0	13.9	19.4	11.1	13.9
40代 (n=42)	42.9	16.7	16.7	14.3	21.4	9.5
50代 (n=57)	31.6	14.0	19.3	15.8	14.0	3.5
60～64歳 (n=33)	18.2	18.2	18.2	9.1	6.1	9.1
65～69歳 (n=31)	32.3	19.4	19.4	12.9	3.2	0.0
70代以上 (n=90)	8.9	6.7	8.9	8.9	2.2	5.6

（単位：％）

	施設や設備が障害のある方に配慮されていない	介助者がいない、介助者に気をつかう	その他	興味がないので参加しない	特になし	無回答
全体 (n=330)	7.0	6.1	5.8	16.4	34.2	7.0
10代 (n=5)	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0
20代 (n=26)	7.7	11.5	0.0	23.1	26.9	0.0
30代 (n=36)	11.1	13.9	5.6	22.2	16.7	8.3
40代 (n=42)	11.9	2.4	7.1	7.1	21.4	4.8
50代 (n=57)	7.0	5.3	10.5	19.3	26.3	10.5
60～64歳 (n=33)	3.0	6.1	6.1	15.2	36.4	6.1
65～69歳 (n=31)	6.5	6.5	3.2	12.9	45.2	0.0
70代以上 (n=90)	5.6	3.3	4.4	17.8	50.0	7.8



■障害者の年齢（問2）×地域であるとよい支援・交流（問32）

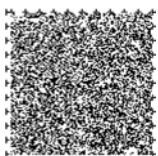
（単位：％）

	世間話をして一緒に過ごす	普段から定期的に声かけなどを する（見守る）	地域の行事やイベントに一緒に 参加する	趣味やスポーツ活動を一緒に する	相談相手になる	外出時に付き添う	簡単な身の回りの世話を する	その他	わからない	無回答
全体 (n=330)	21.8	17.6	16.4	16.4	12.7	8.8	8.5	2.7	41.2	7.3
10代 (n=5)	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
20代 (n=26)	26.9	15.4	26.9	34.6	15.4	11.5	15.4	3.8	30.8	0.0
30代 (n=36)	16.7	13.9	13.9	13.9	11.1	11.1	5.6	2.8	50.0	2.8
40代 (n=42)	28.6	19.0	16.7	14.3	16.7	7.1	14.3	4.8	47.6	2.4
50代 (n=57)	22.8	17.5	19.3	17.5	8.8	8.8	8.8	5.3	31.6	8.8
60～64歳 (n=33)	24.2	12.1	15.2	21.2	18.2	12.1	9.1	3.0	39.4	9.1
65～69歳 (n=31)	12.9	16.1	12.9	12.9	16.1	9.7	3.2	0.0	51.6	12.9
70代以上 (n=90)	23.3	21.1	14.4	12.2	11.1	6.7	5.6	1.1	42.2	7.8

■障害者の年齢（問2）×障害のある方とない方が共に生きるために必要なこと（問33）

（単位：％）

	障害のある方が自分から進んで行動 できる環境（制度など）を整える	学校教育の中で、障害や福祉に関す る学習を充実させる	障害についての理解が深められるよ う、情報提供を充実させる	障害のある方と障害のない方が交流 する機会を設ける	障害のある子どもと障害のない子ど もの交流教育を充実させる	障害のある方がさまざまな活動に参 加できるよう周りの人が協力する	障害のある方へのボランティア活動 を充実させる	その他	わからない	無回答
全体 (n=330)	33.9	32.4	31.8	23.9	21.5	20.3	10.9	6.1	19.1	5.8
10代 (n=5)	60.0	60.0	60.0	20.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	38.5	42.3	26.9	11.5	15.4	19.2	7.7	7.7	23.1	0.0
30代 (n=36)	44.4	55.6	38.9	25.0	41.7	27.8	13.9	11.1	11.1	2.8
40代 (n=42)	38.1	26.2	33.3	23.8	21.4	28.6	4.8	9.5	21.4	7.1
50代 (n=57)	29.8	35.1	43.9	22.8	17.5	12.3	8.8	5.3	17.5	10.5
60～64歳 (n=33)	36.4	15.2	27.3	24.2	12.1	18.2	9.1	6.1	15.2	9.1
65～69歳 (n=31)	16.1	45.2	19.4	22.6	29.0	6.5	12.9	3.2	25.8	0.0
70代以上 (n=90)	33.3	23.3	28.9	27.8	15.6	23.3	12.2	4.4	22.2	4.4



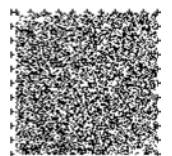
■障害者の年齢（問2）×災害時に困ること（問34）

（単位：％）

	避難所の設備（トイレなど）について不安	避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	他人と一緒に避難所にいられない	近所に頼れる人がいない	避難場所を知らない	通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	避難場所まで行けない
全体 (n=330)	40.6	35.2	19.7	15.5	15.2	14.5	10.3
10代 (n=5)	40.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0
20代 (n=26)	30.8	11.5	38.5	23.1	34.6	30.8	3.8
30代 (n=36)	36.1	44.4	27.8	11.1	11.1	22.2	5.6
40代 (n=42)	45.2	40.5	31.0	21.4	14.3	21.4	9.5
50代 (n=57)	43.9	29.8	17.5	21.1	22.8	14.0	7.0
60～64歳 (n=33)	39.4	24.2	18.2	3.0	12.1	15.2	9.1
65～69歳 (n=31)	35.5	45.2	16.1	16.1	9.7	0.0	19.4
70代以上 (n=90)	44.4	37.8	8.9	12.2	8.9	7.8	14.4

（単位：％）

	避難訓練を受けにくい	緊急時に情報を得る手段がない	緊急時の介助者がいない	その他	特に困ることはない	無回答
全体 (n=330)	10.0	9.7	7.0	6.7	17.6	3.9
10代 (n=5)	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
20代 (n=26)	11.5	11.5	11.5	7.7	11.5	0.0
30代 (n=36)	16.7	2.8	0.0	8.3	19.4	0.0
40代 (n=42)	7.1	9.5	4.8	9.5	11.9	2.4
50代 (n=57)	8.8	12.3	10.5	7.0	19.3	7.0
60～64歳 (n=33)	15.2	6.1	3.0	3.0	24.2	12.1
65～69歳 (n=31)	12.9	12.9	12.9	3.2	16.1	0.0
70代以上 (n=90)	4.4	11.1	6.7	6.7	17.8	2.2



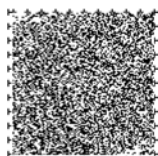
■障害者の年齢（問2）×障害が原因で受けた差別（問37）

（単位：％）

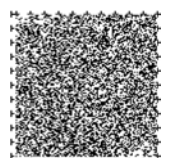
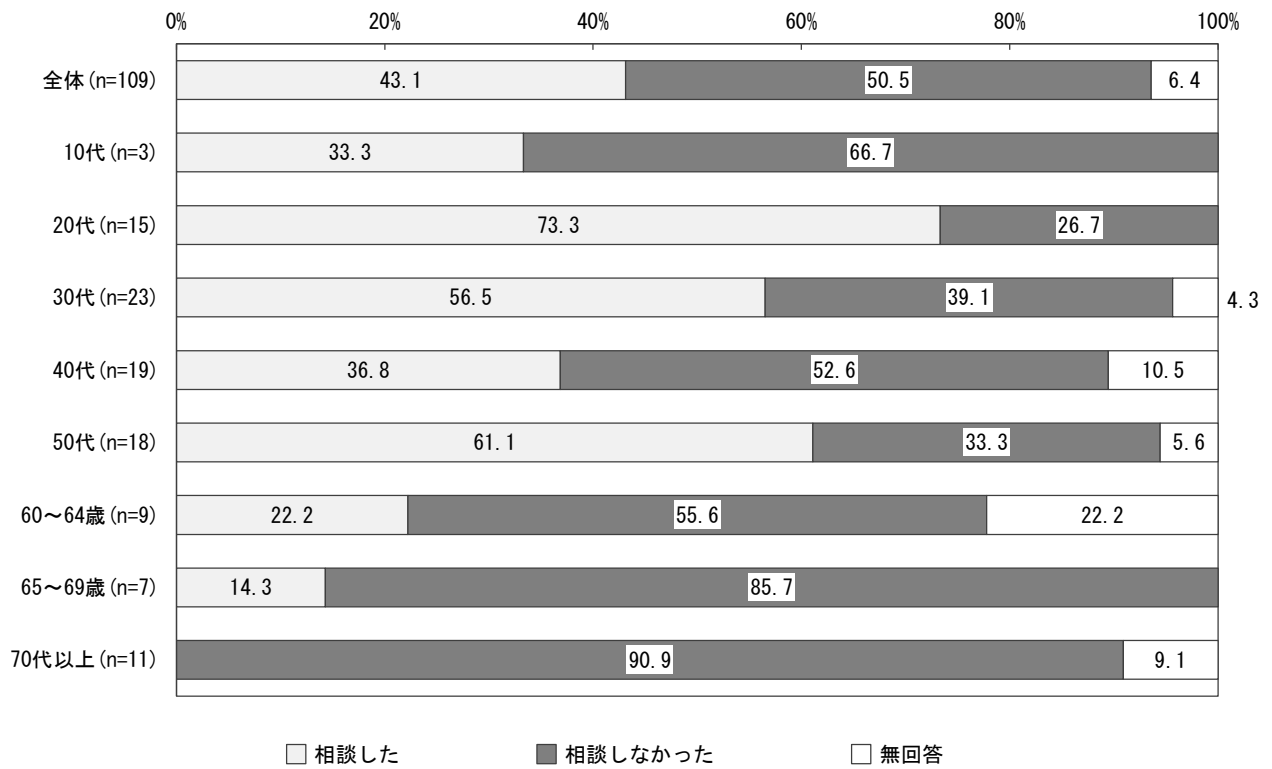
	学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた	バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした	障害を理由とした不採用や解雇があった	相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした	近所の人達の対応で、不愉快な思いをした	病院などで診察を断られた	入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で、不愉快な思いをした	ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で、不愉快な思いをした
全体 (n=330)	10.6	7.6	7.3	5.8	5.2	3.6	3.6	3.3
10代 (n=5)	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	34.6	19.2	19.2	7.7	3.8	7.7	3.8	3.8
30代 (n=36)	33.3	13.9	22.2	5.6	11.1	2.8	11.1	8.3
40代 (n=42)	14.3	7.1	9.5	11.9	7.1	4.8	0.0	4.8
50代 (n=57)	12.3	5.3	5.3	5.3	1.8	5.3	1.8	0.0
60～64歳 (n=33)	0.0	9.1	6.1	6.1	3.0	3.0	3.0	6.1
65～69歳 (n=31)	0.0	6.5	3.2	6.5	6.5	6.5	3.2	3.2
70代以上 (n=90)	1.1	2.2	0.0	2.2	3.3	0.0	4.4	2.2

（単位：％）

	ホテル、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた	年金が本人のために使われていなかったり、知らない間に預金が引き出されるなど、自分の財産が侵害された	家を借りる時に不動産業者や家主に断られた	家族や施設の人から暴力による虐待を受けた	その他	特になし	無回答
全体 (n=330)	1.5	1.5	0.9	0.9	5.2	61.2	5.8
10代 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
20代 (n=26)	0.0	0.0	7.7	0.0	11.5	42.3	0.0
30代 (n=36)	5.6	0.0	2.8	0.0	5.6	36.1	0.0
40代 (n=42)	4.8	4.8	0.0	0.0	9.5	54.8	0.0
50代 (n=57)	0.0	0.0	0.0	3.5	5.3	61.4	7.0
60～64歳 (n=33)	3.0	0.0	0.0	3.0	9.1	63.6	9.1
65～69歳 (n=31)	0.0	6.5	0.0	0.0	3.2	77.4	0.0
70代以上 (n=90)	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1	76.7	11.1



■ 障害者の年齢（問2） × 差別を受けた時の相談の有無（問38）



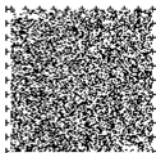
■障害者の年齢（問2）×相談しなかった理由（問39）

(単位：%)

	相談しても無駄だと思ったから	どこ(誰)に相談してよいのかわからなかったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	相談するほどのことでもないと思ったから	誰も相談する人がいなかったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
全体 (n=55)	61.8	32.7	32.7	18.2	18.2	16.4	16.4
10代 (n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
20代 (n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0
30代 (n=9)	88.9	33.3	44.4	11.1	22.2	22.2	0.0
40代 (n=10)	60.0	30.0	30.0	20.0	20.0	20.0	20.0
50代 (n=6)	66.7	33.3	50.0	50.0	16.7	33.3	33.3
60～64歳 (n=5)	80.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0
65～69歳 (n=6)	83.3	50.0	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7
70代以上 (n=10)	30.0	10.0	30.0	10.0	20.0	20.0	20.0

(単位：%)

	相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	そのことについて思い出しにくかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	世間体が悪いから	その他	無回答
全体 (n=55)	16.4	14.5	10.9	9.1	9.1	1.8	3.6
10代 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代 (n=9)	11.1	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0	0.0
40代 (n=10)	30.0	30.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0
50代 (n=6)	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0
60～64歳 (n=5)	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
65～69歳 (n=6)	33.3	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0
70代以上 (n=10)	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0



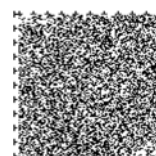
■障害者の年齢（問2）×福祉に関する情報を取得する場所（問41）

（単位：％）

	都や市の広報・ホームページやガイドブック	病院など医療機関	インターネット（パソコン、スマートフォン）	家族や友人	市役所・保健所・児童相談所	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌	障害福祉サービス事業所
全体(n=330)	49.4	24.5	23.6	22.7	18.5	18.2	12.7	12.7
10代(n=5)	20.0	20.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0
20代(n=26)	23.1	26.9	34.6	42.3	34.6	3.8	11.5	19.2
30代(n=36)	41.7	27.8	38.9	25.0	13.9	13.9	11.1	25.0
40代(n=42)	50.0	35.7	38.1	31.0	26.2	16.7	11.9	19.0
50代(n=57)	49.1	21.1	38.6	8.8	19.3	19.3	5.3	5.3
60～64歳(n=33)	42.4	21.2	9.1	9.1	12.1	18.2	9.1	9.1
65～69歳(n=31)	48.4	25.8	6.5	22.6	19.4	16.1	9.7	6.5
70代以上(n=90)	65.6	20.0	11.1	23.3	16.7	25.6	22.2	11.1

（単位：％）

	社会福祉協議会	障害者相談支援事業所	学校の先生・職場の同僚	ハローワーク	障害者団体・家族会など	その他	無回答
全体(n=330)	8.8	8.2	3.3	2.1	0.9	3.3	6.4
10代(n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代(n=26)	7.7	19.2	19.2	0.0	0.0	3.8	0.0
30代(n=36)	16.7	25.0	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
40代(n=42)	14.3	14.3	11.9	7.1	4.8	7.1	2.4
50代(n=57)	3.5	1.8	0.0	0.0	0.0	3.5	10.5
60～64歳(n=33)	6.1	6.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1
65～69歳(n=31)	9.7	3.2	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5
70代以上(n=90)	7.8	3.3	0.0	0.0	0.0	3.3	5.6



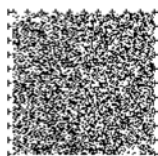
■障害者の年齢（問2）×サービスを利用するときに困っていること（問42）

（単位：％）

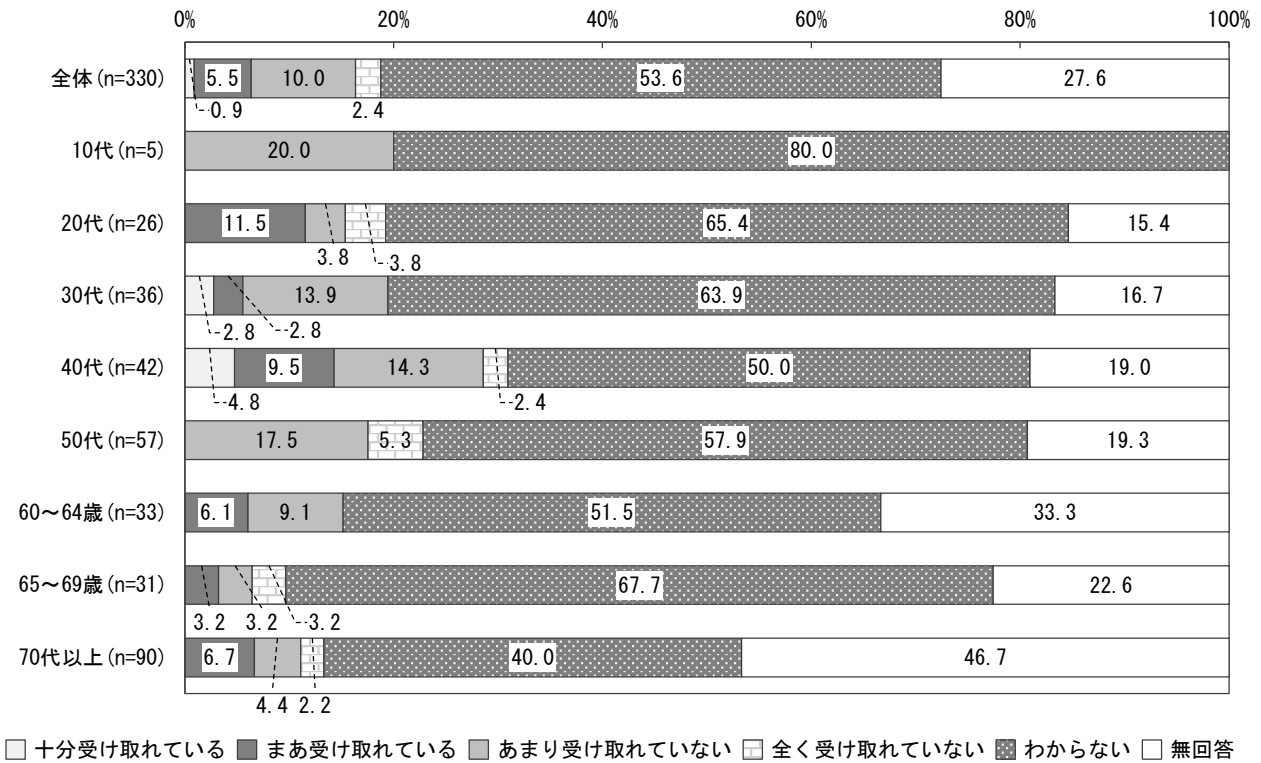
	どんなサービスがあるのか知らない	どの事業者が良いのかわからない	事業者情報が不十分	サービスの支給量が少ない、支給期間が短い	使いたいサービスが使えなかった	費用負担があるため、サービスが使いづらい
全体 (n=330)	33.0	9.1	8.5	4.2	3.6	3.0
10代 (n=5)	40.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
20代 (n=26)	42.3	3.8	11.5	3.8	3.8	3.8
30代 (n=36)	44.4	16.7	11.1	13.9	5.6	5.6
40代 (n=42)	31.0	11.9	4.8	0.0	7.1	9.5
50代 (n=57)	31.6	7.0	7.0	5.3	3.5	1.8
60～64歳 (n=33)	36.4	3.0	3.0	6.1	3.0	0.0
65～69歳 (n=31)	25.8	9.7	6.5	0.0	3.2	0.0
70代以上 (n=90)	28.9	10.0	11.1	2.2	1.1	2.2

（単位：％）

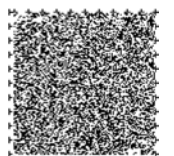
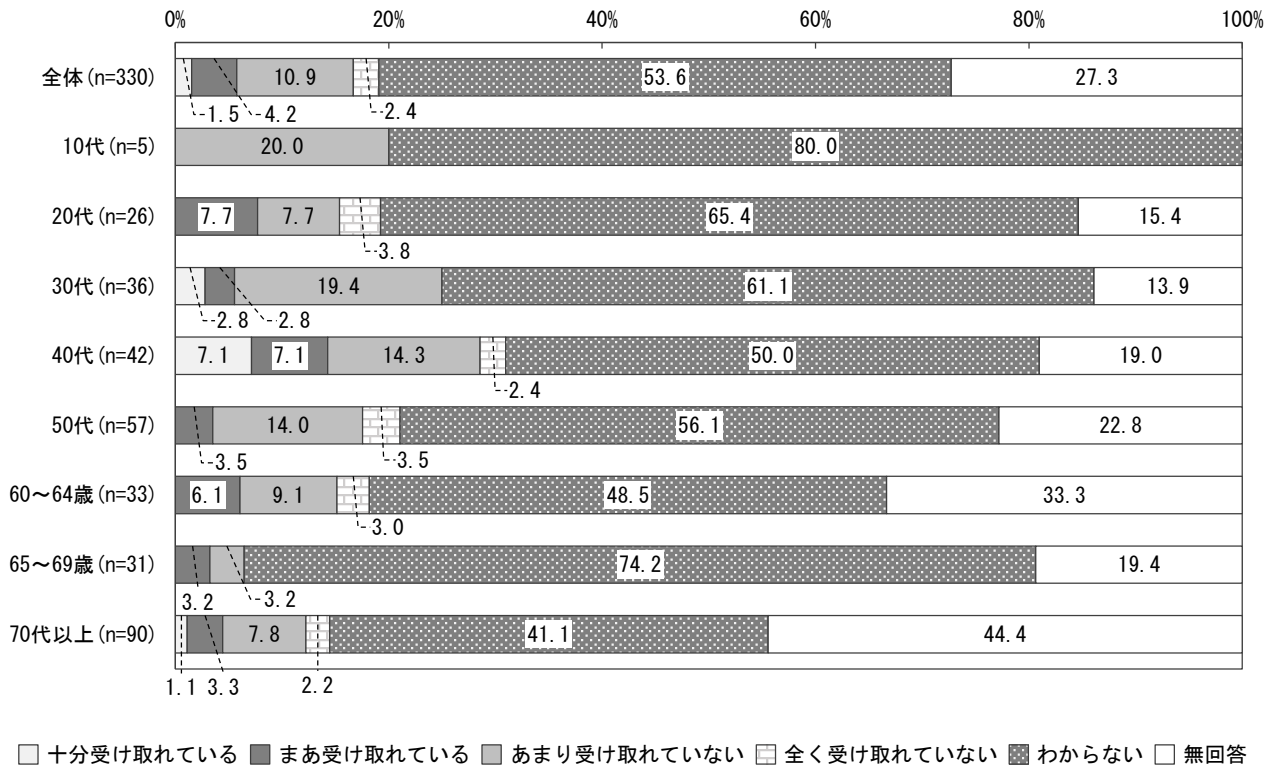
	契約の方法がわからなかった （わかりにくかった）	利用してトラブルがあった	その他	わからない	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=330)	1.5	0.6	0.9	19.1	30.9	8.5
10代 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
20代 (n=26)	3.8	3.8	3.8	19.2	19.2	3.8
30代 (n=36)	2.8	0.0	0.0	22.2	16.7	2.8
40代 (n=42)	2.4	0.0	4.8	19.0	28.6	7.1
50代 (n=57)	0.0	0.0	0.0	22.8	24.6	8.8
60～64歳 (n=33)	0.0	0.0	0.0	15.2	45.5	6.1
65～69歳 (n=31)	3.2	0.0	0.0	12.9	41.9	12.9
70代以上 (n=90)	0.0	1.1	0.0	21.1	36.7	11.1



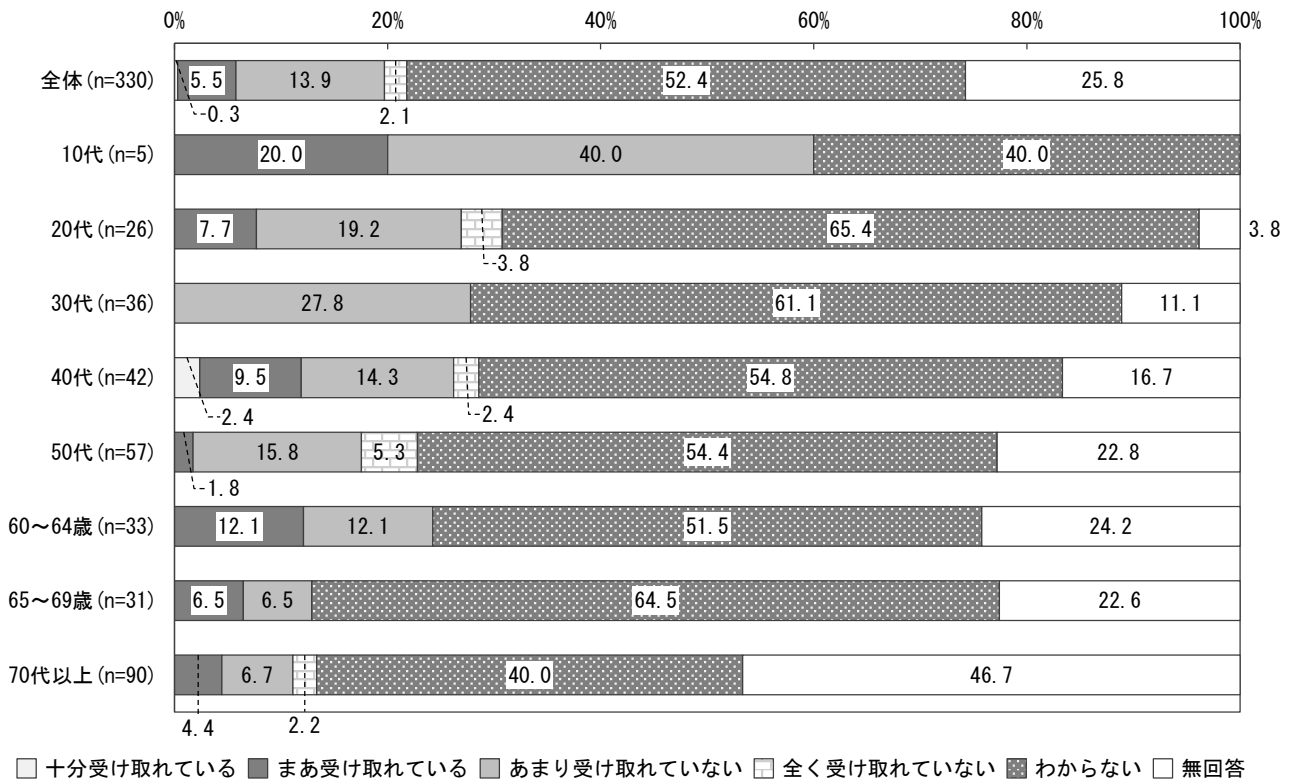
■ 障害者の年齢（問2）×視覚障害者が受け取る情報について（問43①）



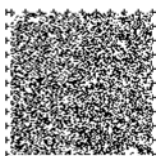
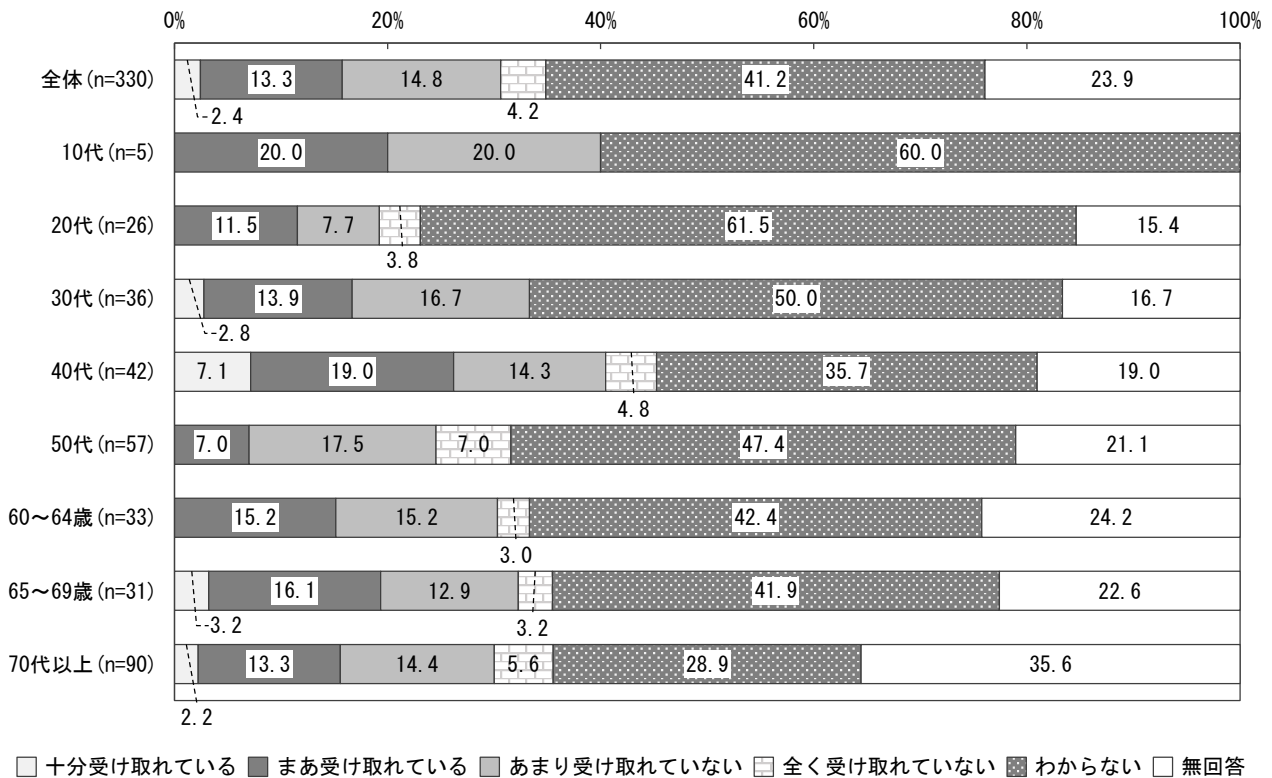
■ 障害者の年齢（問2）×聴覚障害者が受け取る情報について（問43②）



■ 障害者の年齢（問2） × 知的障害者が受け取る情報について（問4 3 ③）



■ 障害者の年齢（問2） × 高齢者が受け取る情報について（問4 3 ④）



■障害者の年齢（問2）×相談事業を充実させるために必要なこと（問44）

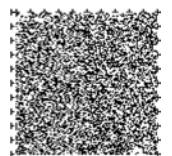
（単位：％）

	気軽に相談できる窓口の数を増やす	1か所でさまざまな相談に対応できる窓口を整備する	専門性のある相談員を配置する	夜間や休日なども相談できる窓口を整備する	相談員のスキルアップ研修を行う	専門的な相談機関を整備する	相談員が自宅などに来てくれる訪問相談を行う	障害のある方による相談対応（ピアカウンセリング）を充実する	コミュニケーションの支援（手話、要約筆記など）を充実する	その他	無回答
全体 (n=330)	46.1	36.1	33.3	18.5	17.6	14.2	12.4	10.0	7.6	5.5	13.3
10代 (n=5)	80.0	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	76.9	23.1	15.4	26.9	11.5	19.2	7.7	19.2	15.4	7.7	3.8
30代 (n=36)	36.1	41.7	52.8	33.3	33.3	22.2	13.9	19.4	11.1	5.6	8.3
40代 (n=42)	47.6	14.3	40.5	21.4	23.8	16.7	19.0	7.1	19.0	11.9	7.1
50代 (n=57)	43.9	31.6	35.1	22.8	21.1	5.3	12.3	14.0	7.0	5.3	15.8
60～64歳 (n=33)	51.5	30.3	30.3	15.2	15.2	6.1	15.2	0.0	0.0	0.0	15.2
65～69歳 (n=31)	51.6	45.2	32.3	19.4	16.1	9.7	19.4	3.2	6.5	6.5	6.5
70代以上 (n=90)	35.6	47.8	26.7	5.6	10.0	20.0	7.8	8.9	3.3	3.3	22.2

■障害者の年齢（問2）×今後必要となる施策（問46）

（単位：％）

	経済的な援助の充実	相談体制の充実	暮らしやすいまちづくり	災害時における避難誘導体制の確立	働く機会の充実	在宅福祉サービスの充実	住宅の整備・改造のための支援	入所施設の整備	福祉行政分野におけるICT機器の活用
全体 (n=330)	38.8	27.3	27.0	20.9	20.6	19.1	18.5	17.9	17.3
10代 (n=5)	60.0	40.0	80.0	40.0	40.0	20.0	20.0	60.0	60.0
20代 (n=26)	65.4	46.2	19.2	26.9	26.9	7.7	7.7	30.8	19.2
30代 (n=36)	44.4	41.7	19.4	16.7	38.9	27.8	19.4	22.2	27.8
40代 (n=42)	28.6	33.3	26.2	11.9	23.8	11.9	14.3	11.9	14.3
50代 (n=57)	26.3	29.8	31.6	21.1	31.6	14.0	15.8	15.8	14.0
60～64歳 (n=33)	51.5	18.2	24.2	24.2	21.2	27.3	24.2	9.1	24.2
65～69歳 (n=31)	38.7	9.7	38.7	29.0	9.7	38.7	32.3	19.4	9.7
70代以上 (n=90)	36.7	20.0	23.3	18.9	5.6	14.4	16.7	16.7	12.2

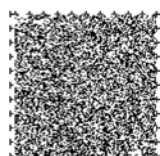


(単位：%)

	障害のある方についての地域の人の理解を深めるための活動	在宅の給食サービスの実施	保健医療サービスの充実	通所施設の整備	地域で生活できる住宅の整備	一般企業以外での就労の場	療育・保育・教育の質の向上	障害者団体の自律的活動に対する行政の支援	地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり
全体 (n=330)	16.7	16.4	14.8	13.9	13.6	13.3	12.7	12.4	10.9
10代 (n=5)	40.0	0.0	0.0	80.0	60.0	20.0	60.0	60.0	20.0
20代 (n=26)	30.8	11.5	19.2	26.9	23.1	15.4	11.5	19.2	23.1
30代 (n=36)	22.2	11.1	19.4	19.4	25.0	33.3	27.8	13.9	11.1
40代 (n=42)	16.7	7.1	7.1	9.5	14.3	19.0	19.0	19.0	11.9
50代 (n=57)	19.3	17.5	14.0	14.0	7.0	15.8	8.8	7.0	7.0
60～64歳 (n=33)	9.1	24.2	15.2	9.1	12.1	15.2	15.2	12.1	9.1
65～69歳 (n=31)	12.9	16.1	19.4	16.1	6.5	3.2	6.5	9.7	3.2
70代以上 (n=90)	11.1	21.1	15.6	7.8	10.0	3.3	5.6	6.7	11.1

(単位：%)

	権利擁護推進事業の充実	ボランティアの育成	情報通信分野の充実	障害のある方の交際交流	その他	わからない	特になし	無回答
全体 (n=330)	10.0	8.8	8.5	5.5	5.2	13.3	4.5	7.0
10代 (n=5)	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
20代 (n=26)	11.5	11.5	7.7	11.5	3.8	7.7	3.8	0.0
30代 (n=36)	16.7	8.3	13.9	11.1	13.9	11.1	2.8	5.6
40代 (n=42)	9.5	4.8	9.5	7.1	11.9	16.7	2.4	7.1
50代 (n=57)	12.3	10.5	10.5	5.3	3.5	10.5	5.3	10.5
60～64歳 (n=33)	9.1	6.1	6.1	6.1	3.0	6.1	6.1	3.0
65～69歳 (n=31)	9.7	16.1	9.7	6.5	3.2	16.1	0.0	6.5
70代以上 (n=90)	5.6	7.8	3.3	1.1	0.0	18.9	7.8	7.8



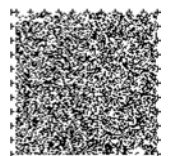
■障害者の年齢（問2）×武蔵村山市で成長するにあたって重要なこと（問47）

（単位：％）

	地域の 人々の理解	学校の 先生や職員 の理解	家族の 理解	市役所や 公共施設 の職員の 理解	信頼でき る医療機 関	進学や就 職に向け た情報提 供	障害のある 方・子ども に対するサ ービス提 供の充実	乳幼児期 から老齢 期までの 一貫した 支援	自立した 生活を送 ることが できる 住まい
全体 (n=330)	58.5	49.7	43.6	40.0	35.5	34.5	31.2	30.3	29.4
10代 (n=5)	60.0	60.0	40.0	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	40.0
20代 (n=26)	53.8	65.4	53.8	34.6	42.3	46.2	26.9	46.2	46.2
30代 (n=36)	58.3	66.7	58.3	38.9	47.2	61.1	44.4	44.4	33.3
40代 (n=42)	66.7	45.2	50.0	33.3	38.1	35.7	23.8	26.2	33.3
50代 (n=57)	63.2	45.6	45.6	38.6	33.3	31.6	28.1	29.8	35.1
60～64歳 (n=33)	42.4	36.4	36.4	33.3	21.2	18.2	30.3	30.3	21.2
65～69歳 (n=31)	67.7	58.1	48.4	61.3	38.7	35.5	32.3	22.6	25.8
70代以上 (n=90)	56.7	45.6	33.3	38.9	32.2	25.6	30.0	26.7	21.1

（単位：％）

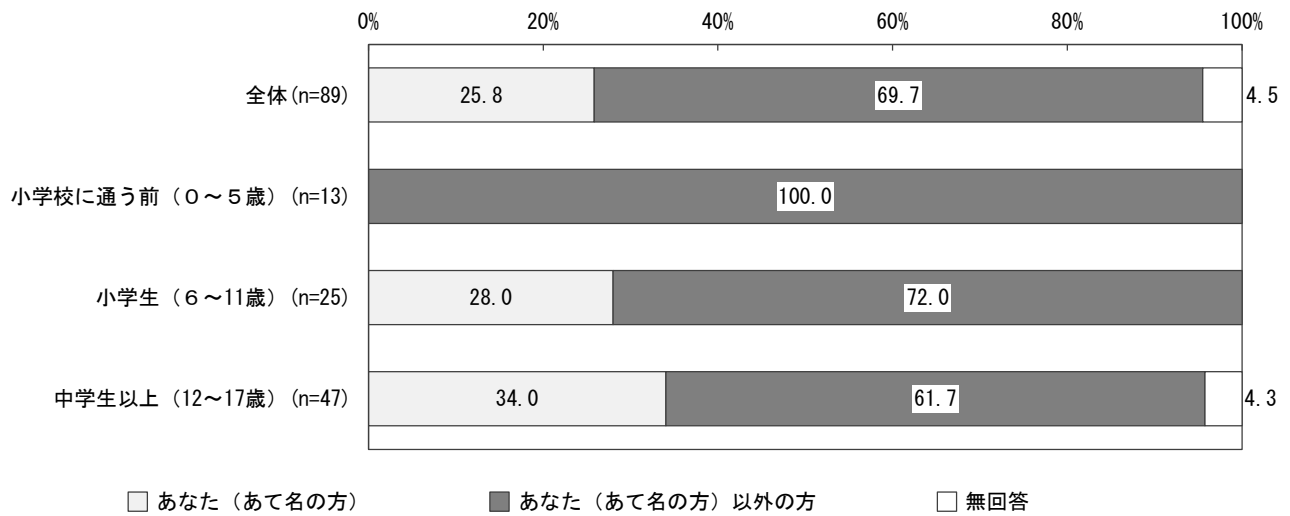
	放課後や 休日の過 ごしの場 の充実	療育制度 の充実	リハビリ や訓練な どの施設	インクル ーシブ教 育の実践	教育機関 などでの 情報の引 継ぎ	その他	わから ない	特にな い	無回 答
全体 (n=330)	27.9	27.0	27.0	19.1	18.2	2.4	6.7	3.3	6.4
10代 (n=5)	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0
20代 (n=26)	34.6	38.5	15.4	15.4	15.4	0.0	3.8	3.8	0.0
30代 (n=36)	41.7	47.2	36.1	22.2	33.3	8.3	5.6	0.0	0.0
40代 (n=42)	23.8	31.0	31.0	21.4	26.2	9.5	4.8	7.1	2.4
50代 (n=57)	22.8	28.1	31.6	26.3	19.3	0.0	3.5	5.3	7.0
60～64歳 (n=33)	24.2	18.2	18.2	18.2	6.1	0.0	6.1	6.1	6.1
65～69歳 (n=31)	35.5	22.6	25.8	19.4	16.1	3.2	12.9	3.2	0.0
70代以上 (n=90)	21.1	16.7	26.7	13.3	12.2	0.0	8.9	1.1	13.3



2 設問ごとの年代別クロス集計結果（18歳未満）

※報告書本編で使用した集計結果は除くとする。

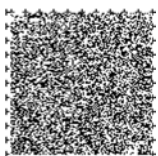
■障害者の年齢（問2）×アンケート記入者（問1）



■障害者の年齢（問2）×障害の種類（問4）

(単位：%)

	肢体不自由（上肢・下肢・体幹）	内部障害（心臓機能、じん臓機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）	聴覚・平衡機能	視覚	音声・言語・そしゃく機能	免疫機能	無回答
全体 (n=22)	63.6	31.8	4.5	0.0	0.0	0.0	4.5
小学校に通う前 (0~5歳) (n=6)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生 (6~11歳) (n=4)	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学生以上 (12~17歳) (n=11)	54.5	45.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1



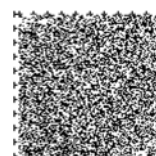
■障害者の年齢（問2）×生活で困っていること（問5）

（単位：％）

	進路や就職のこと	親が亡くなった後の過ごし方	思うように意思疎通ができないこと	経済的なこと	家に帰ってからや日曜日などの暇なときの過ごし方	施設やサービスのこと	学校のこと（保育園や幼稚園、認定こども園を含む）	健康や医療のこと
全体(n=89)	34.8	30.3	27.0	21.3	20.2	15.7	11.2	11.2
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	23.1	38.5	30.8	30.8	7.7	30.8	15.4	7.7
小学生（6～11歳）(n=25)	20.0	32.0	20.0	24.0	16.0	12.0	24.0	8.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	46.8	27.7	29.8	19.1	27.7	14.9	4.3	12.8

（単位：％）

	家族のこと	困ったときの相談先がないこと	近所付き合いのこと	いやがらせなどを受けること	その他	特にない	無回答
全体(n=89)	9.0	5.6	4.5	2.2	3.4	24.7	4.5
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	23.1	15.4	7.7	7.7	7.7	30.8	0.0
小学生（6～11歳）(n=25)	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	20.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	8.5	2.1	4.3	0.0	0.0	27.7	2.1



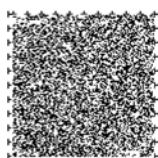
■障害者の年齢（問2）×相談相手（問6）

（単位：％）

	家族や親族	学校の先生や保育所・幼稚園の先生	医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ	友人、知人	子ども家庭支援センターの人	市役所や保健センター、保健所の人	児童相談所の人
全体 (n=89)	75.3	50.6	33.7	30.3	7.9	4.5	4.5
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	69.2	61.5	61.5	30.8	0.0	7.7	0.0
小学生（6～11歳）(n=25)	84.0	48.0	28.0	24.0	8.0	8.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	74.5	51.1	29.8	36.2	6.4	2.1	6.4

（単位：％）

	ボランティアの人	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の人	東京都心身障害者福祉センターの人	相談するところがわからない	その他	無回答
全体 (n=89)	2.2	0.0	0.0	0.0	10.1	5.6	6.7
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7
小学生（6～11歳）(n=25)	4.0	0.0	0.0	0.0	12.0	8.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5	4.3	4.3



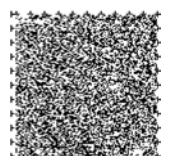
■障害者の年齢（問2）×余暇活動をするときに困っていること（問7）

（単位：％）

	障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない	障害のない大勢の人たちの中に入っていくのに気が引ける	活動のための情報が少ない	一緒に参加する友人、仲間がいない	施設や設備が障害のある方に配慮されていない	経済的余裕がない
全体(n=89)	32.6	25.8	23.6	20.2	16.9	13.5
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	46.2	38.5	46.2	23.1	30.8	15.4
小学生（6～11歳）(n=25)	44.0	40.0	24.0	24.0	28.0	8.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	25.5	14.9	19.1	19.1	8.5	17.0

（単位：％）

	介助者がいない、介助者に気がつかう	忙しくて時間がない	その他	興味がないので参加しない	特にない	無回答
全体(n=89)	12.4	10.1	6.7	15.7	21.3	6.7
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	15.4	30.8	7.7	0.0	15.4	7.7
小学生（6～11歳）(n=25)	8.0	8.0	12.0	12.0	12.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	14.9	6.4	2.1	23.4	29.8	4.3



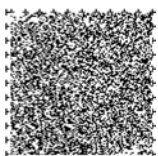
■障害者の年齢（問2）×病院にかかるときに困っていること（問10）

（単位：％）

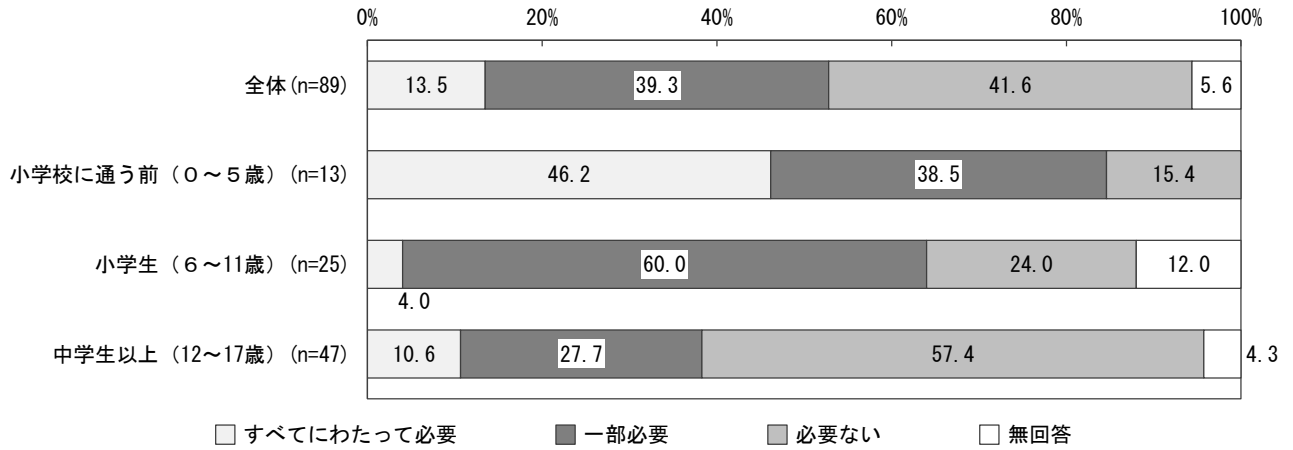
	専門的な治療を行っている病院が近くにない	障害があることで医師に症状が正確に伝えられない	近所に診てくれる病院がない	配慮が不十分	病院にかかる受診手続や案内など障害のある方への	病院にかかるお金の負担が大きい	病院に行っても、ことわられる	気軽に家に診に来てくれる医師がない
全体 (n=89)	14.6	14.6	9.0	6.7	5.6	4.5	2.2	
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	30.8	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	
小学生（6～11歳）(n=25)	12.0	20.0	8.0	12.0	8.0	8.0	4.0	
中学生以上（12～17歳）(n=47)	12.8	17.0	10.6	6.4	6.4	2.1	0.0	

（単位：％）

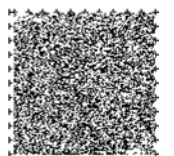
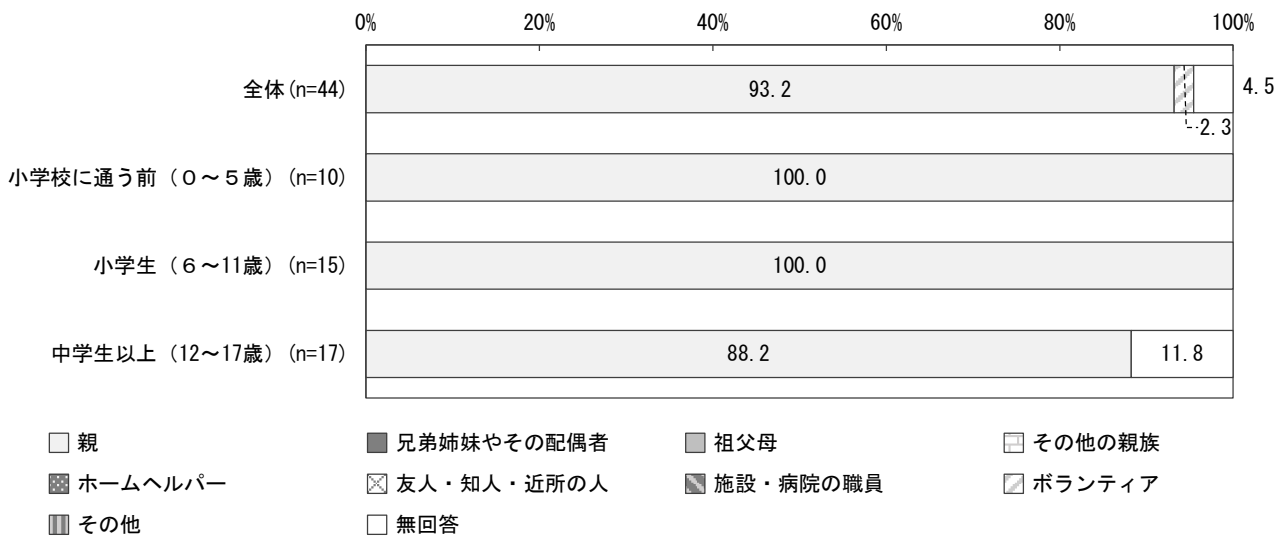
	通院する時に付き添ってくれる人がいない	治療を引き受けてくれる歯科医師が近くにいない	入院するときに、付き添いや個室を強いられる	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=89)	1.1	1.1	0.0	4.5	48.3	7.9
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	0.0	0.0	0.0	7.7	38.5	7.7
小学生（6～11歳）(n=25)	4.0	0.0	0.0	4.0	36.0	12.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	0.0	2.1	0.0	4.3	53.2	6.4



■ 障害者の年齢（問 2） × 介助の必要性（問 1 1）



■ 障害者の年齢（問 2） × 主な介助（支援）者（問 1 2）



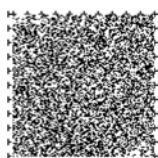
■障害者の年齢（問2）×介助（支援）者が困っていること（問15）

（単位：％）

	将来の見通しに不安がある	体力的に心配がある	休みが十分に取れない	介助（支援）する代替りの人がいない	精神的な負担が大きい	介助（支援）する人の健康に不安がある
全体 (n=47)	51.1	36.2	34.0	34.0	25.5	19.1
小学校に通う前（0～5歳） (n=11)	63.6	72.7	72.7	45.5	45.5	54.5
小学生（6～11歳） (n=16)	50.0	12.5	18.8	37.5	6.3	12.5
中学生以上（12～17歳） (n=18)	50.0	38.9	22.2	22.2	33.3	5.6

（単位：％）

	あなたとの意思疎通が十分でない	サービスなどの情報が不十分だ	困りごとやサービスのことを相談できる人がいない	その他	特に困ったことはない	無回答
全体 (n=47)	19.1	19.1	8.5	2.1	19.1	2.1
小学校に通う前（0～5歳） (n=11)	18.2	36.4	9.1	0.0	18.2	0.0
小学生（6～11歳） (n=16)	6.3	18.8	12.5	0.0	18.8	6.3
中学生以上（12～17歳） (n=18)	33.3	11.1	5.6	5.6	16.7	0.0

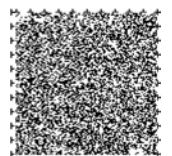
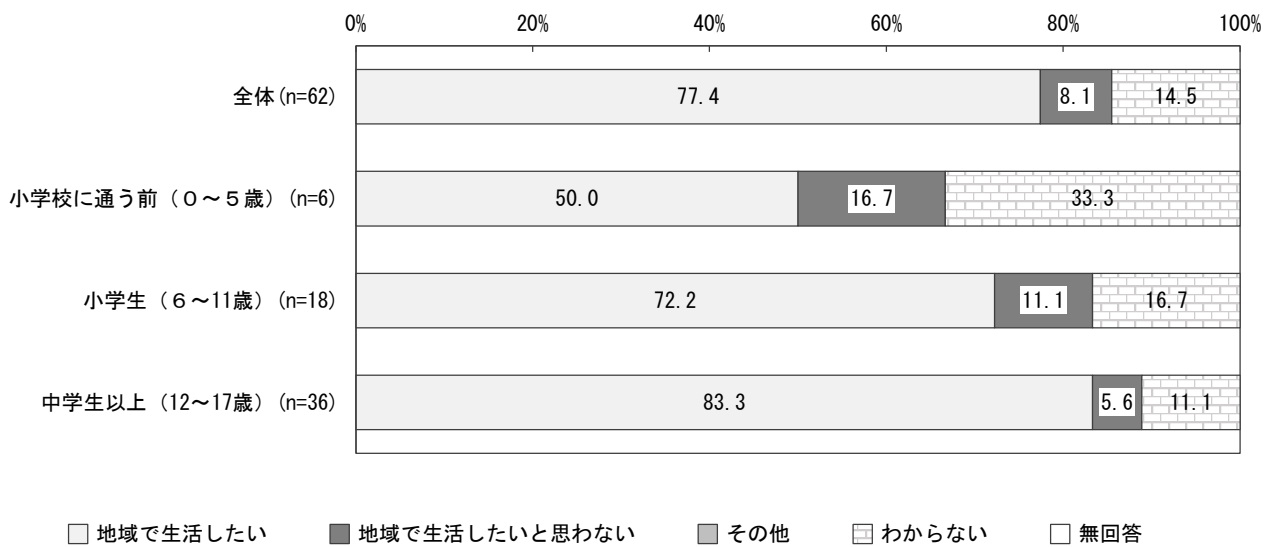


■障害者の年齢（問2）×通園や通学で困っていること（問17）

（単位：％）

	通うのが大変	介助・支援体制が不十分	学校など受け入れ側の理解や配慮の不足	まわりの人たちの理解や配慮の不足	人間関係がうまくいかない	トイレや階段などの施設が利用しにくい	その他	特にない	無回答
全体(n=77)	11.7	7.8	6.5	6.5	6.5	1.3	5.2	64.9	2.6
小学校に通う前（0～5歳）(n=11)	18.2	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	54.5	0.0
小学生（6～11歳）(n=23)	8.7	13.0	13.0	13.0	8.7	4.3	0.0	52.2	8.7
中学生以上（12～17歳）(n=39)	12.8	2.6	2.6	2.6	5.1	0.0	5.1	76.9	0.0

■障害者の年齢（問2）×将来の生活（問19）



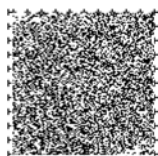
■障害者の年齢（問2）×地域で生活するための課題（問20）

（単位：％）

	面倒を見てくれる人の衰え	障害のある方に適した住居がない	働ける場所がない	賃金などが十分でない	生活訓練などの充実が必要	コミュニケーションがとれない	体調管理が難しい
全体 (n=48)	45.8	29.2	27.1	27.1	22.9	18.8	18.8
小学校に通う前（0～5歳） (n=3)	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	0.0	33.3
小学生（6～11歳） (n=13)	61.5	46.2	38.5	23.1	30.8	7.7	7.7
中学生以上（12～17歳） (n=30)	36.7	23.3	20.0	23.3	16.7	23.3	23.3

（単位：％）

	相談できる場所がない	地域住民などの理解が不足している	仕事を得ても続かない	その他	わからない	特になし	無回答
全体 (n=48)	16.7	14.6	8.3	4.2	16.7	16.7	0.0
小学校に通う前（0～5歳） (n=3)	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
小学生（6～11歳） (n=13)	30.8	23.1	7.7	0.0	7.7	15.4	0.0
中学生以上（12～17歳） (n=30)	10.0	6.7	6.7	6.7	20.0	20.0	0.0



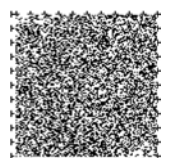
■障害者の年齢（問2）×外出する時に不便に感じること（問21）

（単位：％）

	自分の意見を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	道路や建物・駅に階段や段差が多い	外出に費用がかかりすぎる	障害者用トイレが少ない	歩道が整備されていない	バスや電車の乗り降りが困難	付き添ってくれる人がいない	バスや電車内で運行状況の案内表示がない	通路上に自転車や看板などの障害物があつて通りにくい	建物の出入り口が狭かったり、開けにくい
全体 (n=89)	23.6	15.7	14.6	10.1	10.1	9.0	9.0	7.9	6.7	5.6
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	30.8	38.5	7.7	7.7	30.8	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7
小学生（6～11歳）(n=25)	28.0	8.0	12.0	12.0	8.0	4.0	0.0	8.0	4.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	19.1	14.9	17.0	10.6	6.4	8.5	12.8	10.6	8.5	6.4

（単位：％）

	障害者用の駐車スペースが少ない	（車イスなどの）福祉タクシーが利用しにくい	点字ブロックや盲人用信号が不十分である	建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導鈴や音声システムが少ない	低い操作盤や手すり・鏡のついた福祉対応のエレベーターが少ない	公衆FAXや障害者用電話が少ない	その他	特に困ることはない	ほとんど外出しないのでわからない	無回答
全体 (n=89)	3.4	3.4	2.2	2.2	2.2	1.1	6.7	31.5	6.7	3.4
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
小学生（6～11歳）(n=25)	0.0	4.0	0.0	0.0	4.0	4.0	8.0	24.0	4.0	8.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	4.3	2.1	2.1	4.3	2.1	0.0	6.4	44.7	8.5	2.1



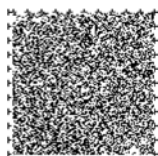
■障害者の年齢（問2）×災害時に困ること（問22）

（単位：％）

	通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない	他人と一緒に避難所にいられない	避難所の設備（トイレなど）について不安	避難場所を知らない	緊急時に情報を得る手段がない	避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	近所に頼れる人がいない
全体(n=89)	34.8	24.7	21.3	19.1	16.9	15.7	14.6
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	38.5	38.5	30.8	23.1	23.1	15.4	23.1
小学生（6～11歳）(n=25)	36.0	24.0	16.0	20.0	16.0	8.0	16.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	34.0	23.4	23.4	19.1	17.0	17.0	10.6

（単位：％）

	避難場所まで行けない（坂や段差がある、避難場所が遠いなど）	緊急時の介助者がいない	避難訓練を受けにくい	その他	特に困ることはない	無回答
全体(n=89)	13.5	10.1	5.6	4.5	20.2	3.4
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	38.5	23.1	7.7	15.4	0.0	7.7
小学生（6～11歳）(n=25)	8.0	8.0	0.0	4.0	12.0	8.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	10.6	8.5	8.5	2.1	29.8	0.0



■障害者の年齢（問2）×障害が原因で受けた差別（問23）

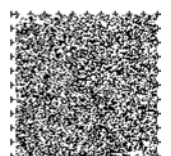
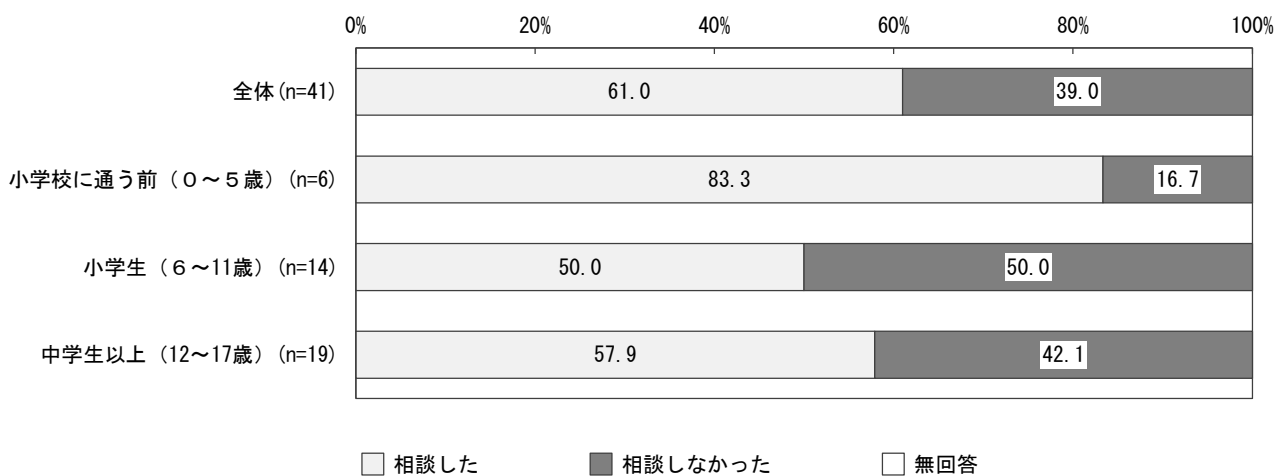
（単位：％）

	学校での対応	バス、電車、タクシーでの対応	ホテル、公衆浴場、飲食店での対応	病院での対応	近所の人達の対応	相談機関・相談窓口での対応
全体(n=89)	19.1	14.6	12.4	10.1	5.6	3.4
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	7.7	23.1	23.1	15.4	15.4	0.0
小学生（6～11歳）(n=25)	20.0	8.0	20.0	12.0	4.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	19.1	17.0	6.4	8.5	4.3	4.3

（単位：％）

	ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応	施設の職員や他の利用者の対応	家族からの嫌がらせ・暴力など	その他	特にない	無回答
全体(n=89)	0.0	0.0	0.0	5.6	50.6	3.4
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	53.8	0.0
小学生（6～11歳）(n=25)	0.0	0.0	0.0	8.0	40.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	0.0	0.0	0.0	6.4	55.3	4.3

■障害者の年齢（問2）×差別を受けた時の相談の有無（問24）



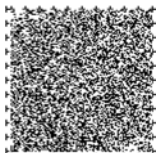
■障害者の年齢（問2）×相談しなかった理由（問25）

（単位：％）

	相談しても無駄だと思ったから	どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっているとと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談先の担当者の言動により不快な思いをと思ったから	そのことについて思い出したくなかったから	相談するほどのことでもないと思ったから	誰も相談する人がいなかったから
全体(n=16)	87.5	31.3	31.3	12.5	12.5	12.5	12.5	6.3
小学校に通う前（0～5歳）(n=1)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生（6～11歳）(n=7)	85.7	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3
中学生以上（12～17歳）(n=8)	87.5	25.0	37.5	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0

（単位：％）

	相談したことがわかると、仕返しを受けると思ったから	誰も相談する人がいなかった	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	他人を巻き込みたくないから	自分にも悪いところがあると思ったから	世間体が悪いから	その他	無回答
全体(n=16)	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	0.0	12.5	0.0
小学校に通う前（0～5歳）(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
小学生（6～11歳）(n=7)	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学生以上（12～17歳）(n=8)	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0



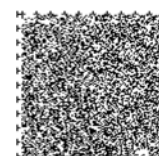
■障害者の年齢（問2）×武蔵村山市で成長するにあたって重要なこと（問26）

（単位：％）

	学校の先生や職員の理解	進学や就職に向けた情報提供	障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実	市役所や公共施設の職員の理解	地域の人々の理解	一人一人に合った教育	療育制度の充実	放課後や休日の過ごし場の充実	信頼できる医療機関	自立した生活を送ることができる住まい
全体(n=89)	62.9	60.7	53.9	51.7	50.6	50.6	46.1	44.9	44.9	44.9
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	84.6	76.9	84.6	69.2	76.9	61.5	84.6	84.6	53.8	69.2
小学生（6～11歳）(n=25)	68.0	44.0	52.0	48.0	52.0	52.0	52.0	40.0	40.0	32.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	53.2	66.0	44.7	48.9	42.6	44.7	29.8	34.0	46.8	44.7

（単位：％）

	乳幼児期から老齢期までの一貫した支援	家族の理解	教育機関などでの情報の引継ぎ	リハビリ訓練などの施設	障害のある子どもの国際交流	その他	わからない	特にない	無回答
全体(n=89)	43.8	39.3	39.3	28.1	16.9	4.5	2.2	1.1	3.4
小学校に通う前（0～5歳）(n=13)	69.2	23.1	61.5	38.5	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0
小学生（6～11歳）(n=25)	40.0	44.0	48.0	36.0	24.0	0.0	4.0	0.0	4.0
中学生以上（12～17歳）(n=47)	36.2	38.3	27.7	19.1	14.9	4.3	2.1	2.1	4.3



3 市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票（18歳以上の方）

市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票

白濁から市成の理髪にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。
武蔵村山市では、本市における障害のある方の暮らしをより良いものとすることをめざし、「障害者計画」「障害福祉計画」「障害者福祉計画」を策定し、各種障害福祉施策を推進しております。

このたび、武蔵村山市第五次障害者計画、第六期障害者福祉計画、第二期障害者福祉計画を見直し、新しい計画を策定するための基礎となる資料として、福祉サービスなどを利用している方を対象に1,000名を無作為に抽出し、アンケートを実施することにいたしました。
お答えいただいた内容は、アンケートの目的にのみ使い、個人のプライバシーが公表されることはありません。ご記入にあたり、負担が大きいなどの場合は記入を控えていただいてもかまいません。お手紙をおかけいたしますが、このアンケートの趣旨をご理解いただきまして、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

令和4年12月

武蔵村山市長 山崎 義天

【ご記入に当たってのお願い】

- 1 このアンケート用紙には、お名前・ご住所の記入は必要ありません。
- 2 お答えは、あてはまるものに○をつけてください。また、記述欄には、具体的にその内容をご記入ください。
- 3 質問にはできる限りご本人がお答えください。ただし書くことがむずかしい場合は、ご家族などがご本人のお考えをお聞きの上、代理でご記入ください。また、わからない場合などはご家族、相談支援事業所、後見人、施設職員の方などにご相談してください。
- 4 アンケート用紙には、**黒ボールペン**または**鉛筆**でご記入ください。
- 5 ご記入いただきましたアンケート用紙は、**同封の返信用封筒**（切手は不要です）に入れて、**12月26日（月）までにポストに投函してください。**

◇ このアンケートについての質問などは、下記までお問い合わせください。

武蔵村山市 健康福祉部 障害福祉課

電話：042-590-1185

FAX：042-562-3966



1 あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて、おうかがいします。

問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。（1つに○）

1. ご本人が記入
2. 本人の意思を「代筆」で記入
3. 家族や介助者などが本人の意向を汲み取って代わりに記入

問2 あなたは、何歳ですか。（1つに○）【令和4年11月1日現在】

- | | | | |
|--------|--------|-----------|-----------|
| 1. 10代 | 3. 30代 | 5. 50代 | 7. 65～69歳 |
| 2. 20代 | 4. 40代 | 6. 60～64歳 | 8. 70代以上 |

問3 あなたはどの障害者手帳を持っていたり、医療費などの助成を受けていたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------|--------|
| 1. 身体障害者手帳 | → 1問4へ |
| 2. 愛の手帳（療育手帳） | → 1問5へ |
| 3. 精神障害者保健福祉手帳 | |
| 4. 自立支援医療の受給 | |
| 5. 難病医療費など助成の受給 | |

問4 身体障害者手帳を所持している方におうかがいします。

問4 あなたが手帳を取るきっかけとなったのはどのような障害によるものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 視覚
2. 聴覚・平衡機能
3. 音声・言語・そしゃく機能
4. 肢体不自由（上肢・下肢・体幹）
5. 内臓障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）
6. 発達機能

問5 障害者手帳や医療費などの助成を受けるまでにどのような問題がありましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 制度を知らなかった
2. どこに相談していいかが分からなかった
3. 不便さは感じていたが、その原因が障害と分かるまで時間がかった
4. リハビリや療育を十分に受ける場や機会がなかった、または、知らなかった
5. 障害との関わり方を相談する機会がなかった
6. 障害を要するまでに長い時間が必要だった
7. 特に問題はなかった
8. その他（ ）



2 あなたの生活についておうかがいします。

問6 あなたの現在のお住まい(生活の場)はどこですか。(1つに○)
病院に入院中の方は、入院する前のお住まいにお答えください。

1. 自分・家族の持ち家(一戸建て)
2. 自分・家族の持ち家(マンションなどの集合住宅)
3. 公営住宅(市営・都営・UR賃貸住宅など)
4. グループホームなど
5. 民間賃貸住宅(アパートやマンション、一戸建てなど)
6. 社宅・公務員住宅・会社の寮
7. その他()

問7 あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

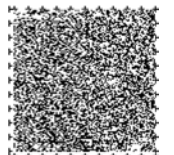
1. 配偶者
2. 両親
3. 子ども
4. 兄弟姉妹
5. 一人で暮らしている
6. その他()

問8 あなたの世帯の主な収入源はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. あなた自身の給与・賞金
2. ご家族の給与・賞金
3. 事業収入
4. 財産収入
5. 年金
6. 福祉手当
7. 仕送り
8. 生活保護
9. その他()

問9 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 教育や学習のこと
2. リハビリのこと
3. 経済的なこと
4. 家庭生活のこと
5. 現在の援助(介助・支援)のこと
6. 将来の援助(介助・支援)のこと
7. 就労のこと
8. 趣味や生きがいを持つこと
9. かかりつけの病院や歯科診療所がないこと
10. 交通機関のこと
11. 住居のこと
12. 必要な情報を得ること
13. 友だちや相談相手を持つこと
14. 地域の理解を得ること
15. 結婚のこと
16. 子どものこと
17. 社会参加のこと
18. その他()
19. 特に困ったことはない



問10 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や親類友人、知人
2. 公的機関の職員(市、保健センター、保健所など)
3. 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)
4. 福祉サービス(福祉サービスセンター、福祉サービスセンター、福祉サービスセンター)
5. ボランティア・NPOの職員
6. 福祉施設や作業所の職員
7. 民生委員・児童委員
8. 社会福祉協議会
9. 公的機関の職員(市、保健センター、保健所など)
10. 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)
11. 福祉サービス(福祉サービスセンター、福祉サービスセンター、福祉サービスセンター)
12. ボランティア・NPOの職員
13. 福祉施設や作業所の職員
14. その他()

3 健康・医療・リハビリテーションについておうかがいします。

問11 あなたは、普段の生活で経管栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的ケアが必要ですか。(1つに○)

1. 必要である
2. 必要ではない

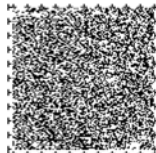
問12 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)

1. 自宅で往診や訪問看護を受けている
2. 時々通院している
3. 定期的に通院している
4. 入院している
5. 治療を受けていない

問13 健康管理や医療について困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 近所に診てくれる医師が少ない
2. 専門的な治療を行っている医療機関が身近にない
3. 通院する時に付添いをしてくれる人がいない
4. 診療をことわられる
5. 気軽に往診を頼める医師が少ない
6. 歯科診療を受けられない
7. 定期的に腫瘍診断を受けられない
8. 障害のため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
9. 受診手帳や案内など障害のある方への配慮が不十分
10. 医療費の負担が大きい
11. 入院のとき付添いや個室を申し込める
12. その他()
13. 特に困ったことはない





4 介助（支援）の状況についてお答えをお願いします。

問14 ふだん、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。（1つに○）

1. 同居している家族・親族
 2. 同居していない家族・親族
 3. 施設の職員
 4. その他（ ）
 5. 介助や支援は受けていない

→問15へ
 →問18へ

問14で「1」～「4」と答えた方にお答えをお願いします。

問15 その方の年齢についてお答えください。（1つに○）

1. 20歳未満
 2. 20代
 3. 30代
 4. 40代
 5. 50代
 6. 60代
 7. 70代以上
 8. わからない

問16 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

1. 同居している他の家族・親族に頼む
 2. 別居している他の家族・親族に頼む
 3. 近所の人や知人に頼む
 4. ホームヘルパーに依頼する
 5. ショートステイを利用する
 6. 民間の有償介助サービスを利用する
 7. 施設や病院などに依頼する
 8. 一人でなんとかする
 9. わからない
 10. その他（ ）

問17 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、荷が重たいと感じていますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 介助（支援）する人の健康に不安がある
 2. 体力的に心配がある
 3. 精神的な負担が大きい
 4. 休みが十分に取れない
 5. あなたの意思疎通が十分でない
 6. サービスなどの情報が不十分
 7. 困りごとやサービスのことを相談できる人がいない
 8. 介助（支援）する代わりの人がいない
 9. 将来の負担に不安がある
 10. その他（ ）
 11. 特に困ったことはない

5 日中の過ごし方についてお答えをお願いします。

問18 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（荷をして）過ごしていますか。（1つに○）

1. 学校に通っている（大学や専門学校など）
 2. 働いている（福祉的就労の場も含む）
 3. 施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている
 4. 日中一時支援・地域活動支援センターを利用している
 5. 施設に入所している
 6. 自宅で入浴している
 7. 主に自宅にいる（働いていない）
 8. その他（ ）



→問22へ

問18で「2」働いている（福祉的就労の場も含む）と答えた方にお答えをお願いします。

問19 あなたは、どのような働き方をしていますか。（1つに○）

1. 正社員など
 2. 自営業
 3. パート・アルバイト
 4. 零業（自営業）の手伝い
 5. 内勤
 6. 就労移行・就労継続・授産施設など
 7. その他（ ）

問20 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 通勤が大変
 2. 収入が少ない
 3. 仕事がつい
 4. 仕事が終わらない
 5. 職場の人間関係
 6. 職場の中の環境が整っていない
 7. 職場の中で介助者をつづけていく
 8. コミュニケーションがとれない
 9. 体調管理が難しい
 10. 勤務時間や日数を調整できない
 11. その他（ ）
 12. 特にない

問18で「3」施設などで、生活訓練や機能訓練、就労訓練などを行っている「4」日中一時支援・地域活動支援センターを利用している」と答えた方にお答えをお願いします。

問21 支援を受ける上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 通うのが大変
 2. 収入が少ない
 3. 訓練がきつい
 4. 訓練の内容が合わない
 5. 訓練先の人間関係
 6. 訓練する環境が整っていない
 7. 訓練先での介助者をつづけていく
 8. コミュニケーションがとれない
 9. 体調管理が難しい
 10. その他（ ）
 11. 特にない

6 将来の過ごし方についてお答えをお願いします。

問22 あなたは、将来（おおよそ5年後）どのように暮らしたいですか。（1つに○）

1. 家族と一緒に暮らしたい
 2. 一人暮らしで暮らしたい
 3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい
 4. グループホームなどで暮らしたい
 5. 入所施設で暮らしたい
 6. その他（ ）
 7. わからない



問22で「1. 家族と一緒に暮らしたい」「2. 一人で暮らしたい」「3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい」と答えた方におうかがいします。

問23 あなたは将来、地域で生活したいと思えますか。(1つに○)

1. 地域で生活したい	→問24へ
2. 地域で生活したいと思わない	→問25へ
3. わからない	

問24で「1. 地域で生活したい」と答えた方におうかがいします。

問24 地域で生活するためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害のある方に適した住居がない	8. 生活利線などの充実が必要
2. 働ける場所がない	9. 地域住民などの理解が不足している
3. 仕事を得ても続かない	10. 相談できる場所がない
4. 資金などが十分でない	11. その他()
5. 面倒を見てくれる人の数え	12. わからない
6. コミュニケーションがとれない	13. 特になし
7. 体調管理が難しい	

問25 あなたは今後(将来)働くことを希望しますか。(1つに○)

1. 働きたい	→問26へ
2. 働きたくない、または働きたいが働けない	→問27へ
3. わからない	

問26で「1. 働きたい」と答えた方におうかがいします。

問26 どのように働きたいですか。(1つに○)

1. 企業などで正社員・正職員	5. 就労継続支援や就労移行支援を利用
2. 企業などで臨時・アルバイト・パート	6. 地域活動支援センターを利用
3. 自営業・会社を経営	7. その他()
4. 在宅ワーク	8. わからない

問27 障害のある方の就業を促進するために、どのようなことが必要と願いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 従業員の理解	5. 福祉的就労の場の開設	9. ジョブコーチの充実
2. 従業員の理解	6. 就業あっせん窓口の充実	10. その他()
3. 従業員の理解	7. 就業相談窓口の充実	
4. 職業訓練施設の開設	8. 民間企業の雇用努力	11. 特になし

※1障害のある方が企業で働くこととときに、本人の特性に合った仕事ができるように就労活動を支援したり、職場で仕事に慣れるために職場環境を整える手伝いをするなど、定着を支援する役割を担う。



7 外出や活動などについておうかがいします。

問28 あなたの外出する回数、おおよそのくらくらですか。職場や学校への通勤・通学、病院への通院も回数に数えてください。(1つに○)

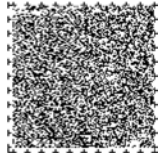
1. ほぼ毎日	3. 週1~2回	5. 月に数回
2. 週3~5回	4. 月1~3回	6. 外出しない・できない

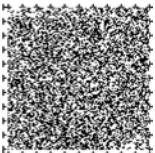
問29 外出する時に、不便に感じることや困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害者用トイレが少ない	7. 通路上に自転車や看板などの障害物がある
2. 道路や建物・駅に階段や段差が多い	8. 点字ブロックや盲人用電気が不十分である
3. バスや電車の乗り降りが困難	9. 建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導線や音声ガイドシステムが少ない
4. 歩道が整備されていない(具体的な場所:)	10. 低い操作機や手すり、腕のついた福祉対応のエレベーターが少ない
5. 障害者の駐車スペースが少ない(具体的な場所:)	11. 建物の出入口が狭かったり、開けにくい
6. バスや電車内で運行状況の案内表示がない	12. 公衆FAXや障害者用電話が少ない
7. 通路上に自転車や看板などの障害物がある	13. 外出に費用がかかりすぎる
8. 点字ブロックや盲人用電気が不十分である	14. 付き添ってくれる人がいない
9. 建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導線や音声ガイドシステムが少ない	15. 自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい
10. 低い操作機や手すり、腕のついた福祉対応のエレベーターが少ない	16. (車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい
11. 建物の出入口が狭かったり、開けにくい	17. その他()
12. 公衆FAXや障害者用電話が少ない	18. 特に関心事はない
13. 外出に費用がかかりすぎる	19. ほとんど外出しないのでわからない
14. 付き添ってくれる人がいない	
15. 自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい	
16. (車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい	
17. その他()	
18. 特に関心事はない	
19. ほとんど外出しないのでわからない	

問30 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 施設や設備が障害のある方に配慮されていない	4. 介助者がいない、介助者に気をつかう
2. 障害のある方が参加できる講座・イベントなどが少ない	5. 一緒に参加する友人・仲間がいない
3. 障害のない人との交流の場が少ない	6. 活動のための情報が少ない
	7. 忙しくて時間が少ない
	8. 経済的余裕がない
	9. その他()
	10. 興味がないので参加しない
	11. 特になし





8 コミュニティ（地域）についておうかがいします。

問31 あなたは、近所や地域のひととの程度のつきあいをしていますか。（1つに○）

1. 頻しくつきあっている
2. 相手が自分を理解してくれられる人とはつきあっている
3. 自分からあいさつする
4. ほとんどつきあっていない
5. その他（ ）

問32 あなたは、地域の人が何かボランティア活動をしたかと思う場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 簡単な身の回りの世話をする
2. 外出時に付き添う
3. 音階から定期的な声かけなどをする（見守る）
4. 相談相手になる
5. 世間話を一緒に通す
6. 地域の行事やイベントと一緒に参加する
7. 趣味やスポーツ活動を一緒にする
8. その他（ ）
9. わからない

問33 障害のある方と障害のない方がお互いに理解しあい、共に生きる社会をつくっていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

1. 障害のある方と障害のない方が交流する機会を設ける
2. 障害についての理解が深められるよう、情報提供を充実させる
3. 学校教育の中で、障害や福祉に関する学習を充実させる
4. 障害のある子どもと障害のない子どもとの交流教育を充実させる
5. 障害のある方へのボランティア活動を充実させる
6. 障害のある方がさまざまな活動に参加できるよう周りの人が協力する
7. 障害のある方が自分から進んで行動できる環境（制度など）を整える
8. その他（ ）
9. わからない

9 防災対策についておうかがいします

問34 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 避難場所を知らない
2. 避難場所まで行けない（旅や段差がある、避難場所が遠いなど）
3. 避難訓練を遭いにくい
4. 緊急時の介助者がいない
5. 近所に頼れる人がいない
6. 緊急時に情報を得る手段がない
7. 通勤、通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない
8. 避難場所での医療ケアなどが受けられないか不安
9. 他人と一緒に避難所にいられない
10. 避難所の設備（トイレなど）について不安
11. その他（ ）
12. 他に困ることはない



問35 あなたは、避難行動要支援者名簿の関係機関への情報提供に同意をしていますか。（1つに○）

1. 同意している
2. 同意していないが、今後、同意したい
3. 同意したいと思わない
4. わからない

10 障害のある方の権利擁護についておうかがいします。

問36 成年後見制度について、どの程度知っていますか。（1つに○）

1. 利用している（内容）のみで、内容も知っていない
2. 利用したことがないが、制度の内容は知っている
3. 聞いたことはあるが、あまりよく知らない
4. 全く知らない

問37 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 病院などで診察を断られた
2. バス、電車、タクシーの乗員の対応で、不愉快な思いをした
3. 家を借りる際に不動産業者や家主に断られた
4. ホテル、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
5. 障害を理由とした不採用や解雇があった
6. 相談機関・相談窓口に行った時、職員との対応で不愉快な思いをした
7. 学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた
8. ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で、不愉快な思いをした
9. 入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で、不愉快な思いをした
10. 年金が本人のために使われなかったり、知らない間に積金が引き出されるなど、自分の財産が侵害された
11. 家族や施設の人から暴力による虐待を受けた
12. 近所の人達の対応で、不愉快な思いをした
13. その他（ ）
14. 特にない

問37で1～13に○を付けた方におうかがいします。

問38 差別を受けたり、いやな思いをした経緯について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（1つに○）

1. 相談した

2. 相談しなかった



前38で「2. 相識しなかった」と答えた方におうかがいします。
前39 相識しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 誰も相談する人がいなかったから
2. どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6. 相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. そのことについて悪い出しにくかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことでもないと思ったから
13. その他（具体的に： _____）

前40 日常生活において、あなたの障害について理解や配慮があり、よかったですと感じましたことはありますか。
(1つに○)

1. ある
2. あまのほい
3. ない

11 情報提供や相談の相談についておうかがいします。

前41 福祉に関する情報は、どこから得ますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市や市の広報・ホームページやガイドブック
2. 新聞・雑誌
3. テレビ・ラジオ
4. インターネット（パソコン、スマートフォン）
5. 家族や友人
6. 市役所・保健所・児童相談所
7. 社会福祉協議会
8. 障害福祉サービス事業所
9. 学校の先生・職場の同僚
10. 病室など医療機関
11. 障害者団体・家族会など
12. 障害者相談支援事業所
13. ハローワーク
14. その他（ _____）

前42 福祉サービスを利用するときに何か困ること（困ったこと）がありますか。(主なもの2つまで○)

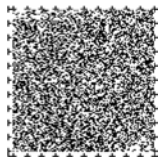
1. 使いたいサービスが使えなかった
2. サービスの支給量が少ない、支給期間が短い
3. どの事業者が良いかわからなかった
4. 契約の方法がわからなかった（わかりにくかった）
5. 利用してトラブルがあった
6. 費用負担があるため、サービスが使いたくない
7. どんなサービスがあるのかわからない
8. 事業者情報が不十分
9. その他（ _____）
10. わからない
11. 特に困ったことはない

前43 次のような立場の人たちが市からの情報を受けることについて、あなたはどのように感じますか。(それぞれ1つに○)

	十分受け取れている	まあ受け取れている	あまり受け取れていない	全く受け取れていない	わからない
① 視覚障害者 (点字や音声テープなど)	1	2	3	4	5
② 聴覚障害者 (手話や要約筆記など)	1	2	3	4	5
③ 知的障害者 (大きな文字やルビなど)	1	2	3	4	5
④ 高齢者 (大きな文字など)	1	2	3	4	5

前44 相談事業を充実するために（相談したときに満足できるよう）特にどのようなことをすればいいと思いますか。(3つまで○)

1. 相談員のスキルアップ研修を行う
2. 専門性のある相談員を配置する
3. 気軽に相談できる窓口の数を増やす
4. 専門的な相談機関を整備する
5. 1か所ですべて必要な相談に対応できる窓口を整備する
6. 夜間や休日などでも相談できる窓口を整備する
7. 相談員が自宅などに来てくれる訪問相談を行う
8. 障言のある方による相談対応（ピアカウンセリング）を充実する
9. コミュニケーションの支援（手話、要約筆記など）を充実する
10. その他（ _____）



12 障害者施策全般についておうかがいします。

問45 武蔵村山市の福祉サービス全般について、満足していますか。(1つに○)
 1. 満足している 3. どちらともいえない 5. 満足していない
 2. 少し満足している 4. あまり満足していない

問46 今後どのようなことを特にしていく必要があると思われるですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 在宅福祉サービスの充実 (ホームヘルプ、入浴、外出支援など)
2. 在宅の給食サービスの充実 (良事を家庭まで届ける)
3. 入所施設の整備
4. 通所施設の整備
5. 居宅医療サービスの充実 (健診、専門的な機能回復訓練、訪問指導など)
6. 住宅の整備・改修のための支援
7. 地域で生活できる住宅の整備 (グループホームなど)
8. 暮らしやすいまちづくり (道路の段差解消、点字ブロックの整備、案内表示など)
9. 養育・保育・教育の質の向上
10. 働く機会の充実 (職業訓練の実施、働く場の確保など)
11. 一般企業以外での就労の場 (就労継続支援事業所など)
12. 地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり
13. 相談体制の充実 (生活相談、養育相談、職業相談など)
14. 権利擁護推進事業の充実 (不適切な行為に対する相談など)
15. 経済的な援助の充実 (医療費の補助、手当・年金の拡充など)
16. 情報通信分野の充実 (情報ネットワークの構築、公衆FAXなど)
17. 福祉行政分野におけるICT機会の活用 (行政手続きの簡素化、相談・連絡窓口の利便性向上、就労機会拡大など)
18. 障害のある方についての地域の人の理解を深めるための活動 (福祉教育など)
19. ホランディアの育成
20. 災害時における避難誘導体制の確立
21. 障害のある方の国際交流
22. 障害者団体の自立的活動に対する行政の支援
23. その他 ()
24. わからない
25. 特になし



問47 障害のある子どもたちが武蔵村山市で成長するにあたってどのようなことが重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族の理解
2. 地域の人の理解
3. 市役所や公共施設の職員の理解
4. 学校の先生や職員の理解
5. 療育制度の充実
6. インクルーシブ教育の実践
7. 教育機関などでの情報の引き継ぎ
8. 障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実
9. 放課後や休日の過ごし方の場の充実
10. 進学や就職に向けた情報提供
11. 信頼できる医療機関
12. リハビリや訓練などの施設
13. 自立した生活を営むことができる住まい
14. 乳幼児期から若年層までの一貫した支援
15. その他 ()
16. わからない
17. 特になし

※2 共生社会を実現するため、各学校における交流や共同学習を通じて、市民全体の障害に対する理解の促進や心のバリアフリー化を推進するために導入する教育システム

問48 福祉の各種制度の問題点、障害のある方・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

以上で、アンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

お書きいただきましたアンケート用紙は、お送りした封筒と一緒に
 入っていた返信用の封筒に入れて、12月26日(月)
 までにポストに投函してください。

切手は不要です。



しみんせいいかつ
市民生活ニーズ把握のためのアンケート調査票
ちやうさきひよう
（18歳未満の方）

白鶴から市役の運営にご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。
武蔵村山市では、障害のある方の暮らしをより良いものとすることをめざした計画をつくり、さまざまな障害のある方向けの事業などを進めています。
このたび、「武蔵村山市第六期障害福祉計画・第二期障害児福祉計画」を策定し、新しい計画をつくることになりました。市内で暮らしている障害のある方のご意見をたくさんいただき、それを計画にいかすため、市内で障害者手帳をお持ちの18歳未満の方などにアンケートを行うことになりました。
お答えいただいた内容は、アンケートの目的にのみ使い、個人のプライバシーが公表されることはありません。ご記入にあたり、負担が大きいなどの場合は記入を控えていただいても構いません。お手紙をおかけいたしますが、このアンケートにご協力ください。よろしくお願いいたします。

令和4年12月
武蔵村山市市長 山崎 泰久

- 【ご記入に当たってのお願い】
- このアンケート用紙には、お名前・ご住所を書く必要はありません。
 - お答えは、あてはまるものに○をつけてください。また、その他（ ）には、具体的にその内容をご記入ください。
 - 質問にはできる限りご本人がお答えください。ただし、書くことがむずかしい場合は、ご家族などがご本人のお考えをお聴きのうえ、代理でご記入ください。また、わからない場合などはご家族、相談支援事業所、後見人、通所施設職員の方などにご相談してください。
 - アンケート用紙には、黒ボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
 - お書きいただきましたアンケート用紙は、お送りした封筒と一緒に戻っていただく返信用の封筒に入れて、12月26日（月）までにポストに投函してください。切手は要りません。
- このアンケートについてのご質問などは、次のところまでお問い合わせください。
武蔵村山市 健康福祉部 障害福祉課
電話：042-590-1185
FAX：042-562-3966



1 あなた（あて名の方ご本人）のことについて、おうかがいします。

- 問1 このアンケートにご記入いただく方はどなたですか。（1つに○）
- あなた（あて名の方）
 - あなた（あて名の方）以外の方
- 問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。（1つに○）【令和4年11月1日現在】
- 小学校に通う前（0～5歳）
 - 小学生（6～11歳）
 - 中学生以上（12～17歳）

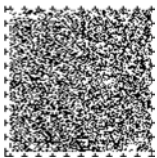
問3 あなたはどのような障害者手帳を持っていたり、医療費などの助成を受けていたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

- 身体障害者手帳
 - 愛の手帳（障害者手帳）
 - 精神障害者保健福祉手帳
 - 自立支援医療の受給
 - 難病医療費など助成の受給
- 問4へ
- 問5へ

問4は身体障害者手帳を所持している方におうかがいします。
問4 あなたが手帳を取るかかったのはどのような障害によるものですか。（あてはまるものすべてに○）

- 視覚
- 聴覚・平衡機能
- 音声・言語・そしゃく機能
- 肢体不自由（上肢・下肢・体幹）
- 内臓障害（心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸・小腸機能障害、肝臓機能）
- 免疫機能





2 あなたの生活についておうかがいします。

問5 あなたは、現在、生活で困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校のこと (保育園や幼稚園、進路や就職のこと)
2. 経済的なこと
3. 健康や医療のこと
4. 家族のこと
5. 困ったときの相談先がないこと
6. 近所付き合いがないこと
7. 施設やサービスのこと
8. 連絡や就 職のこと
9. 家に帰ってからや日曜日などの暇なときの過ごし方
10. 頼りなくなつた後の過ごし方
11. 思うように意思疎通ができないこと
12. いやがらせなどを受けること
13. その他 ()
14. 特にない



問6 困っていることを相談する相手は次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族や親族
2. 友人、知人
3. 学校の先生や保育士・幼稚園の先生
4. ボランティアの人
5. 市役所や保健センター、保健師の人
6. 子ども家庭支援センターの人
7. 児童相談所の人
8. 民生委員・児童委員
9. 社会福祉協議会の人
10. 医師や、看護師、リハビリや訓練を受けるところのスタッフ
11. 東京都心身障害者福祉センターの人
12. 相談するところがわからぬ
13. その他 ()

問7 あなたが、趣味や学習、スポーツなど余暇活動をするときに困ること、または活動を行っていない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 施設や設備が障害のある方に配慮されていない
2. 障害のある方・子どもが参加できる講座・イベントなどが少ない
3. 障害のない児童の子どもたちの中に入っていくのに気が引ける
4. 介助者がいない、介助者に負担がかかる
5. 一緒に参加する友人、仲間がいない
6. 活動のための情報が少ない
7. 忙しくて時間が無い
8. 経済的な余裕がない
9. その他 ()
10. 興味が無いので参加しない
11. 特にない

3 健康・医療・リハビリテーションについておうかがいします。

問8 あなたは、ふたつの生活で経営栄養、気管切開、人工呼吸器などの医療的ケアが必要ですか。(1つに○)

1. 必要である
 2. 必要ではない
- 問9 現在、医師の治療を受けていますか。(1つに○)
1. 自分の家に往診に来てもらっている
 2. 時々通院している
 3. 定期的に通院している
 4. 入院している
 5. 治療を受けていない

問10 病院にかかるときに、困ったり不便に思ったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 近所に診てくれる病院がない
2. 専門的な治療を行っている病院が近くにない
3. 通院する時に付き添ってくれる人がいない
4. 病院に行っても、ことわられる
5. 気軽に家に診に来てくれる医師がいない
6. 治療を引き受けてくれる歯科医師が近くにない
7. 障害があることで医師に症状が正確に伝えられない
8. 病院にかかる交通手段や案内など障害のある方への配慮が不十分
9. 病院にかかるお金の負担が大きい
10. 入院するときに、付き添いや個室を強いられる
11. その他 ()
12. 特に困ったことはない



4 介助（支援）の状況についてお聞きいたします。

問11 現在、あなたの介助（支援）が必要ですか。（1つに○）

1. すべてにわたって必要 →問12へ

2. 一部必要

3. 必要ない →問16へ

問12で「1. すべてにわたって必要」「2. 一部必要」と答えた方にお聞きいたします。

問12 あなたの介助（支援）をおもにしているのはどなたですか。（1つに○）

1. 親	→問13へ
2. 兄弟姉妹やその配偶者	
3. 祖父母	
4. その他の親族	
5. ホームヘルパー	→問15へ
6. 友人・知人・近所の人	
7. 施設・病院の職員	
8. ボランティア	
9. その他（ ）	

問12で「1」～「4」と答えた方にお聞きいたします。

問13 その方の年齢についてお教えてください。（1つに○）

1. 20歳未満	4. 40代	7. 70代以上
2. 20代	5. 50代	8. わからない
3. 30代	6. 60代	

問14 主な介助者（支援者）が介助（支援）できないときはどうしますか。（1つに○）

1. 一緒に住んでいる他の家族・親族に頼む

2. 他の家に住む家族・親族に頼む

3. 近所の人や知人に頼む

4. ホームヘルパーに依頼する

5. ショートステイを利用する

6. 民間の有償介助サービスを利用する

7. 施設や病院などに依頼する

8. 一人でなんとかする

9. わからない

10. その他（ ）

問15 あなたを介助（支援）している人が、あなたを介助（支援）する上で、何か困っていることはありますか。わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. 介助（支援）する人の健康に不安がある	7. 困りごとやサービスのことを相談できる人がいない
2. 体力的に心配がある	8. 介助（支援）する代わりの人がいない
3. 精神的な負担が大きい	9. 将来の見通しに不安がある
4. 休みが十分に取れない	10. その他（ ）
5. あなたの意思が十分に伝わらない	11. 特に関ったことはない
6. サービスなどの情報が不十分だ	



5 日中の過ごし方についてお聞きいたします。

問16 あなたは、平日の昼間は、主にどこで（何を）過ごしていますか。（1つに○）

1. 学校に通っている（寮舎や幼稚園、認定こども園を含む） →問17へ

2. 施設に入所している

3. 病院に入院している

4. 主に自宅にいる

5. 就学前年齢のため自宅にいる

6. その他（ ） →問18へ

問17 あなたは、通園や通学で困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 通うのが大変	5. まわりの人たちの理解や配慮の不足
2. トイレや階段などの施設が利用しにくい	6. 人間関係がうまくいかない
3. 介助・支援体制が不十分	7. その他（ ）
4. 学校など受け入れ側の理解や配慮の不足	8. 特になし

6 将来の過ごし方についてお聞きいたします。

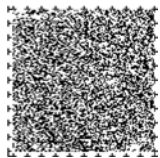
問18 おとなになっただらどのように暮らしたいですか。

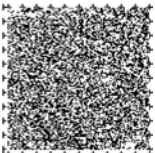
1. 家族と一緒に暮らしたい	→問19へ
2. 一人で暮らしたい	
3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい	
4. グループホームなどで暮らしたい	→問21へ
5. 入所施設で暮らしたい	
6. その他（ ）	
7. わからない	

問18で「1. 家族と一緒に暮らしたい」「2. 一人で暮らしたい」「3. 友人や仲間と一緒に暮らしたい」と答えた方にお聞きいたします。

問19 あなたは将来、地域で生活したいと思いませんか。

1. 地域で生活したい	→問20へ
2. 地域で生活したいと思わない	
3. その他（ ）	
4. わからない	





問19で「1. 地域で生活したい」と答えた方におうかがいします。

問20 地域で生活するためにどのようなことが課題と感じますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害のある方に適した住居がない
2. 働ける場所がない
3. 仕事を待てず暇がない
4. 資金などが十分でない
5. 面倒を見てくれる人の数え
6. コミュニケーションがとれない
7. 体調管理が難しい
8. 生活訓練などの充実が必要
9. 地域住民などの理解が不足している
10. 相談できる場所がない
11. その他 ()
12. わからない
13. 特になし

7 外出や活動などについておうかがいします。

問21 外出する時に、不便に感じることや困っていることはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害者用トイレが少ない
2. 道路や建物・駅に階段や段差が多い
3. バスや電車の乗り降りが困難
4. 歩道が整備されていない(具体的な場所)
5. 障害者用の駐車スペースが少ない(具体的な場所)
6. バスや電車で運行状況の案内表示がない
7. 道路上に自転車や歩行者などの障害物がある
8. 片手プロックや盲人用信号が不十分である
9. 建物や施設の出入口に視覚障害者用の盲導線や音声ガイドシステムが少ない
10. 低い操作盤や手すり・錠のついた福祉対応のエレベーターが少ない
11. 建物の出入口が狭かったり、開けにくい
12. 公衆FAXや障害者用電話が少ない
13. 外出に費用がかかりすぎる
14. 付き添ってくれる人がいない
15. 自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとることがむずかしい
16. (車イスなどの)福祉タクシーが利用しにくい
17. その他 ()
18. 特に困ることはない
19. ほとんど外出しないのでわからない



8 防災対策についておうかがいします

問22 あなたが地震など災害時に困ることはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 避難場所を知らない
2. 避難場所まで行けない(段や段差がある、避難場所が遠いなど)
3. 避難訓練を受けにくい
4. 緊急時の介助者がいない
5. 近所に頼れる人がいない
6. 緊急時に情報を得る手段がない
7. 通学、通所の途中で災害にあった場合の対応がわからない
8. 避難所で医療ケアなどが受けられない
9. 他人と一緒に避難所にいられない
10. 避難所の設備(トイレなど)について不安
11. その他 ()
12. 特に困ることはない

9 障害のある方の権利保護についておうかがいします。

問23 あなたは、これまでに障害があるため、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 病院での対応
2. バス、電車、タクシーでの対応
3. ホテル、公衆浴場、飲食店での対応
4. 相談機関・相談窓口での対応
5. 学校での対応
6. ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応
7. 施設の職員や他の利用者の対応
8. 家族からの嫌がらせ・暴力など
9. 近所の人達の対応
10. その他 ()
11. 特にない

問24 差別を受けたり、いやな思いをした経験について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)

1. 相談した →問26へ
2. 相談しなかった →問25へ



問24で「2. 相敬しなかった」と答えた方におうかがいします。
問25. 相敬しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 誰も相談する人がいなかったから
2. どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから
3. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
4. 相談しても無駄だと思ったから
5. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
6. 相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすど思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. そのことについて思い出したくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことでもないと思ったから
13. その他（具体的に：)

10 障害者施策全般についておうかがいします。

問26 障害のある子どもたちが松善村山市で成長するにあたってどのようなことが重要と思いま
すか。(あてはまるものすべてに○)

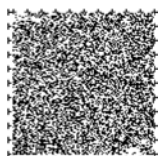
1. 家族の理解
2. 地域の工夫の理解
3. 市役所や公共施設の職員の理解
4. 学校の先生や職員への理解
5. 障害者支援の充実
6. 地域の人々に合った教育
7. 教育機関などでの情報の正確さ
8. 障害のある方・子どもに対するサービス提供の充実
9. 放課後や休日の過ごし方の提供
10. 進学や就職に向けた情報提供
11. 信頼できる医療機関
12. リハビリや訓練などの施設
13. 自立した生活を送ることができると住まい
14. 乳幼児期から若年層までの一貫した支援
15. 障害のある子どもとの国際交流
16. その他 ()
17. わからない
18. 特になし

問27 福祉の各種制度の問題点、障害のある方・子どもを取り巻く環境の改善などについて、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

以上で、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

お書きいただきましたアンケート用紙は、お送りした封筒と一緒に
入っていた返信用の封筒に入れて、12月26日（月）
までにポストに投函してください。

切手は要りません。



武蔵村山市第六次障害者計画・
第七期障害福祉計画・
第三期障害児福祉計画
策定のための市民意識調査報告書

発行年月 令和5年3月
発行 武蔵村山市
編集 武蔵村山市健康福祉部障害福祉課
〒208-8502
武蔵村山市学園四丁目5番地の1
武蔵村山市民総合センター内
TEL : (042) 590-1185 FAX : (042) 562-3966

